

府内城・城下町跡

～第14次発掘調査報告書～



大分
市
教
育
委
員
会

2003. 3

大分市教育委員会



上段 調査区全景（第1検出次）
第1面完掘時

下段調査区全景（最終検出時）
最終面完掘時



上段 焼継文字資料「竹町孫十郎様」

下段 「寛政十二歳 一久 庚申二月下旬」墨書資料

Fu nai jyou jyou ka mati ato
府内城・城下町跡

～第14次発掘調査報告書～

平成15年3月

大分市教育委員会

序 文

本書は、平成12年度に実施いたしました大分市中央町所在の府内城・城下町跡第14次調査の発掘調査報告書であります。

調査地は、現在のガレリア竹町通りの西側に位置し、近世府内町においては「竹町」と「笠和町」の町境部分にあたります。

調査の結果、明治以降の建物礎石から、江戸時代の「笠和町・竹町」に関連する遺構群、近世府内町の成立段階と考えられる16世紀末～17世紀初頭に位置づけられる遺構群など複数時期にわたる文化層が検出され、その成立から形成過程の一端を明らかにすることができました。

併せて、これら町屋跡から出土した遺物につきましても、「竹町 孫十郎様」に代表されます竹町などの町名や人名が入った焼継資料も出土しており、当時の町に暮らした人々の生活を窺わせる貴重な資料を得ることができました。

つきましては本書が、学術研究に寄与するとともに、文化財保護思想の高揚に一助となれば幸甚に存じます。

最後に、調査から報告書刊行にあたり多大なるご配慮・ご協力を賜りました株式会社ベッダイならびに関係各位に対しまして心から謝意を表すとともに、ご指導頂きました大分県教育委員会をはじめ諸先生方には、深く感謝申し上げます。

平成15年3月

大分市教育委員会

教育長 秦 博

例 言

1. 本書は、平成12年度、大分市中央町3丁目94番において、株式会社ベツダイ（代表取締役 後藤公繁）の委託を受け実施したマンション建設工事に伴う府内城・城下町跡第14次の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、株式会社ベツダイの協力のもと、大分市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査は、平成12年8月7日～同年10月9日の期間で実施し、遺物整理は、調査終了時から、平成13・14年度の3カ年にわたり行われた。報告書の作成は、遺物整理の最終年度の平成14年度に行われた。
4. 調査における遺構の実測・写真撮影は、(有)九州文化財リサーチ・讃岐和夫・池邊千太郎・高畠 豊・塙地潤一・河野史郎がおこなった。
5. 本書における遺物の実測・製図作業は、幸野 麗・高木美智子・首藤直美・佐藤道文・高畠・塙地・河野が行った。なお、一部遺物の実測に関しては、大分市教育委員会の委託を受け、(有)人間文化都市研究所・アジア航測株式会社がおこなった。
6. 本書における焼継文字等の文字資料の解読については、武富雅宣（大分市歴史資料館）がおこなった。
7. 発掘調査及び報告書の作成に際して、下記の方々のご指導・ご助言・ご協力を頂いた。
永松文治、大橋康二（九州陶磁文化館）、木村幾多郎（大分市歴史資料館）、吉田 寛（大分県教育委員会）、岩尾美保子・佐藤容子・佐藤公子・武藤由紀子・河野 誠・森永美紀・伊賀円香・佐藤志信・平田美智子・藤原佳和子・小野千恵美・内田順子・木村藍子・羽田裕子・稗田智美・渡辺淑子・長尾宇華（大分市教育委員会）
8. 本書執筆・編集は、河野がおこなった。

凡 例

1. 本書に用いた遺構略号は、SK：土坑、SE：井戸、SD：溝、SB：建物遺構、SJ：埋甕遺構、SX：不明遺構、Pit：小穴を表している。
2. 遺構の規模及び、遺物の法量については、cmを用いている。
3. 遺構実測の基準及び方位は、国土座標（第II座標系）を用いている。*旧座標
4. 本書に用いた陶磁器の分類及び年代観は以下の文献による。
肥前陶磁器 九州近世陶磁学会編 2000 『九州陶磁の編年』

目 次

Iはじめに	1
1. 調査経過	1
2. 調査組織	1
II遺跡の立地と環境	3
1. 遺跡の立地と環境	3
2. 府内城及びその城下町について	3
III遺跡の調査	7
1. 遺跡の設定と調査概要	7
2. 火災処理土坑（SK）及び出土遺物	7
3. その他主要遺構	35
4. その他主要遺構出土遺物	47
IVまとめ	106
1. 火災処理土坑について	106
2. 遺構の変遷について	110
3. 17世紀代の京都系土師器について	116

挿 図 目 次

第1図 主要周辺遺跡分布図（1/2,5000）	4
第2図 府内城・城下町全体図及び調査区位置図	5～6
第3図 火災処理土坑 遺構実測図①（1/40）	8
第4図 火災処理土坑 遺構実測図②（1/40）	9
第5図 火災処理土坑 遺構実測図③（1/40）	10
第6図 火災処理土坑 遺構実測図④（1/40）	11
第7図 SK212出土遺物実測図①（1/4）	12
第8図 SK212出土遺物実測図②（1/4）	13
第9図 SK010出土遺物実測図①（1/4）	14
第10図 SK010出土遺物実測図②（1/4）	15
第11図 SK171出土遺物実測図①（1/4）	16
第12図 SK171出土遺物実測図②（1/4）	17
第13図 SK171出土遺物実測図③（1/4）	18
第14図 SK209出土遺物実測図①（1/4）	19
第15図 SK209出土遺物実測図② SK205出土遺物実測図①（1/4）	20

第16図	SK205出土遺物実測図② (1/4)	21
第17図	SK205出土遺物実測図③ (1/4)	22
第18図	SK194出土遺物実測図① (1/4)	23
第19図	SK194出土遺物実測図② SK23出土遺物実測図 (1/4)	24
第20図	SK215出土遺物実測図① (1/4)	25
第21図	SK215出土遺物実測図② (1/4)	26
第22図	SK018・SK360出土遺物実測図 (1/4)	27
第23図	SK210・SK151出土遺物実測図 (1/4)	28
第24図	SX225・307遺構実測図 (1/40)	35
第25図	SK259・278・280・398・432遺構実測図 (SK432→1/40・他は1/20)	36
第26図	SK267・295・305・315・452遺構実測図 (1/40)	37
第27図	SE500・755・SK229・274・478遺構実測図 (1/40)	38
第28図	SE106・SK704遺構実測図 (1/40)	39
第29図	SK206・214遺構実測図 (1/20)	40
第30図	SX181遺構実測図 (1/60)	40
第31図	SK137・184・330・369・728遺構実測図 (1/40)	41
第32図	SE118・250遺構実測図 (1/40)	42
第33図	SB800遺構実測図 (1/80)	43
第34図	SK369-330出土遺物実測図① (1/4)	48
第35図	SK369-330出土遺物実測図② (1/4)	49
第36図	SK369-330出土遺物実測図③ (1/4)	50
第37図	SK369-330出土遺物実測図④ (1/4)	51
第38図	SK369・330・719・724・137出土遺物実測図 (1/4)	52
第39図	SK137出土遺物実測図② (1/4)	53
第40図	SK137出土遺物実測図② (1/4)	54
第41図	SK184出土遺物実測図① (1/4)	55
第42図	SK184・222出土遺物実測図 (1/4)	56
第43図	SK222出土遺物実測図② (1/4)	57
第44図	SK222・728・Pit221出土遺物実測図 (1/4)	58
第45図	SK723・709・Pit247出土遺物実測図 (1/4)	59
第46図	SX181・SK185・206出土遺物実測図 (1/4)	60
第47図	SK206・239・245出土遺物実測図① (1/4)	61
第48図	SK245出土遺物実測図② (1/4)	62
第49図	SK245・727・Pit371出土遺物実測図 (1/4)	63
第50図	SK727・723・725出土遺物実測図 (1/4)	64
第51図	SK723・025・117・254・Pit201出土遺物実測図 (1/4)	65
第52図	SK254・SX325 (181) 出土遺物実測図 (1/4)	66
第53図	SK180・Pit203・整地層405出土遺物実測図 (1/4)	67
第54図	SK156・257・265・211・Pit237・238・362出土遺物実測図 (1/4)	68

第55図	SK704・178・313出土遺物実測図（1/4）	69
第56図	SK274出土遺物実測図①（1/4）	70
第57図	SK274出土遺物実測図②（1/4）	71
第58図	SK274・478・Pit372出土遺物実測図（1/4）	72
第59図	SK478・483出土遺物実測図（1/4）	73
第60図	SK229出土遺物実測図①（1/4）	74
第61図	SK229出土遺物実測図②（1/4）	75
第62図	SX286・Pit119・428出土遺物実測図（1/4）	76
第63図	SX286出土遺物実測図②（1/4）	77
第64図	SE106・500・Pit348出土遺物実測図（1/4）	78
第65図	SE500・SK517出土遺物実測図（1/4）	79
第66図	SK517・340・499・SX309・527・Pt461出土遺物実測図（1/4）	80
第67図	Pit223・336・SK327・333出土遺物実測図（1/4）	81
第68図	SK339・531・541・259・261・267・295・SX225出土遺物実測図（1/4）	82
第69図	SK765・759・300・432・整地層802・454出土遺物実測図（1/4）	83
第70図	Pit436・353・477・474・SK528・748・749・SE755・整地層530出土遺物実測図（1/4）	84
第71図	SK298・305・315・329・349・SX420・Pit306・398出土遺物実測図（1/4）	85
第72図	SK452・363・269・392・391・411・444・762・763・SX454・Pit421出土遺物実測図（1/4）	86
第73図	火災処理土坑変遷図－寛保3年（1743）－	107
第74図	火災処理土坑変遷図－明和8年（1771）・寛政3年（1791）－	107
第75図	火災処理土坑変遷図－文化7年（1810）－	109
第76図	火災処理土坑変遷図－19世紀中頃－	109
第77図	19世紀中頃以降 遺構配置図（1/120）	111
第78図	18世紀末～19世紀初頭 遺構配置図（1/120）	112
第79図	18世紀後半 遺構配置図（1/120）	113
第80図	18世紀前半～中頃 遺構配置図（1/120）	114
第81図	17世紀後半 遺構配置図（1/120）	115
第82図	16世紀末～17世紀前半 遺構配置図（1/120）	116
第83図	京都系土師器変遷モデル（「大友府内4」2002 大分市教育委員会より）	117
第84図	京都系土師器口縁部形態分類	118
第85図	17世紀代京都系土師器変遷モデル	118

表 目 次

表 1 火災処理土坑 遺構観察表	8
表 2 火災処理土坑出土遺物観察表①	29
表 3 火災処理土坑出土遺物観察表②	30
表 4 火災処理土坑出土遺物観察表③	31
表 5 火災処理土坑出土遺物観察表④	32
表 6 火災処理土坑出土遺物観察表⑤	33
表 7 火災処理土坑出土遺物観察表⑥	34
表 8 遺構観察表①	44
表 9 遺構観察表②	45
表10 遺構観察表③	46
表11 遺構観察表④	47
表12 その他主要遺構出土遺物観察表①	87
表13 その他主要遺構出土遺物観察表②	88
表14 その他主要遺構出土遺物観察表③	89
表15 その他主要遺構出土遺物観察表④	90
表16 その他主要遺構出土遺物観察表⑤	91
表17 その他主要遺構出土遺物観察表⑥	92
表18 その他主要遺構出土遺物観察表⑦	93
表19 その他主要遺構出土遺物観察表⑧	94
表20 その他主要遺構出土遺物観察表⑨	95
表21 その他主要遺構出土遺物観察表⑩	96
表22 その他主要遺構出土遺物観察表⑪	97
表23 その他主要遺構出土遺物観察表⑫	98
表24 その他主要遺構出土遺物観察表⑬	99
表25 その他主要遺構出土遺物観察表⑭	100
表26 その他主要遺構出土遺物観察表⑮	101
表27 その他主要遺構出土遺物観察表⑯	102
表28 その他主要遺構出土遺物観察表⑰	103
表29 その他主要遺構出土遺物観察表⑱	104
表30 その他主要遺構出土遺物観察表⑲	105
表31 「府内藩日記」にみえる大火（100軒以上のもの。『大分市史中巻』より）	110

写 真 図 版 目 次

巻頭カラー図版 1

上段 調査区全景（第1面完掘時） 下段調査区全景（最終面完掘時）

巻頭カラー図版 2

上段 烧繼文字資料「竹町 孫十郎様」 下段 墨書資料「寛政十二歳 一久 庚申二月下旬」

写真図版 1 1. 府内城・城下町跡及び周辺地形全景

写真図版 2 1. SK010全景 2. SK171土層断面 3. SK209全景

写真図版 3 1. SK212全景 2. SK212土層断面 3. SK010土層断面 4. SK010全景 5. SK171全景 6. SK209土層断面 7. SK023・028全景 8. SK023土層断面

写真図版 4 1. SK205全景 2. SK205土層断面 3. SK194全景 4. SK194土層断面 5. SK215土層断面 6. SK215全景 7. SK018全景 8. SK018検出状況

写真図版 5 1. SK360全景 2. SK210全景 3. SK210土層断面 4. SK151全景 5. SK151土層断面 6. SX307全景 7. SK259全景 8. SK278全景

写真図版 6 1. SK280全景 2. SK432全景 3. SK267全景 4. SK295全景 5. SK295土層断面 6. SK305全景 7. SK452遺物出土状況 8. SE500全景

写真図版 7 1. SE755全景 2. SK206検出時 3. SB181南半部全景 4. SB181北半部全景及び周辺集石検出状況 5. SB800及び周辺集石検出状況 6. SK137全景 7. SE118全景 8. SE250土層断面

写真図版 8 1. SK212-1 2. SK212-21 3. SK212-22 4. SK212-34 5. SK212-22 6. SK212-34 7. SK212-29 8. SK212-31

写真図版 9 1. SK010-1 2. SK010-5 3. SK010-3 4. SK010-5

	5. SK010-12 7. SK010-12	6. SK010-10 8. SK010-10
写真図版10	1. SK171-22 3. SK171-22 5. SK171-31 7. SK171-33	2. SK171-20 4. SK171-20 6. SK171-32 8. SK171-38
写真図版11	1. SK171・209接合資料 3. SK171・209接合資料 5. SK209-24 7. SK209-29	2. SK209-4 4. SK209-8 6. SK209-25 8. SK209-29
写真図版12	1. SK205-31 3. SK205-31 5. SK205-26 7. SK205-46	2. SK205-35 4. SK205-35 6. SK205-40 8. SK205-61
写真図版13	1. SK194-11 3. SK194-11 5. SK023-3 7. SK215-3	2. SK194-5 4. SK023-1 6. SK215-2 8. SK215-6
写真図版14	1. SK215-9 3. SK215-9 5. SK018-8 7. SK018-11	2. SK215-11 4. SK215-11 6. SK018-9 8. SK018-12
写真図版15	1. SK018-10 3. SK018-4 5. SK360-9 7. SK360-23	2. SK018-15 4. SK018-15 6. SK360-11 8. SK360-11
写真図版16	1. SK210-6 3. SK210-7 5. SK210-3 7. SK151-3	2. SK210-5 4. SK210-2 6. SK151-1 8. SK151-6
写真図版17	1. SK528-1 3. SK528-3 5. SD405-2 7. SK245-27	2. SK528-2 4. 整地層530-8 6. SK245-26 8. SK245-23
写真図版18	1. SK184-18 3. SK185-1 5. SK137-11 7. SK137-11	2. SK360・330-56 4. SK137-18 6. SK137-20 8. SK137-34

I はじめに

1. 調査経過

府内城・城下町跡は、江戸時代、府内藩2.22万石の政治的・経済的な中心地となる府内城及びその城下町を周知遺跡としたものである。そして、現在の県都大分市の中心部は、その大部分を府内城・城下町を踏襲して形作られている。

府内城・城下町跡の発掘調査は、平成3年に大分県共同庁舎建設に伴って行われた府内城・城下町跡第1次調査（府内城三の丸跡）を皮切りに、現在（平成14年度）までに15次を数えるに至っており、その内容についても、前述の大分県共同庁舎や、大分市の公園リフレッシュ事業、民間社屋建設、民間マンション建設等に代表されるよう、近年の都心部再開発に伴い急速にその調査事例を増やしている。

このような状況下、株式会社ベツダイ（代表取締役社長 須藤 公繁）による中央町3丁目94番におけるマンション建設が計画され、平成12年4月28日付で、大分市教育委員会に埋蔵文化財有無の照会がなされた。当該地は、府内城下の竹町及び笠和町の一角にあたることから、大分市教育委員会は、平成12年5月2日に埋蔵文化財の確認調査を行った。確認調査の結果、火災処理土坑をはじめとした大量の遺構群とその下層遺構と考えられる大型の遺構が検出され、これに伴って17世紀初頭から19世紀後半にかけての陶磁器を中心とした遺物群が出土した。この調査結果を受け、ベツダイと大分市教育委員会は、直ちに協議を行い、平成12年度に本調査及び遺物整理作業、翌平成13年度に遺物整理及び報告書作成を行うことで合意した。

発掘調査は、平成12年7月26日付で、ベツダイと大分市教育委員会との間で、発掘調査業務委託契約が結ばれ、平成12年8月7日から同年10月9日まで行われた。遺物整理に関して、平成12年度については、調査終了後直ちに行われ、翌平成13年度については、諸事情により平成13年7月16日に契約を締結し、平成13年9月1日から平成14年3月31日までの半年間で行われた。このため遅れた遺物整理及び報告書の作成については、平成14年度に行うこととし、平成14年4月2日改めて契約を締結し、平成14年5月1日～平成15年3月31日まで行われた。

2. 調査組織

平成12年度（発掘調査及び遺物整理）

調査主体 大分市教育委員会

調査責任者 清瀬 和弘（大分市教育委員会 教育長）

事務局 秦 政博（大分市教育委員会 文化財課 課長）

帯刀 修一（大分市教育委員会 文化財課 課長補佐）

玉永 光洋（大分市教育委員会 文化財課 主幹）

讃岐 和夫（大分市教育委員会 文化財課 係長）

福田 誠一（大分市教育委員会 文化財課 主査）

調査員 讃岐 和夫（大分市教育委員会 文化財課 係長）

坪根 伸也（大分市教育委員会 文化財課 主任）

池邊千太郎（大分市教育委員会 文化財課 主任）

高畠 豊（大分市教育委員会 文化財課 技師）

塩地 潤一（大分市教育委員会 文化財課 技師）

河野 史郎（大分市教育委員会 文化財課 技師）

整理作業員 西村 大（大分市教育委員会 文化財課 臨時職員）
作業員 岩下磨須美・内田裕毅・加藤芳男・河野一男・後藤好美・末田栄三・大東行雄・武石修吾・
長井節子・広岡サヨ子・深津イツ子・藤沢紗茅子・藤本政大・牧 洋子・山崎輝子
山崎太蔵・浅久野セツ子・横田 連・小村知治・金剛和弘・坂本真智子・塙月仁郎
園田フクエ・高野伸蔵・利光克寛・長野瑞恵・二宮 要・河野和子・清末サキエ・牧 隆志・
姫野美智子・太田重行・江崎義春・伊藤美津子・常行幸子・増本文子

平成13年度（遺物整理）

調査主体 大分市教育委員会
調査責任者 御沓 義則（大分市教育委員会 教育長）
事務局 帯刀 修一（大分市教育委員会 文化財課 課長）
玉永 光洋（大分市教育委員会 文化財課 主幹）
讃岐 和夫（大分市教育委員会 文化財課 課長補佐兼係長）
熊谷 一秋（大分市教育委員会 文化財課 課長補佐兼係長）
調査員 河野 史郎（大分市教育委員会 文化財課 技師）
整理作業員 幸野 麗（大分市教育委員会 文化財課 臨時職員）
高木美智子（大分市教育委員会 文化財課 臨時職員）

平成14年度（遺物整理・報告書印刷）

調査主体 大分市教育委員会
調査責任者 泰 政博（大分市教育委員会 教育長）
事務局 帯刀 修一（大分市教育委員会 文化財課 課長）
玉永 光洋（大分市教育委員会 文化財課 参事）
讃岐 和夫（大分市教育委員会 文化財課 課長補佐兼係長）
熊谷 一秋（大分市教育委員会 文化財課 課長補佐兼係長）
調査員 河野 史郎（大分市教育委員会 文化財課 技師）
整理作業員 幸野 麗（大分市教育委員会 文化財課 臨時職員）
首藤 直美（大分市教育委員会 文化財課 臨時職員）

II 遺跡の立地と環境

1. 遺跡の立地と環境

遺跡の立地する大分平野は、別府湾の南部に面しており、丘陵地・台地・低地の三つの地形で構成される。この大分平野には、東部の大野川と、中央部から西部にかけての、大分川という2大河川が存在しておりこの二つの河川が前述した大分平野の地形に少なからず影響を与えている。今回の調査地である府内城・城下町跡は、大分平野の中央部に位置する。大分川の河口付近、大分川の分流と住吉川の二流にはさまれた標高3.5~4.0mの微高地に形成されており、遺跡のすぐ北側には別府湾が広がり、南側には、標高35mの高度をもつ上野丘陵が控えている。

当該地区における遺跡展開の歴史は古く、以下、歴史的環境について、周辺主要遺跡の展開を中心に時代をおって外観すると、縄文時代後期～晩期の遺物の出土が知られている大分川河川敷遺跡（2）、弥生時代中期後半の環壕集落である上野遺跡群（4）、同じく後期終末から古墳時代初頭の集落が認められた大道遺跡群（5）、東田室遺跡（6）、古墳時代には、全長50mを測る前方後円墳である大臣塚古墳（7）が築造される。古墳時代も終わり古代への移行期（律令形成期）である7世紀代後半には、被葬者として壬申の乱で活躍した大分君恵足が推定されている終末期古墳である古宮古墳（8）が築造され、中央政権との結びつきの深さを窺わせている。

古代に入ると、遺跡の南方、古国府遺跡群（10）を中心とした古国府・羽屋の一帯と、上野丘陵一帯が、古代豊後國の中核となる国府推定域となっているが、近年、前者においては、官衙の前身施設とも考えられる羽屋井戸（17）・羽屋園遺跡（18）が、後者においては、国司館の可能性が指摘される竜王畠遺跡（16）と、共に国府の存在を裏付けるような遺跡が相次いで発見され、注目されている。

大友氏による豊後国支配が行われた中世であるが、現在、大友氏が実際に豊後に入国した3代頼泰段階の守護所及び府中については諸説あり、不明な点も多いが、少なくとも戦国時代の段階には、現在の大分川の下流左岸一帯の河岸段丘上にその中枢を移し、大友館（11）を中心とした、4本の南北道路（大路）と、5本の東西道路よって区画される南北2.2km、東西0.7kmに及ぶ広大な範囲に及ぶ府内町（中世大友府内町）（14）を成立させている。この府内町は、その北西の別府湾岸に大友氏による国際貿易の拠点となった沖ノ浜（15）とよばれる港を有し、南西の丘陵部には、四方を土壁によって囲まれた極めて軍事的な色彩の強い上原館（上野大友館）（12）と呼ばれるもう一つの大友館を有した戦国都市として、大友氏の政治的・経済的中心として発展する。

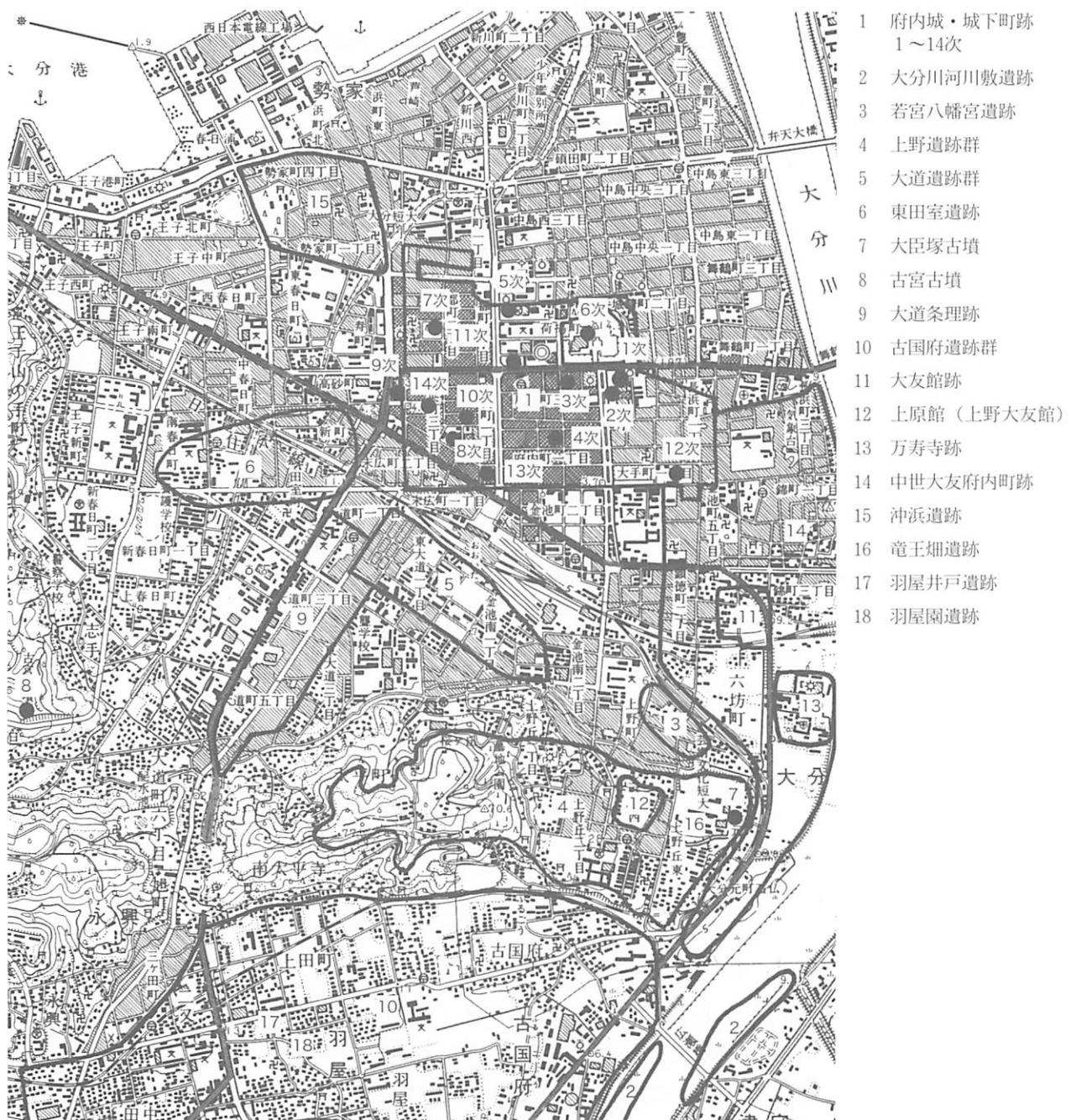
2. 府内城及びその城下町について

近世になり、中世府内町から移転する形で成立する府内城及びその城下町は、①総石垣化が図られた織豊期系の城郭である点、②別府湾に面し、北西部と北東部（中世府内町の舟入を踏襲する）の2つの舟入を有する点等、中世府内町の機能を凝縮したものとなっている。以下、今回の調査対象となる府内城及びその城下町についてその概要を記す。

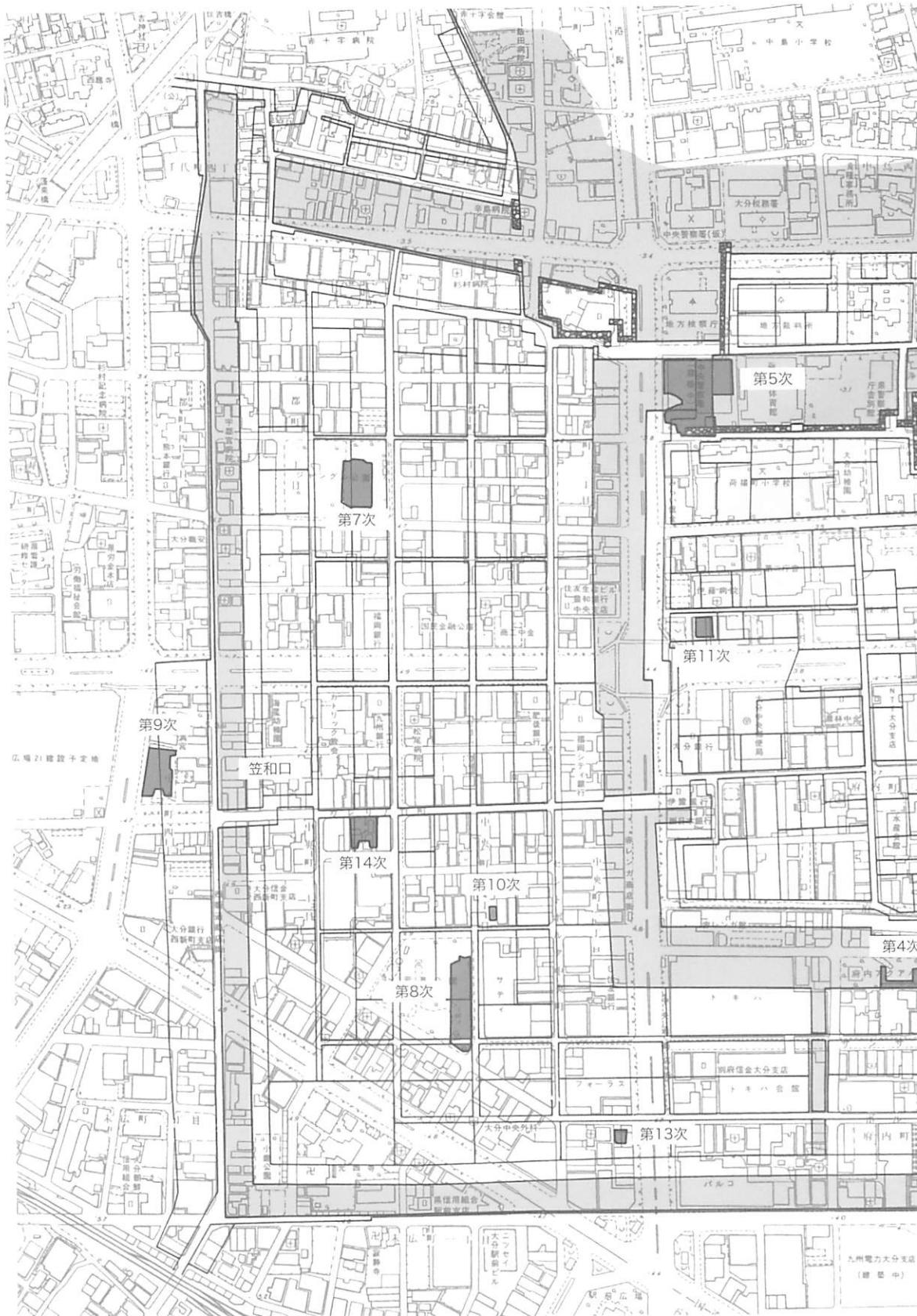
大友吉統（義統）徐国後の豊後は、小藩分立の体制が成立し、中世段階の中心地であった府内藩は、17世紀前半段階で、文禄3年（1594）と慶長4年（1599）の早川長敏、慶長2年（1597）の福原直高、慶長6年（1601）の竹中重利、寛永11年（1634）の日根野吉明といっためまぐるしい領主の交代劇が見られる。しかし、明暦2年（1656）の日根野家断絶の後は、2年間江戸幕府の管理下に置かれ、万治元年（1658）には、大給松平忠昭が藩主となった。その後、明治4年（1871）まで大給松平氏が府内藩を領有することとなり、最終的には、文地領を含め、現在の大分郡内を中心とした2.22万石の石高となった。

府内城の築城に関しては、慶長2年（1597）に福原直高によって始まり、（築城以前の早川長敏や、入府当初の福原直高は、大友屋形（上原館）を修理して移り住んでいる）慶長4年（1599）に二ノ丸東三重櫓と三ノ丸家臣屋敷が完成、その後、早川長敏、竹中重利と府内城の築城を引き継ぎ、慶長7年（1602）に四層の天守閣を含む主要中心施設を完成させている。

城下町の建設は、竹中重利により天守他中心施設の完成に引き続き行われ、三の丸外側をL字状に囲む形で、東西約10町（1,100m）、南北約9町（1,000m）の範囲に町割りを敷き、町民を移住させた。慶長10年（1605）には外堀を掘削し、慶長12年（1607）には、城下への入り口として笠和口・堀川口・塩九升口が設けられ、翌13年には、城下の北西に舟入を掘削し、京泊と命名、これにより城下町もほぼ完成した。こうして完成した府内城下町は、門内の47町に加え、門外町として5町の計52町が存在し、宝永7年（1710）の段階でその人口は、門内外併せて19,687人を数え、都市としての発展性を窺わせている。



第1図 周辺主要遺跡分布図（1/25,000）



第2図 府内城・城下町全



本図及び調査区位置図（折り込み）

III 遺跡の調査

1. 調査区の設定と調査概要

調査区は、府内城下町への西の入り口である笠和口から、府内城の西口に至る東西道路を東に約70m、道路の南端から5m程南に入った部分に設定された。調査区は、調査区南東、南西にそれぞれ拡張区を有する全体に「コ」字状を呈する調査区で、面積は330m²を測る。加えて調査区が設定された場所は、絵図による「笠和町」と「竹町」の町境部分にあたり、これらに関連する遺構・遺物の検出が期待されるところであった。

調査の結果、明治以降の建物礎石から、近世府内城下町段階の「笠和町」「竹町」に関連する遺構群、近世城下町形成段階と考えられる16世紀末～17世紀初頭に位置づけられる遺構群に至るまでの複数時期の遺構群が検出された。

これら今回の調査によって確認された遺構群に関して、まず、火災処理土坑の一群の存在が特筆される。これらの遺構については、複数時期にわたって形成されており、現在まとめられている府内城下町とその近辺でおこった大火との整合作業も可能であり、調査区内における遺構変遷及び、府内城下町の被災状況を知る上でも貴重な資料となった。（なお、火災処理土坑に関しては、他遺構とは分けて、別項目を設けている）次に、「笠和町」と「竹町」の町境については、区画施設と考えられる遺構や、前述した火災処理土坑の時期別の配置や、その他の遺構の配置状況にから、町境が時期毎に変遷することが確認することができた。

この他、出土遺物に関しては、「竹町」等の町名を記した焼継文字資料を始めとして、人名、年号を記した文字資料が一定量出土しており、その存在が注目されるところである。

今回確認された遺構群は、その検出層位及び、出土遺物の位置づけ等から、今後細分の可能性を残すものの、①明治～近代、②19世紀前半～中頃、③18世紀末～19世紀初頭、④18世紀後半、⑤17世紀後半～18世紀中頃、⑥17世紀前半、⑦16世紀末～17世紀初頭の、概ね7時期に分類された。以下、概ねこの年代観に添う形で、火災処理土坑、その他の主要遺構及びこれらの遺構から出土した主要出土遺物について、その詳細を記す。

2. 火災処理土坑（SK）及び出土遺物

前述したとおり、火災処理土坑の位置づけは、今回の調査の中でも特筆すべきものとなった。以下、この遺構及び主要出土遺物の詳細を記す。

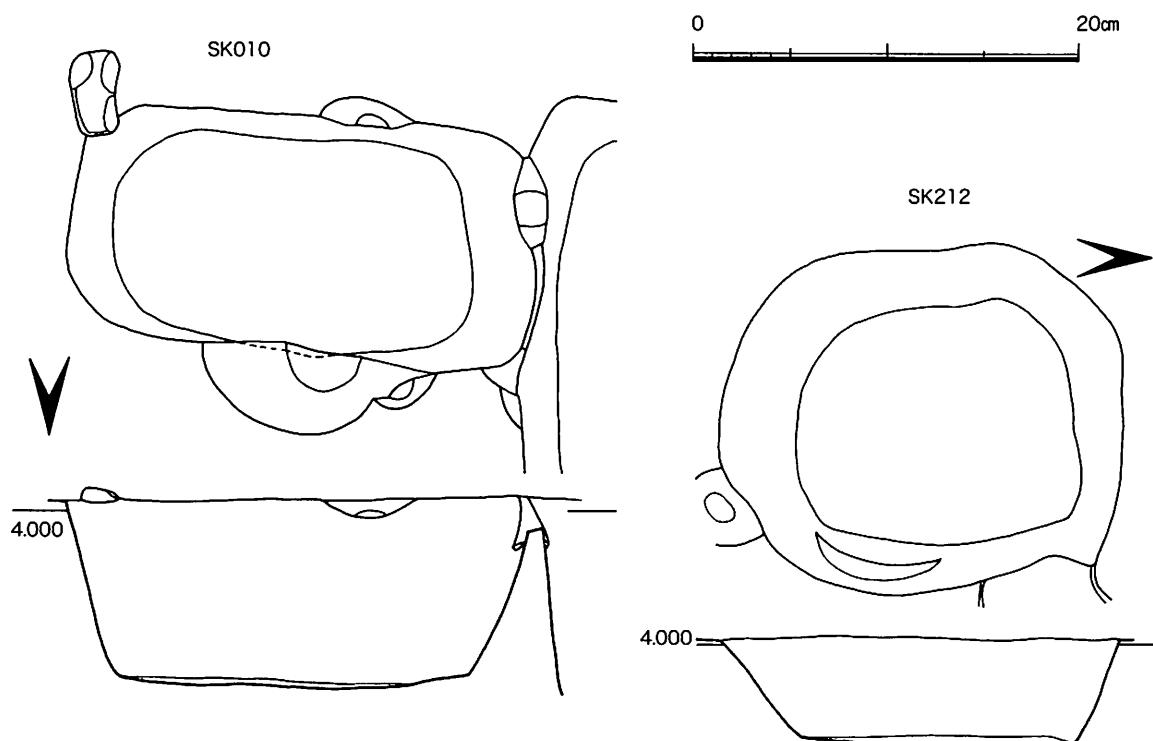
火災処理土坑については、①その埋土の中に多量の焼土塊が詰まった状況であること、②2次被熱を受け変質した遺物の存在が認められること、の2点を認定の条件とした。したがって、今回、焼土粒を含む程度の土坑については、都市遺跡の性格上2次的な流入の可能性も考え、その形態や規模に関わらず等に火災処理土坑から除外している。

選定の結果、上記の条件を満たす火災処理土坑は、計13基となった。これらの火災処理土坑は、その平面形態からは、隅丸長方形、不整形形、不整円形の3つに、その主軸方位からは、南北主軸のものと、東西主軸の2つに、時期的な位置づけに関しては、その出土遺物から概ね18世紀中頃～後半、18世紀後半、18世紀末～19世紀初頭、19世紀前半～中頃の4つの時期に、それぞれ分類することができた。

以下、火災処理土坑の遺構実測図（1/40）及び遺構観察表、その出土遺物実測図（1/3）及び観察表を提示し、火災処理土坑の調査報告に変える。なお、遺構の詳細時期及び、府内城下町が被った火災との整合作業については、第IV章のまとめにて、その詳細検討を行うこととする。

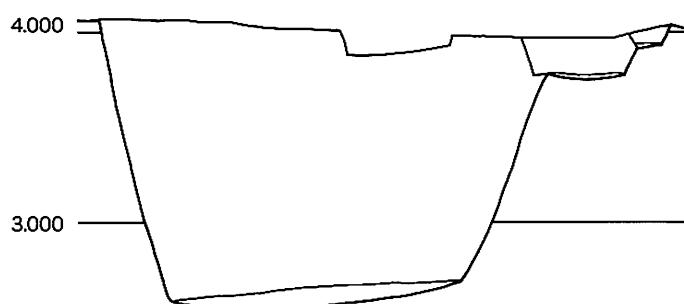
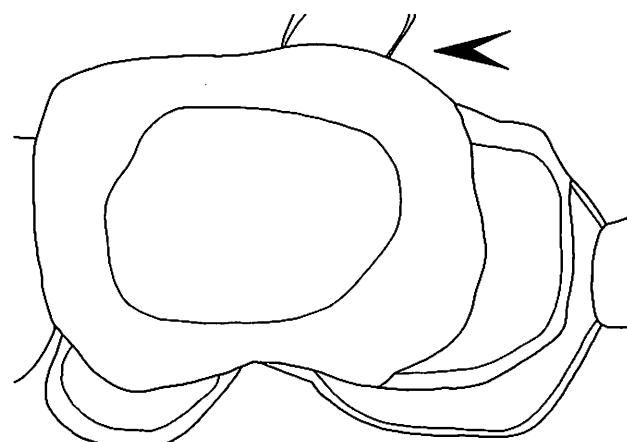
遺構種	遺構番号	グリッド	形態	時 期	規 模 (cm)	備 考	挿図番号
SK	212	N - 7	不整円形	19世紀前半～中頃	212×180×60	火災処理土坑／南北主軸	第3図
SK	010	N - 4	隅丸長方形	18世紀末～19世紀初頭	246×120×100	火災処理土坑／東西主軸	第3図
SK	171	O - 6	隅丸長方形	18世紀末～19世紀初頭	300×162×152	火災処理土坑／南北主軸	第4図
SK	209	N - 5	隅丸長方形	18世紀末～19世紀初頭	224×142×96	火災処理土坑／南北主軸	—
SK	023	N - 3	隅丸長方形	18世紀後半(新)	120+α×158×?	火災処理土坑／東西主軸 SK028を切る	第4図
SK	205	N - 5	隅丸長方形	18世紀後半(新)	230×128×138	火災処理土坑／東西主軸 SK215を切る	第4図
SK	194	N - 4	隅丸長方形	18世紀後半	302×142×88	火災処理土坑／南北主軸	第5図
SK	215	N - 6	隅丸長方形	18世紀後半(古)	248×146×118	火災処理土坑／南北主軸 SK205に切られる	第5図
SK	028	N - 3	隅丸長方形	18世紀後半(古)	222×164×?	火災処理土坑／南北主軸 SK023に切られる	—
SK	360	B - 3	不整方形	18世紀中頃	168×80+α×40	火災処理土坑／南北主軸	第5図
SK	018	N - 4	隅丸長方形	18世紀中頃	224×170×112	火災処理土坑／南北主軸	第6図
SK	151	O - 3	不整方形	18世紀中頃	210×160×40	火災処理土坑／南北主軸	第6図
SK	210	N - 5	隅丸長方形	18世紀中頃	229×152×120	火災処理土坑／南北主軸	第6図

表1 火災処理土坑 遺構観察表

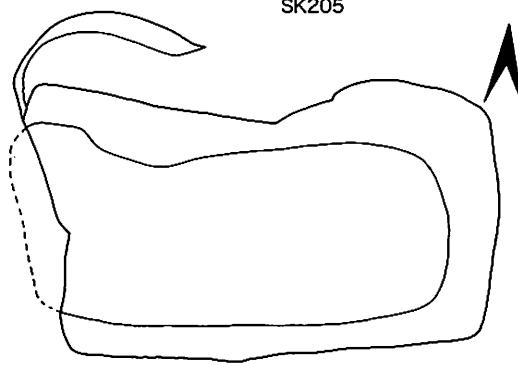


第3図 火災処理土坑 遺構実測図① (1/40)

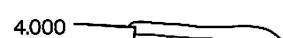
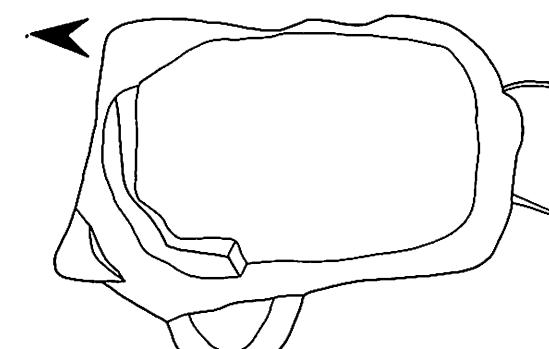
SK171



SK205

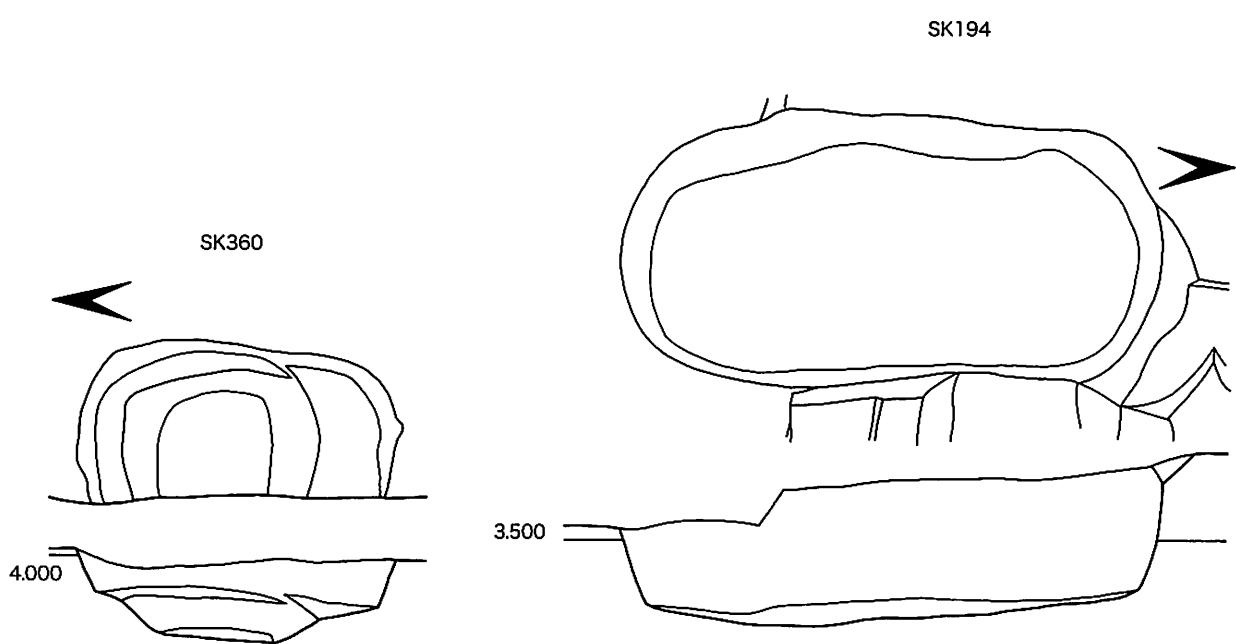
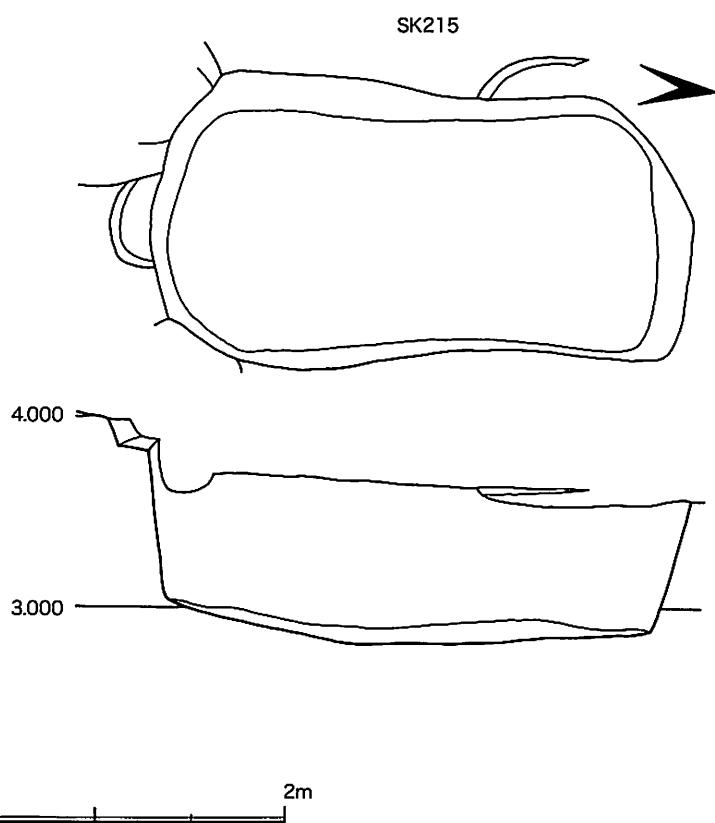


SK209



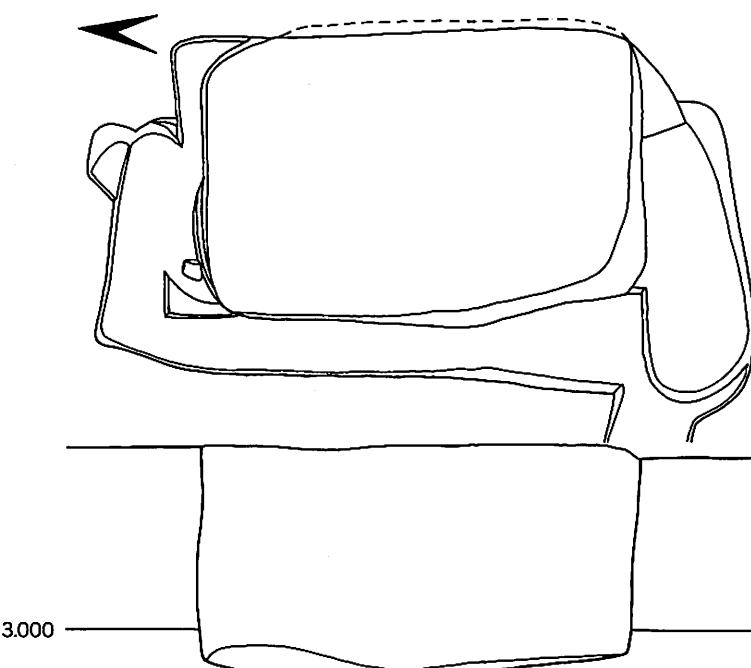
3.000

第4図 火災処理土坑 遺構実測図② (1/40)



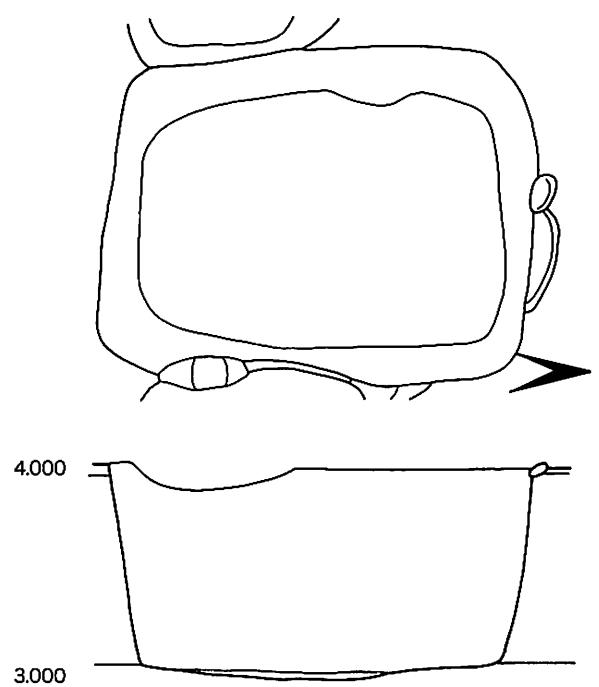
第5図 火災処理土坑 遺構実測図③ (1/40)

SK210

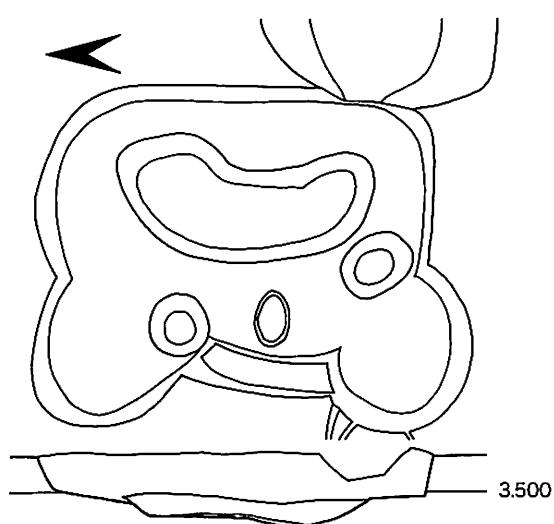


0 2m

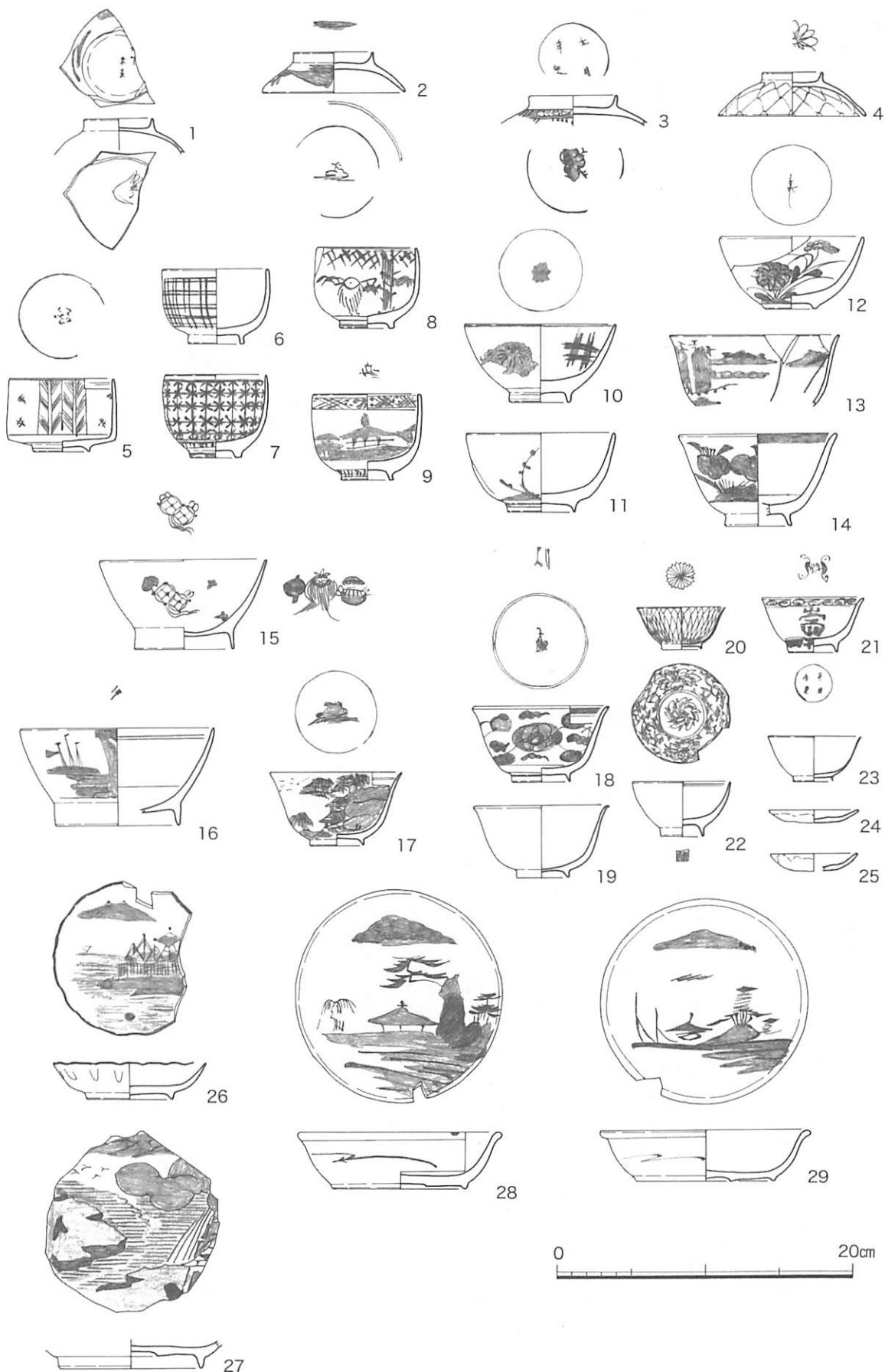
SK018



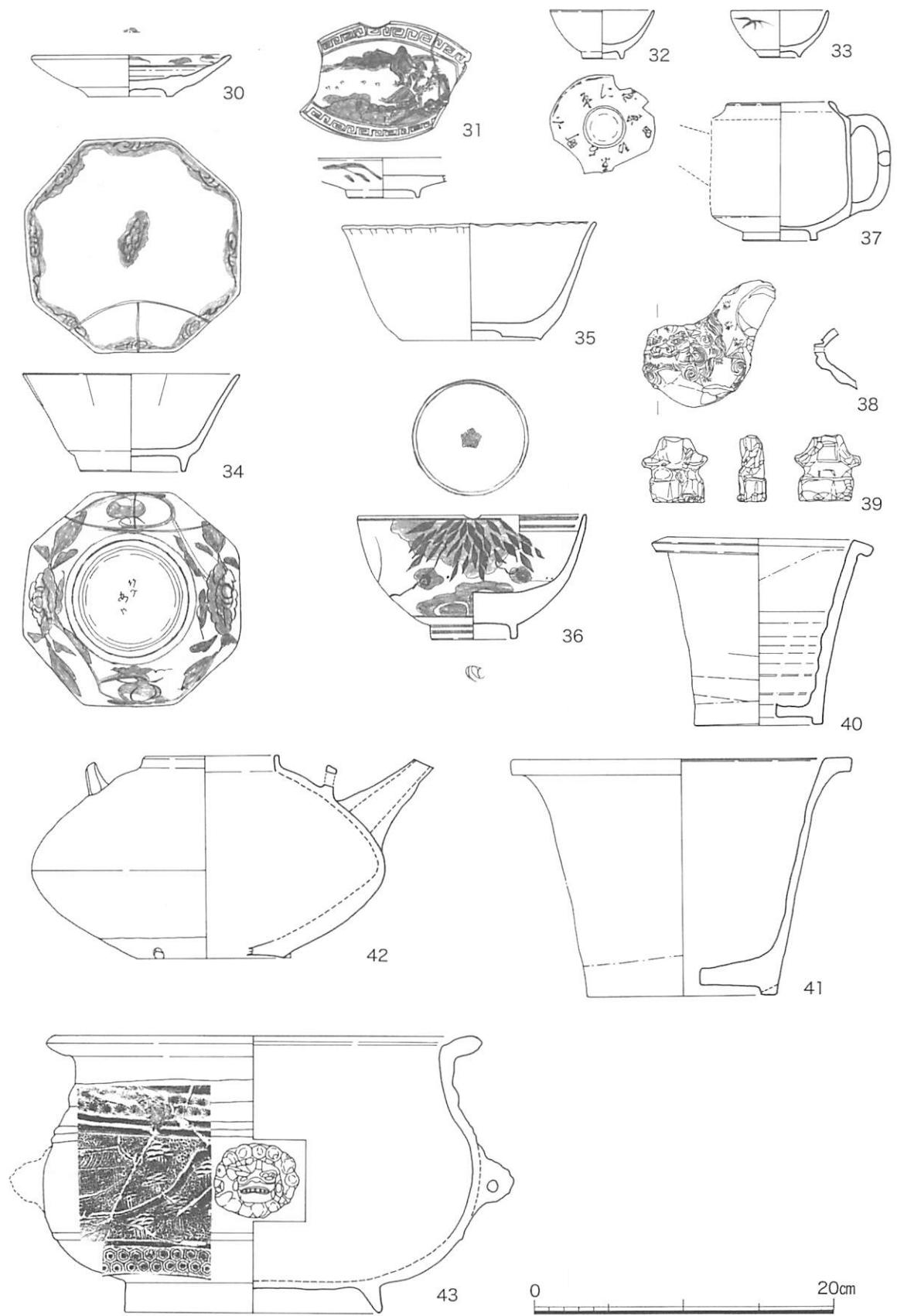
SK151



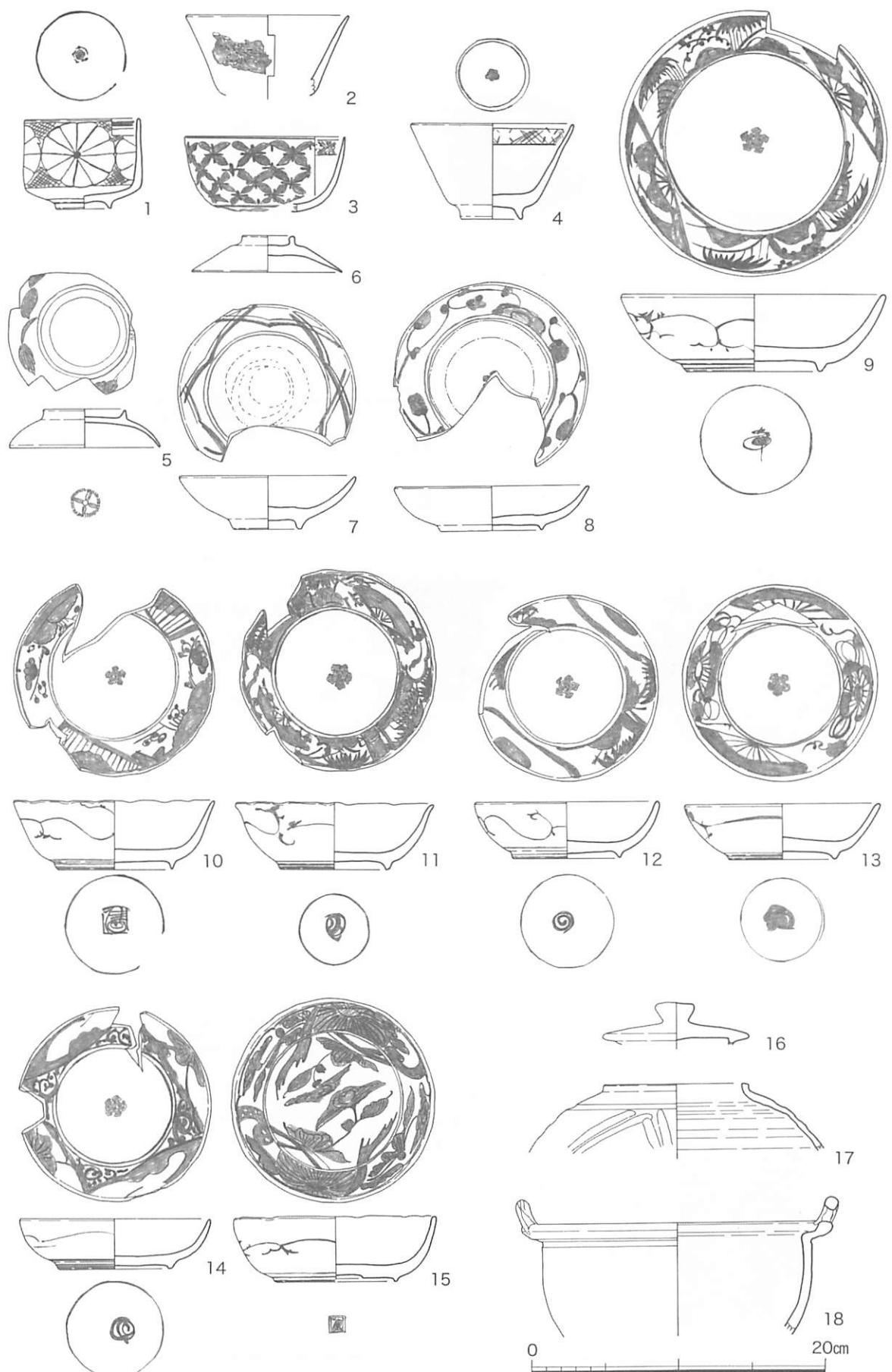
第6図 火災処理土坑 遺構実測図④ (1/40)



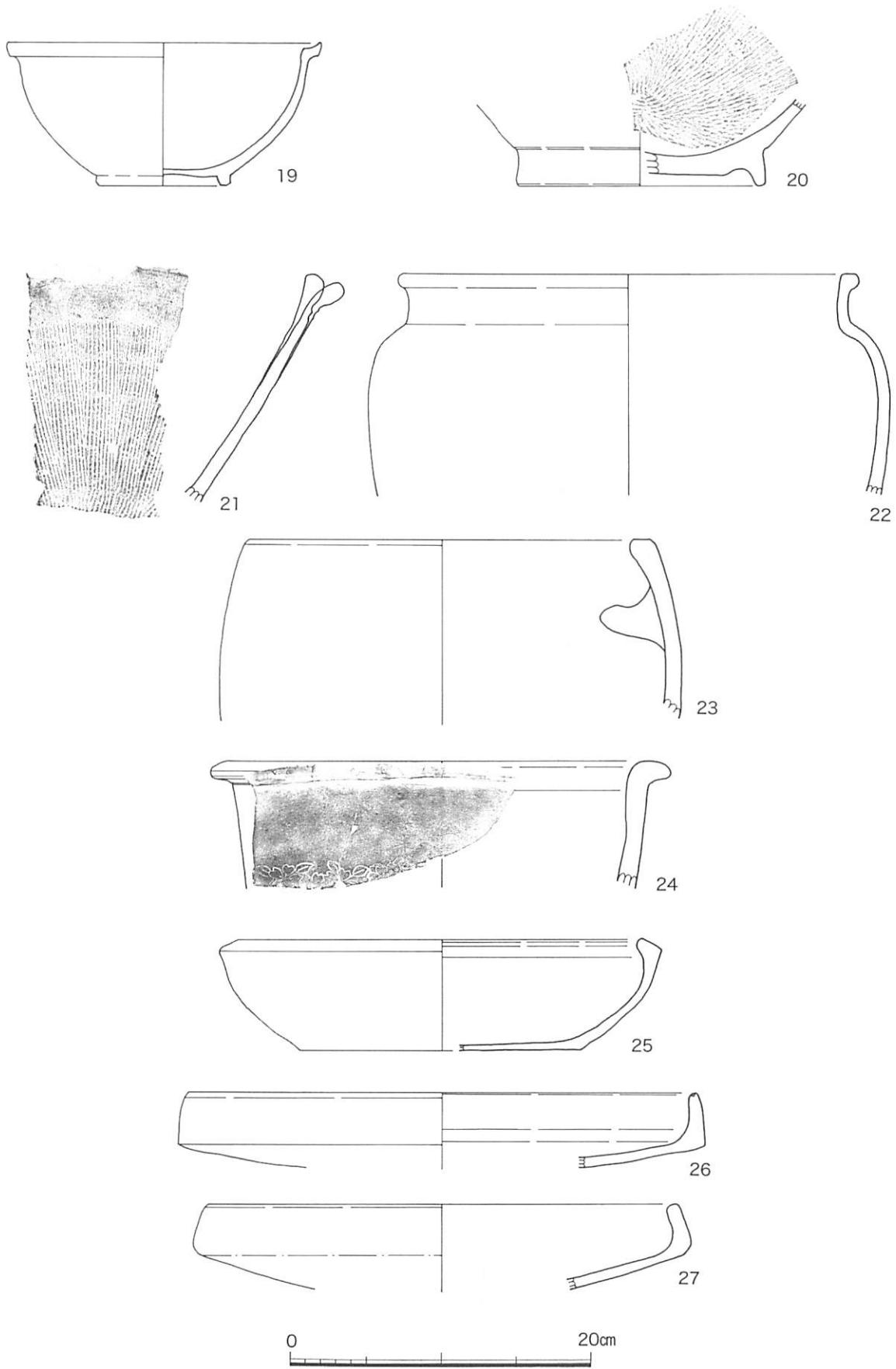
第7図 SK212出土遺物実測図① (1/4)



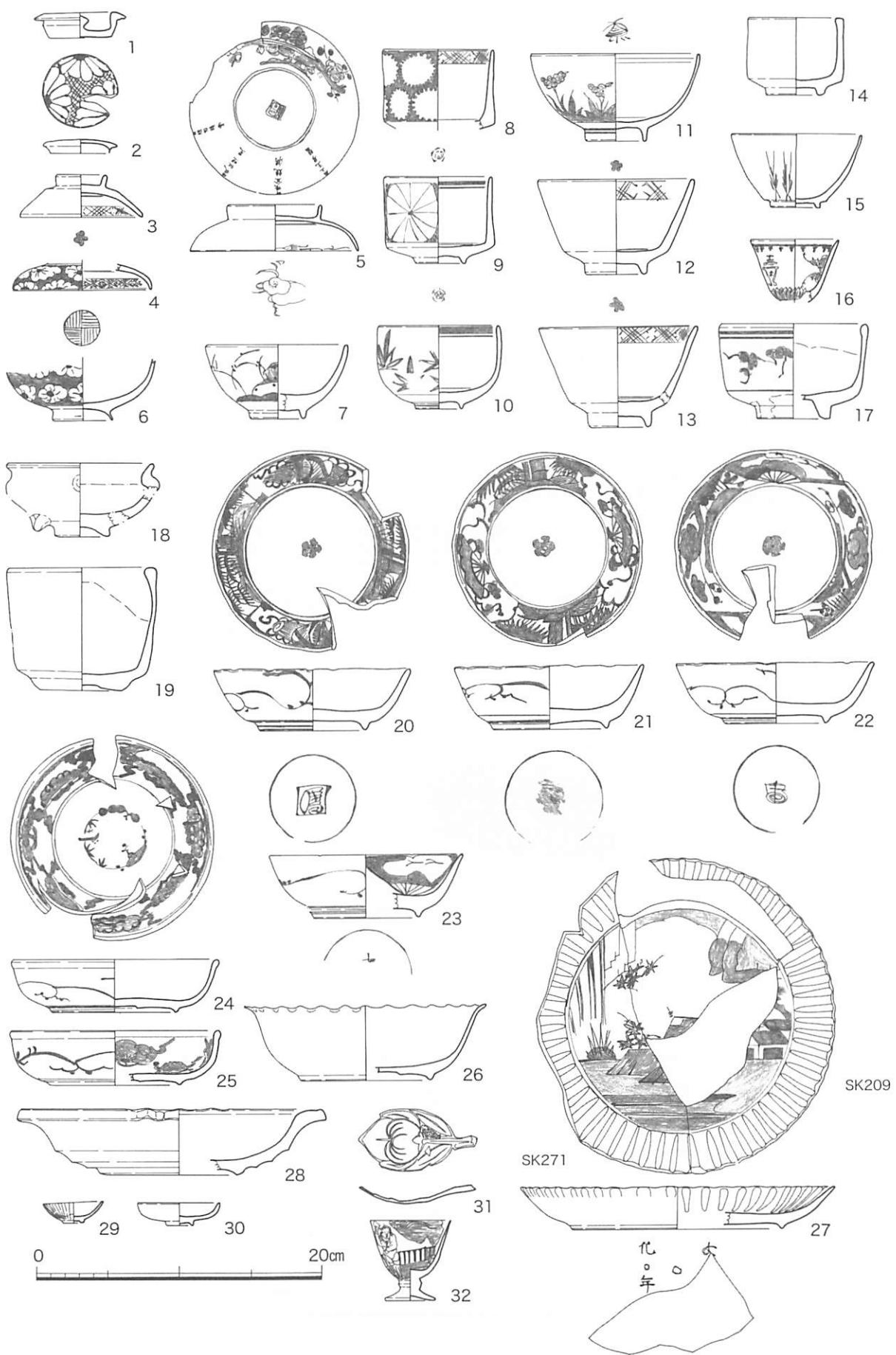
第8図 SK212出土遺物実測図② (1/4)



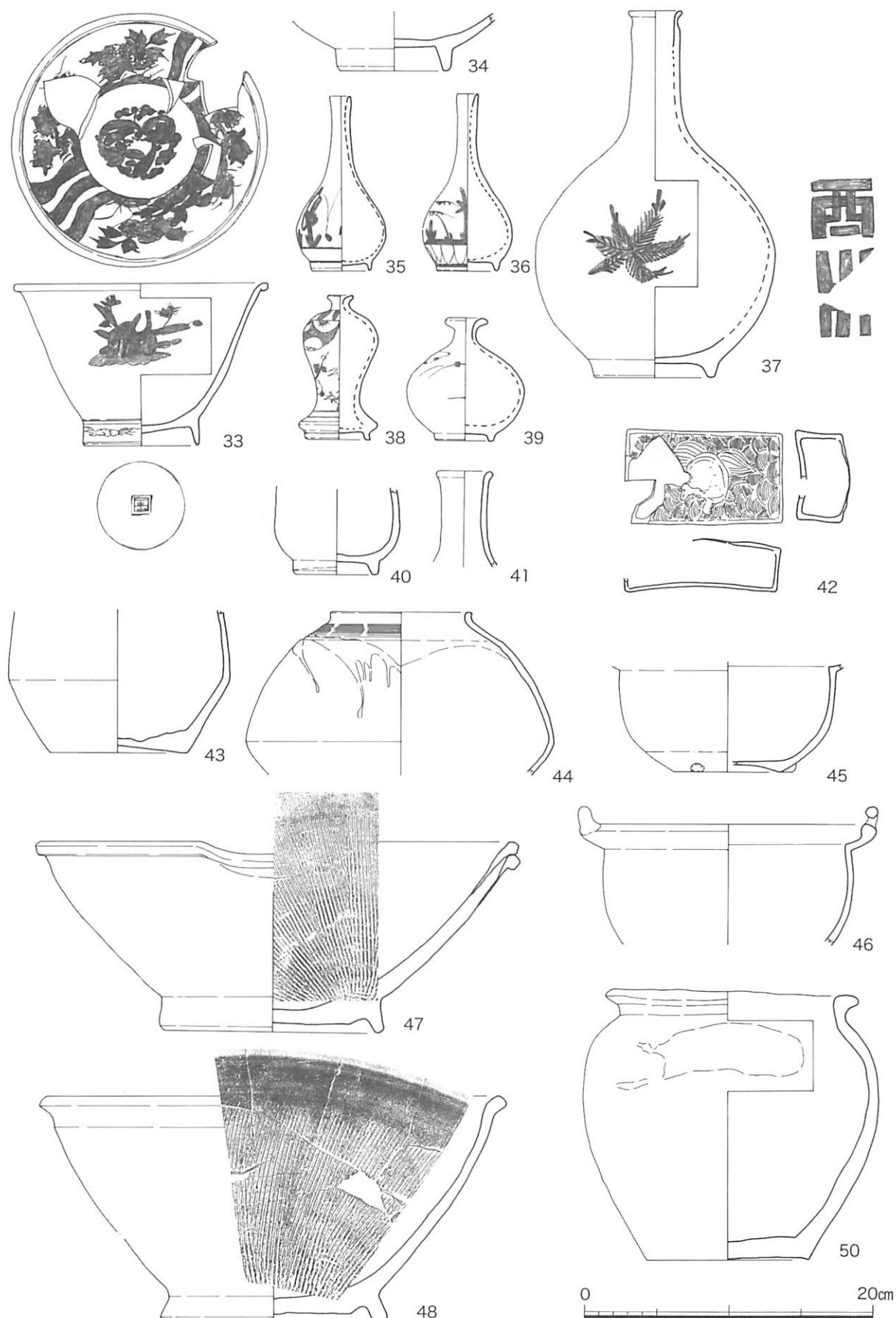
第9図 SK010出土遺物実測図① (1/4)



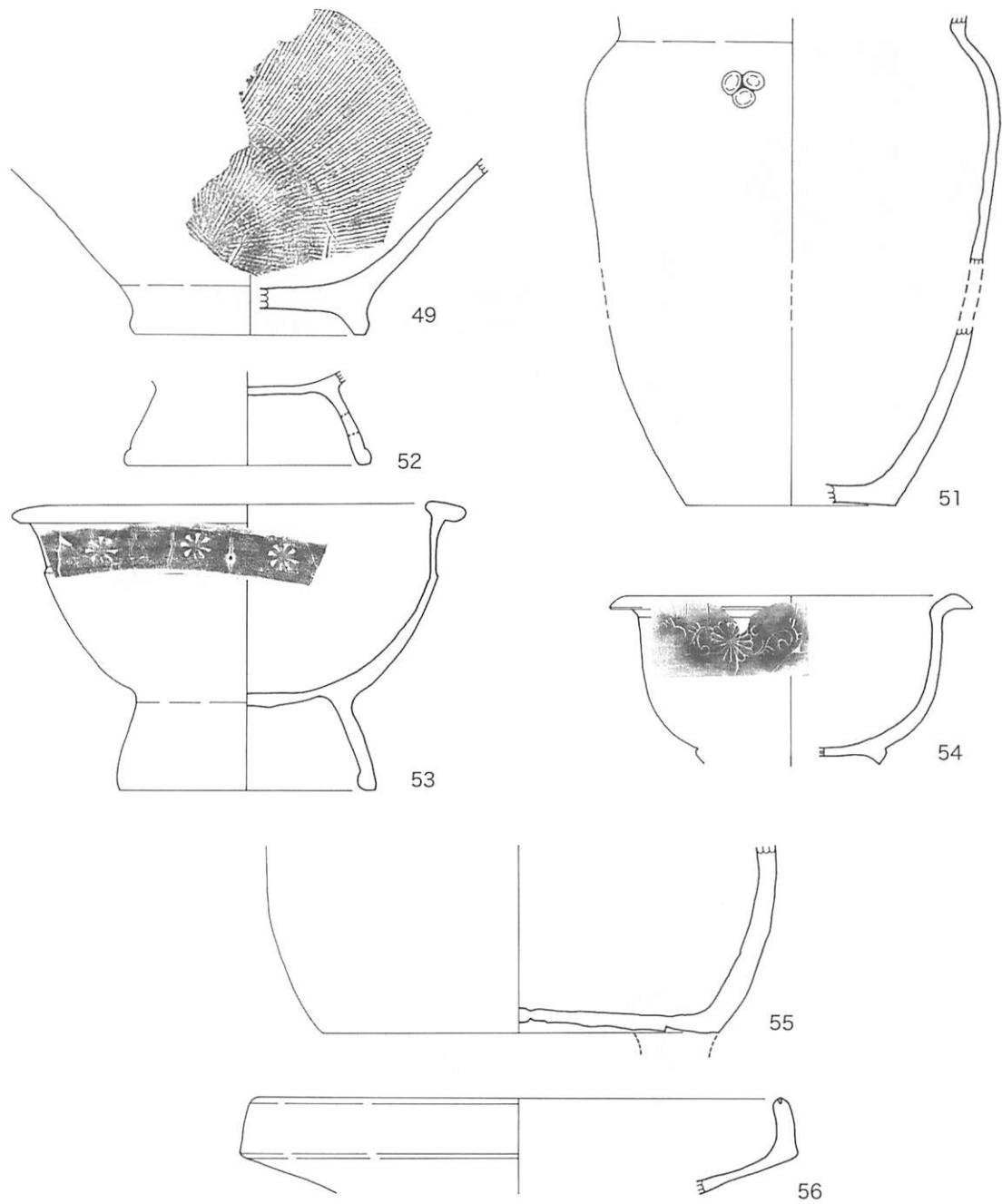
第10図 SK010出土遺物実測図② (1/4)



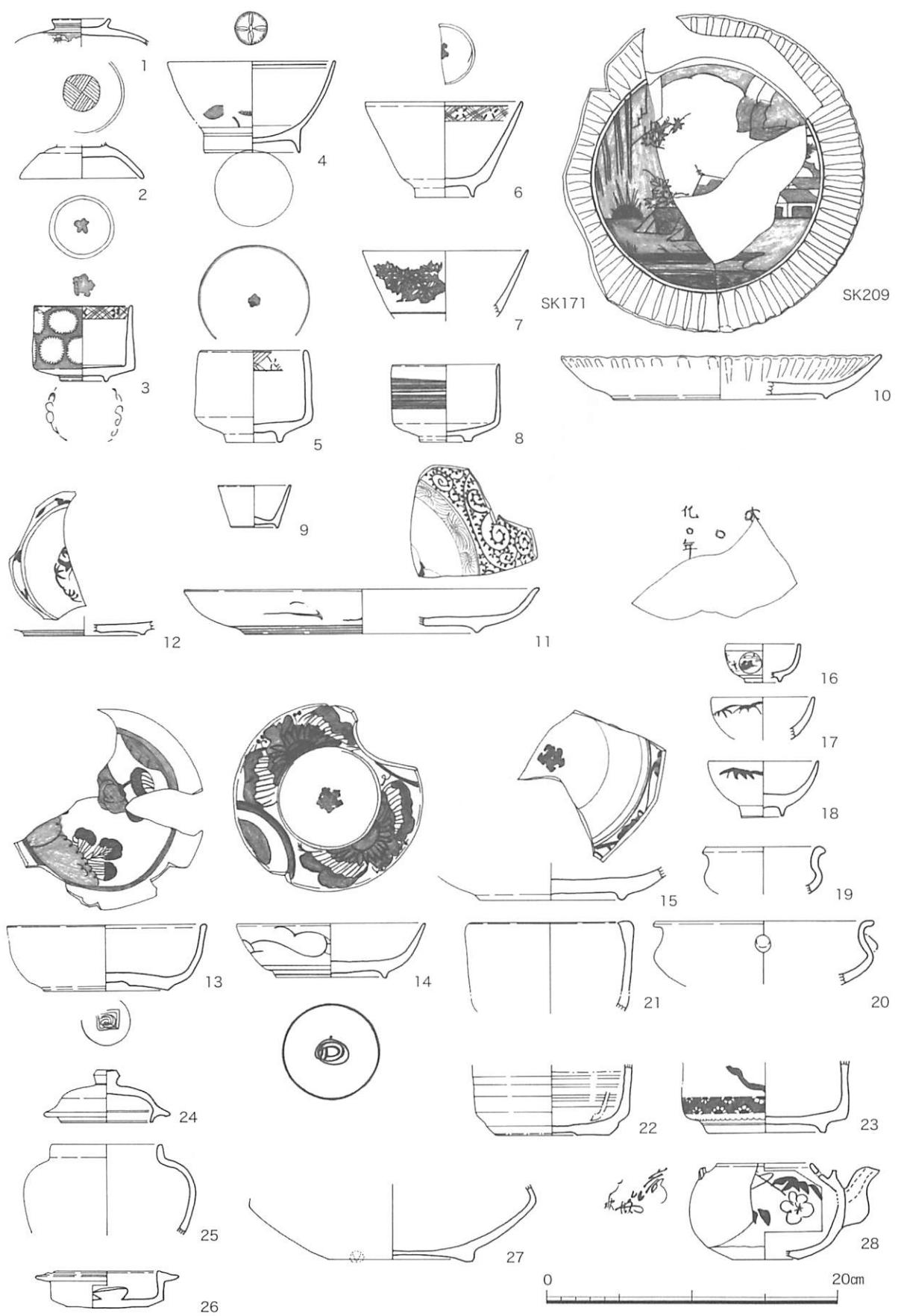
第11図 SK171出土遺物実測図① (1/4)



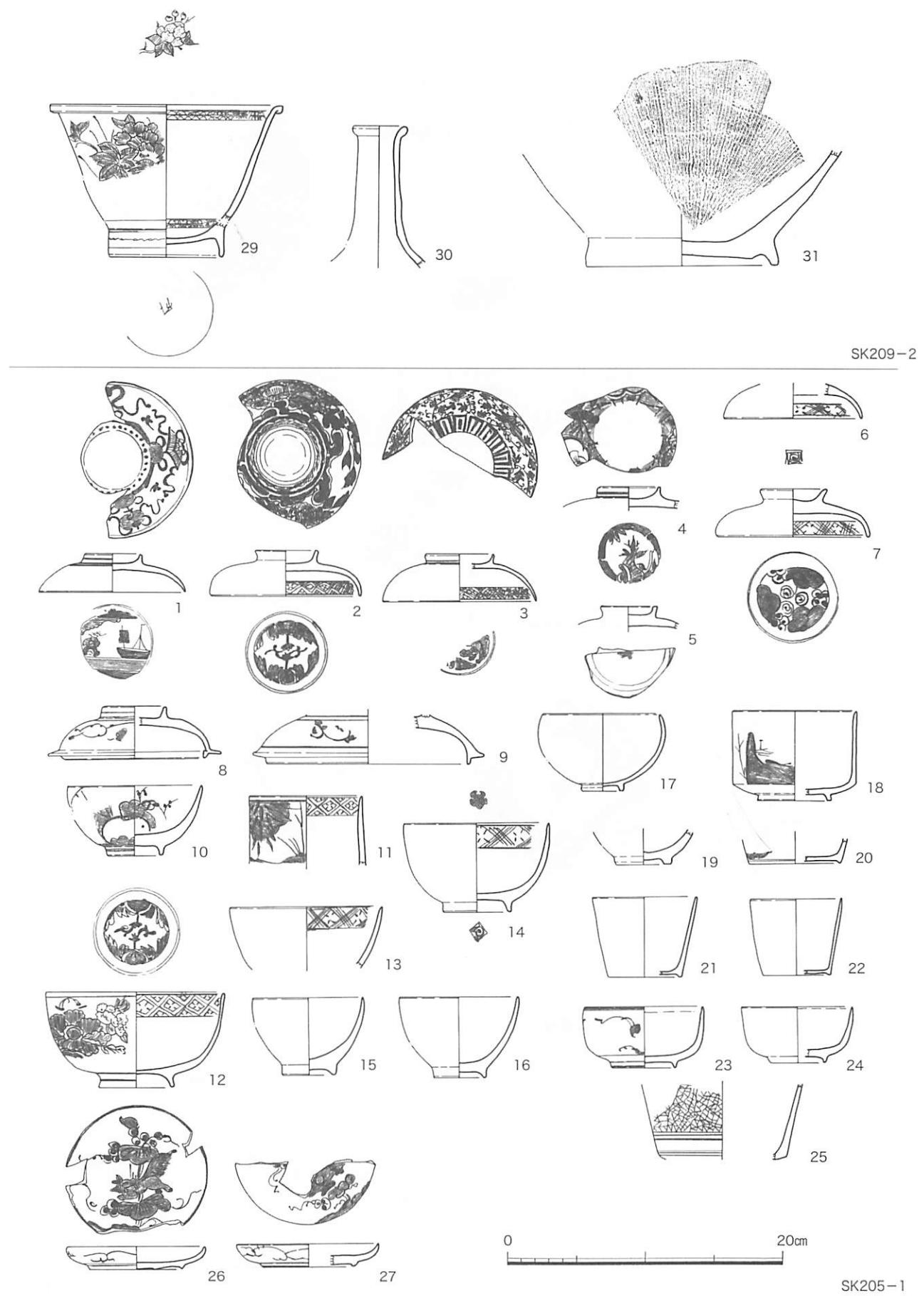
第12図 SK171出土遺物実測図② (1/4)



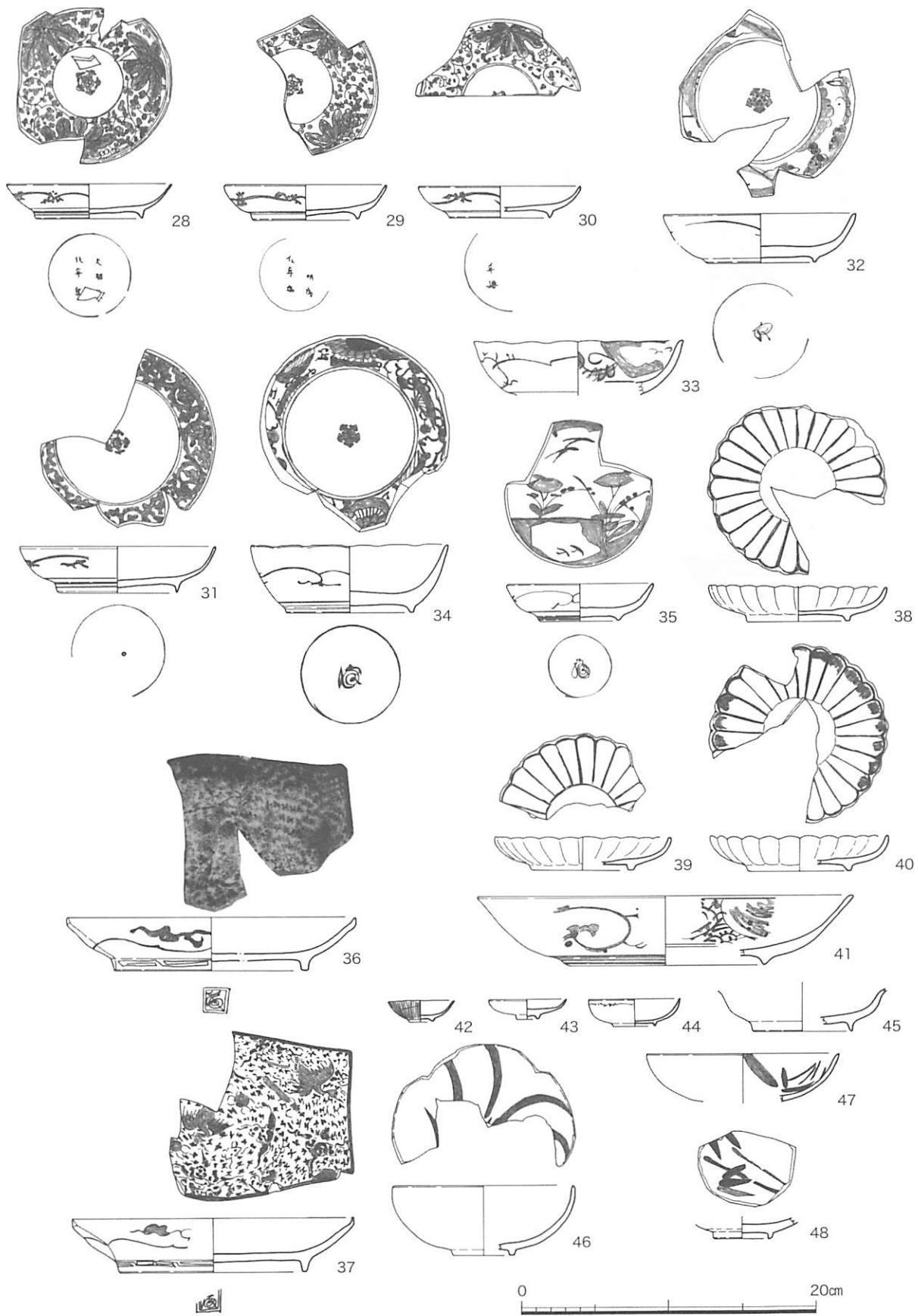
第13図 SK171出土遺物実測図③ (1/4)



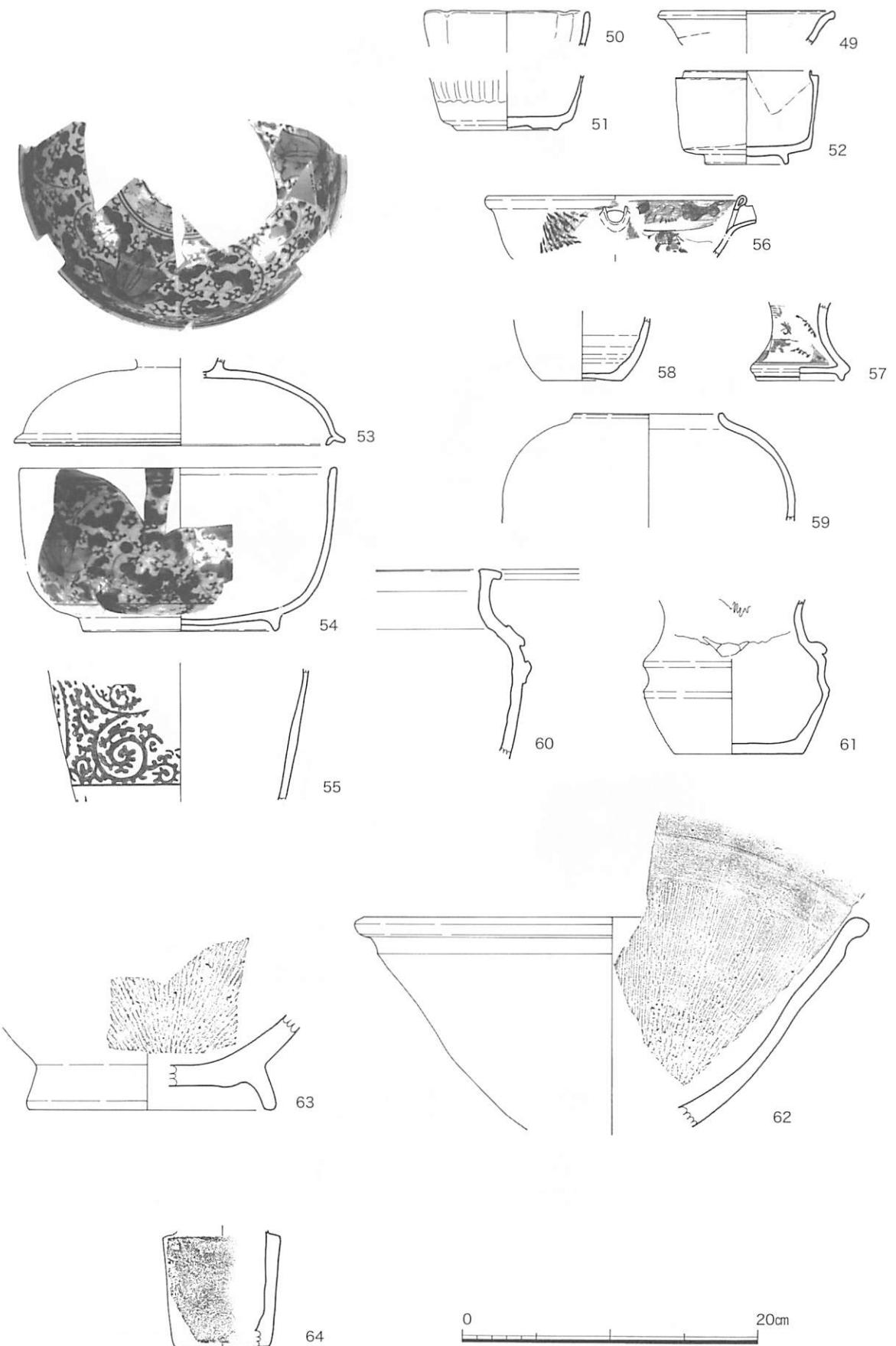
第14図 SK209出土遺物実測図① (1/4)



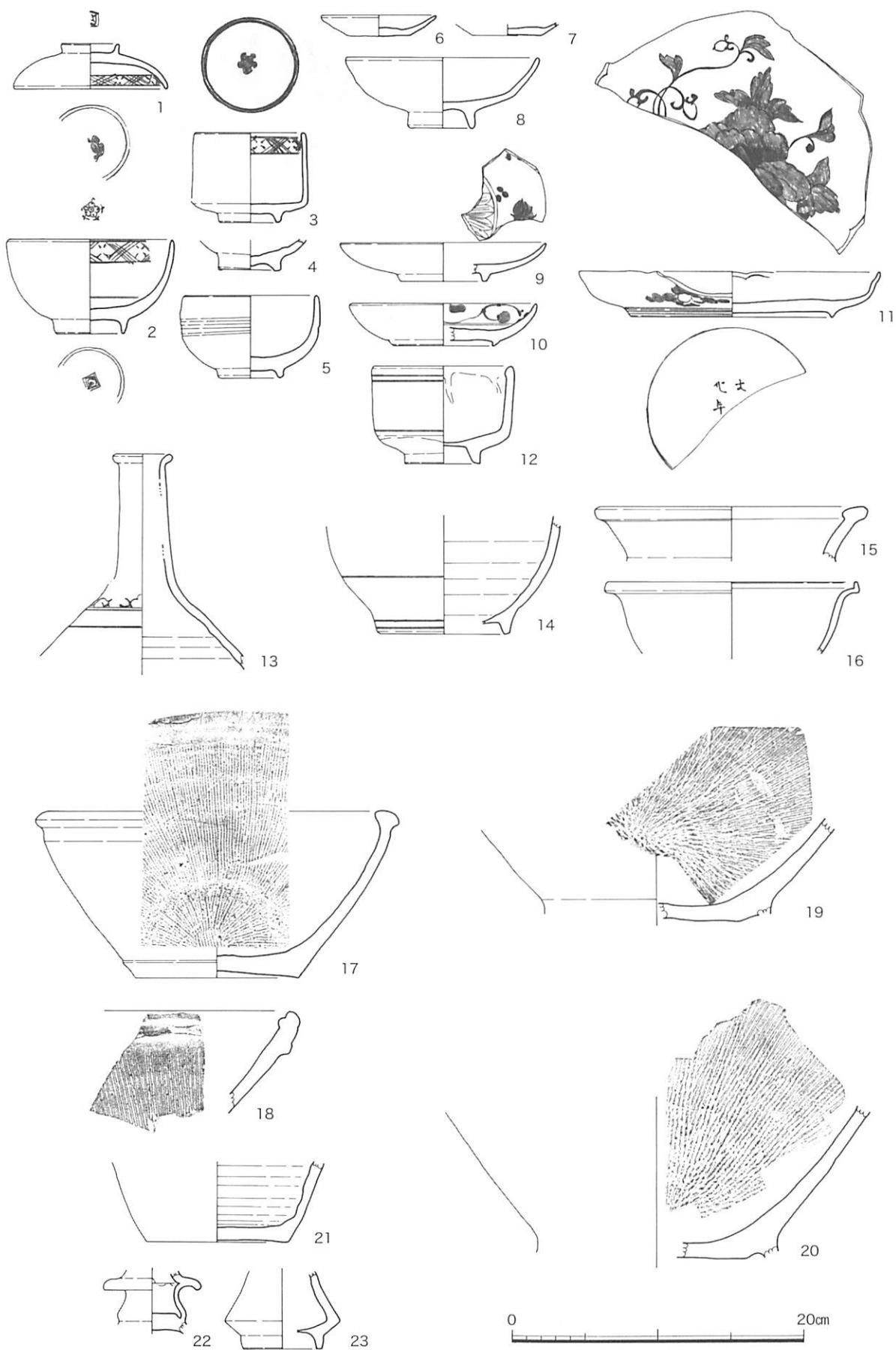
第15図 SK209出土遺物実測図② SK205出土遺物実測図① (1/4)



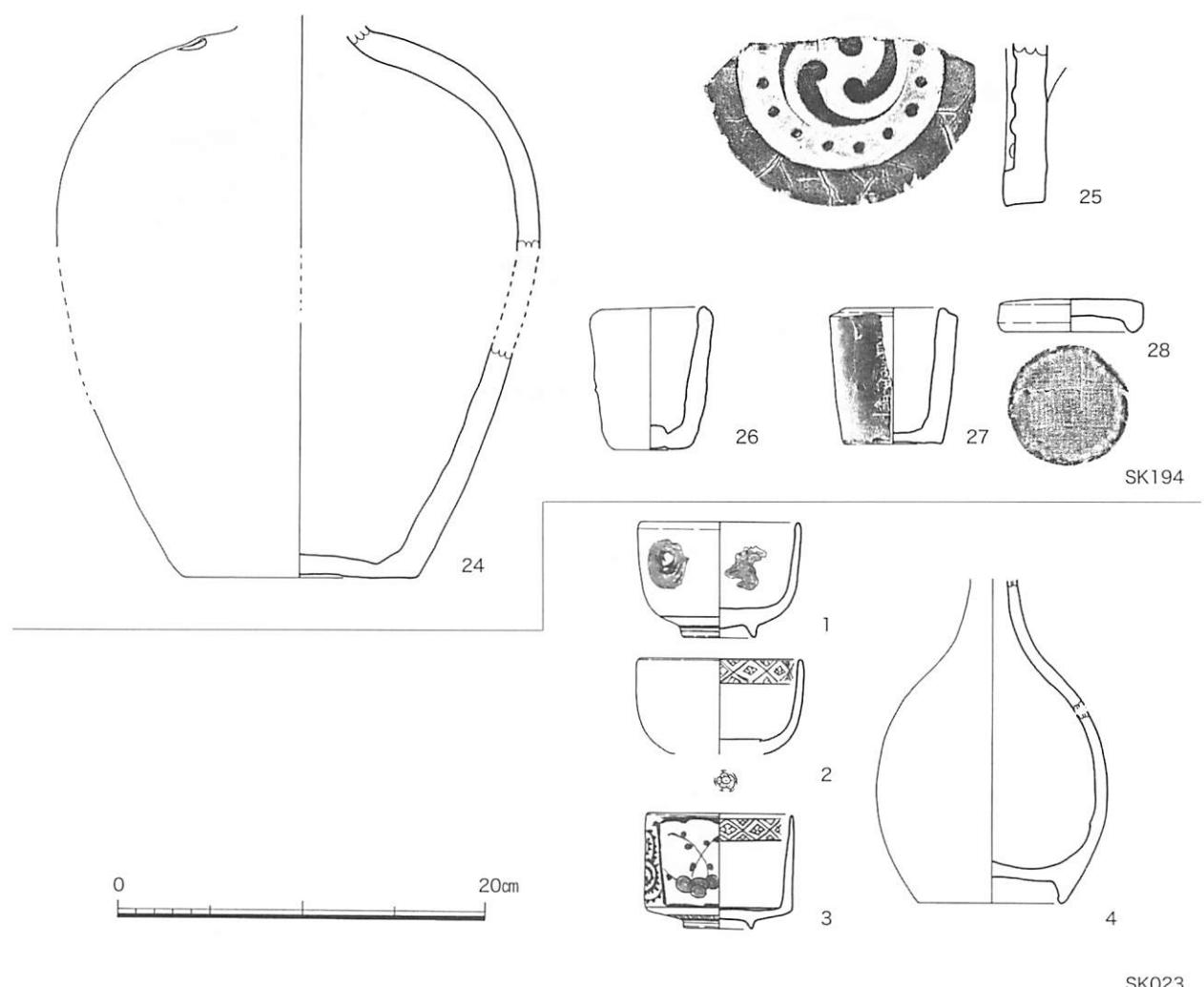
第16図 SK205出土遺物実測図② (1/4)



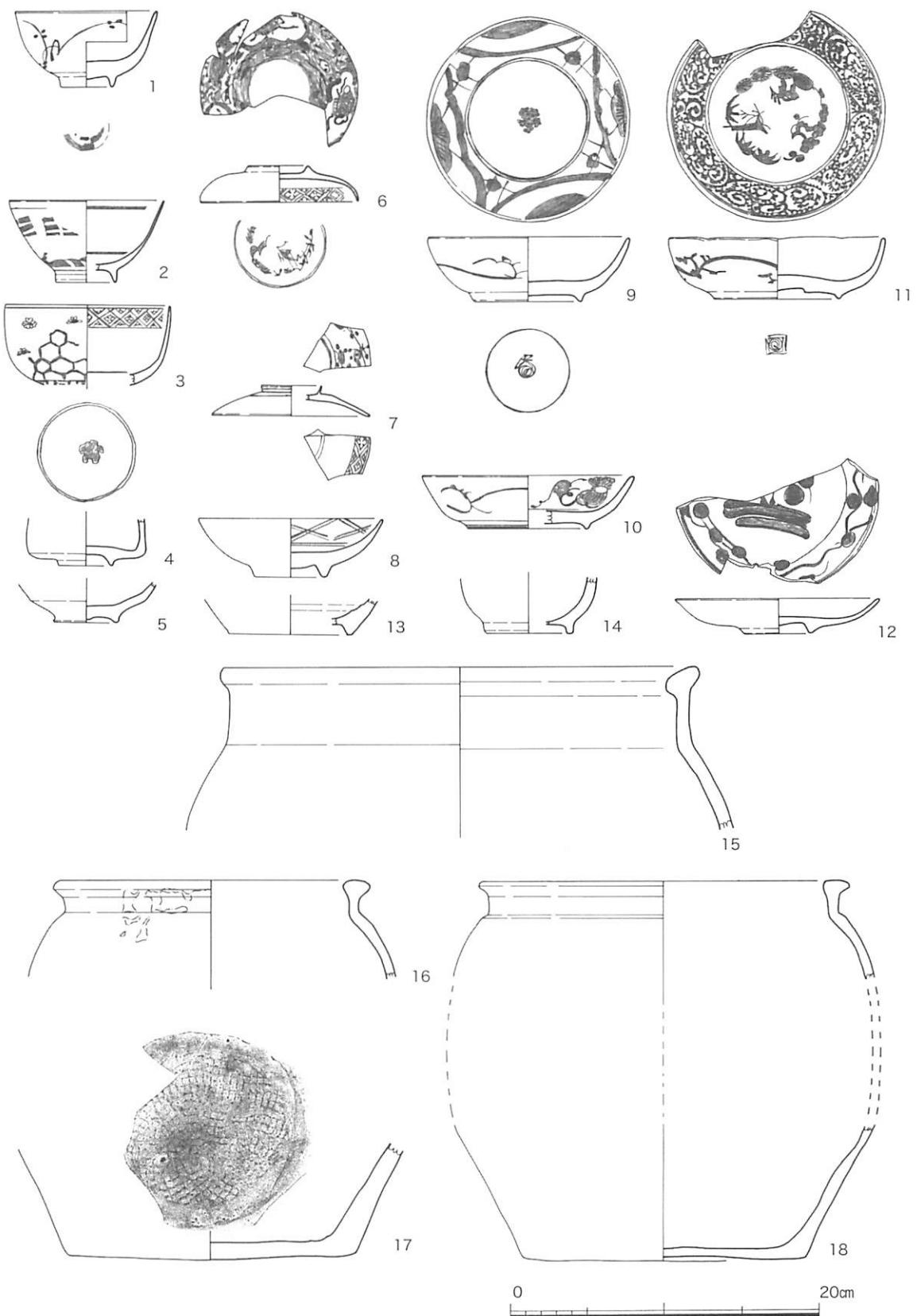
第17図 SK205出土遺物実測図③ (1/4)



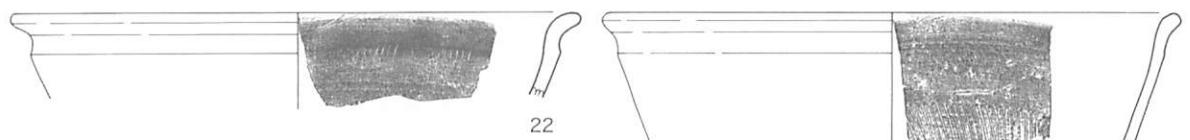
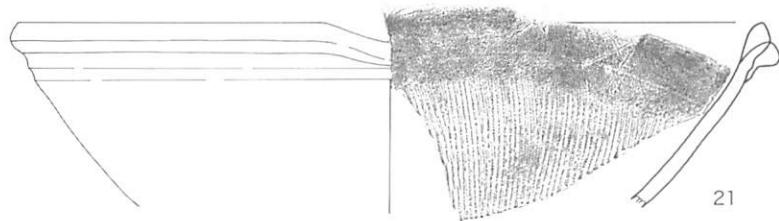
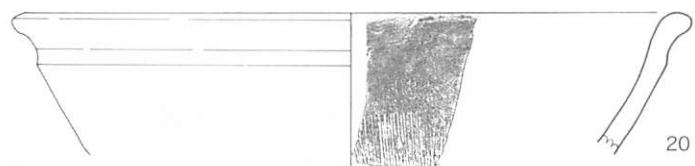
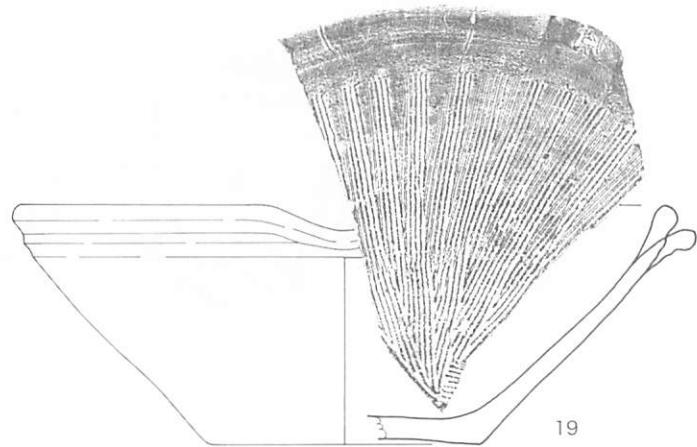
第18図 SK194出土遺物実測図① (1/4)



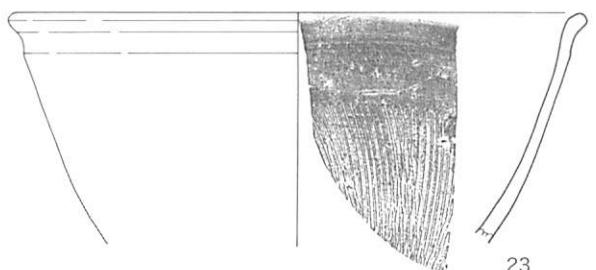
第19図 SK194出土遺物実測図② SK23出土遺物実測図 (1/4)



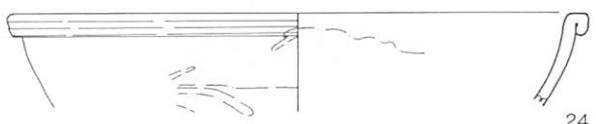
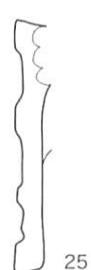
第20図 SK215出土遺物実測図① (1/4)



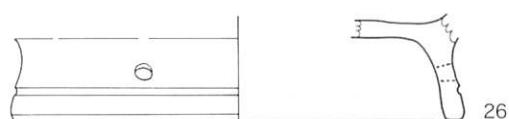
22



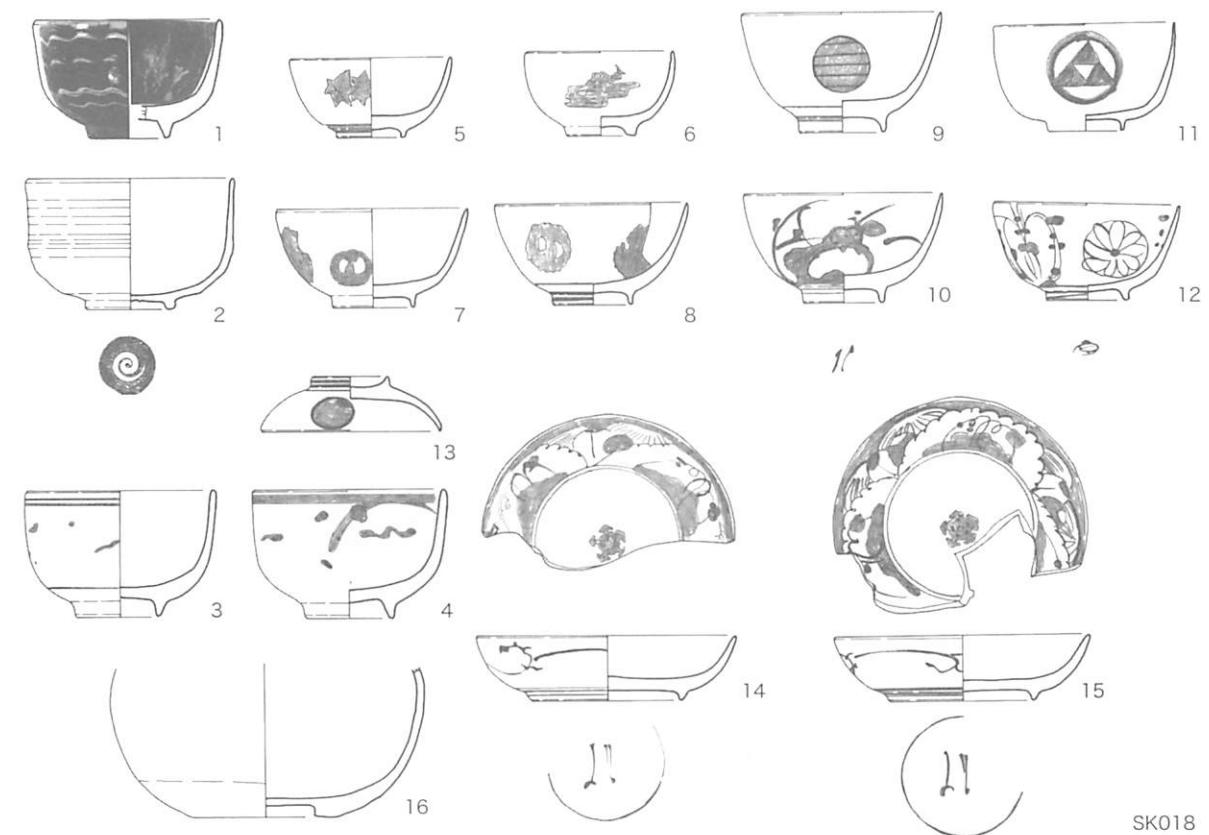
23



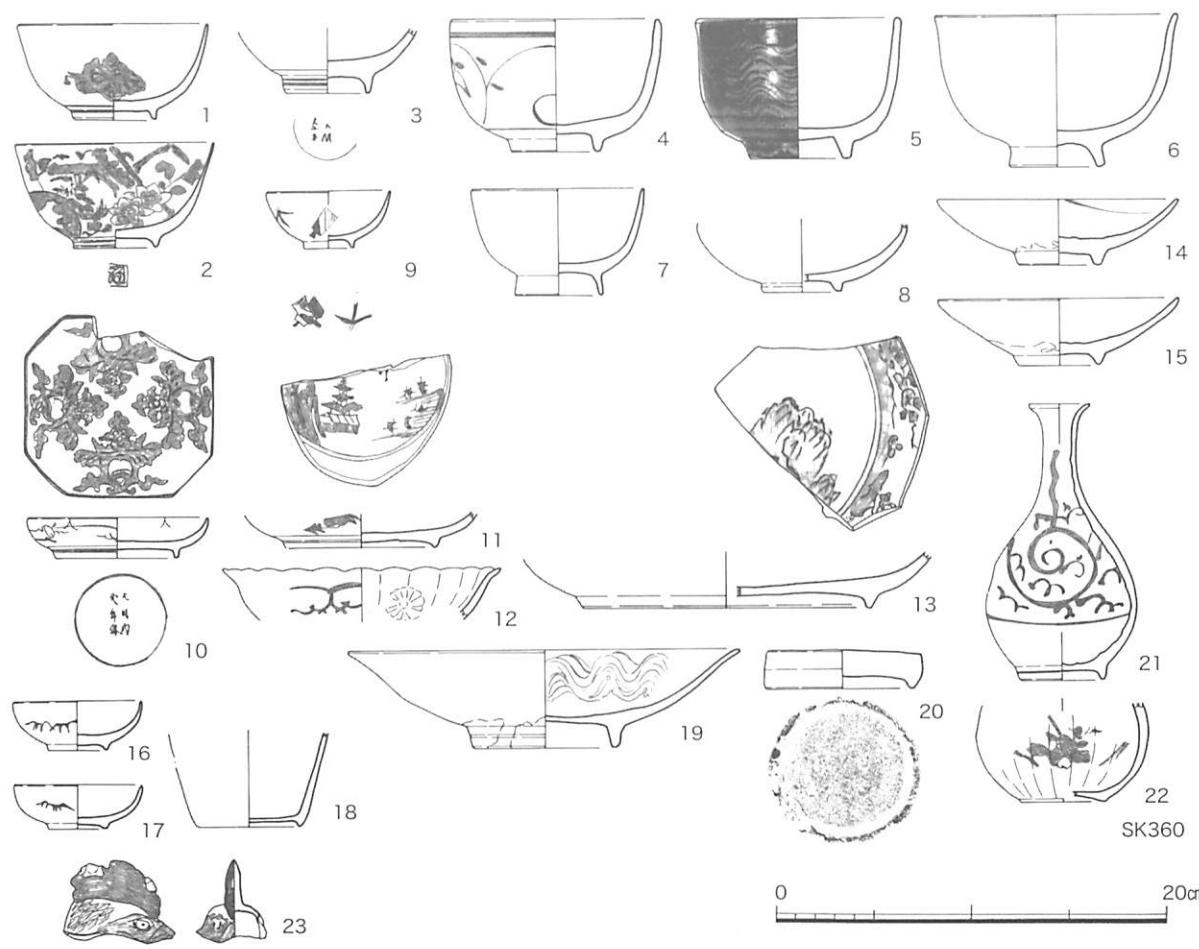
24



第21図 SK215出土遺物実測図② (1/4)



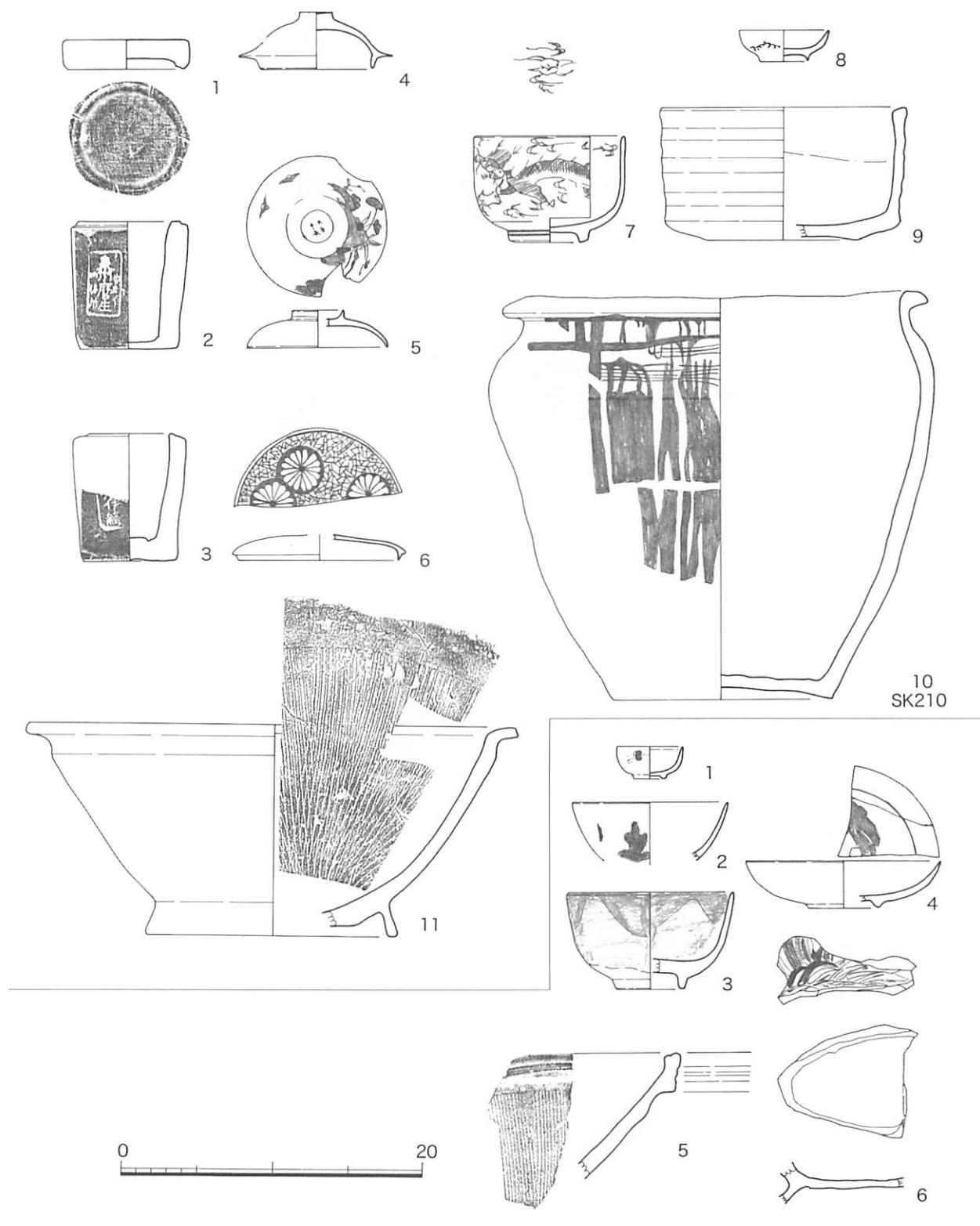
SK018



SK360

0 20cm

第22図 SK018・SK360出土遺物実測図 (1/4)



第23図 SK210・SK151出土遺物実測図 (1/4)

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
SK212	1	染付	蓋			(4.6)	広東碗蓋/焼継アリ 焼継文字「竹町米差」	1780~1810	肥前
	2	染付	蓋	(10.0)	(2.8)	(5.6)	広東碗蓋	1780~1810	肥前
	3	染付	蓋			6	銘款: 大明年製		肥前
	4	染付	蓋	(10.0)	(3.0)	(4.0)	端反碗蓋/網目文	1820~1860	肥前
	5	染付	碗	7.2	5	3.9	筒形碗/外: 矢文/内: 五弁花	1780~1810	肥前
	6	染付	碗	7	5.1	3.2	筒丸碗/外: 格子文	1820~1860	肥前
	7	染付	碗	6.9	5.6	3.7	筒丸碗	1820~1860	肥前
	8	染付	碗	6.9	5.7	3.4	筒丸碗/外: 孟宗図文	1820~1860	肥前
	9	染付	碗	7.4	5.9	3.6	筒丸碗	1820~1860	肥前
	10	染付	碗	10.3	5.4	4.2	外: コンニャク印判	18世紀前半	肥前
	11	染付	碗	10	5.4	4.2	くらわんか手/大明年製崩れ	1700~1740	肥前
	12	染付	碗	9.9	5	3.4			肥前
	13	染付	碗	(11.6)			端反碗/焼継アリ	1820~1860	肥前
	14	染付	碗	(10.5)	(6.2)	(4.2)	端反碗	1820~1860	肥前
	15	染付	碗	11.4	6.1	6.7	広東碗	1780~1810	肥前
	16	染付	碗	(11.2)	(6.7)	(8.4)	広東碗	1780~1810	肥前
	17	染付	碗	9.3	5.2	4	小碗	1820~1860	瀬戸・美濃
	18	染付	碗	9.2	5.1	3.7	小碗	1820~1860	瀬戸・美濃
	19	陶器	碗	9	5	3.4	小碗	19世紀前半	京都・信楽
	20	染付	小壺	6	3	2.6	網目文	1780~1820	肥前
	21	染付	小壺	7	3.8	3.3		18末~19中頃	中国
	22	染付	小壺	6.7	3.8	2.9	銘款: 不明/外: 瑠璃釉/内: 線描きによる花唐草	18末~19中頃	中国
	23	染付	小壺	6.4	3.2	2.6		19世紀前半	京都・信楽
	24	土師器	小皿	6.2	0.9	2.2	施釉かわらけ		
	25	土師器	小皿	6			施釉かわらけ		
	26	染付	皿	10.5	2.5	5.9	口紅/内: 楼閣山水文	1810~1860	肥前
	27	染付	皿			9.4	蛇の目凹形高台	1810~1860	肥前
	28	染付	皿	14.2	4	9.3	蛇の目凹形高台/樓閣山水文	1780~1860	肥前
	29	染付	皿	14.2	3.6	9.5	蛇の目凹形高台/樓閣山水文	1780~1860	肥前
	30	染付	皿	13.4	3.8	4.8	見込蛇の目釉刺ぎ/菊唐草文	1820~1860	肥前(波佐見)
	31	染付	皿		2.7	4.9	焼継アリ/樓閣山水文・雷文帶		肥前
	32	染付	紅皿	7	3.8	2.6	「小町紅京都四条紅平」朱書き/外: 笹	18世紀末~19世紀中頃	肥前
	33	染付	皿	6.6	3.2	2.8	紅皿/外: 笹	18世紀後半~19世紀前半	肥前
	34	染付	鉢	14.7	6.6	7	八画鉢/焼継アリ 焼継文字「竹町□や」	1820~1860	肥前
	35	青磁	鉢	17.2	7.9	9.6	蛇の目凹形高台/輪花	18世紀後半	肥前
	36	染付	鉢	(15.6)	8.4	5.9	銘款: 渦「福」/内: コンニャク五弁花	1860~1860	肥前(波佐見)
	37	陶器	油差し	6.4	9.3	4.1		19世紀	関西
	38	陶器	人形				獅子		
	39	陶器	人形				人物		
	40	陶器	植木鉢	12.6	12.6	9.2		18世紀末~19世紀中頃	瀬戸・美濃
	41	陶器	植木鉢	(22.5)	(16.0)	16		18世紀後半~19世紀前半	瀬戸・美濃
	42	陶器	土瓶	8.9	9.8	13.7		18世紀後半	関西
	43	瓦質土器	火鉢	(28.2)	7.2	18.8			
SK010	1	染付	碗	7.8	6.2	3.8	筒形碗/外: 格子地 菊花/内: 五弁花	1770~1780	肥前
	2	染付	碗	(11.2)			コンニャク印判	1730~1740	肥前
	3	染付	碗	(11.0)			外/七宝繋ぎ/内: 四方襷	18世紀中頃~後半	肥前
	4	青磁染付	碗	10	6.6	4.1	内: 四方襷・コンニャク五弁花	1760~1780	肥前
	5	染付	蓋	12	2.6	5.6	広東碗蓋/SK209-4とセット	1780~1810	肥前
	6	青磁	蓋	12	2.5	3.5		1760~1780	肥前
	7	染付	皿	12.3	4	4.5	見込蛇の目釉刺ぎ/内: 斜交線	1750~1810	肥前(波佐見)
	8	染付	皿	13.4	3.1	7.1	見込蛇の目釉刺ぎ/内: 花唐草 コンニャク五弁花	1750~1810	肥前(波佐見)
	9	染付	皿	18.4	5.5	9.2	銘款: 渦「福」/内: コンニャク五弁花・扇・笹/外: 唐草	1750~1810	肥前(波佐見)
	10	染付	皿	13.7	4.7	7.9	銘款: 馬字状渦「福」/内: コンニャク五弁花/外: 唐草	1750~1810	肥前(波佐見)
	11	染付	皿	13.8	4.6	7.5	銘款: 渦「福」/内: コンニャク五弁花・扇・竹/外: 唐草	1750~1810	肥前(波佐見)
	12	染付	皿	12.7	3.9	7.4	銘款: 渦「福」/内: コンニャク五弁花・竹/外: 唐草	1750~1810	肥前(波佐見)
	13	染付	皿	13.5	3.8	7.5	銘款: 渦「福」/内: コンニャク五弁花・扇・花/外: 唐草	1750~1810	肥前(波佐見)

表2 火災処理土坑出土遺物観察表①

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
	14	染付	皿	13.2	3.6	7.8	銘款:渦「福」/内:コンニャク五弁花・蛸唐草/外:唐草	1750~1810	肥前(波佐見)
	15	染付	皿	14.1	4.5	8.4	蛇の目凹形高台/銘款:渦「福」/内:花/外:唐草	18世紀後半	肥前
	16	陶器	蓋					18世紀後半	関西
	17	陶器	土瓶	10				18世紀後半	九州
	18	陶器	土鍋	20.2				18世紀後半	関西
	19	陶器	鉢	21	9.7	8.6			
	20	陶器	擂鉢		(15.6)	叩き成形		18世紀後半~19世紀前半	肥前
	21	陶器	擂鉢			叩き成形		18世紀後半~19世紀前半	肥前
	22	陶器	甕	(30.2)				18世紀後半	肥前
	23	瓦質土器	焜炉	(23.4)					在地
	24	瓦質土器	火鉢	(28.0)					在地
	25	瓦質土器	鉢	(27.0) (7.4) (19.0)					在地
	26	土師器	焙烙	(34.0)		把手 b 2		18世紀末~19世紀中頃	在地
	27	土師器	焙烙	(31.4)		把手 b 2		18世紀末~19世紀中頃	在地
SK171	1	陶器	土瓶蓋	4.5	1.8	4.3		18世紀後半	九州
	2	染付	蓋	4.2	1	5.2	外:格子地に菊花	18世紀後半	肥前
	3	青磁染付	蓋	8.5	3	3.4	内:四方襷 コンニャク五弁花	1750~1780	肥前
	4	染付	蓋	(9.6)			外:花/内:四方襷/6とセット	18世紀後半	肥前
	5	染付	蓋	11.9	3.3	6.4	広東湾蓋/外:梅・漢詩	1780~1810	肥前
	6	染付	碗			4	外:花/4とセット	18世紀後半	肥前
	7	染付	碗	(9.8) (5.2) (3.6)			くらわんか手	1700~1740	肥前
	8	染付	碗	(7.6)			外:雪輪/内:四方襷	1780~1810	肥前
	9	染付	碗	7.4	6.1	3.6	外:格子地菊花/内:五弁花	1780~1810	肥前
	10	染付	碗	(8.4) (5.4) (3.2)			外:紅葉/内:五弁花	1780~1810	肥前
	11	染付	碗	11.8	6.2	4.2	外:花	1770~1780	肥前
	12	青磁染付	碗	(10.8) (6.7) (3.8)			内:四方襷:コンニャク五弁花	1750~1780	肥前
	13	青磁染付	碗	11	7.1	4	内:四方襷:コンニャク五弁花	1750~1780	肥前
	14	青磁	碗	5.6	5.5	3.2		18世紀後半	肥前
	15	陶器	碗	7.1	5.2	2.8	若松	18世紀後半	関西
	16	色絵染付	台付小壺	(10.1)			外:吉祥文字・蝙蝠	1780~1810	肥前
	17	陶胎染付	香炉	(10.2) (6.7) (4.4)				18世紀前半	肥前
	18	青磁	香炉	10	5.7	4		1690~1740	肥前
	19	青磁	香炉	9.4	8.6	5.5	蛇の目高台		肥前
	20	染付	皿	14	4.4	7.7	銘款:馬字状渦「福」/内:コンニャク五弁花・竹/外:唐草	1750~1810	肥前(波佐見)
	21	染付	皿	13.4	4.5	8.2	銘款:渦「福」/内:コンニャク五弁花・扇・竹/外:唐草	1750~1810	肥前(波佐見)
	22	染付	皿	14	4.3	7.2	銘款:馬字状渦「福」/内:コンニャク五弁花・扇・花/外:唐草	1750~1810	肥前(波佐見)
	23	染付	皿	13.8	4.5	7.6	銘款:渦「福」/内:コンニャク五弁花・扇/外:唐草	1750~1810	肥前(波佐見)
	24	染付	皿	14.4	3.7	8.7	蛇の目凹形高台/内:松樹・松竹梅/外:唐草	18世紀後半	肥前
	25	染付	皿	(14.4) (3.9) (9.0)			蛇の目凹形高台/内:松樹・松竹梅/外:唐草	18世紀後半	肥前
	26	白磁	皿	17.1	5.3	9.2	蛇の目凹形高台	18世紀後半	肥前
	27	青磁染付	皿	(22.2) (3.0) (14.8)			銘款:「大明成化年製」/ハリ支え/S209資料との遺構間接合	17世紀後半	肥前
	28	陶器	皿	(22.1) (4.7) (8.1)					
	29	白磁	紅皿	3.8	1.5	1	型押し貝殻状	18世紀後半~19世紀前半	肥前
	30	白磁	紅皿	5.6	1.6	1.6	型押し貝殻状	18世紀後半~19世紀前半	肥前
	31	陶器	皿				宜興窯か?	18世紀後半	中国
	32	色絵染付	台付小壺	5.8	5.7	3.4	外:蘭人・鳥・犬	18世紀後半~19世紀前半	肥前
	33	染付	鉢	18	11.5	8	外・内:花	1780~1810	肥前
	34	陶器	鉢			7.6	刷毛目	1780~1860	肥前
	35	染付	瓶	13	12.4	4	外:松竹梅	18世紀後半~19世紀前半	肥前
	36	染付	瓶	1.4	12.6	4.1	外:松竹梅	18世紀後半~19世紀前半	肥前
	37	染付	瓶	3.8	26.1	8.5	外:松葉・	18世紀後半~19世紀前半	肥前
	38	色絵染付	仏花瓶	1.6	10.2	3.8	外:松竹梅	18世紀後半~19世紀前半	肥前
	39	染付	油壺	2.4	8.7	3.4		18世紀後半~19世紀前半	肥前
	40	陶器	瓶			5.6			
	41	陶器	瓶	3.5					
	42	染付	水滴				青海波に亀	18世紀後半	肥前

表3 火災処理土坑出土遺物観察表②

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
	43	陶器	蓋		(9.6)				
	44	陶器	土瓶	(9.4)				18世紀後半	関西
	45	陶器	土鍋			(7.4)		18世紀後半	関西
	46	陶器	土鍋	(19.2)				18世紀後半	関西
	47	陶器	擂鉢	33.3	13.6	14.9	叩き成形	18世紀後半	肥前
	48	陶器	擂鉢	32	16.2	14	叩き成形	18世紀後半	肥前
	49	陶器	擂鉢			(13.2)		18世紀後半	肥前
	50	陶器	甕	16.9	19.2	11.2			
	51	陶器	甕			12			
	52	瓦質土器	火鉢	11.6	16.4	14			在地
	53	瓦質土器	火鉢						在地
	54	瓦質土器	火鉢	(18.6)					在地
	55	瓦質土器	火鉢			(22.9)			在地
	56	土師器	培烙	(15.1)					在地
SK209	1	染付	蓋			4		18世紀後半	肥前
	2	青磁染付	蓋			8.6	内：四方襷 コンニャク五弁花	1760～1780	肥前
	3	染付	碗	(6.8)	5.3	3.7	外：雪輪/内：コンニャク五弁花・四方襷	1770～1780	肥前
	4	染付	碗	(11.5)	6.4	6.6	広東碗/SK010-5とセット	1780～1810	肥前
	5	青磁染付	碗	(7.2)	6.4	3.8	内：四方襷 コンニャク五弁花	1760～1780	肥前
	6	青磁染付	碗	(11.0)	(6.7)	(4.2)	内：四方襷 コンニャク五弁花	1760～1780	肥前
	7	染付	碗	(11.6)			外：コンニャク印判	1690～1740	肥前
	8	陶器	碗	7.6	5.4	3.6		18世紀	関西
	9	白磁	猪口	4.9	3	3.3		18世紀後半～ 19世紀前半	肥前(波佐見)
	10	青磁染付	皿	(22.2)	(3.0)	(14.8)	銘款「大明成化年製」/ハリ支え/S209資料との遺構間接合	17世紀後半	肥前(波佐見)
	11	染付	皿	(24.6)	(3.1)	(16.0)	内：蛸唐草/ハリ支え？	18世紀前半	肥前
	12	染付	皿			(8.0)	蛇の目四形高台	18世紀後半	肥前
	13	青磁染付	皿	(13.8)	4.6	(8.6)	銘款：渦「福」	1780～1860	肥前
	14	染付	皿	13.2	3.8	7.7	銘款：渦「福」/内：コンニャク五弁花・花/外唐草	1750～1810	肥前
	15	染付	皿			(9.8)	見込み蛇の目釉剥ぎ/内：コンニャク五弁花	18世紀前半	肥前
	16	染付	小环	5	2.7	4.4			肥前(波佐見)
	17	染付	紅皿	(7.0)			外：筐	18世紀後半～ 19世紀前半	肥前
	18	染付	紅皿	9.6	3.9	2.6	外：筐	18世紀後半～ 19世紀前半	肥前
	19	青磁	香炉	(7.8)					肥前
	20	青磁	香炉	(15.0)					肥前
	21	青磁	香炉	(11.0)					肥前
	22	青磁	香炉			3.4	蛇の目高台		肥前
	23	染付	香炉			8			肥前
	24	白磁	蓋	6.1	3.7				肥前
	25	白磁	蓋	7.6				18世紀前半	肥前
	26	陶器	蓋	(7.2)	2.6	5.6		18世紀前半	肥前
	27	陶器	土鍋			9		18世紀後半	関西
	28	陶器	土瓶	6.7	6.8	4.5		18世紀後半	関西
	29	染付	鉢	(16.8)	(11.2)	(8.2)	外：花		
	30	染付	瓶	3.8				1780～1810	肥前
	31	陶器	擂鉢			14		18世紀後半～ 19世紀前半	肥前
SK205	1	染付	蓋	10.6	2.8	3.6	内：船	18世紀後半～ 19世紀前半	肥前
	2	染付	蓋	11	3.4	4.4	外：牡丹/内：四方襷	18世紀後半	肥前
	3	染付	蓋	11.2	3.5	5	外：牡丹唐草/内：四方襷/12とセット	18世紀後半	肥前
	4	染付	蓋			4.5	外・内：竹	18世紀後半	肥前
	5	青磁染付	蓋			3.6	内：コンニャク五弁花	18世紀後半	肥前
	6	青磁染付	蓋	(10.0)			内：四方襷	1760～1780	肥前
	7	青磁染付	蓋	11	3.5	4.6	銘款：渦「福」/内：四方襷	1760～1780	肥前
	8	染付	蓋	10	3.9	2.4	蓋付鉢/花唐草	18世紀前半	肥前
	9	染付	蓋	(14.6)			蓋付鉢	18世紀前半	肥前
	10	染付	碗	9.6	5.2	3.5	くらわんか手	1700～1740	肥前
	11	染付	碗	(8.2)			外：筐/内：四方襷	18世紀後半	肥前

表4 火災処理土坑出土遺物観察表③

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
	12	染付	碗	12.8	6	5.2	外：牡丹/内：四方櫛	18世紀後半	肥前
	13	青磁染付	碗	(11.2)			内：四方櫛	1760～1780	肥前
	14	青磁染付	碗	10.7	6.6	4.5	銘款：渦「福」/内：四方櫛 コンニャク五弁花	1760～1780	肥前
	15	青磁	碗	8	5.7	3.4		1700～1740	肥前
	16	青磁	碗	8.8	6	3.6		1700～1740	肥前
	17	陶器	碗	8.4	5.6	2.4		18世紀中頃～後半	京都・信楽
	18	陶器	碗	9	6.5	4.6		18世紀中頃～後半	京都・信楽
	19	陶器	碗			3	砂目積み段階	1610～1630	肥前
	20	染付	猪口			6.6		18世紀中頃～後半	肥前
	21	白磁	猪口	(7.6)	(5.8)	(5.0)		18世紀中頃	肥前
	22	白磁	猪口	(6.6)	(5.6)	(4.6)		18世紀中頃	肥前
	23	染付	蓋付鉢	8.3	4.6	4.4		18世紀前半	肥前
	24	白磁	蓋付鉢	(8.0)	(4.2)	(3.8)		18世紀前半	肥前
	25	染付	蓋付鉢			(7.4)	外：水裂地		肥前
	26	染付	皿	9.8	2	6.6	口紅/蛇の目凹形高台	18世紀後半～末	肥前
	27	染付	皿	(10.2)	(2.0)	(6.6)	口紅/蛇の目凹形高台	18世紀後半～末	肥前
	28	染付	皿	11.5	2.4	7.4	銘款：「大明成化年製」/ハリ支え/内：五弁花	18世紀前半	肥前
	29	染付	皿	(11.0)	(2.4)	(7.0)	銘款：「大明成化年製」/ハリ支え/内：五弁花	18世紀前半	肥前
	30	染付	皿	(11.2)	(2.2)	(6.8)	銘款：「大明成化年製」/ハリ支え/内：五弁花	18世紀前半	肥前
	31	染付	皿	(13.5)	(3.2)	(8.3)	ハリ支え/内：蛸唐草 五弁花/外：花唐草	1710～1740	肥前
	32	染付	皿	(13.0)	(3.4)	(7.2)	銘款：渦「福」/内：コンニャク五弁花/外：唐草	18世紀後半	肥前(波佐見)
	33	染付	皿	(14.0)				18世紀後半	肥前(波佐見)
	34	染付	皿	13.6	4.7	8.8	銘款：渦福/内：コンニャク五弁花・扇・花	18世紀後半	肥前(波佐見)
	35	染付	皿	10.2	2.6	5.6	銘款：渦「福」/内：花/外：唐草	18世紀後半	肥前
	36	染付	皿	(19.4)	(3.8)	(12.6)	六角皿/銘款：渦「福」/内：鶴/外：唐草・雷文帯	18世紀前半	肥前
	37	染付	皿	(19.4)	(3.8)	(12.6)	六角皿/銘款：渦「福」/内：鶴/外：唐草・雷文帯	18世紀前半	肥前
	38	陶器	皿	12	2.5	6.4	菊皿	18世紀後半	京都・信楽
	39	陶器	皿	(12.0)	(2.4)	(6.4)	菊皿	18世紀後半	京都・信楽
	40	陶器	皿	12	2.4	6.4	菊皿	18世紀後半	京都・信楽
	41	染付	皿	26	4.7	13.4	ハリ支え/内：蛸唐草/外：唐草	18世紀前半	肥前
	42	白磁	紅皿	4.3	1.5	1.6	型押し貝殻状	18世紀後半	肥前
	43	白磁	紅皿	5.4	1.4	1.2		18世紀後半	肥前
	44	白磁	紅皿	6.2	1.9	2.6	外：笹	18世紀後半	肥前
	45	白磁	皿			6.6			
	46	陶器	皿	12.4	3.5	4.9	内：笹	18世紀後半	京都・信楽
	47	陶器	皿	13			内：笹	18世紀後半	京都・信楽
	48	陶器	皿			3.4	内：笹	18世紀後半	京都・信楽
	49	陶器	皿	(11.6)			砂目積み	1610～1630	肥前
	50	青磁	香炉	(11.0)				18世紀後半	肥前
	51	青磁	香炉			6.4	蛇の目凹形高台	18世紀後半	肥前
	52	陶器	蓋付鉢	8.5	6.3	5.2			
	53	染付	蓋付鉢	(20.0)			蓋：花唐草 福寿/54とセット	18世紀前半	肥前
	54	染付	蓋付鉢	(21.0)	(11.2)	(12.9)	鉢：花唐草/ハリ支え/53とセット	18世紀前半	肥前
	55	染付	蓋付鉢				蛸唐草	18世紀前半	肥前
	56	染付	片口	(15.4)					肥前
	57	染付	仏花瓶			5.6		18世紀後半	肥前
	58	陶器	瓶			5.4			
	59	陶器	土瓶	(9.6)					
	60	陶器	甕						肥前？
	61	陶器	徳利			7.8		18世紀代	肥前？
	62	陶器	擂鉢	(35.4)				18世紀後半	肥前
	63	陶器	擂鉢			16.2		18世紀代	肥前
	64	土師器	焼塙壺	13.4	4.5	8.2	「泉湊伊織」	18世紀後半	堺
SK194	1	青磁染付	蓋	(10.6)	(3.2)	(3.2)	銘款：渦「福」/内：四方櫛 コンニャク五弁花	1750～1780	肥前
	2	青磁染付	碗	(11.4)	6.6	4.4	銘款：渦「福」/内：五弁花 四方櫛	1750～1780	肥前
	3	青磁染付	碗	(7.5)	6.3	3.9	内：四方櫛 コンニャク五弁花	1750～1780	肥前

表5 火災処理土坑出土遺物観察表④

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
	4	陶器	碗			4.2	胎土目積み	1580～1610	肥前
	5	陶器	碗	9.2	5.8	4.1		18世紀後半	瀬戸・美濃
	6	土師器	皿	(7.8)	(1.5)	4.5			在地
	7	土師器	皿			(4.9)			在地
	8	陶器	皿	13.3	4.9	2.4	見込蛇の目釉剥ぎ	1690～1780	肥前
	9	染付	皿	(14.5)	(2.7)	(5.4)	初期伊万里/菊花文	1610～1630	肥前
	10	染付	皿	(2.9)	3	(6.9)	見込み蛇の目釉剥ぎ コンニャク五弁花	1680～1740	肥前
	11	染付	皿	(20.0)	3.2	(14.0)	銘款:「大明(成化)年製」外:花文/内:牡丹/ハリ支え?	1650～1690	肥前
	12	陶胎染付	香炉	(9.6)	6.9	5.2		18世紀後半	肥前
	13	染付	瓶	3.7				18世紀後半	肥前
	14	染付	瓶			(8.8)		18世紀後半	肥前
	15	陶器	甕	(18.2)				18世紀後半	肥前
	16	陶器	土鍋	(17.1)				18世紀後半	関西
	17	陶器	擂鉢	(17.2)	11.7	11.3			肥前
	18	陶器	擂鉢					18世紀後半～19世紀前半	堺
	19	陶器	擂鉢					18世紀前半	肥前
	20	陶器	擂鉢					18世紀前半	肥前
	21	陶器	甕			(9.8)			
	22	陶器	灯火具						
	23	陶器	灯火具			(5.4)		18世紀末～19世紀前半	肥前
	24	陶器	甕			(12.4)		16世紀	備前
	25	瓦	軒丸				径 14.5cm/珠文 16/巴 反時計回り		
	26	土師器	焼塩壺	(5.7)	(7.9)	3.8		18世紀後半	堺
	27	土師器	焼塩壺	(5.2)	(4.5)	(5.0)	「泉湊伊織」	18世紀後半	堺
	28	土師器	焼塩壺蓋	5.8	1.9	7.8		18世紀後半	堺
SK023	1	染付	碗	8.8	6.3	3.8	外:コンニャク印判 団鶴+若松	1690～1740	肥前
	2	青磁染付	碗	(9.0)			内:四方襷	1760～1780	肥前
	3	陶器?	碗	8	6.3	3.6	筒形碗/外:蛸唐草/内:四方襷・五弁花	1740～1780	肥前
	4	陶器	瓶			7.2	外:刷毛目	18世紀後半	肥前
SK215	1	染付	碗	(9.4)	5	3.6	くらわんか手	1700～1740	肥前
	2	染付	碗	10.2	5.4	4	小広東碗/外:算木文	1770～1780	肥前
	3	染付	碗	(10.8)			内:四方襷/外:破れ亀甲文	1740～1780	肥前
	4	青磁染付	碗			3.6	内:コンニャク五弁花	1770～1780	肥前
	5	陶器	碗			4.2	砂目	1610～1630	肥前
	6	染付	蓋	10.4	2.4	4	内:四方襷	18世紀後半	肥前
	7	染付	蓋	10.4	2	4	内:四方襷	18世紀後半	肥前
	8	染付	皿	12	3.9	4.6	見込蛇の目釉剥ぎ/内:斜交線	18世紀後半	九州
	9	染付	皿	13.3	4.2	7.2	銘款:渦「福」/外:唐草/内:五弁花	18世紀後半	肥前(波佐見)
	10	染付	皿	14	2.3	4.6		18世紀後半	肥前(波佐見)
	11	染付	皿	14.2	4	8.3	蛇の目凹形高台/銘款:渦「福」/内:松竹梅・蛸唐草	1780～1860	肥前
	12	染付	皿	13.2	2.3	4.6	初期伊万里	1610～1630	肥前
	13	陶器	瓶			8			
	14	陶器	瓶			5.6			
	15	陶器	甕	30.8				18世紀前半	肥前
	16	陶器	甕	20					肥前
	17	陶器	甕			19	叩き成形		肥前
	18	陶器	甕	23.6		18.4			肥前
	19	陶器	擂鉢	(34.4)	34				
	20	陶器	擂鉢	(34.4)				18世紀後半	肥前
	21	陶器	擂鉢	(29.6)				18世紀後半	肥前
	22	陶器	擂鉢	(29.6)				18世紀後半	肥前
	23	陶器	擂鉢	(29.6)				18世紀後半	肥前
	24	陶器	鉢	(28.4)					
	25	瓦	軒丸	10	5.7	4	径 14.5cm/珠文 16/巴 反時計回り		
	26	瓦質土器	火鉢	9.4	8.6	5.5			在地
SK018	1	陶器	碗	9.6	6.2	4	外:刷毛目	1650～1690	肥前

表6 火災処理土坑出土遺物観察表⑤

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
	2	陶器	碗	10.6	6.9	4.6		18世紀中頃	京都・信楽
	3	陶胎染付	碗	9.6	6.7	4.2		18世紀前半	肥前
	4	陶胎染付	蓋付鉢	10	6.8	4.5		18世紀前半	肥前
	5	染付	碗	8.2	4.2	3.5	外：コンニャク印判 紅葉	1690～1740	肥前
	6	染付	碗	7.7	4.4	3.7	外：コンニャク印判	1690～1740	肥前
	7	染付	碗	10.1	5.4	4.2	外：コンニャク印判 団鶴+若松	1690～1740	肥前
	8	染付	碗	10.1	5.4	4.2	外：コンニャク印判 団鶴+若松	1690～1740	肥前
	9	染付	碗	10.4	6.3	4.4	13とセット	1700～1740	肥前
	10	染付	碗	10.2	5.8	4.2	銘款：崩れ「大明年製」	1700～1740	肥前
	11	染付	碗	9.4	5.7	3.8		1700～1740	肥前
	12	染付	碗	9.7	5	4.2	銘款：崩れ渦「福」	1700～1740	肥前
	13	染付	蓋	9.3	2.9	4.4	9とセット	1700～1740	肥前
	14	染付	皿	13.4	3.4	7.8	銘款：「大明年製」崩れ/内：コンニャク五弁花	1680～1740	肥前(波佐見)
	15	染付	皿	13.2	3.4	7.5	銘款：「大明年製」崩れ/内：コンニャク五弁花	1680～1740	肥前(波佐見)
	16	陶器	鉢			7.5			
SK360	1	染付	碗	10.1	5.1	4.3	外：コンニャク印判 桐葉	1690～1740	肥前
	2	染付	碗	(10.4)	(5.6)	(4.3)	銘款：渦「福」	1700～1750	肥前
	3	染付	碗		(4.0)		銘款：「大明年製」	1680～1740	肥前
	4	陶胎染付	碗	(10.6)	6.7	4.2		18世紀前半	肥前
	5	陶器	碗	(10.4)	7.5	4.8	外：刷毛目	1650～1690	肥前
	6	陶器	碗		(4.0)		京焼風陶器/呉器手碗	1680～1690	肥前
	7	白磁	碗	8.8	5.7	4.4	色絵素地？	17世紀後半	肥前
	8	陶器	碗		(3.6)		京焼風陶器/高台無釉	1680～1690	肥前
	9	色絵染付	小碗	6.2	3.1	2.5	外：羽子板 羽根	1710～1740	肥前
	10	染付	皿	9.6	2.2	6.3	口紅/内：コンニャク印判/外唐草文/銘款「大明成化年製」	18世紀前半	肥前
	11	染付	皿			7.4	蛇の目凹形高台	1740～1780	肥前
	12	染付	皿	(14.2)			ロクロ型打/外：唐草/内：陽刻花文	18世紀前半	肥前
	13	染付	皿			(14.6)	ハリ支え/内：山水文/発色不良	18世紀前半	肥前
	14	染付	皿	12.2	3.6	4	見込蛇の目釉剥ぎ/折松葉文	17世紀後半～ 18世紀前半	肥前
	15	染付	皿	(12.3)	3.6	4	見込蛇の目釉剥ぎ/折松葉文	17世紀後半～ 18世紀前半	肥前
	16	染付	紅皿	(6.6)	(2.4)	(2.8)	外：笹	18世紀中頃	肥前
	17	染付	紅皿	6.6	2.7	2.9	外：笹	18世紀中頃	肥前
	18	白磁	猪口			5.2		17世紀前半	肥前
	19	陶器	皿	(20.2)	5.2	7	刷毛目/見込蛇の目釉剥ぎ	1680～1690	肥前
	20	土師器	焼塩壺	7.2	2.1	8.2	布目アリ	1720～1740	堺
	21	染付	瓶	3.2	14.5	4.5	外：蛸唐草	18世紀前半	肥前
	22	染付	水注			(4.2)		18世紀中頃	肥前
	23	色絵染付	香合				鶴/SK151-6と同一個体	18世紀前半	肥前
SK210	1	土師器	焼塩壺蓋	7.6	2	8.4	布目アリ	18世紀中頃	堺
	2	土師器	焼塩壺	8.5	6.4	6.4	布目アリ/「サカイ泉州磨生御塩所」	1720～1740	堺
	3	土師器	焼塩壺	16.9	19.2	11.2	布目アリ/「泉湊伊織」	18世紀中頃	堺
	4	白磁	蓋	7.4	3.8	2.2	壺蓋	17世紀前半	肥前
	5	染付	蓋	9.4	2.5	3.4	銘款「大明年製」	1700～1730	肥前
	6	染付	蓋	(10.6)			蓋付鉢/外：水裂地 菊花	18世紀前半	肥前
	7	染付	碗	9.9	5.3	7.1	外：雲竜*混入品か？	1780～1810	肥前
	8	染付	紅皿	6	2.1	3.2	外：笹	18世紀中頃	肥前
	9	陶器	香炉	(16.2)	(8.9)	(10.0)		18世紀前半	京都・信楽
	10	陶器	甕	16.2	27.2	14.6		18世紀前半	肥前
	11	陶器	擂鉢	(32.4)	(14.1)	(16.6)	叩き成形	18世紀前半	肥前
SK151	1	色絵染付	蓋付小鉢	(4.4)	(2.7)	(1.6)		18世紀前半	肥前
	2	染付	碗	(10.2)			外：コンニャク印判 団鶴+若松	1690～1740	肥前
	3	陶器	碗	(11.0)	(6.5)	(4.2)	刷毛目	1650～1690	肥前
	4	染付	皿	(12.9)	(3.2)	(4.7)		1630～1640	肥前
	5	陶器	擂鉢					18世紀前半	堺
	6	色絵染付	香合				鶴/SK360-23と同一個体	18世紀前半	肥前

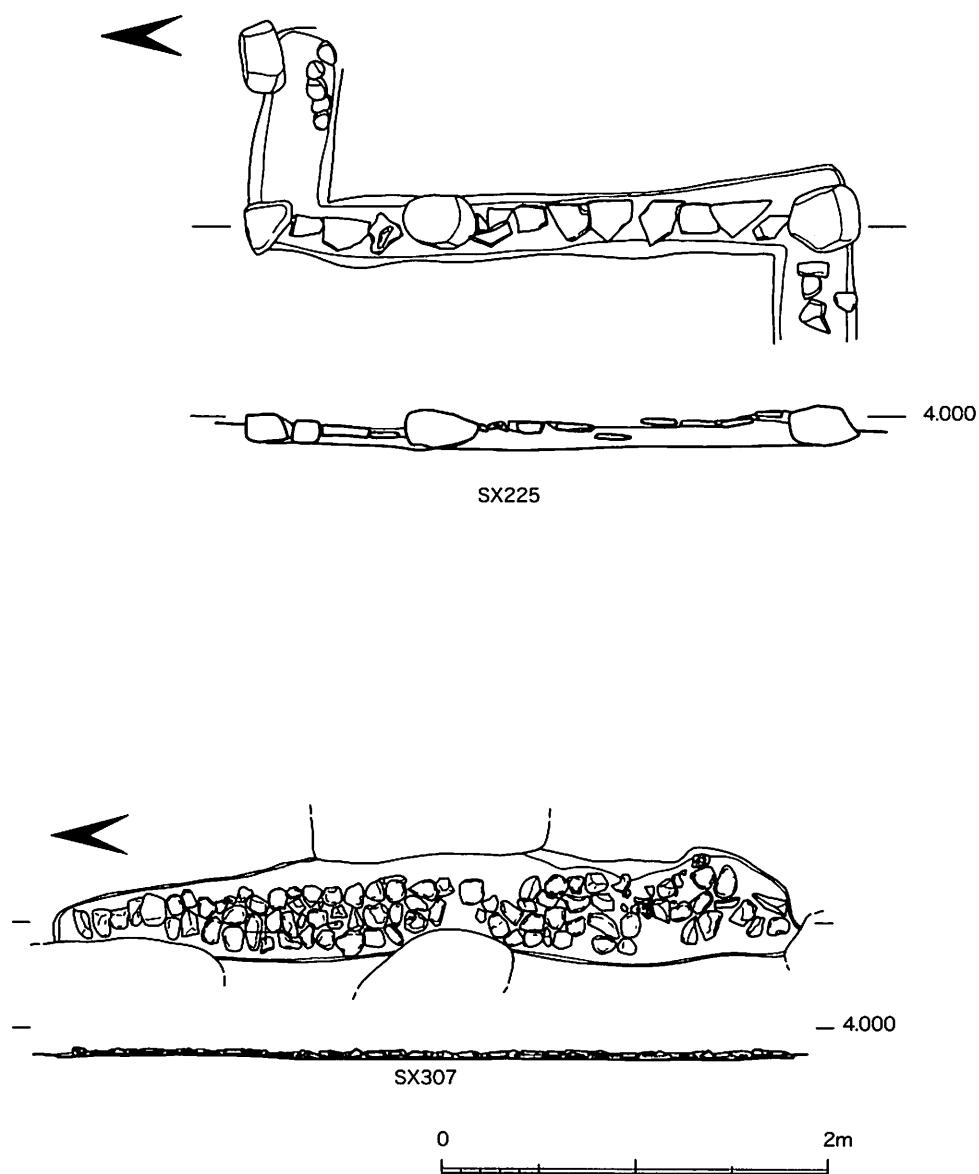
表7 火災処理土坑出土遺物観察表⑥

2. その他主要遺構

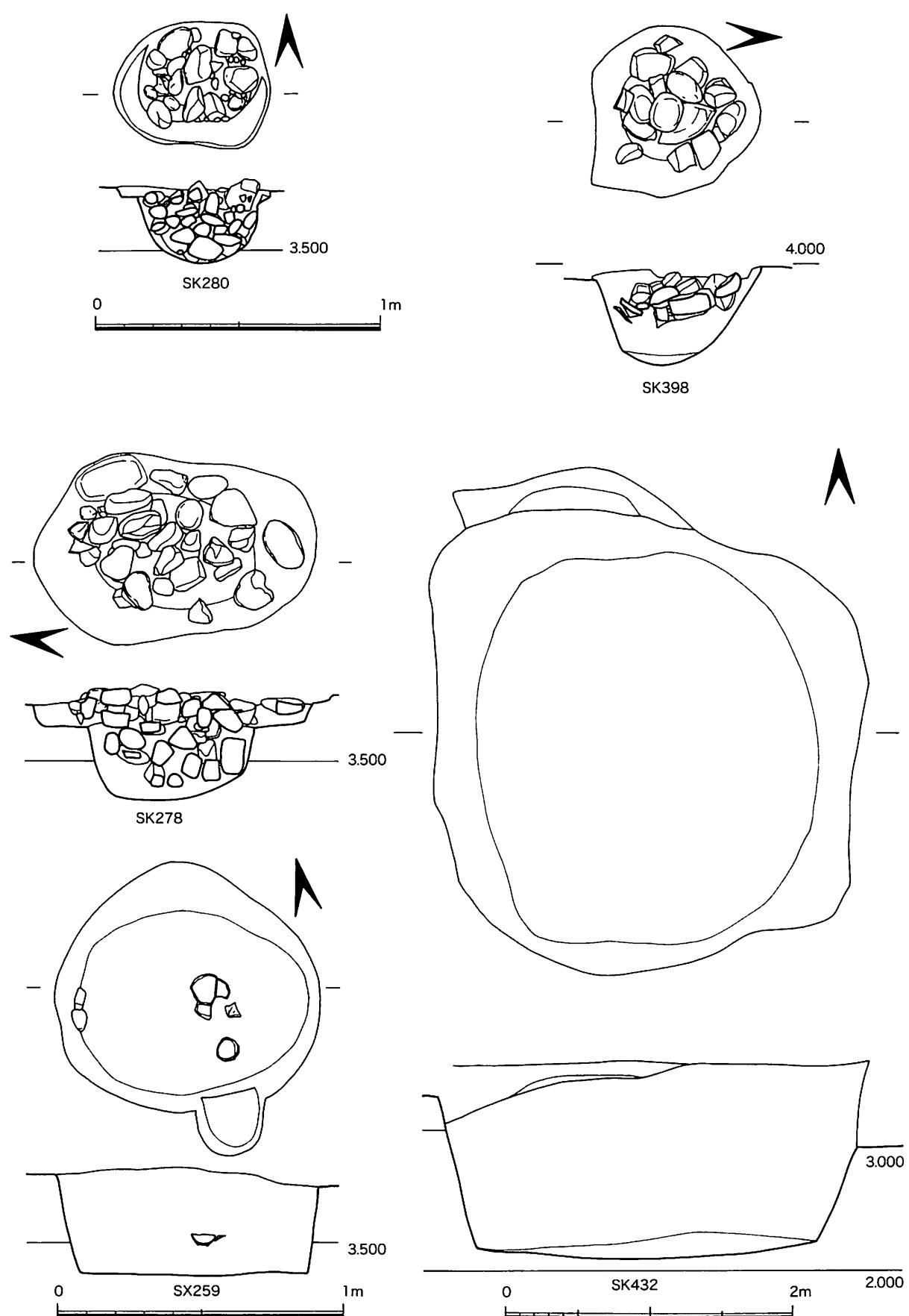
火災処理土坑以外に確認された遺構については、土坑（SK）、井戸（SE）、建物跡（SB）、不明遺構（SX）小穴（Pit）等がある。

これらの遺構群については、その出土遺物から概ね16世紀末～17世紀初頭、17世紀前半、17世紀後半～18世紀中頃、18世紀後半、18世紀末～19世紀初頭、19世紀前半～中頃、明治以降の7つの時期に、それぞれ分類することができた。

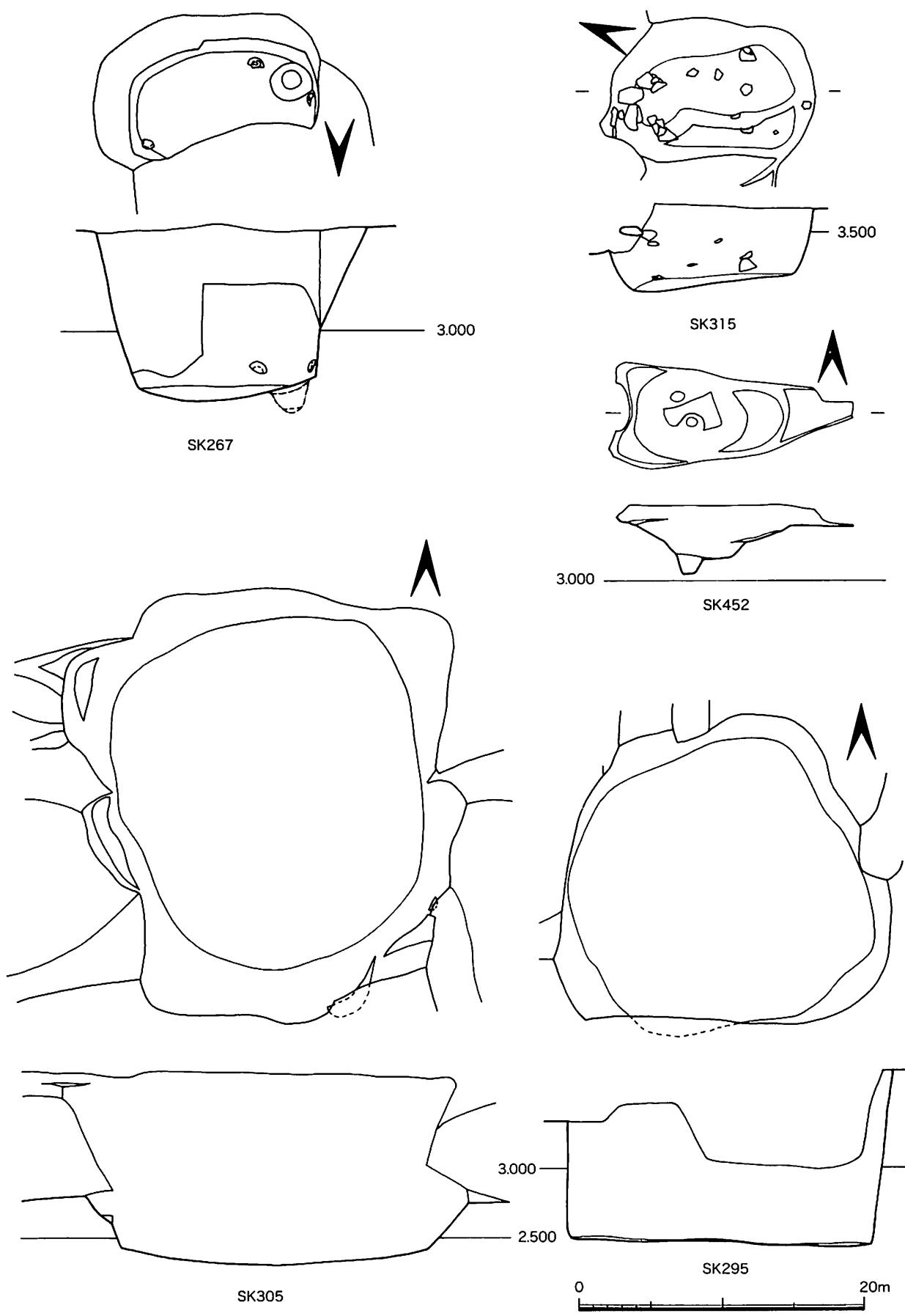
以下、今回の調査で確認された主要遺構について、遺構図及び観察表を提示し、その他の遺構群の調査報告に変える。



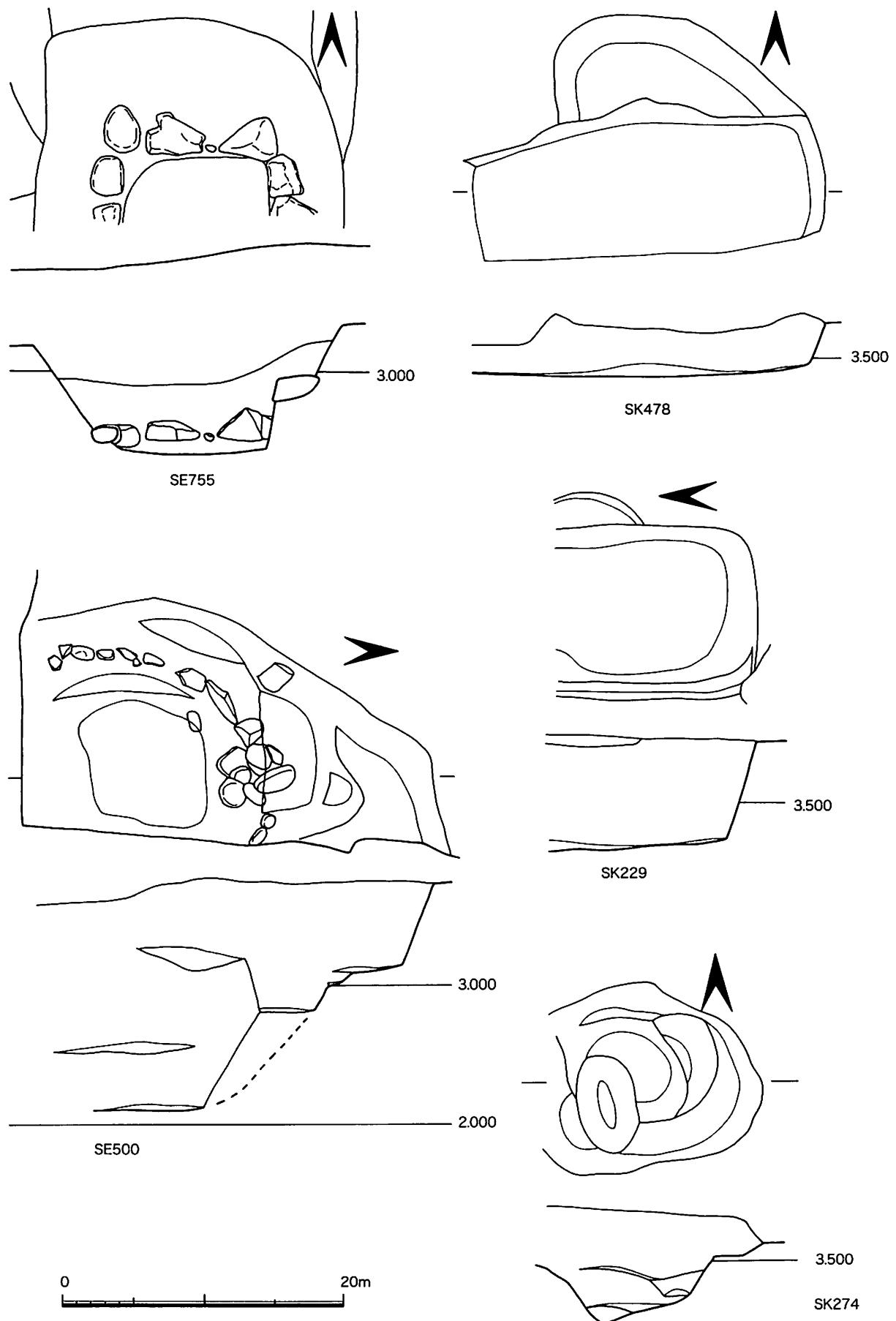
第24図 SX225・307遺構実測図 (1/40)



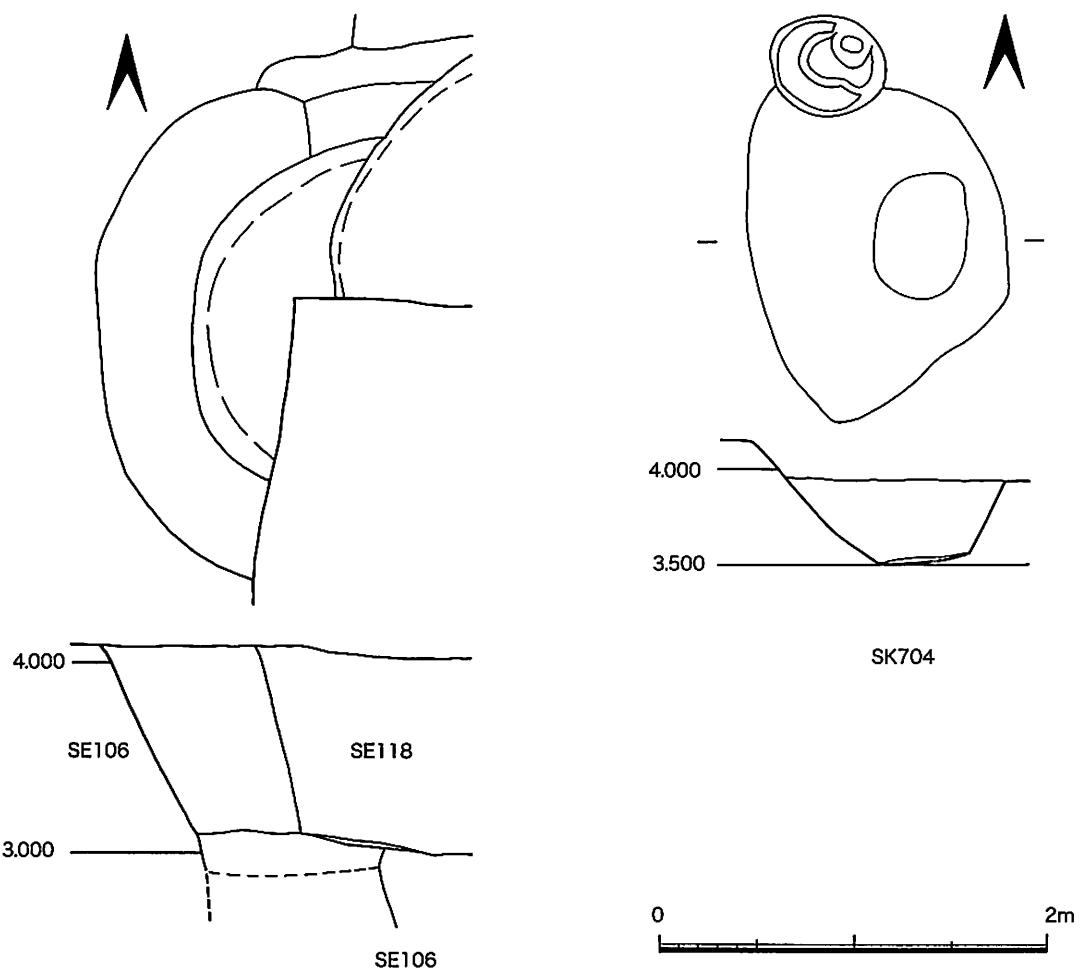
第25図 SK259・278・280・398・432遺構実測図 (SK432→1/140・他は1/20)



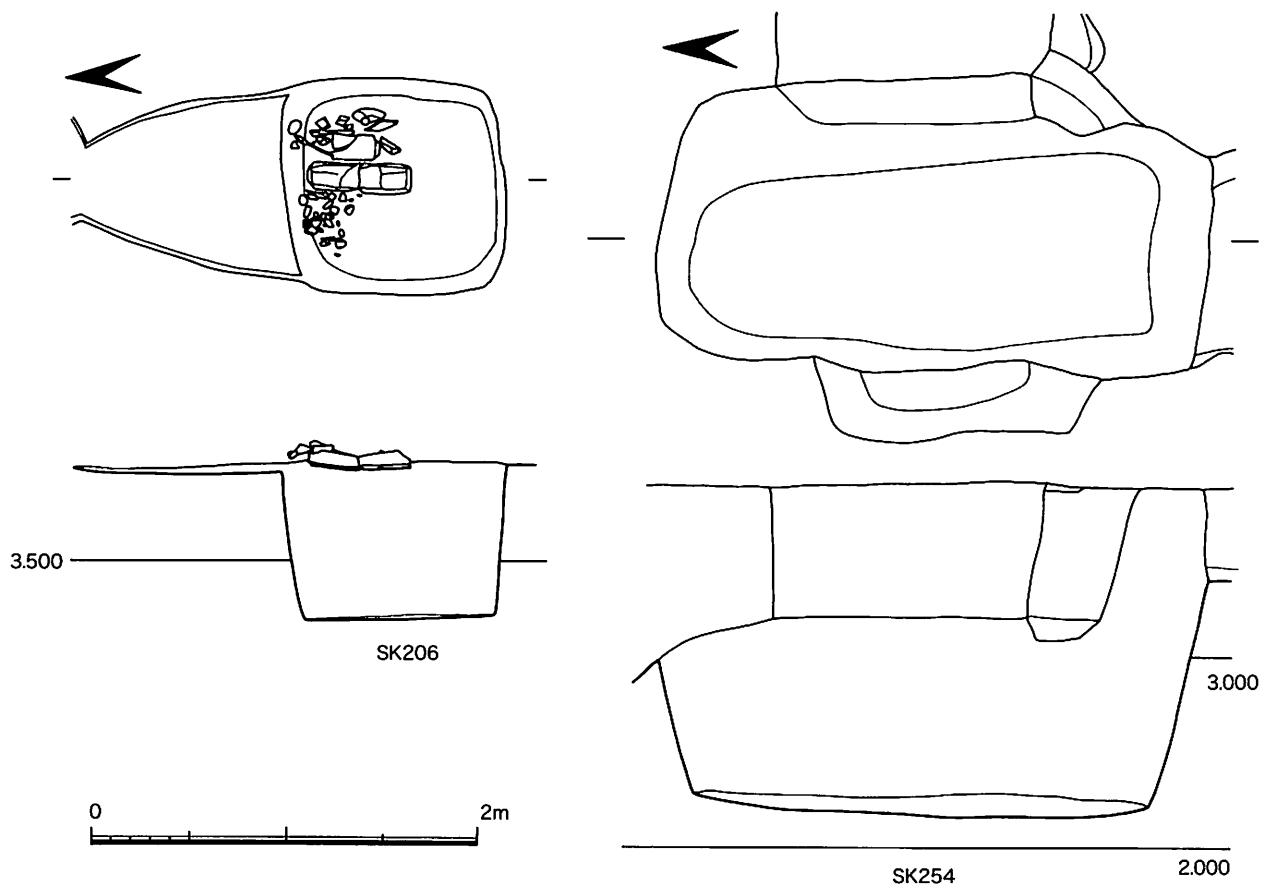
第26図 SK267・295・305・315・452遺構実測図 (1/40)



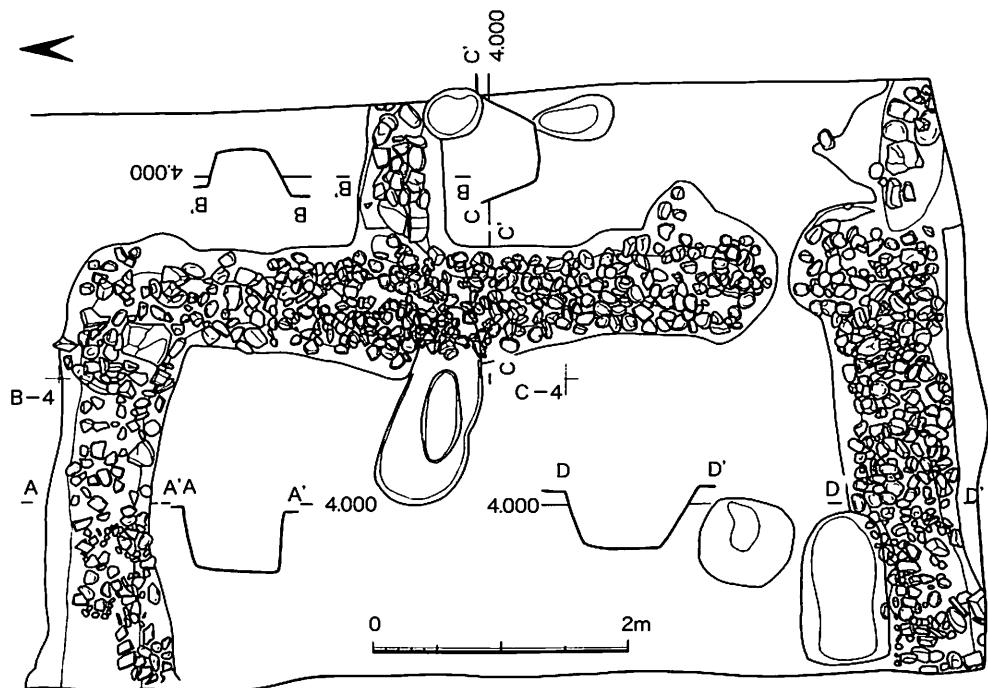
第27図 SE500・755・SK229・274・478遺構実測図 (1/40)



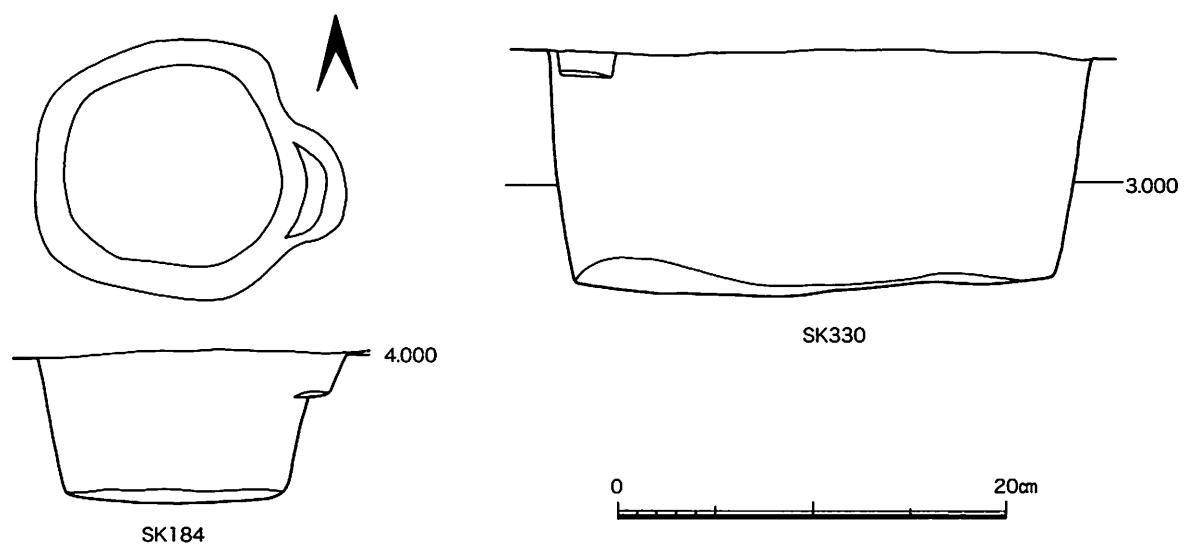
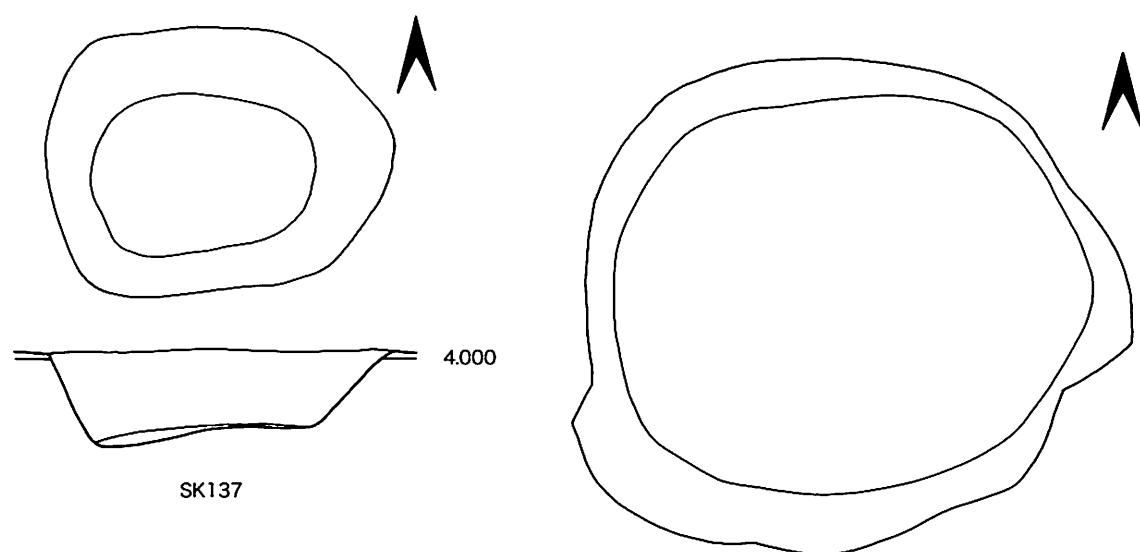
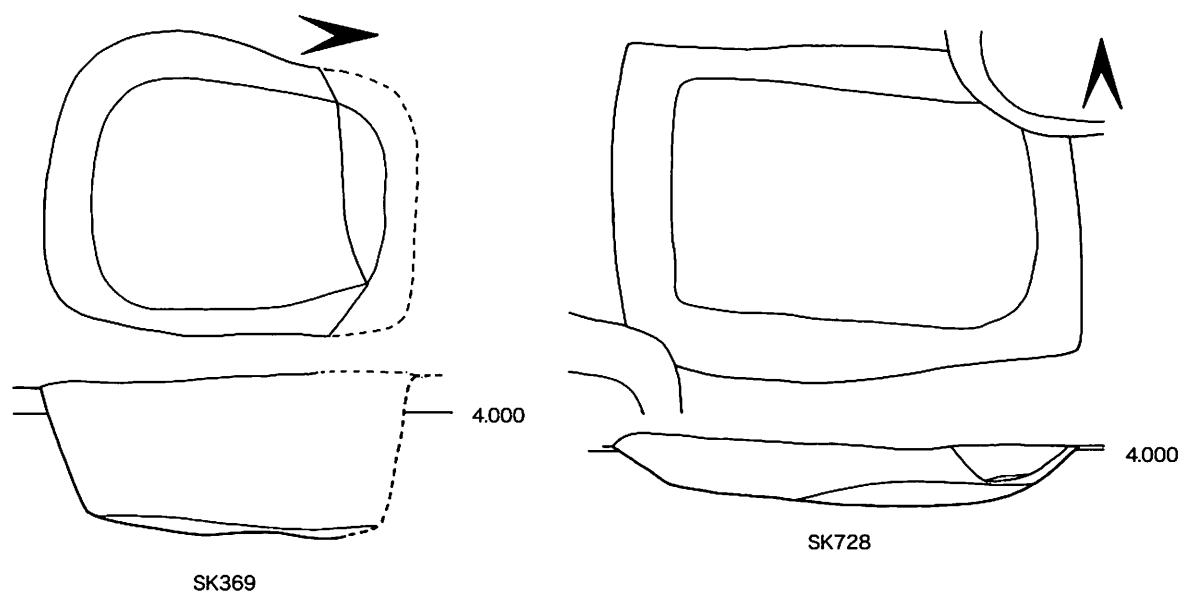
第28図 SE106・SK704造構実測図 (1/40)



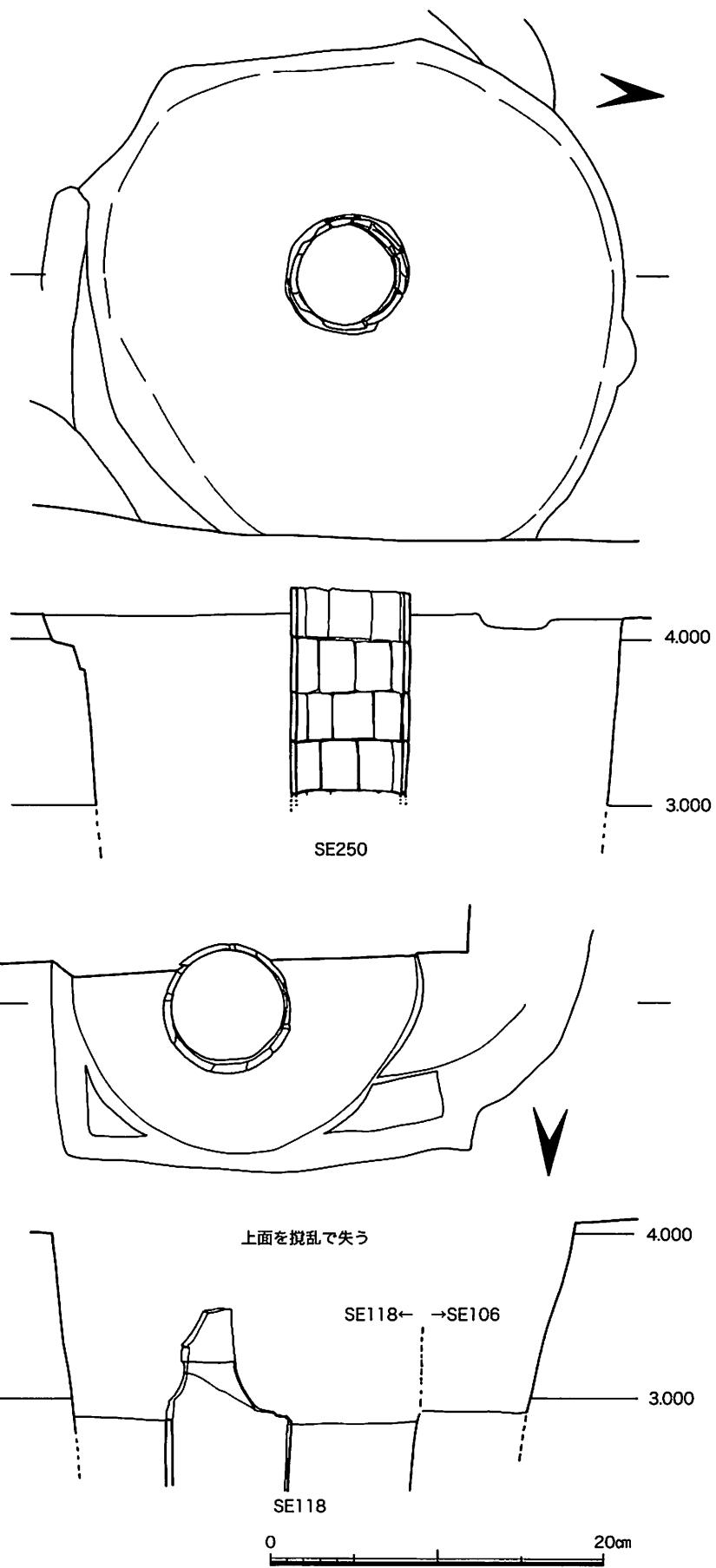
第29図 SK206・214遺構実測図 (1/20)



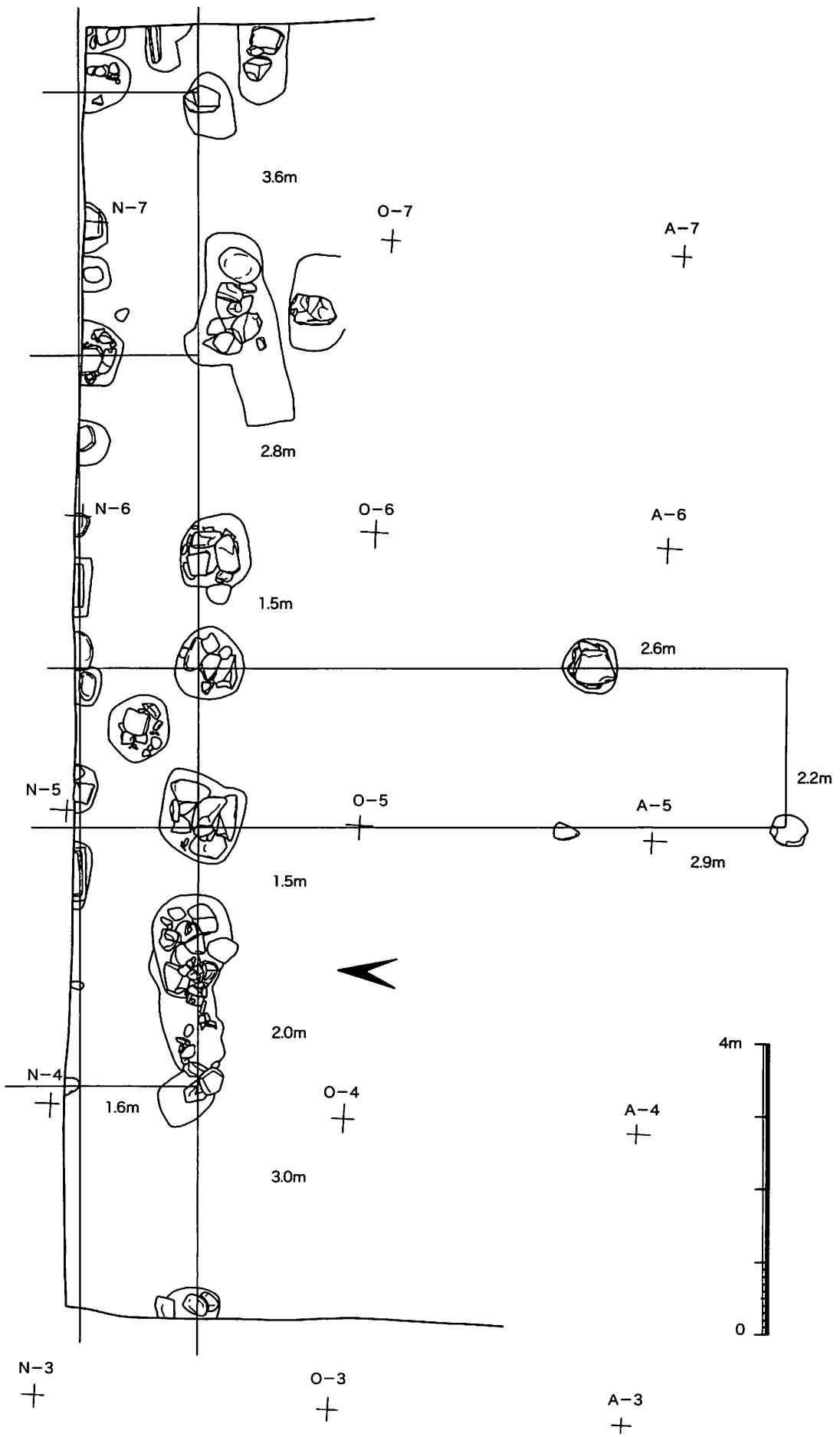
第30図 SB181遺構実測図 (1/60)



第31図 SK137・184・330・369・728遺構実測図 (1/40)



第32図 SE118・250遺構実測図 (1/40)



第33図 SB800遺構実測図 (1/80)

遺構種	遺構番号	グリッド	形態	時期	規模(cm)	備考	挿図番号
SK	452	N-5	不整円形	16世紀末～ 17世紀初頭	170×70×45	京都系土師器と唐津がセットで出土	第26図
SK	269	N-5	不整円形	16世紀末～ 17世紀初頭	()×115×16	中国染付碗E群+京都系土師器	第82図
SK	363	O-5	不整円形	16世紀末～ 17世紀初頭	241×()×90	SK305>SK363	第82図
SK	391	O-5	不整円形	16世紀末～ 17世紀初頭	()×75×32	SK384>SK391	第82図
SK	392	O-4	不整円形	16世紀末～ 17世紀初頭	()×163×28	SK390・Pit428>SK392	第82図
Pit	421	A-5	隅丸方形	16世紀末～ 17世紀初頭	38×32×47	SK392>Pit421	第82図
SK	444	N-4	長円形	16世紀末～ 17世紀初頭	133×()×46	胎土目積唐津+防長系擂鉢	第82図
SK	762	B-7	隅丸長方形	16世紀末～ 17世紀初頭	(210)×()×32	胎土目唐津+?州窯系染付皿	第82図
SK	763	C-7	隅丸方形	16世紀末～ 17世紀初頭	()×()×80	備前焼薬研	第82図
SK	454	N-5	不整形	16世紀末～ 17世紀初頭	()×320×15	南端部に集石あり	第82図
SX	225	O-3		17世紀前半	35×10	石列/建物の礎石又は雨落ち状の遺構と考えられる	第24図
SX	307	A-4	長円形	17世紀前半	385×53×5	石列/建物の雨落ち状の遺構か?	第24図
SK	259	N-6	円形	17世紀前半	94×88×38	唐津・埴堀・砥石が出土する	第25図
SK	267	O-6	長円形	17世紀前半	(165)×(110)×123	砂目唐津と初期伊万里がセットで出土	第26図
Pit	278	N-6	長円形	17世紀前半	96×64×37	柱穴状の小穴に石が詰まった状態検出される	第25図
Pit	280	N-6	長円形	17世紀前半	55×43×26	柱穴状の小穴に石が詰まった状態検出される	第25図
SK	295	N-3	隅丸方形	17世紀前半	232×221×130	大型土坑/湧水点まで掘り下げられている	第26図
SK	305	O-6	隅丸方形	17世紀前半	308×267×138	大型土坑/湧水点まで掘り下げられている	第26図
SK	315	O-3	長円形	17世紀前半	152×102×56	砂目唐津と初期伊万里がセットで出土	第26図
Pit	398	O-3	円形	17世紀前半	60×58×32	柱穴状の小穴に集石がやや浮いた状態検出される	第25図
SK	432	A-3	隅丸方形	17世紀前半	353×298×142	大型土坑/湧水点まで掘り下げられている	第25図
SE	755	C-6	隅丸方形	17世紀前半	222×(222)×93	井戸の最深部を石組みによって囲んでいる	第27図
SK	261	N-6	隅丸方形	17世紀前半	100×()×30	SK171>SK261	第82図
SK	298	N-3	円形	17世紀前半		SK229>SK298	第82図
SK	300	O-4	隅丸長方形	17世紀前半	183×137×117		第82図
Pit	306	N-4	円形	17世紀前半			第82図
SX	326	O-4		17世紀前半	64×7	石列	第82図
SK	329	A-6		17世紀前半		SK313>SK327>SK329	第82図
SK	349	A-7	円形	17世紀前半	100~×110~×75	SK346>SK349	第82図
Pit	353	N-3	円形	17世紀前半	40×42×50		第82図
SX	420	O-4	不整形	17世紀前半	447×266×6	集石あり/ SK383>SX415>SK403	第82図
Pit	436	O-5	長円形	17世紀前半			第82図
Pit	474	N-3	長方形	17世紀前半	44×30×39		第82図
Pit	477	A-6	長円形	17世紀前半	(80)×57×14		第82図
SK	528	B-3	隅丸長方形	17世紀前半	215×172×104	SK524>SK527>SK528	第82図
整地層	530	B-3		17世紀前半			第82図
SK	531	C-4		17世紀前半		SK531>SK539	第82図
SK	541	B-3	長円形	17世紀前半	156×120×27	Pit534・537>SK541	第82図
SK	741	B-6	不整形	17世紀前半	110×140×29		第82図
SK	748	C-7	不整円形	17世紀前半	210~×110~×109		第82図
SK	749	B-7	長円形	17世紀前半	125×96×90	SK744>SK749	第82図
SK	759	B-6	不整形	17世紀前半	280~×254×97	SE755>SK759	第82図
SK	765	C-7	隅丸方形	17世紀前半	98×72×25	SK766>SK765	第82図
SX	801	N-4		17世紀前半		石列/Pit303>SX801	第82図
整地層	802	N-7		17世紀前半		「上紺■(屋か?)町 金作」墨書き唐津出土	第88図
整地層	415	O-3		17世紀前半		初期伊万里・砂目唐津・備前擂鉢	第82図
Pit	268	N-5	長円形	17世紀前半	130×108×30		第82図
SK	292	N-7	隅丸方形	17世紀前半	71×()×22	SK212>Pit292>Pit264	第82図
SK	341	O-3	不整形	17世紀前半	300×()×94	Pit320・Pit319>SK341	第82図
SK	390	O-4	長円形	17世紀前半		SK390>SK392	第82図
SK	397	O-3	不整形	17世紀前半		SK397>Pit398	第82図
Pit	488	N-4	円形	17世紀前半	40×30×30		第82図
Pit	491	A-3	円形	17世紀前半			第82図
SK	501	N-5		17世紀前半	74×46×79	Pit484・485>SK501	第82図
Pit	503	N-4	円形	17世紀前半			第82図
Pit	504	A-4	円形	17世紀前半			第82図

表8 遺構観察表①

遺構種	遺構番号	グリッド	形態	時期	規模(cm)	備考	挿図番号
Pit	508	N-5	円形	17世紀前半			第82図
SK	539	C-3	不整円形	17世紀前半		SK536・531>SK539	第82図
SK	540	B-4		17世紀前半		SK533>SK531	第82図
整地層	542	B-3		17世紀前半			第82図
SK	339	A-4		17世紀中頃～後半	200×()×19	SX309>SK339>SK340	第81図
Pit	223	A-5		17世紀中頃～後半			第81図
SX	309	A-5		17世紀中頃～後半	123×7	石列/SX309>SK339>SK340	第81図
SX	310	A-5		17世紀中頃～後半	68×8	石列/SK308>SX310	第81図
SK	327	O-6		17世紀中頃～後半		SK313>SK327	第81図
SK	333	A-6		17世紀中頃～後半	()×130×18	SK313・SK328>SK333>SK344	第81図
Pit	336	N-3		17世紀中頃～後半		Pit304>Pit336	第81図
SK	340	A-4		17世紀中頃～後半	250×187×58	SX309>SK339>SK340	第81図
Pit	461	A-5	円形	17世紀中頃～後半	70×70×15	SK461>SK499	第81図
SK	499	A-5	長円形	17世紀中頃～後半	170×45~×39	SK461>SK499	第81図
SK	517	B-4		17世紀中頃～後半	111~×96~×11	SK517>SK527	第81図
SX	527	B-3		17世紀中頃～後半		SK517>SK527>SK528	第81図
SE	500	C-4	不整円形	17世紀後半	()×()×162	裏込部に石を積める状況で確認される	第27図
Pit	27	N-3		17世紀後半		S K 023>027	第81図
SK	367	B-4		17世紀後半			第81図
Pit	370	C-3		17世紀後半			第81図
SK	515	B-4	不整円形	17世紀後半	184~×88~×37	SK515>SK518	第81図
SK	516	B-3	長円形	17世紀後半		SK516>SK517>SK528	第81図
SK	518	B-4	長円形	17世紀後半		SK518>SK519・520	第81図
SK	519	B-3	長円形	17世紀後半	126×47~×25	SK518>SK519	第81図
SK	522	B-3	長円形	17世紀後半	168~×70~×29		第81図
SK	524	C-4	長円形	17世紀後半	110×82×22	SK524>SK527>SK528	第81図
SK	533	B-4		17世紀後半			第81図
SK	743	B-4		17世紀後半		瀬戸・美濃産陶器蓋	第81図
SK	750	C-6	長円形	17世紀後半	116×50×11	SK750>SK752	第81図
SK	761	C-7	隅丸長方形	17世紀後半	83~×104×82		第81図
整地層	493	B-3		17世紀中頃～18世紀前半			第81図
SK	229	N-4	長方形	18世紀前半～中頃	()×120×79	遺構の北半部は調査区外となる	第27図
SK	274	A-3	円形	18世紀前半～中頃	138×130×82		第27図
SK	478	C-3	長方形	18世紀前半～中頃	(270)×(130)×45	遺構の南端部が調査区外となる	第27図
Pit	119	A-3	長円形	18世紀前半～中頃	45×35×11		第80図
SK	180	A-3	不整円形	18世紀前半～中頃	124×100×24	SK151>SK180	第80図
SX	286	B-3		18世紀前半～中頃			第80図
Pit	348	A-7	長円形	18世紀前半～中頃	80~×84×53	SK338>SK348	第80図
SK	372	B-3		18世紀前半～中頃	220×17~×35	SX181>SK372	第80図
Pit	428	A-4	円形	18世紀前半～中頃	60×55×95	SK390・Pit428>SK392	第80図
SK	483	B-3	長円形	18世紀前半～中頃	154×103×23		第80図
Pit	304	O-3	方形	18世紀前半～中頃	37×27~×44	Pit304>Pit336	第80図
Pit	312	C-3	円形	18世紀前半～中頃	72×70×22		第80図
整地層	342	O-3		18世紀前半～中頃			第80図
SK	368	B-3	長円形	18世紀前半～中頃	90×63×36		第80図
Pit	482	C-4	円形	18世紀前半～中頃	57×54×14		第80図
整地層	514	B-3		18世紀前半～中頃			第80図
SE	106	A-4	円形	18世紀中頃～後半	256×(256)×150~	SE118>施106	第30図
Pit	319	A-3	円形	18世紀中頃～後半	84×34~×15~	SK341>Pit319	第79図
SK	206	N-5	方形	18世紀末～19世紀初頭	117×114×83	最上面に瓦等が敷かれる状態で検出される	第29図
SK	254	O-5	隅丸長方形	18世紀後半	290×155×174	SK209>SK254>SK257	第30図
SK	704	A-7	長円形	18世紀後半	175×130×65	SK136>Pit237>SK704	第28図
SK	156	O-4	円形	18世紀後半	100~×90×53	SK156>SK129・SK188	第79図
SK	178	O-3	方形	18世紀後半	88~×91×3	SK028>SK178	第79図
Pit	203	A-3	円形	18世紀後半	48×44×23		第79図
SK	211	O-6		18世紀後半		SK153>SK211>SK215	第79図

表9 遺構観察表②

遺構種	遺構番号	グリッド	形態	時期	規模(cm)	備考	挿図番号
Pit	237	A-7	円形	18世紀後半	60×55×17	SK136>Pit237>SK704	第79図
Pit	238	A-7	円形	18世紀後半	65×55×31		第79図
SK	257	O-5	隅丸方形	18世紀後半	30~×150×105	SK254>SK257	第79図
SK	265	O-6		18世紀後半	()×85×25	SK265>SK272	第79図
SK	313	A-6	長円形	18世紀後半	166×100×75	SK313>SK333・327・329	第79図
SK	328	A-5		18世紀後半	120×80×37	SK328>SK333・344	第79図
Pit	362	B-3	長円形	18世紀後半	50×30×10	SX181>Pit362	第79図
整地層	405	C-3		18世紀後半		SD405>SK480・478	第79図
Pit	204	A-3	円形	18世紀後半	30×27×40		第79図
SK	308	A-5		18世紀後半	160×130~×133	SK308>SX310	第79図
SX	521	C-3		18世紀後半	198×105×3		第79図
SX	181	B-3	「コ」字状	18世紀後半~19世紀初頭	105×45	建物の基礎か?/溝状遺構に石が詰まった状態	第30図
SX	230	O-3		18世紀後半~19世紀初頭	58×15	石列	第78図
SK	25	N-3	円形	18世紀末~19世紀初頭		SK025>SK023	第78図
SK	117	A-4	長円形	18世紀末~19世紀初頭	100×57~×15		第78図
SK	185	A-5	円形	18世紀末~19世紀初頭	95×95×57		第78図
SK	206	N-5	方形	18世紀末~19世紀初頭	117×114×83	最上面に瓦等が敷かれる状態で検出される	第29図
Pit	201	A-7	円形	18世紀末~19世紀初頭	78~×77×30	SK136>Pit201	第78図
SK	233	O-5	長円形	18世紀末~19世紀初頭	45~×130×40	SK220・226>SK133>SK245>SK254	第78図
SK	239	A-7	長円形	18世紀末~19世紀初頭	75~×124×57	SK239>SE250(裏込)	第78図
SK	245	O-5	隅丸長方形	18世紀末~19世紀初頭	67~×112×50	SK220・226>SK133>SK245>SK254	第78図
Pit	371	C-6	長円形	18世紀末~19世紀初頭	124×90×17	SK371>Pit377・382	第78図
SK	723	B-7	長円形	18世紀末~19世紀初頭	157~×77×50	SK717>SK723	第78図
SK	727	B-6	隅丸長方形	18世紀末~19世紀初頭	89×75×16	SK720・724>SK727	第78図
Pit	5	O-4	長円形	18世紀末~19世紀初頭		SK005>010/陶器灯火具	第78図
Pit	8	N-4	長円形	18世紀末~19世紀初頭		SK008>010	第78図
SK	9	N-4	隅丸長方形	18世紀末~19世紀初頭		SK009>010	第78図
SK	16	N-4	長円形	18世紀末~19世紀初頭		SK016>018	第78図
SK	20	N-4	円形	18世紀末~19世紀初頭		SK023・028>020	第78図
SK	189	N-7	長円形	18世紀末~19世紀初頭	116×26~×20		第78図
SK	196	O-6	円形	18世紀末~19世紀初頭	112×100×72	SK215>196	第78図
SK	220	O-5	円形	18世紀末~19世紀初頭	102×104×30	SK220>245, 254/広東碗	第78図
SK	707	B-6	不整円形	18世紀末~19世紀初頭			第78図
SK	735	B-7	長円形	18世紀末~19世紀初頭	118×82×42		第78図
SE	118	A-3	円形	18世紀末~明治初期	(240)×()×160~	上面を概観に切られる/凝灰岩削り抜きによる井筒	第32図
SE	250	O-7	円形	18世紀末~明治初期	323×(320)×130~	瓦組上げによる井筒	第32図
SK	137	A-3	長円形	19世紀前半~中頃	180×137×47	SK37>SK195	第31図
SK	184	A-7	円形	19世紀前半~中頃	161×135×80	SK184>SK201	第31図
SK	330	A-6	円形	19世紀前半~中頃	285×262×128	SK369>SK330	第31図
SK	728	C-7	方形	19世紀前半~中頃	244×176×30	SK709・724>SK728	第31図
Pit	221	A-5	長円形	19世紀前半~中頃	50×35×33		第77図
SK	222	A-5	円形	19世紀前半~中頃	80×75×30		第77図
Pit	247	A-6	長円形	19世紀前半~中頃	86×50~×46		第77図
SK	724	C-6	長円形	19世紀前半~中頃	192×114×23	SK716>SK724>SK728	第77図
Pit	120	A-3	円形	19世紀前半~中頃	65×45~×39	SK198>Pit120	第77図
SK	198	B-3		19世紀前半~中頃		SX198>181	第77図
Pit	200	A-5		19世紀前半~中頃			第77図
Pit	227	A-3		19世紀前半~中頃			第77図
SK	311	C-3		19世紀前半~中頃	122×68×18	SK311>SX181	第77図
Pit	702	C-7	円形	19世紀前半~中頃	80×72×36	SK702>716/土製人形	第77図
Pit	703	C-6	隅丸方形	19世紀前半~中頃	45~×47~×34	SK726>703>716	第77図
Pit	22	N-3	長円形	明治~	81×40×10	礎石建物SB800の一部	第33図
Pit	197	N-7	長円形	明治~	90×64×20	礎石建物SB800の一部	第33図
SK	369	B-6	隅丸長方形	明治~	(195)×157×82	SK369>SK330	第31図
SB	800			明治~		礎石建物	第33図
SK	719	B-7	円形	明治~	113×60~×65	SK709・724>SK728/緑釉瓶掛(墨書き入り)混入	第77図

表10 遺構観察表③

遺構種	遺構番号	グリッド	形態	時期	規模(cm)	備考	挿図番号
SK	17	N-4	長円形	明治~	120×60×5	SK017>018	第77図
SJ	142	O-7	円形	明治~	40×38×25	SJ142>SE250/埋め甕	第77図
SK	152	A-3		明治~	81×70×30	SK121>SK152>SK151	第77図
SK	165	A-3		明治~	110×68×45		第77図
SJ	190	O-7		明治~	92~×115~×20	SJ190>SK171	第77図
SK	375	B-6		明治~	135~×75×10	SK369>SK375	第77図
SX	380	B-7		明治~	354~×280~×7	暖炉	第77図
SD	705	B-6		明治~	44×10	SK719>705	第77図

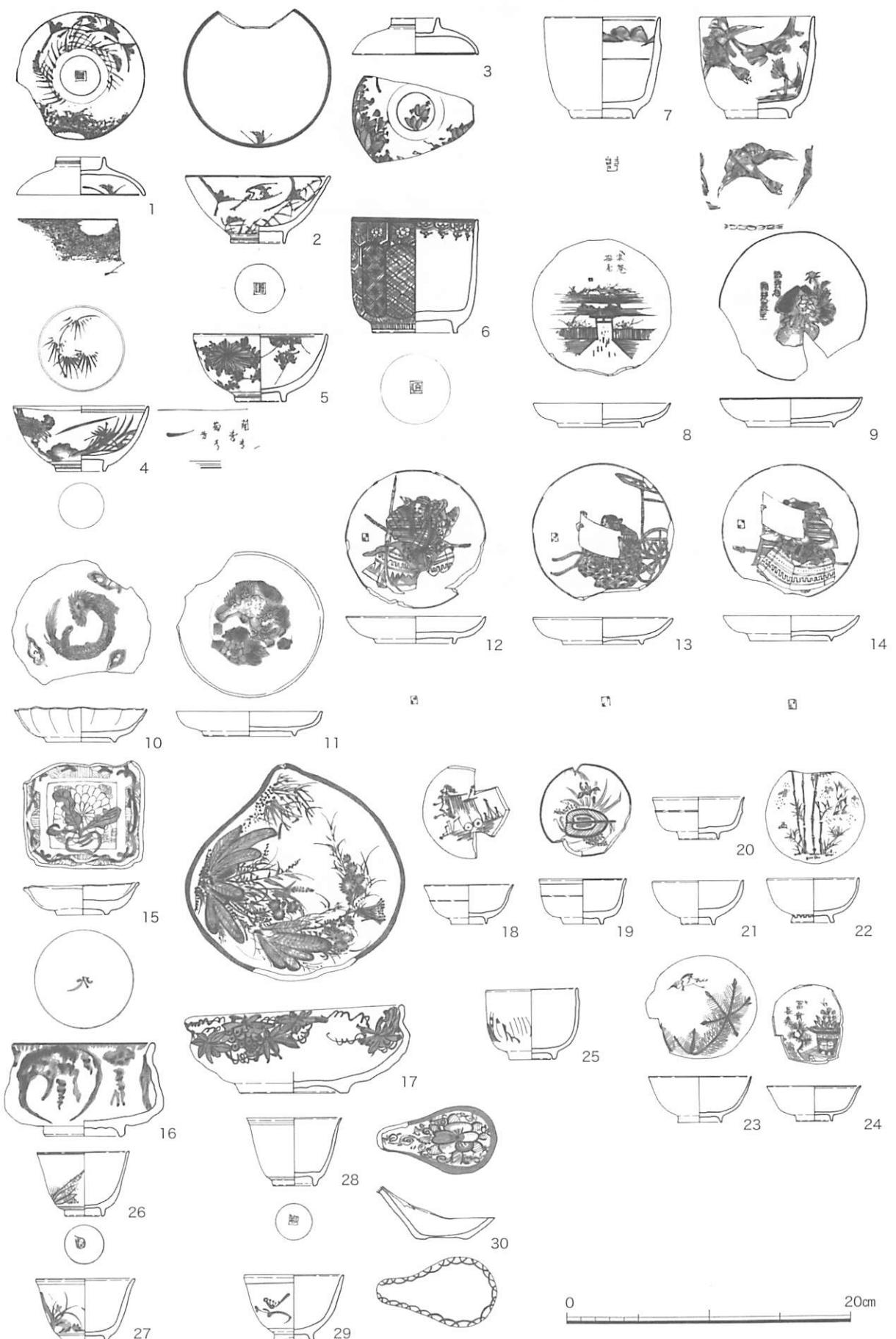
表11 遺構観察表④

3. その他主要遺構出土遺物

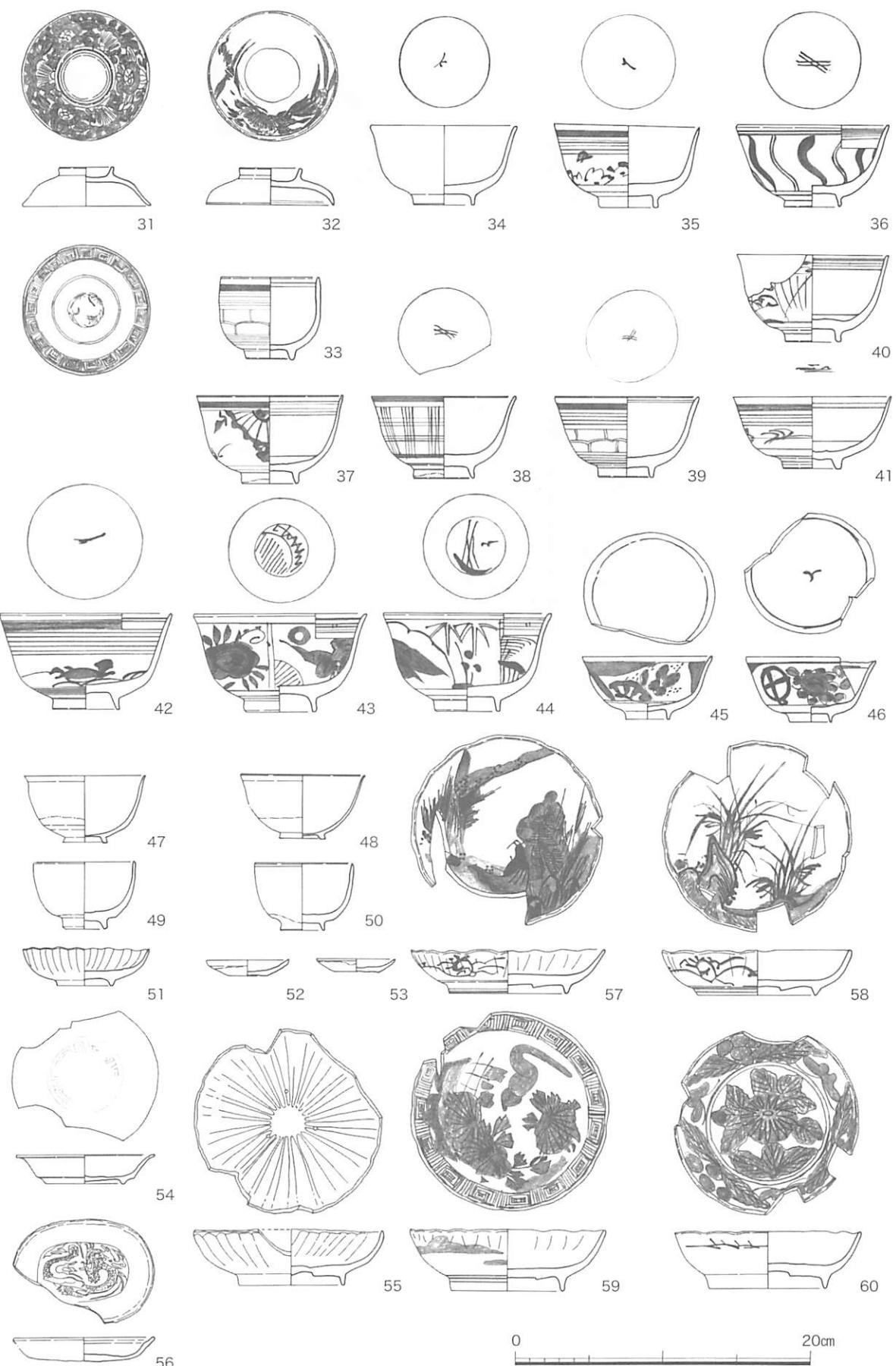
火災処理土坑以外に確認された遺構から出土した遺物については、陶磁器類（肥前陶磁器・関西系陶器・瀬戸・美濃産陶磁器・備前焼・輸入陶磁器類）を主体に、瓦、瓦質土器（火鉢・焙烙）、土師器（京都系土師器・糸切り土師器）、金属器（銭・簪）等がある。

これらの遺物群については、遺構でも述べたように、概ね、16世紀末～17世紀初頭、17世紀前半、17世紀後半～18世紀中頃、18世紀後半、18世紀末～19世紀初頭、19世紀前半～中頃、明治以降の7つの時期に分類することができた。

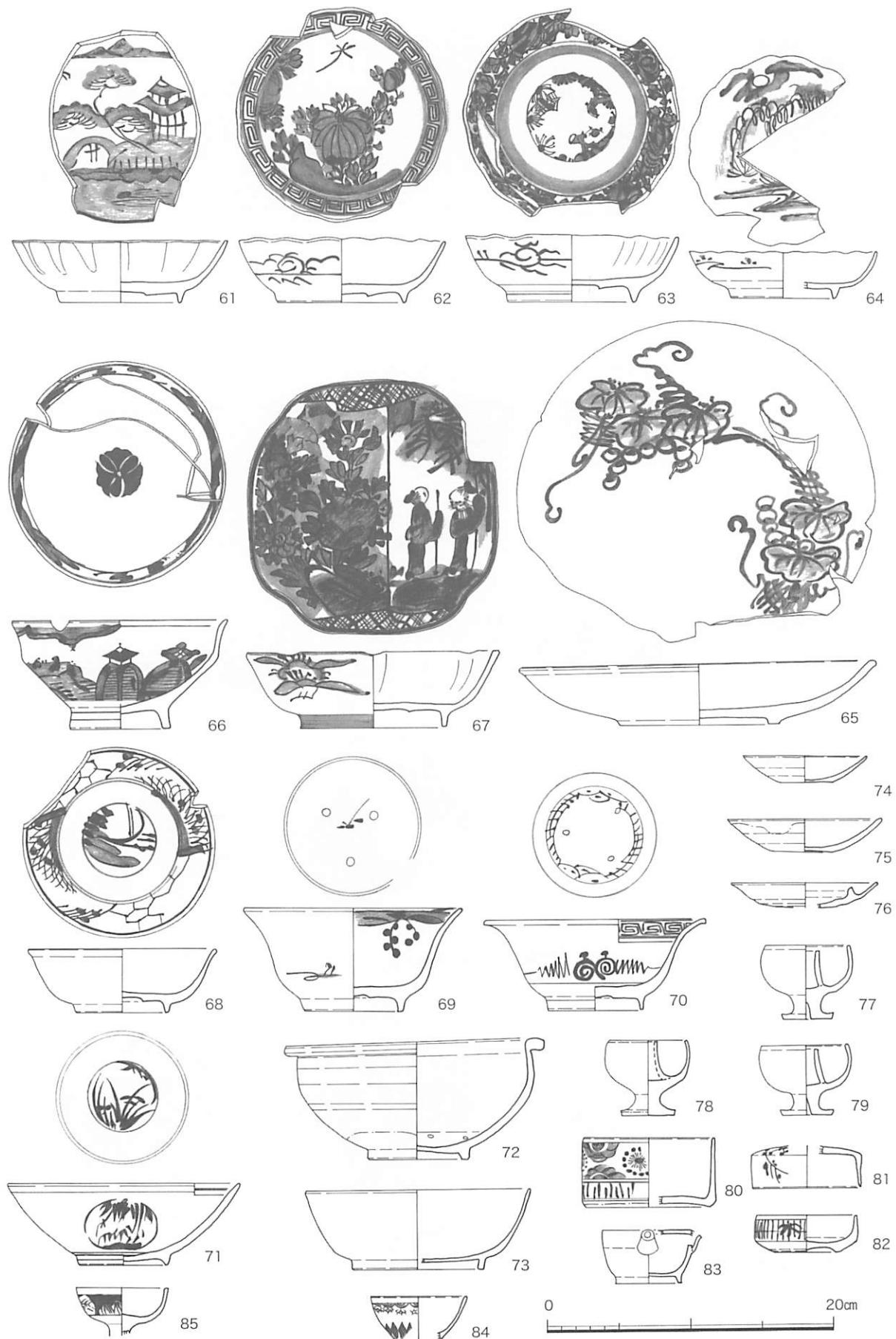
以下、今回の調査で出土した遺物の中でも火災処理関連遺構以外から出土した遺物について、その実測図及び遺物観察表を提示し、出土遺物についての調査報告に変える。



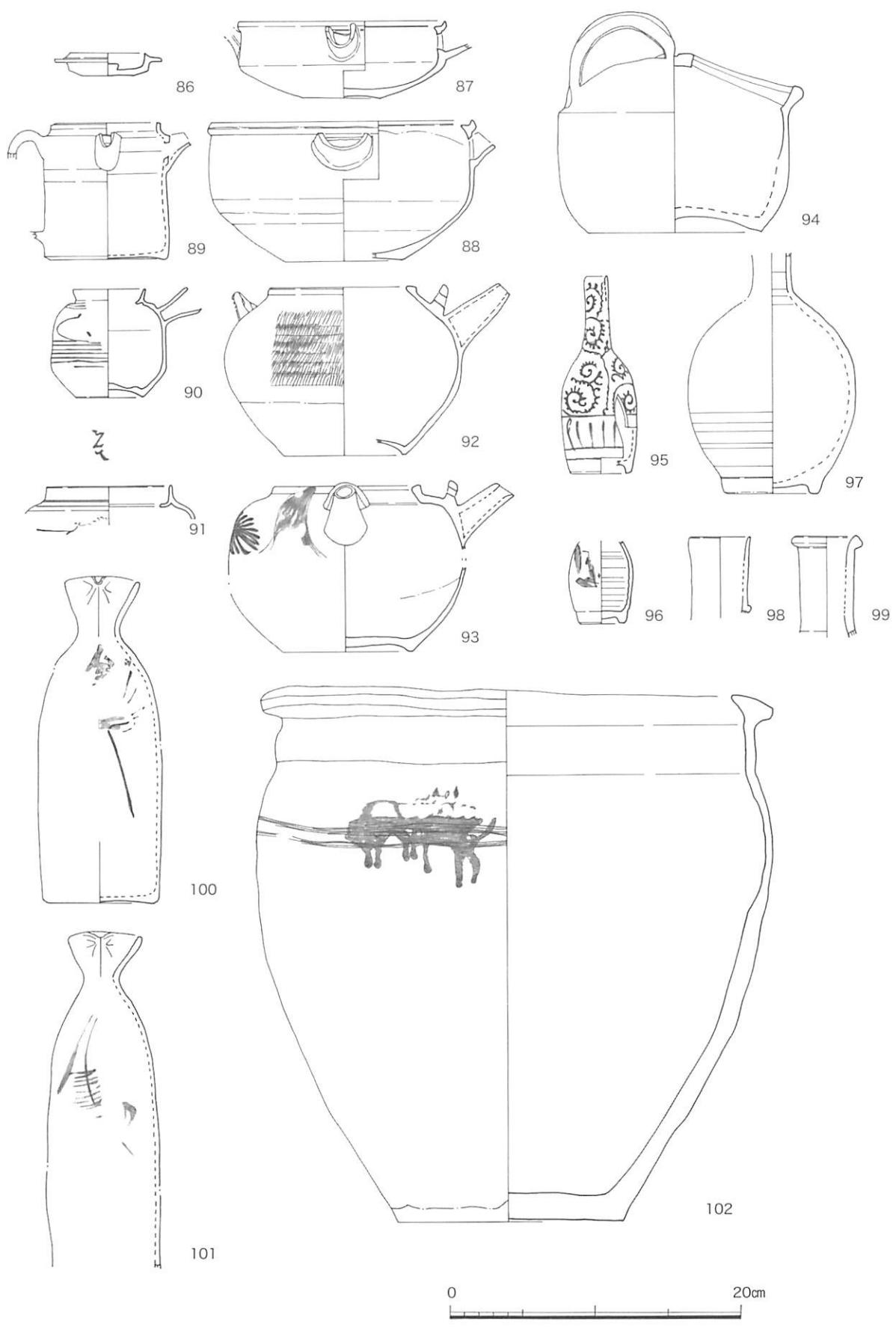
第34図 SK369-330出土遺物実測図① (1/4)



第35図 SK369-330出土遺物実測図② (1/4)

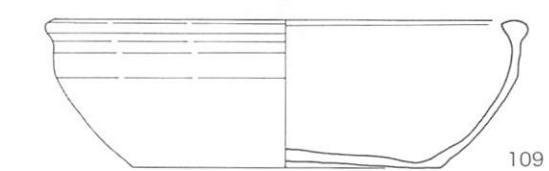
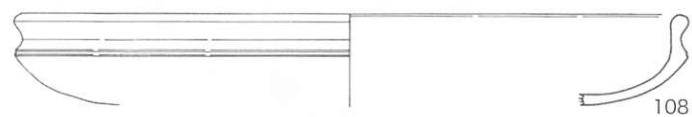
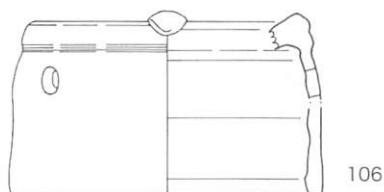
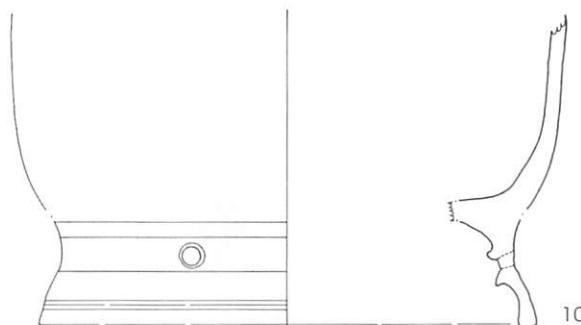
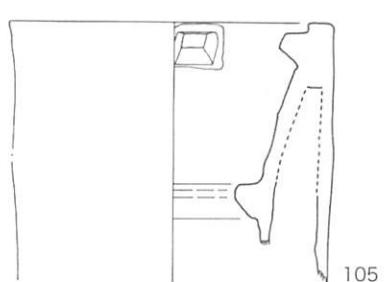
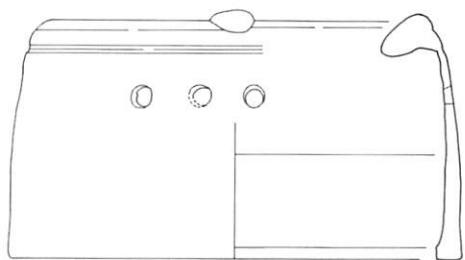
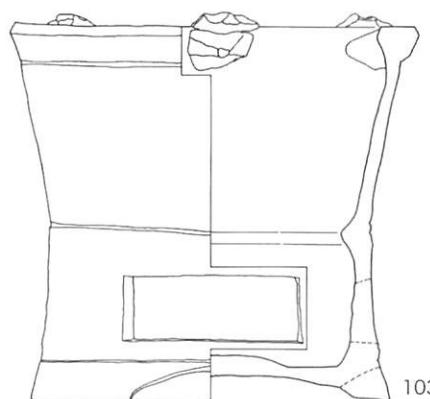


第36図 SK369-330出土遺物実測図③ (1/4)



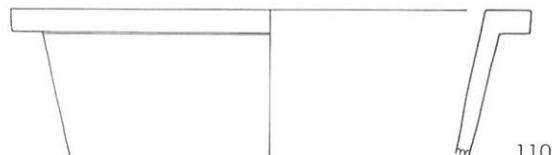
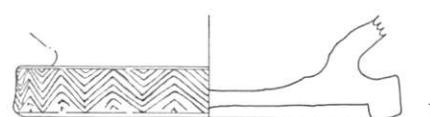
第37図 SK369-330出土遺物実測図④ (1/4)

SK369-4



SK719

庚申
二月
火
寛政十二歲



SK137-1



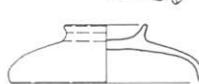
1



110



2



3



4

SK724



1



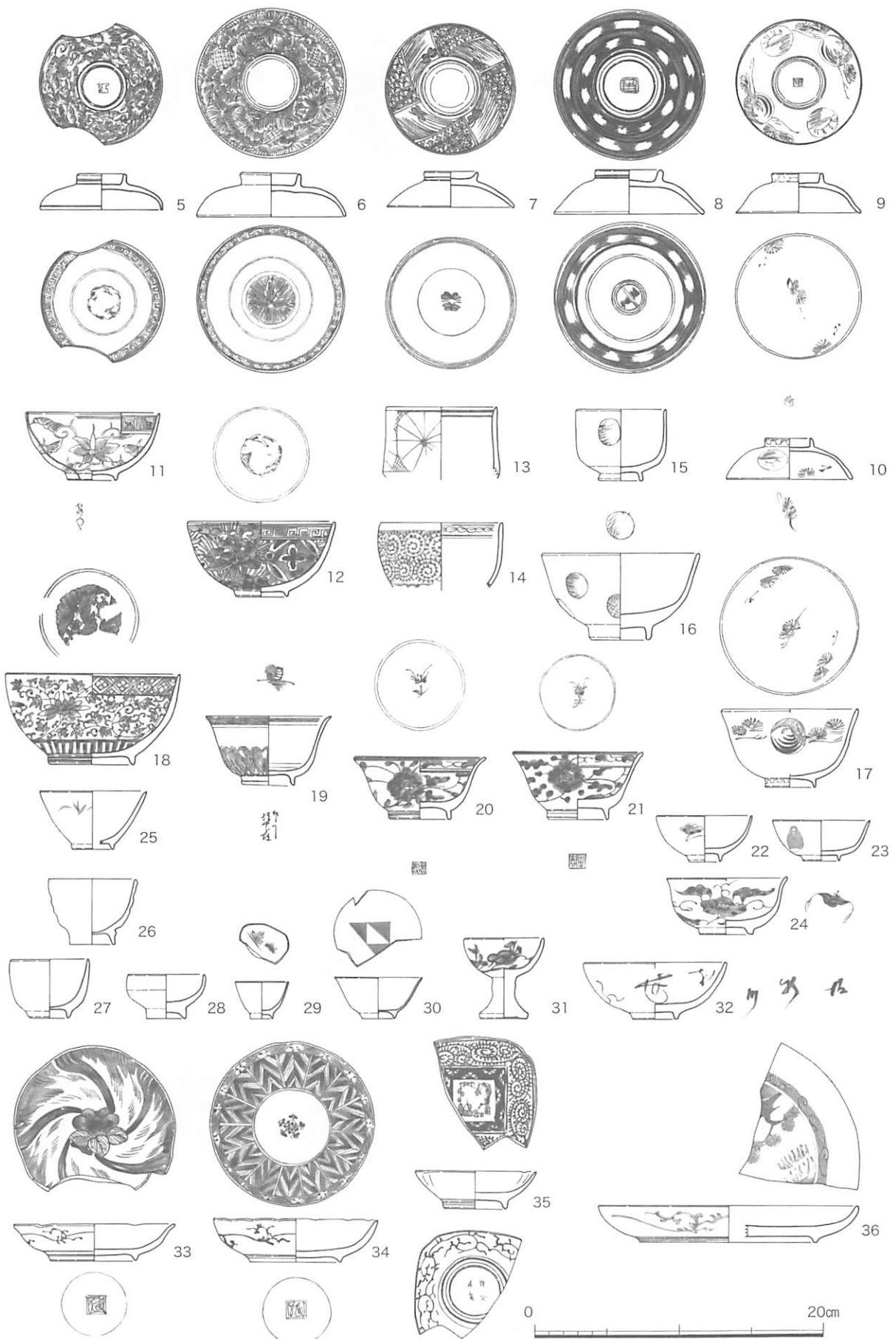
2



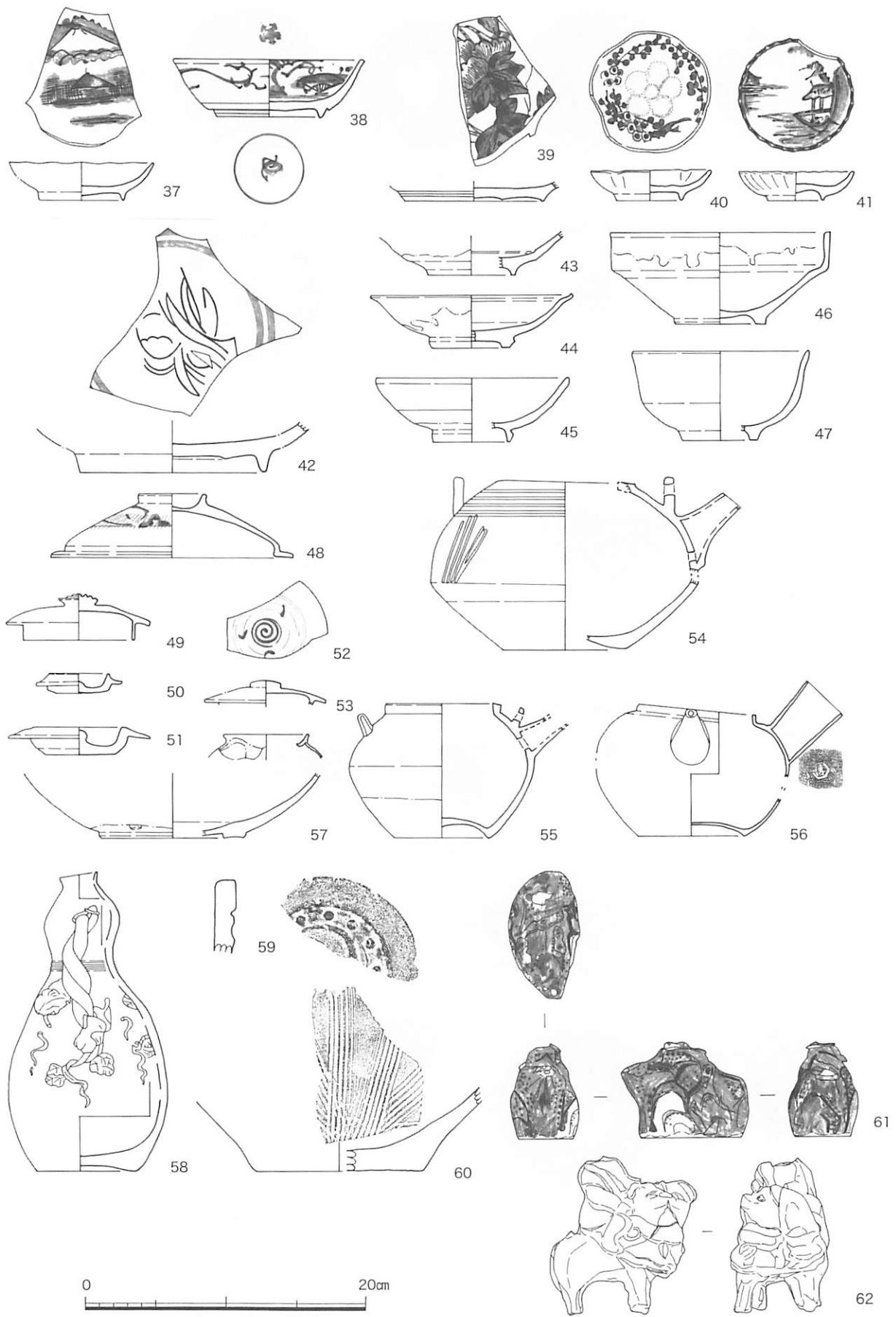
0

20cm

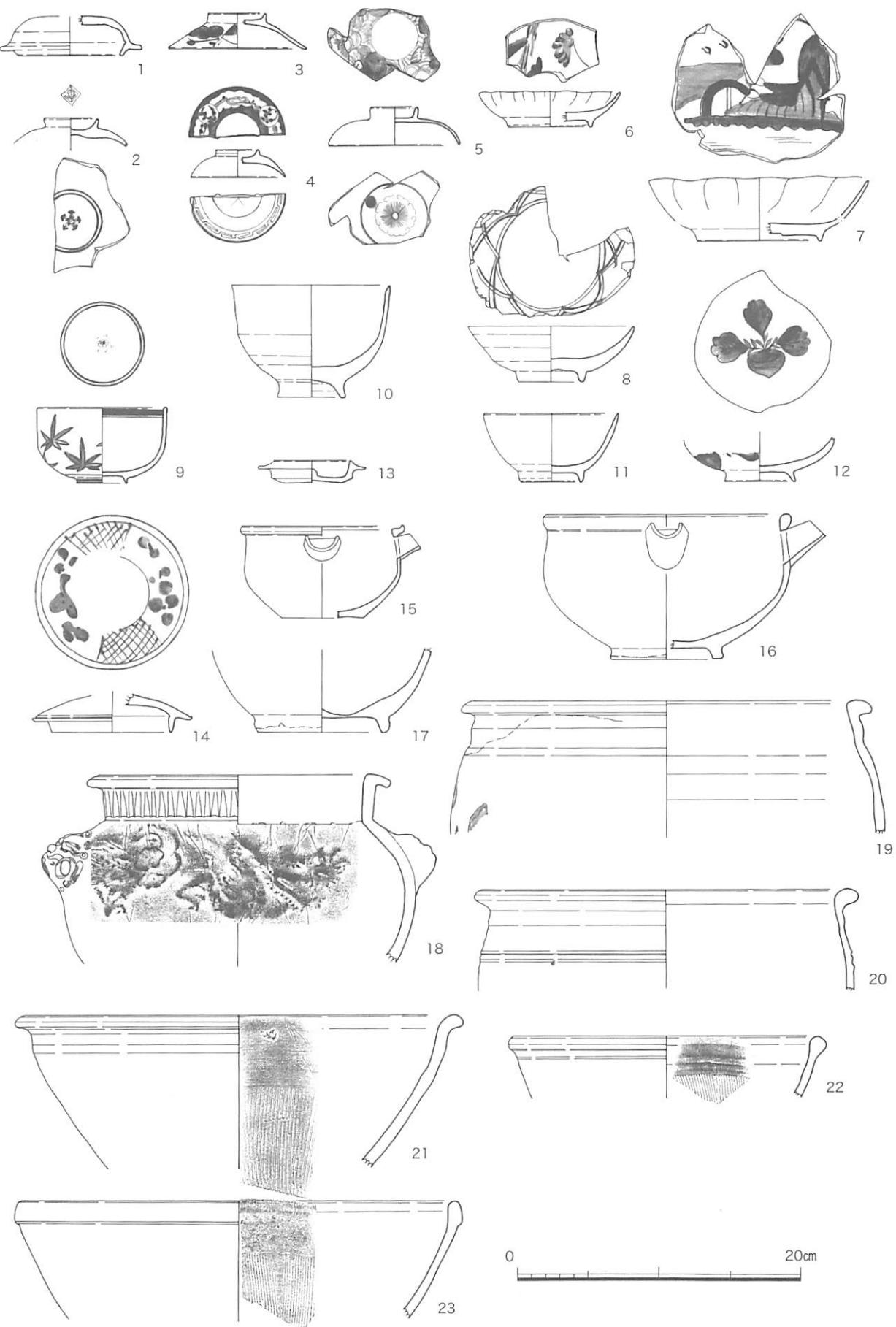
第38図 SK369-330・719・724・137出土遺物実測図 (1/4)



第39図 SK137出土遺物実測図② (1/4)

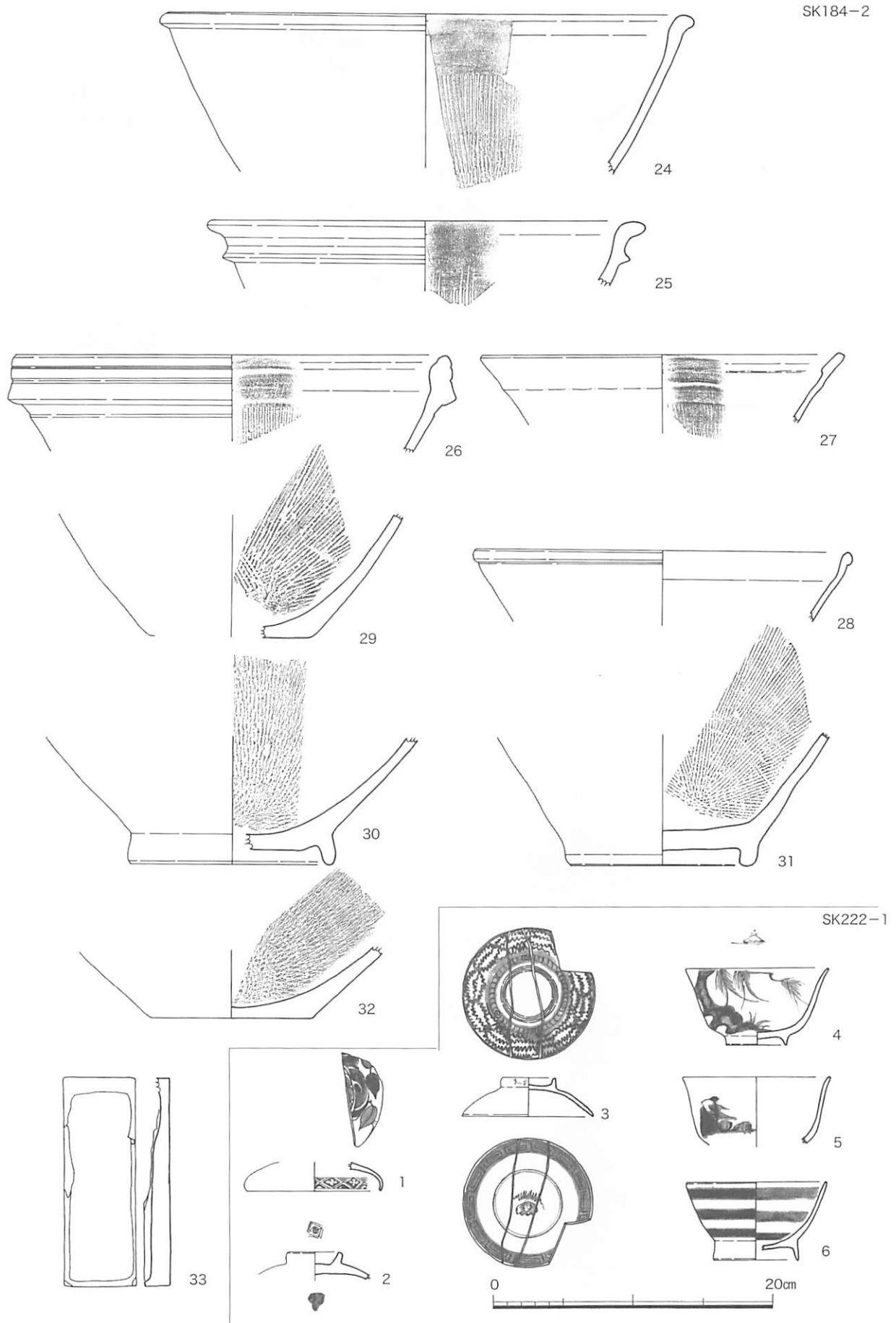


第40図 SK137出土遺物実測図③ (1/4)

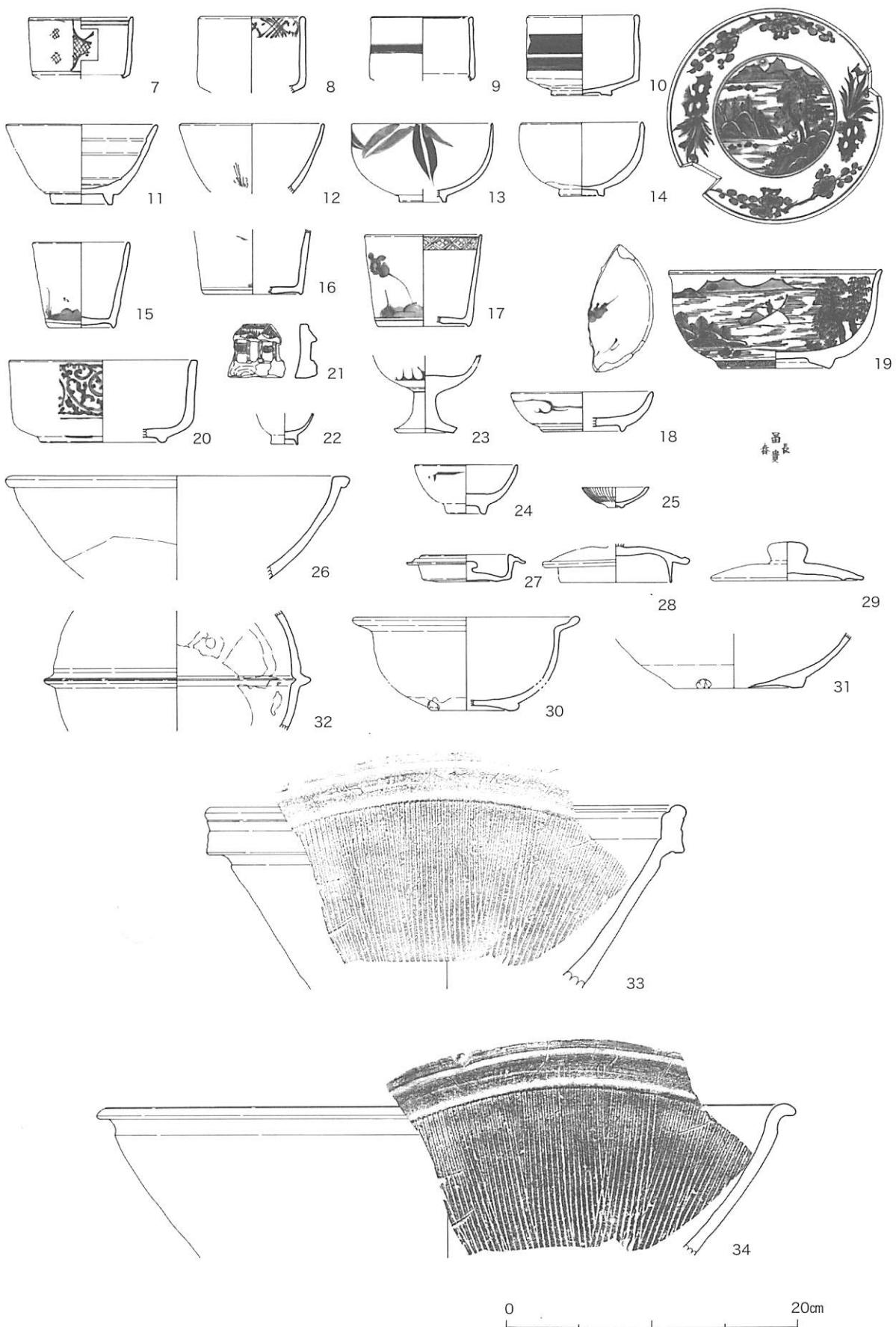


第41図 SK184出土遺物実測図① (1/4)

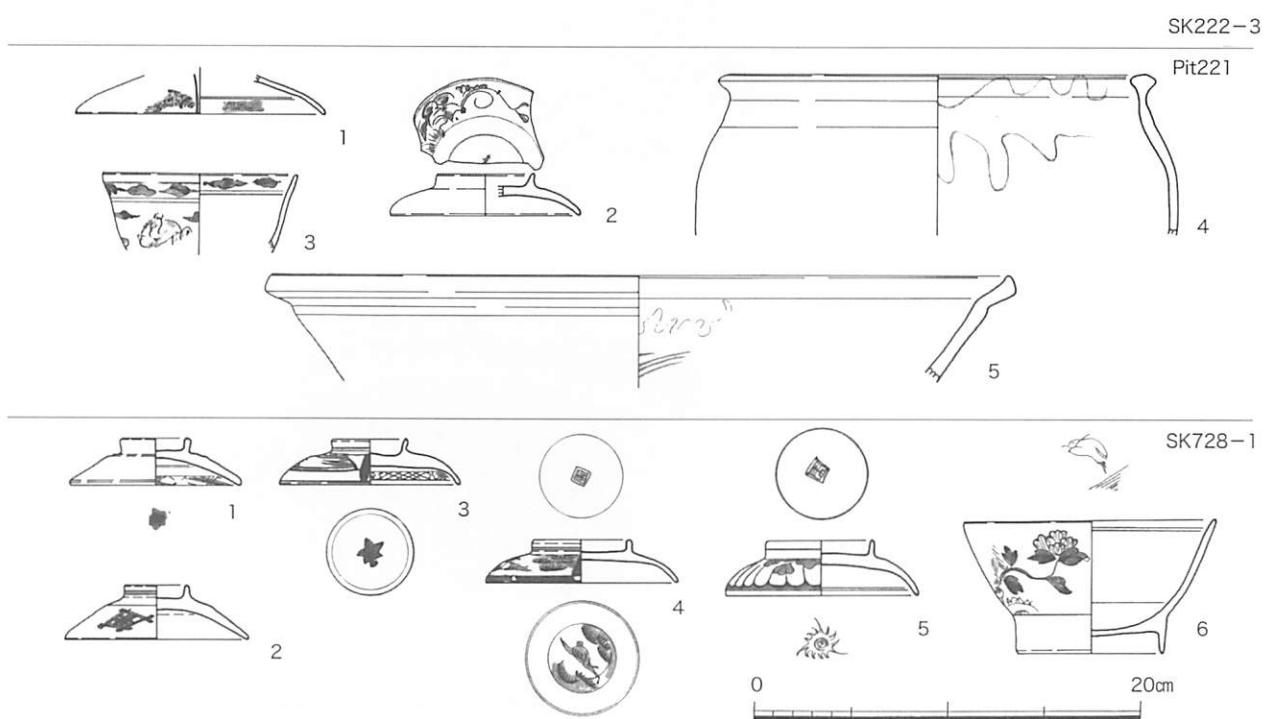
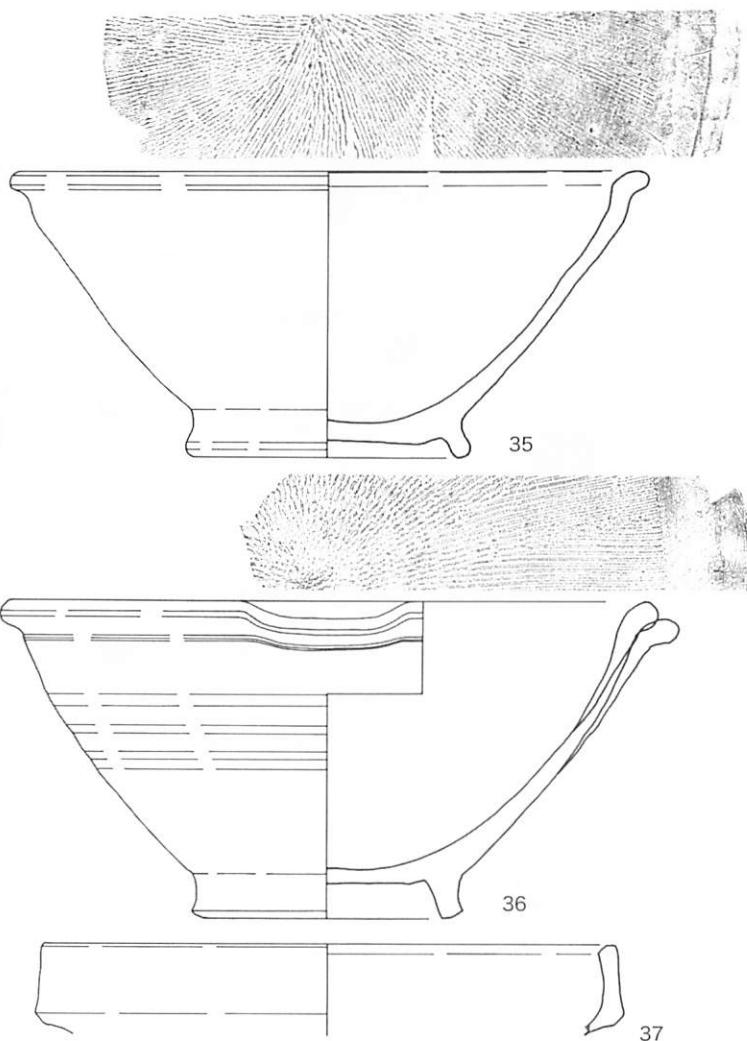
SK184-2



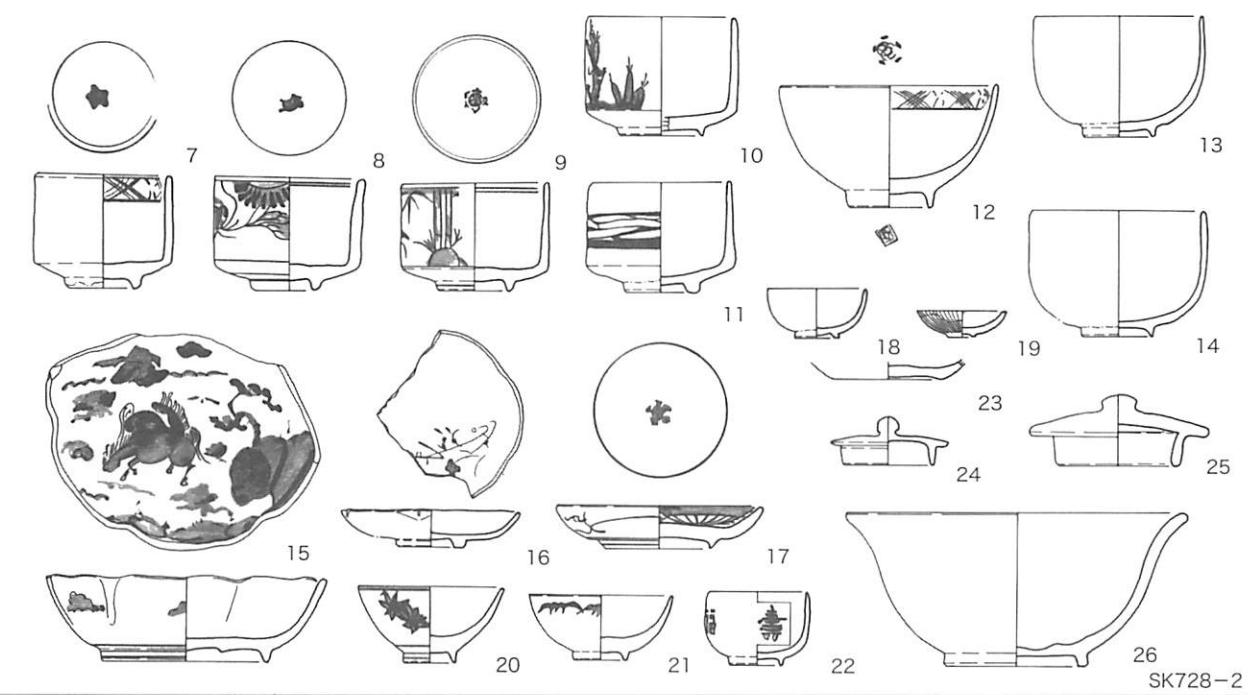
第42図 SK184・222出土遺物実測図 (1/4)



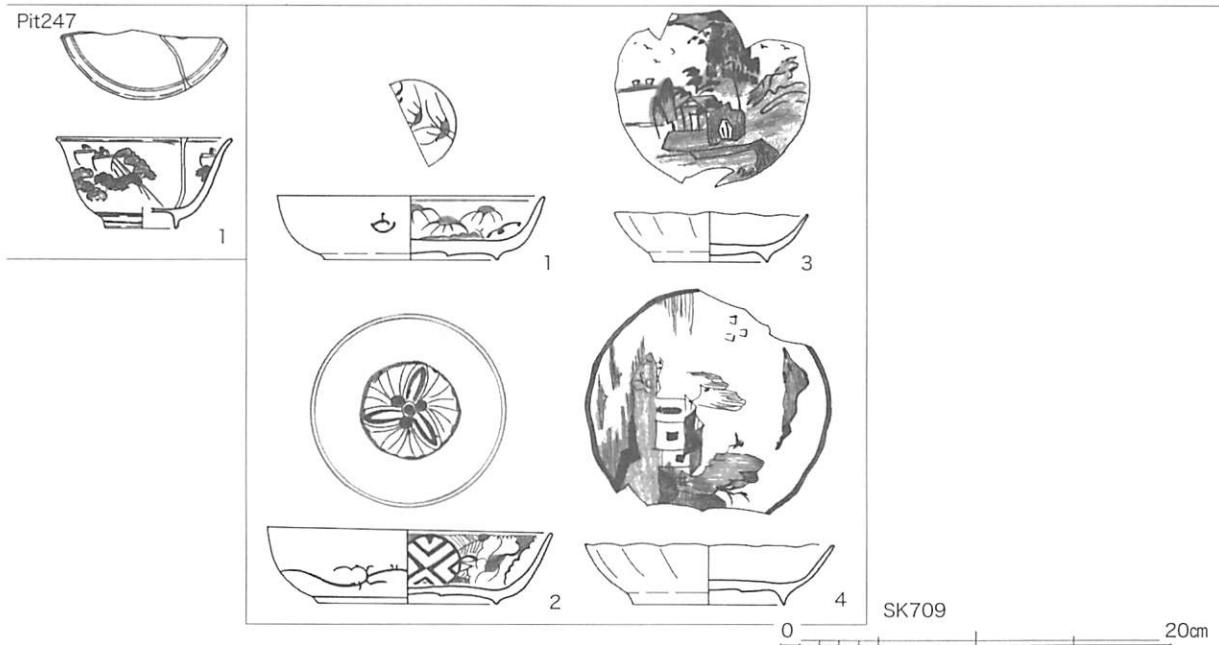
第43図 SK222出土遺物実測図② (1/4)



第44図 SK222・728・Pit221出土遺物実測図 (1/4)

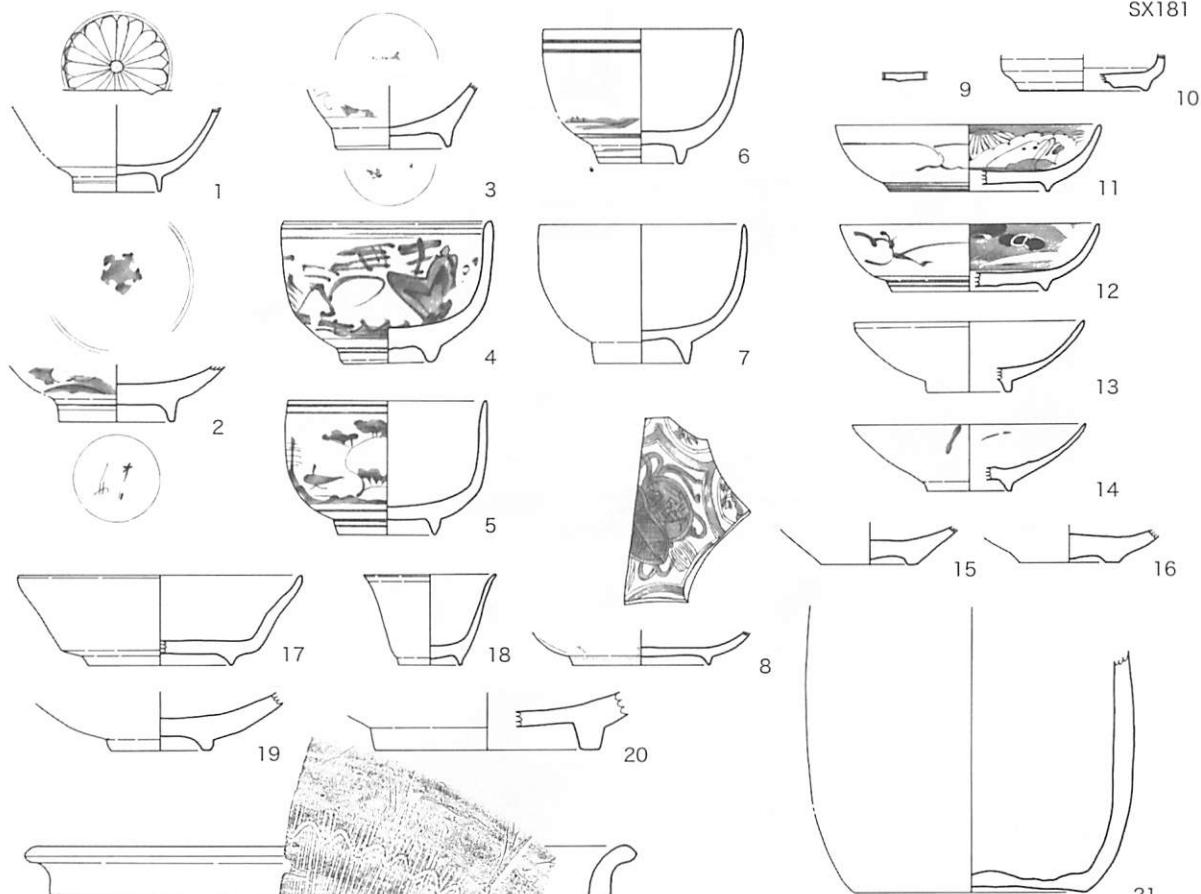


SK728-2

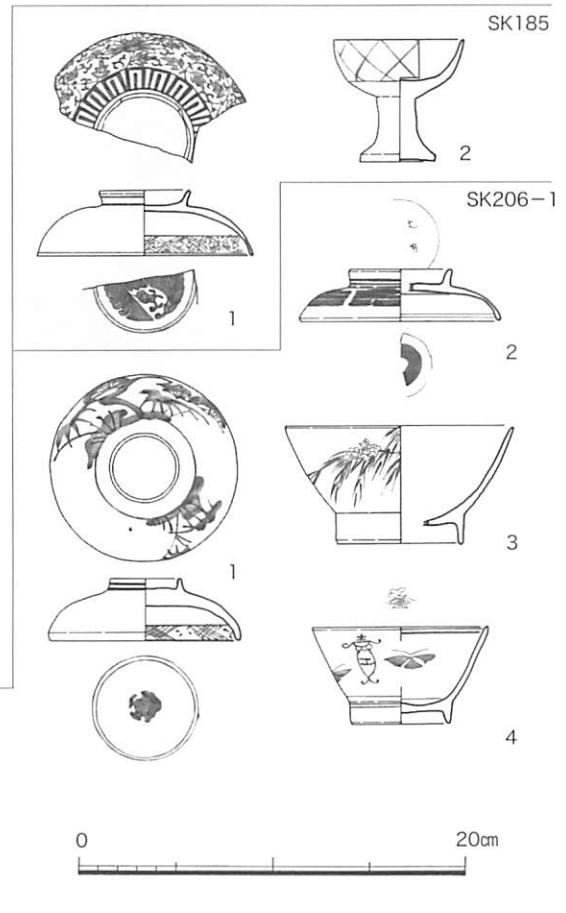


第45図 SK723・709・Pit247出土遺物実測図① (1/4)

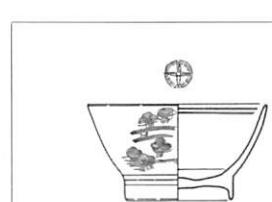
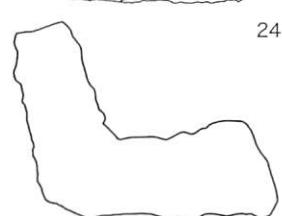
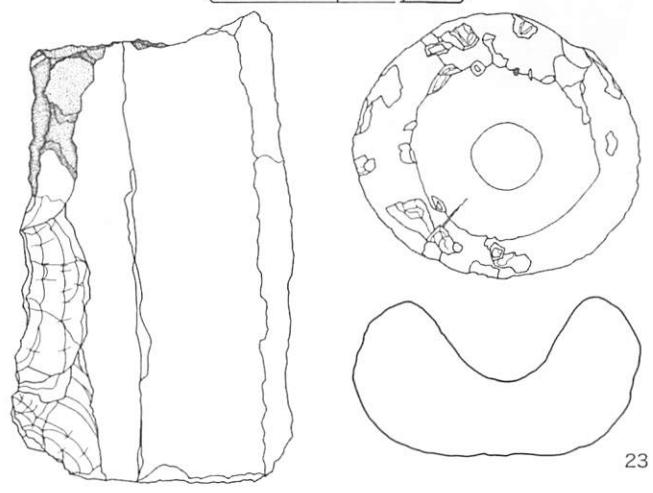
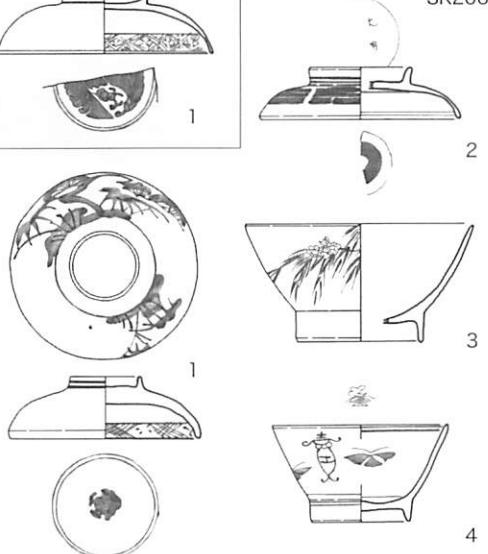
SX181



SK185



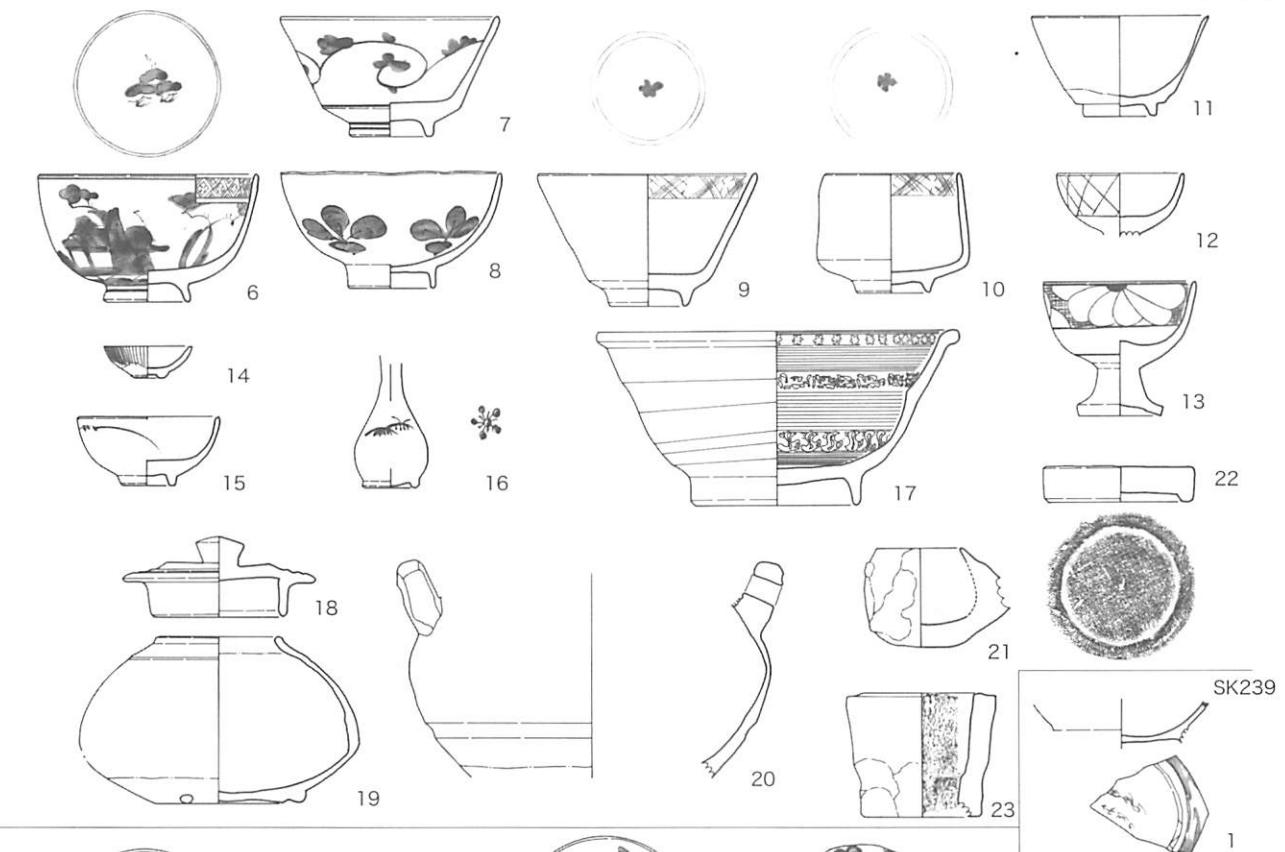
SK206-1



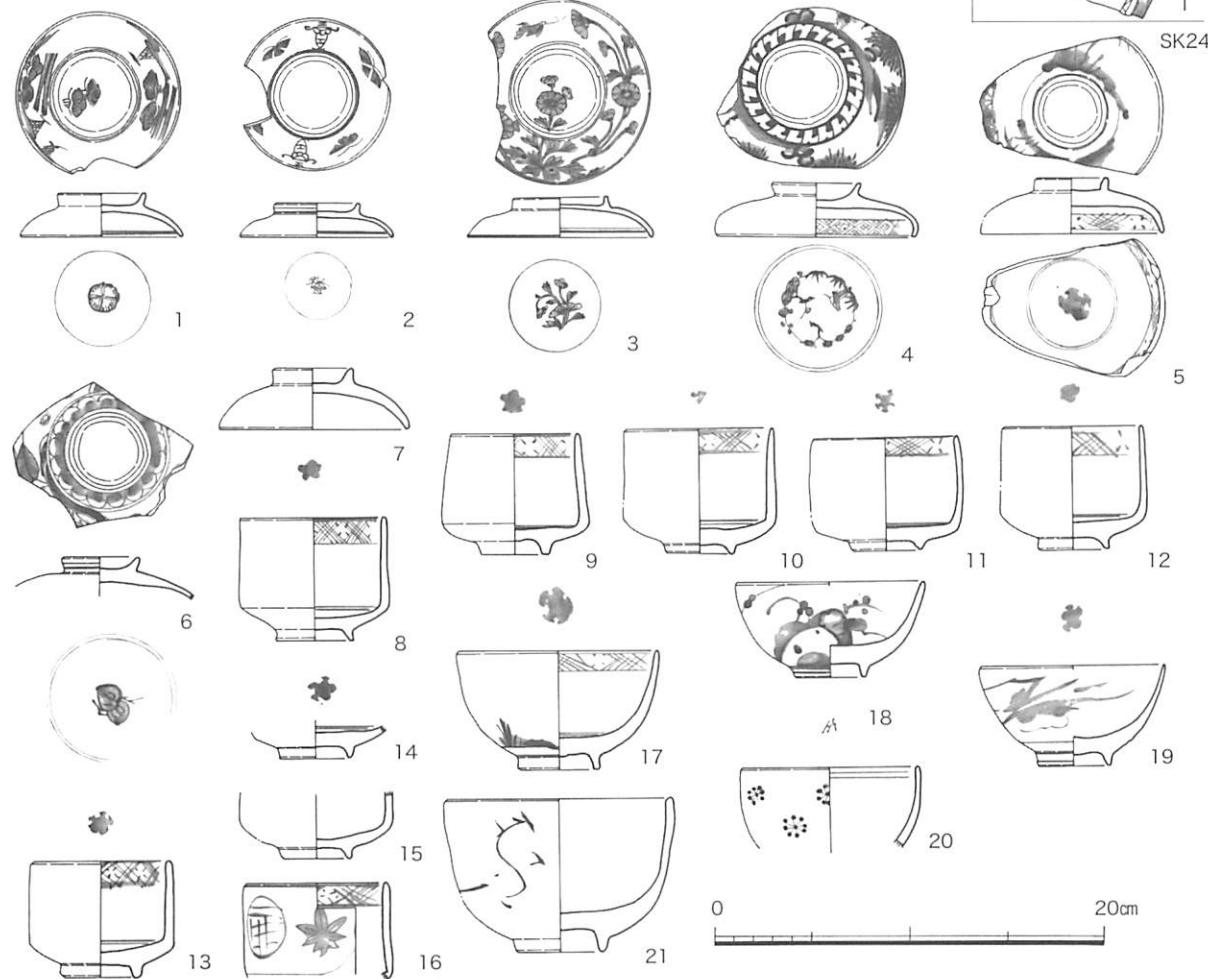
0 20cm

第46図 SX181・SK185・206出土遺物実測図① (1/4)

SK206-2

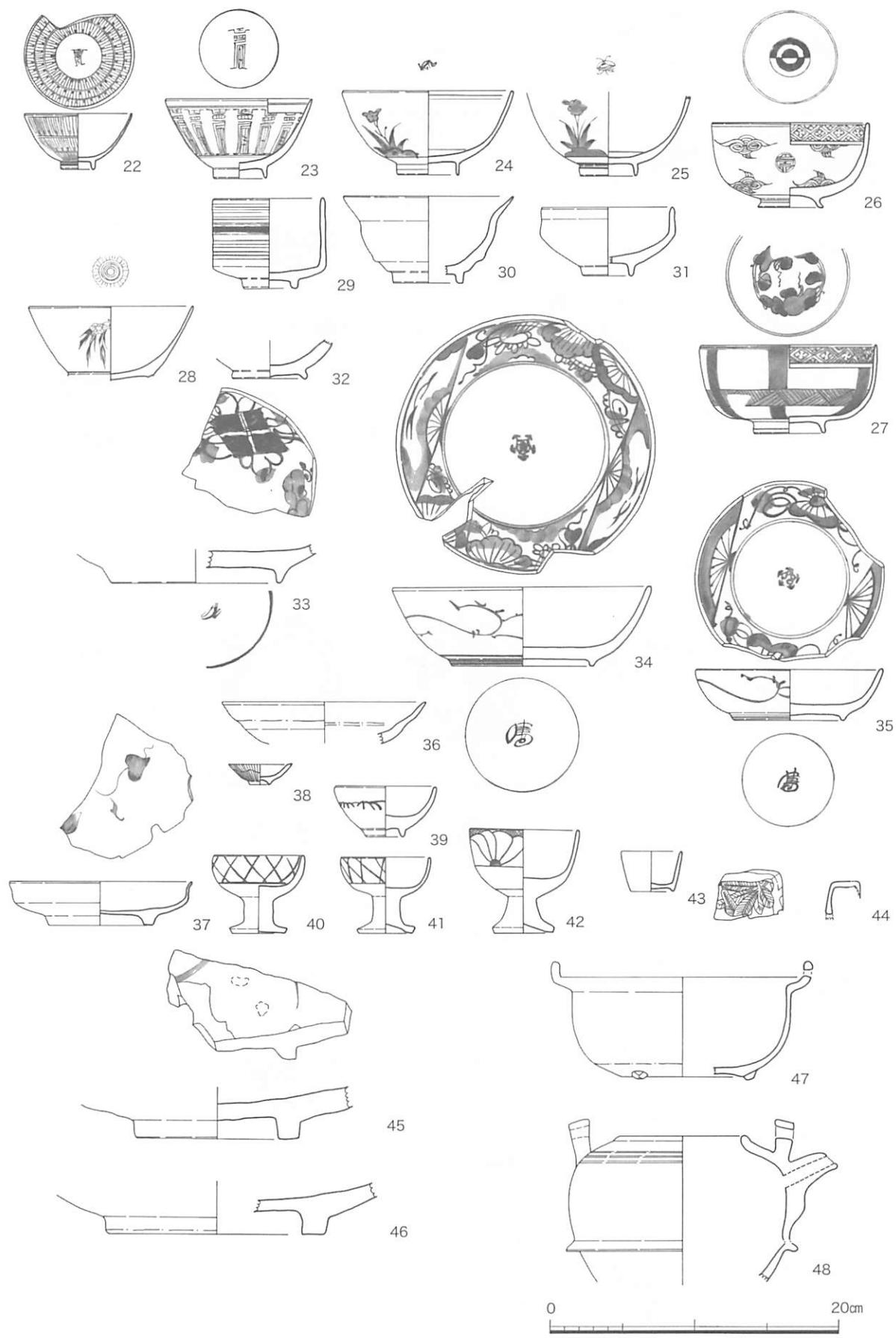


SK245-1

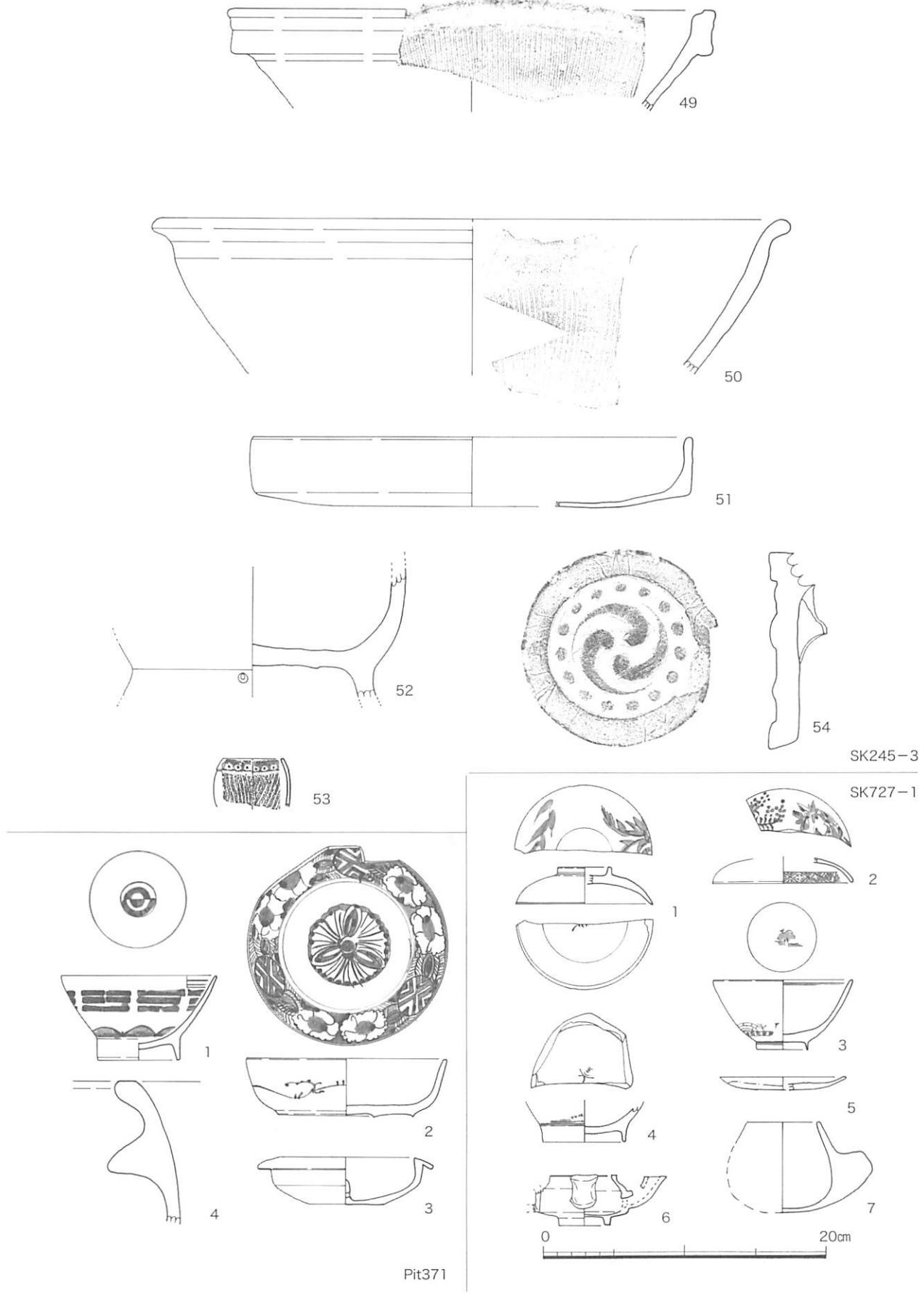


0 20cm

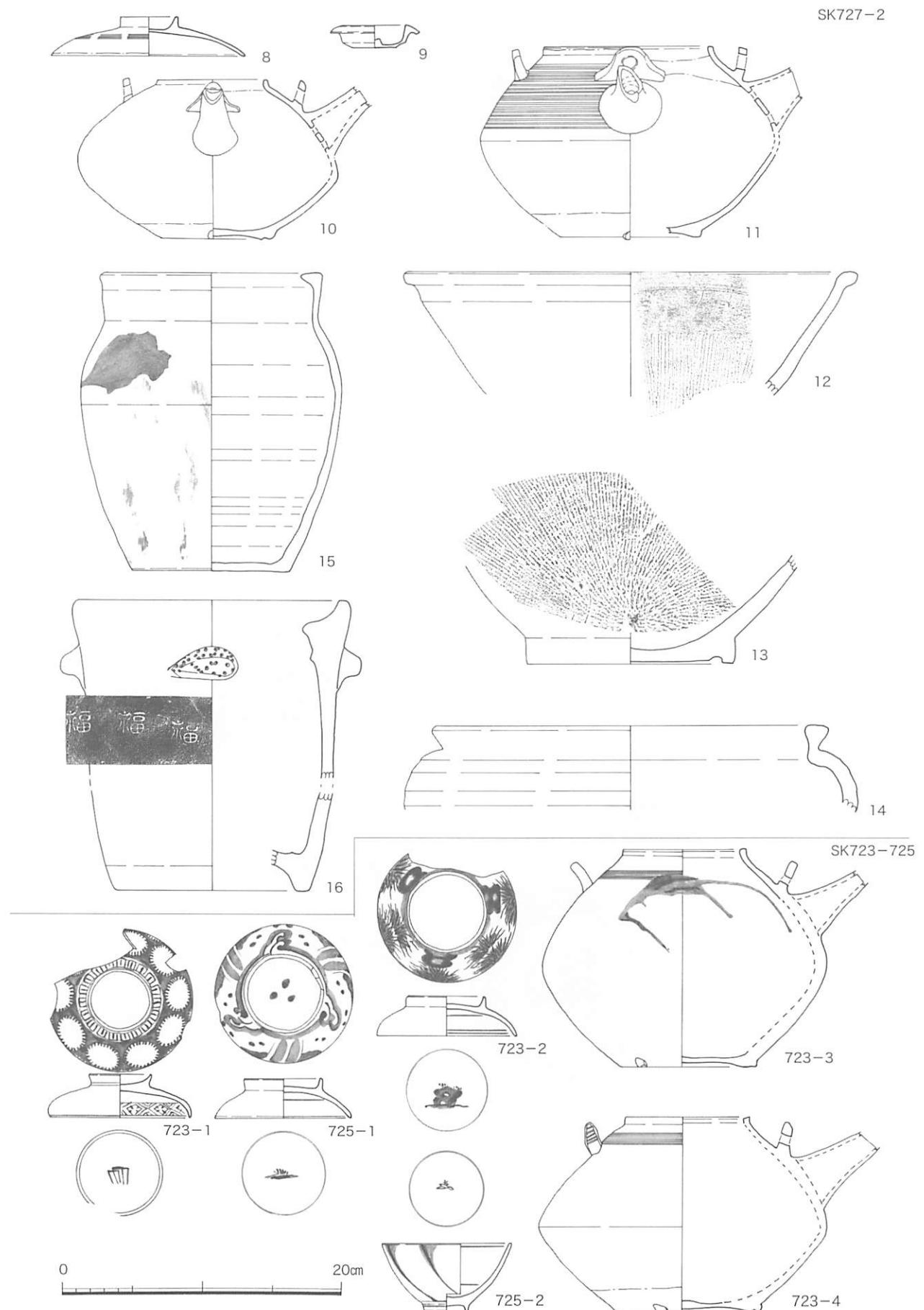
第47図 SK206・239・245出土遺物実測図① (1/4)



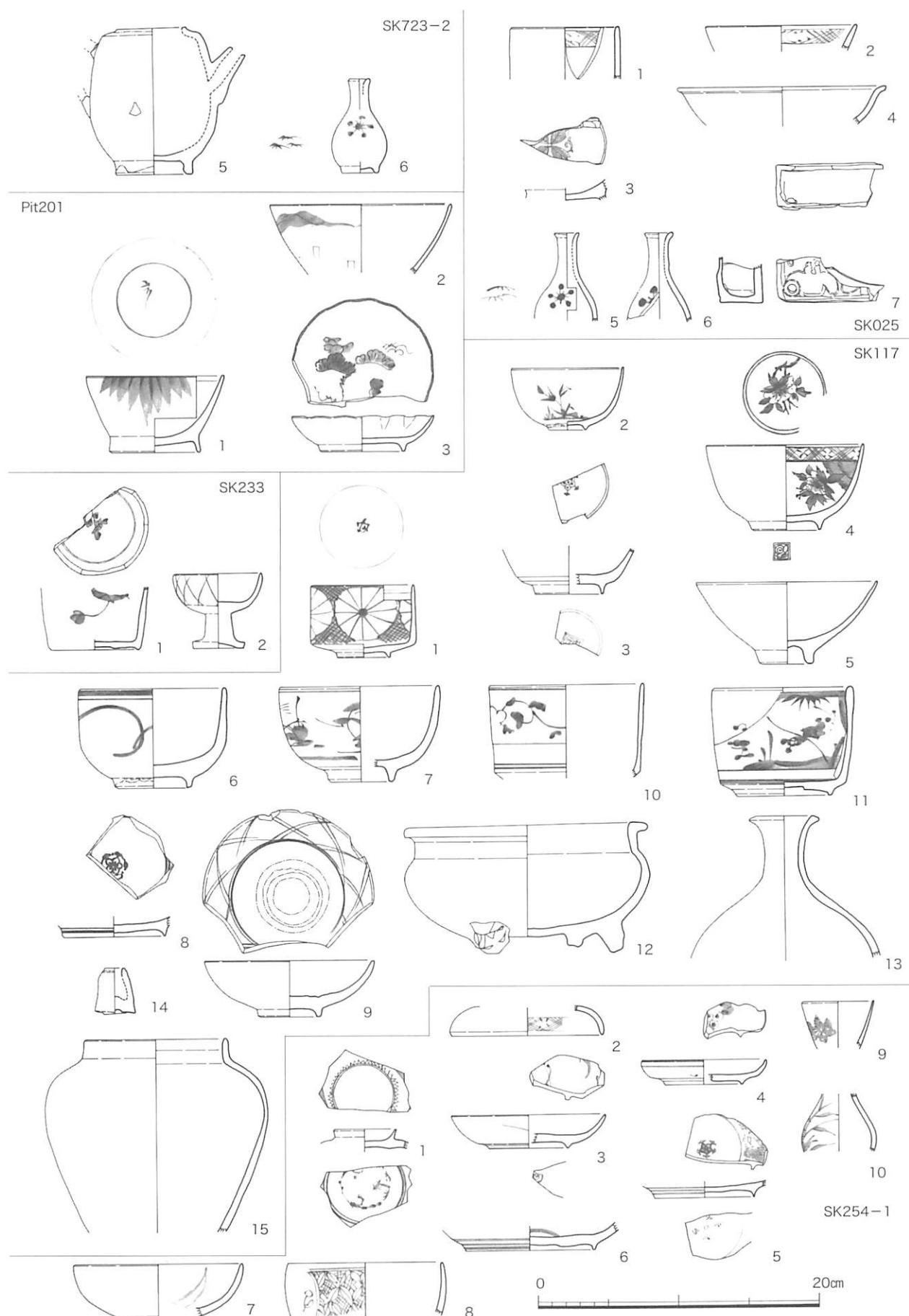
第48図 SK245出土遺物実測図② (1/4)



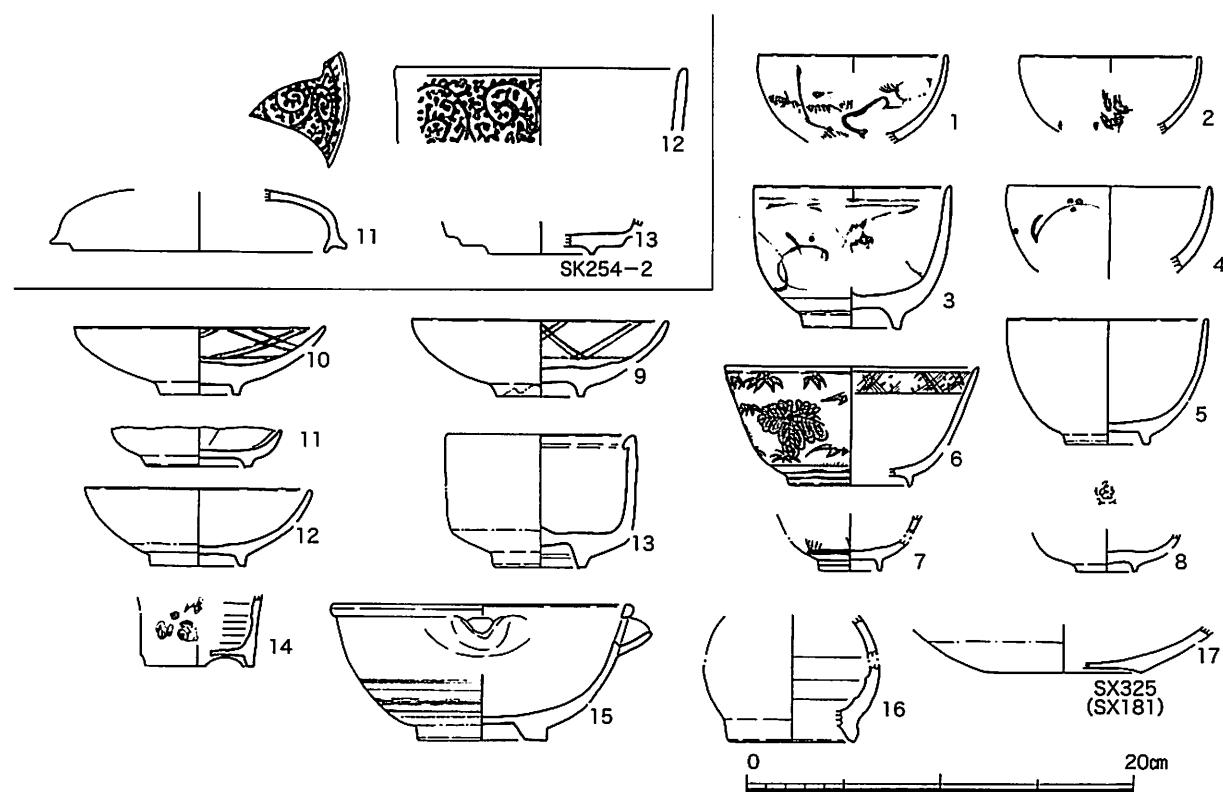
第49図 SK245・727・Pit371出土遺物実測図 (1/4)



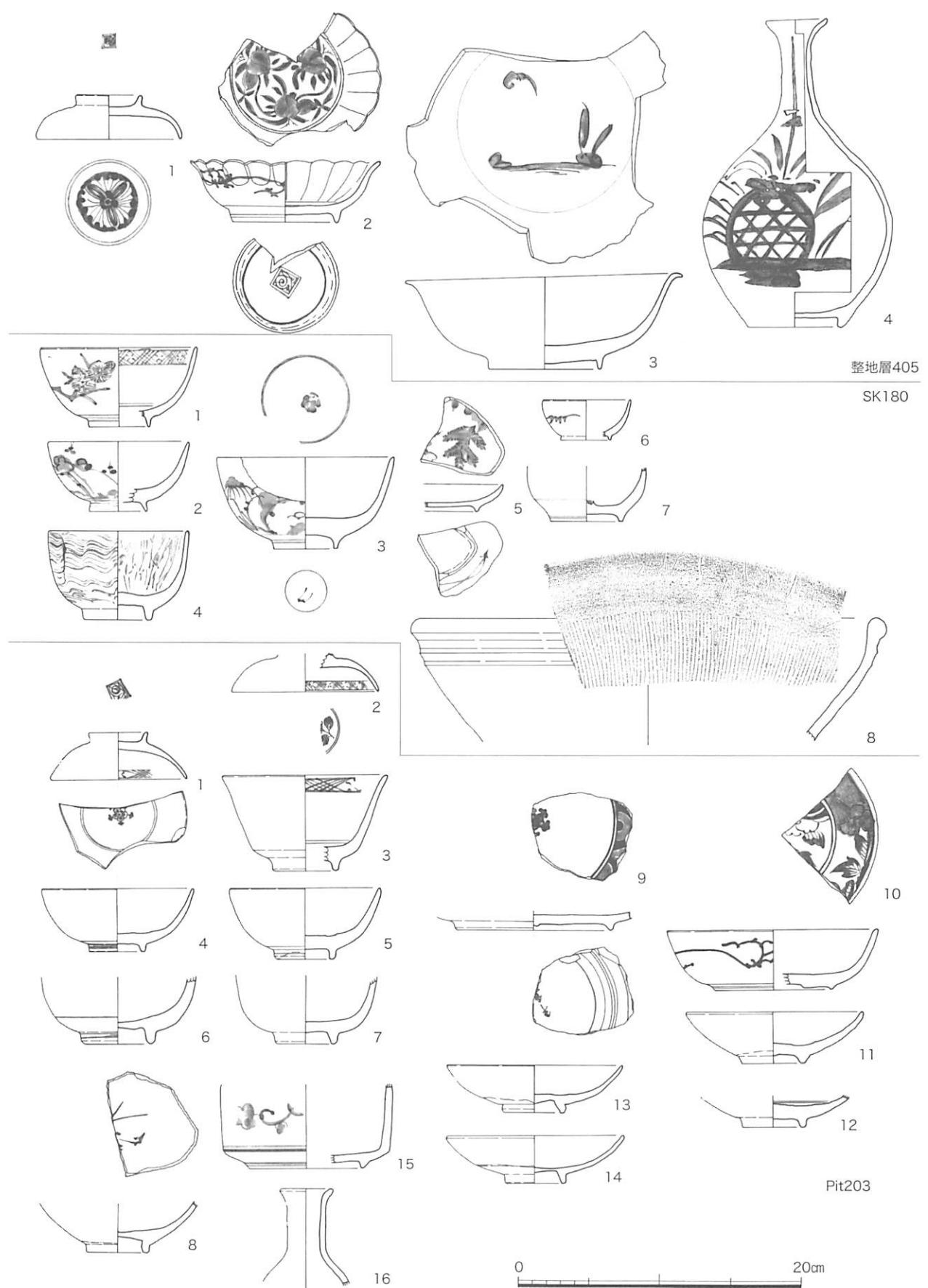
第50図 SK727・723・725出土遺物実測図（1/4）



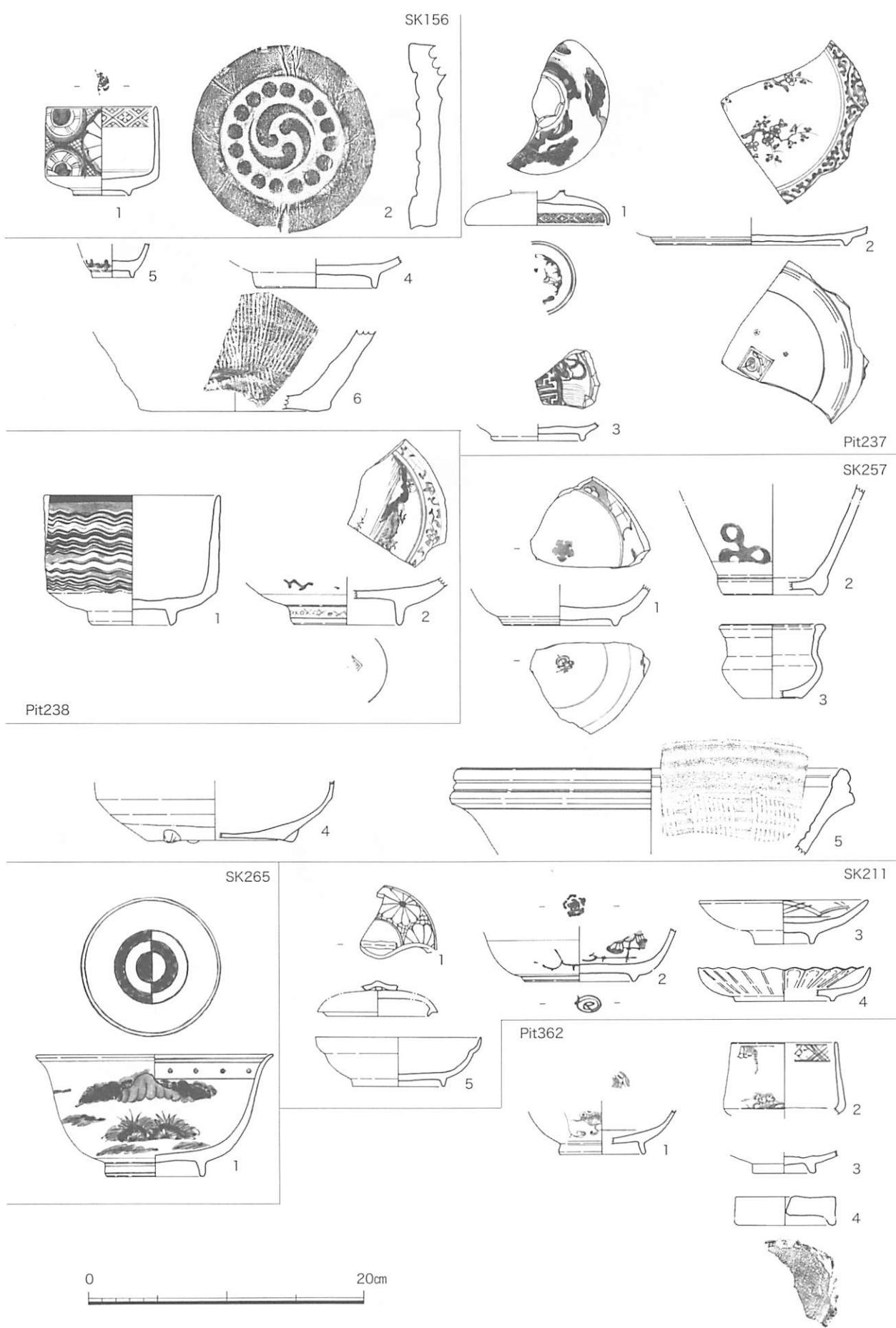
第51図 SK723・025・117・254・Pit201出土遺物実測図 (1/4)



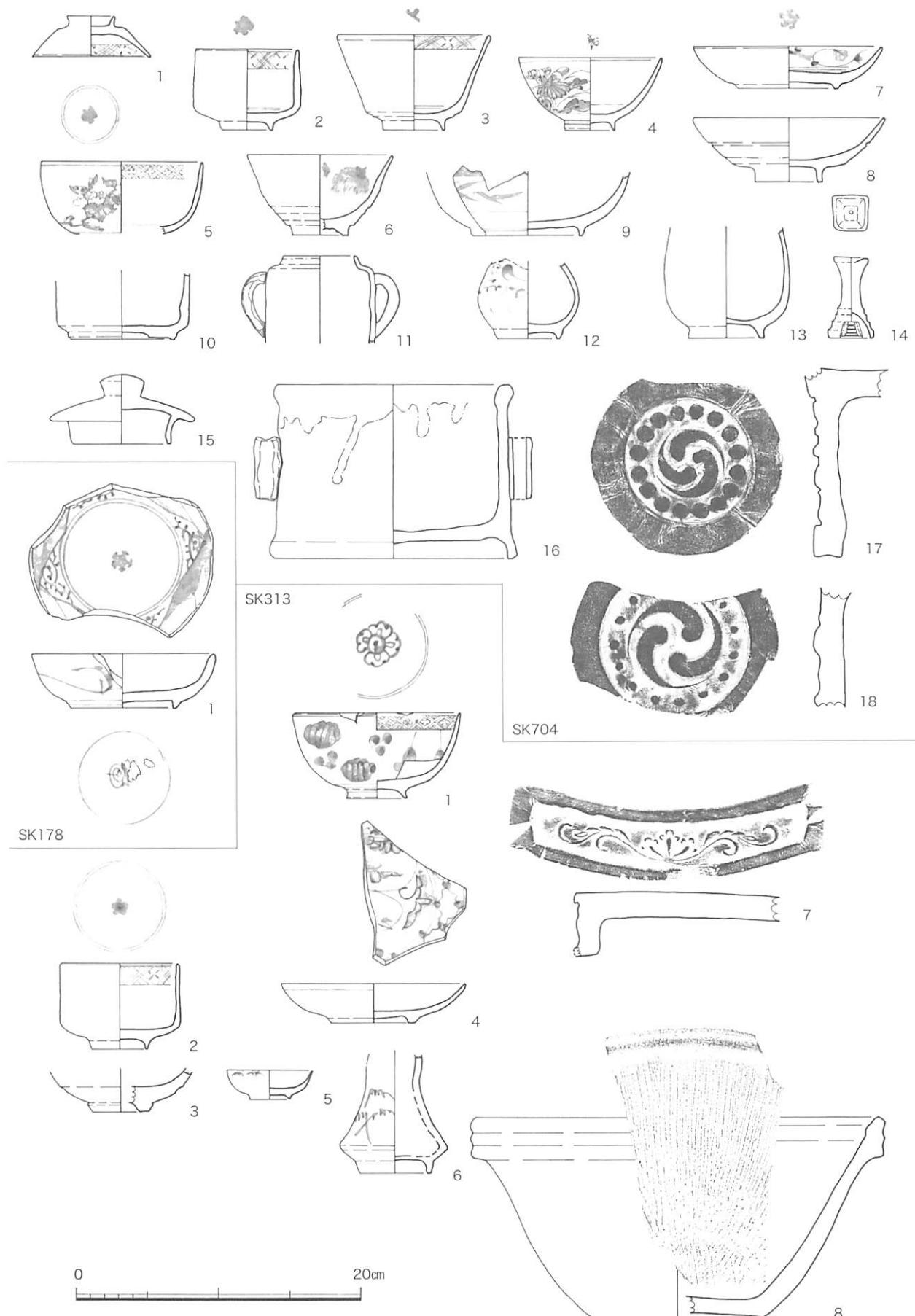
第52図 SX254・SK325(181) 出土遺物実測図(1/4)



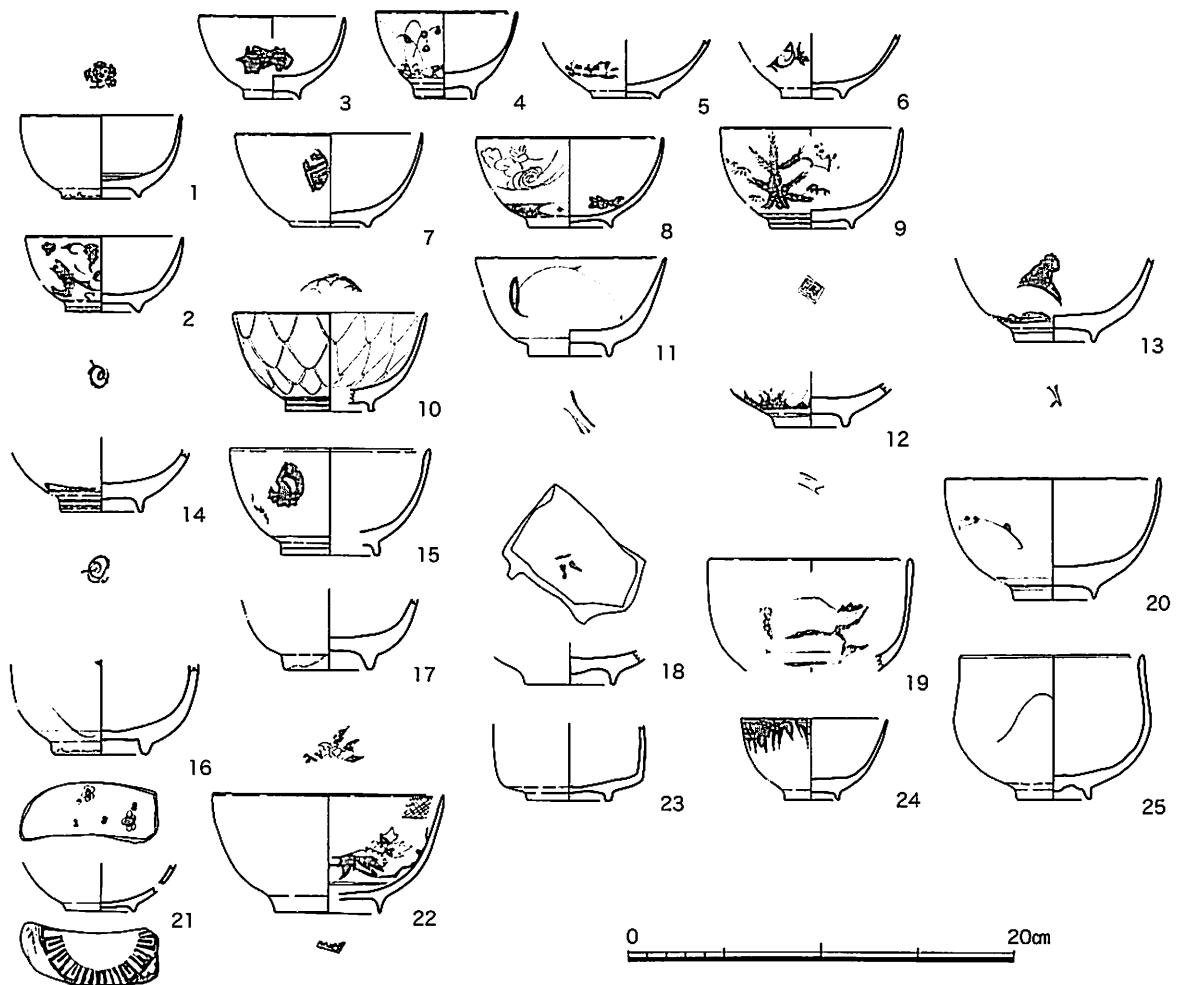
第53図 SK180・Pit203・整地層405出土遺物実測図 (1/4)



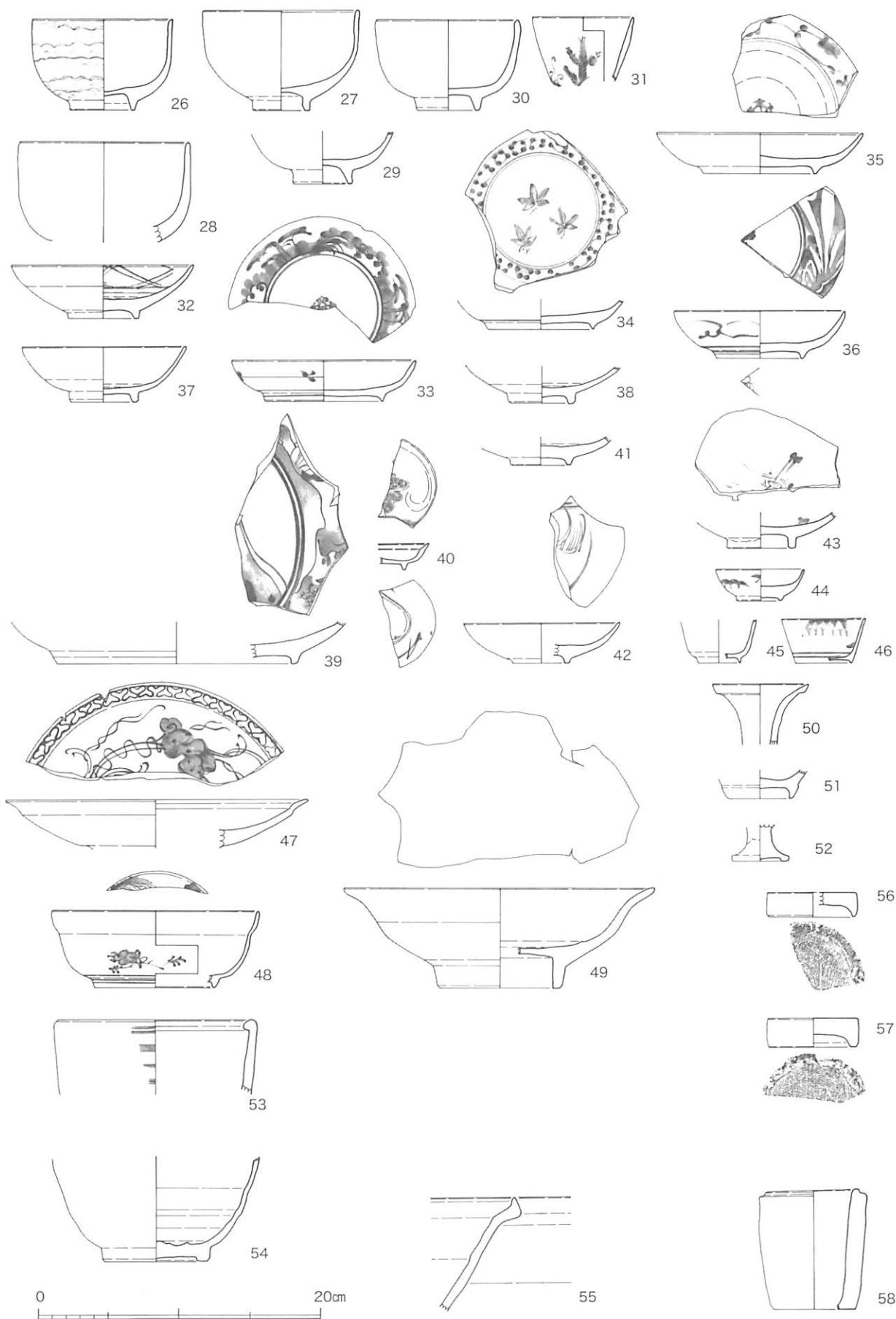
第54図 SK156・257・265・211・Pit237・238・362出土遺物実測図 (1/4)



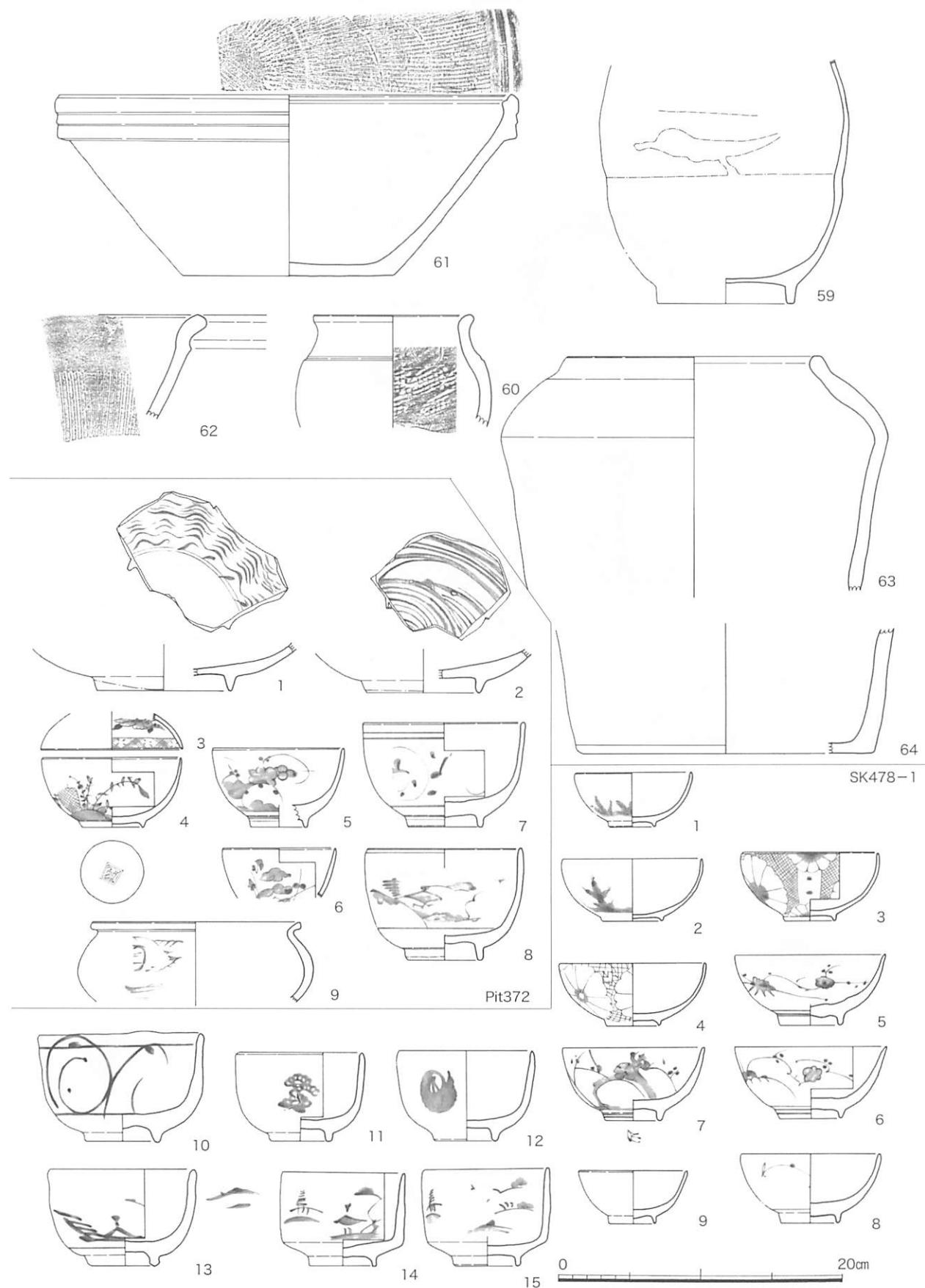
第55図 SK704・178・313出土遺物実測図 (1/4)



第56図 SK274出土遺物実測図① (1/4)

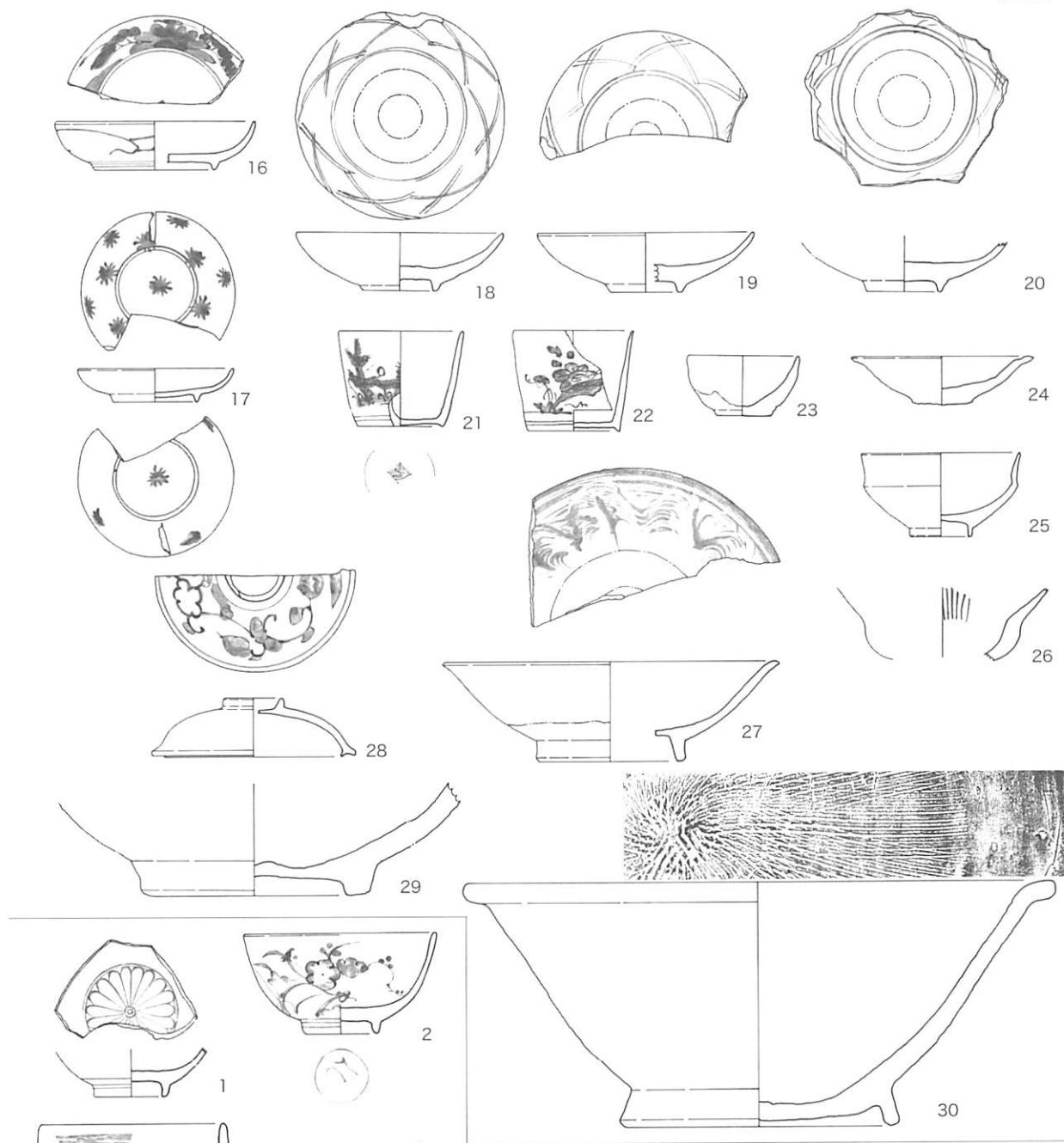


第57図 SK274出土遺物実測図② (1/4)

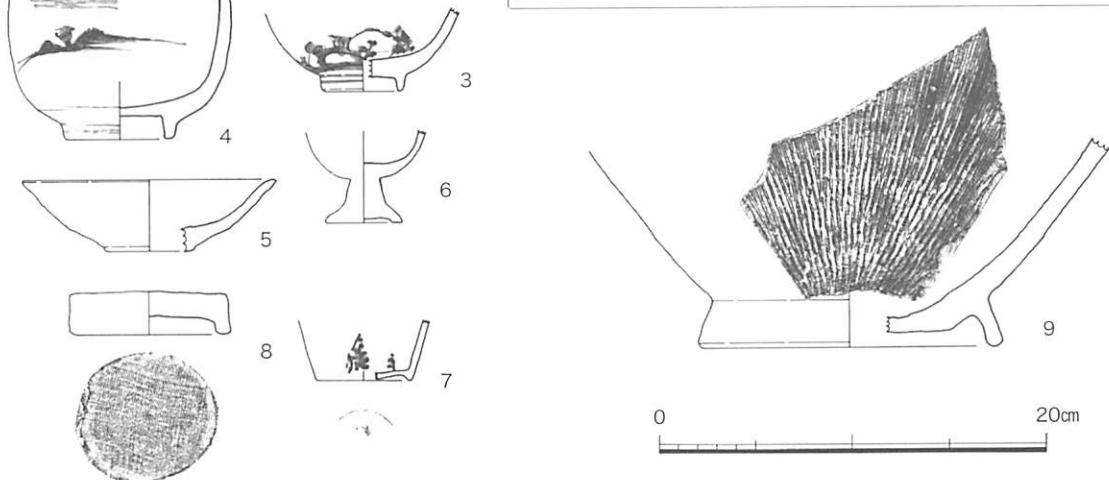


第58図 SK274・478・Pit372出土遺物実測図 (1/4)

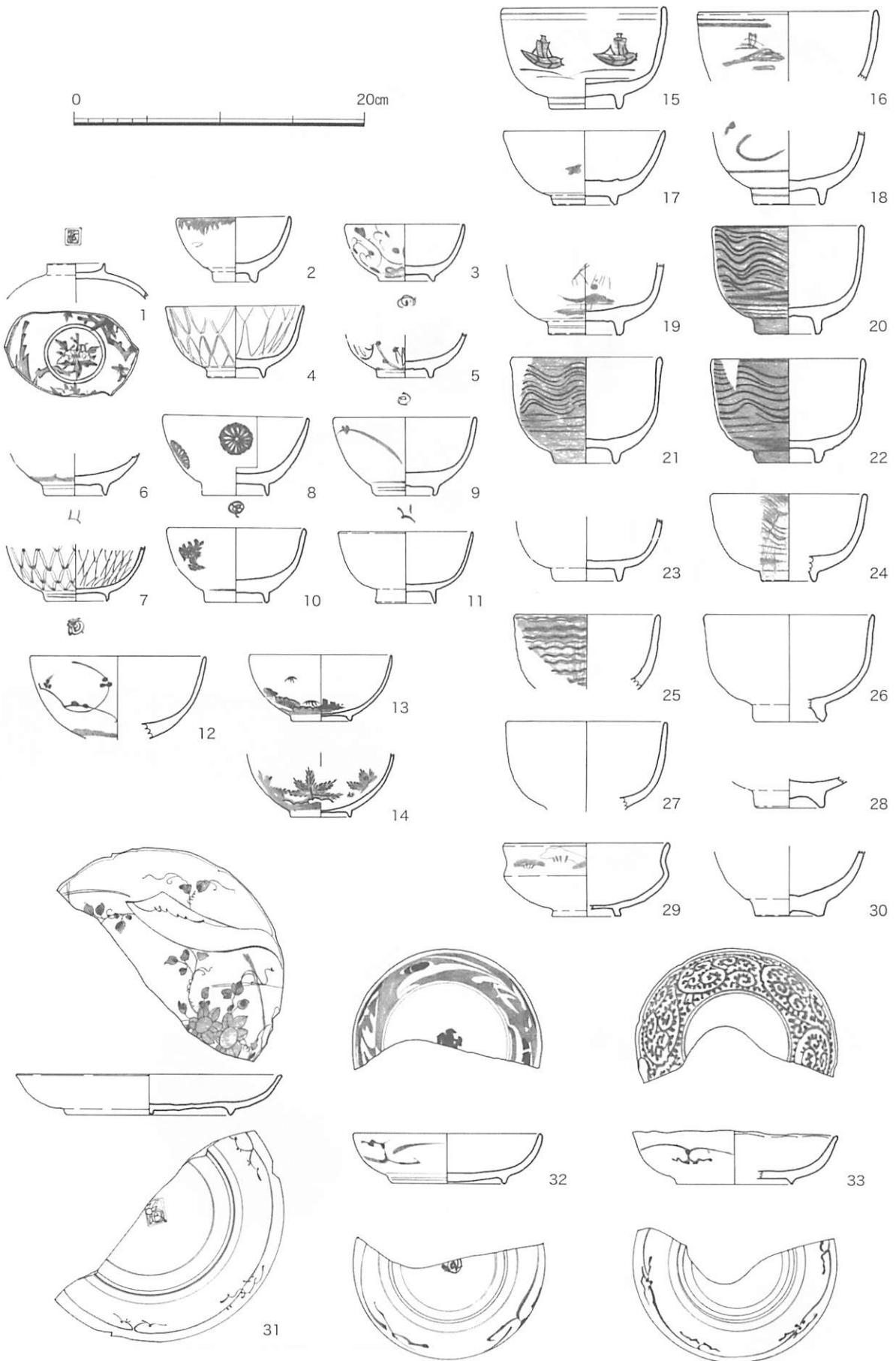
SK478-2



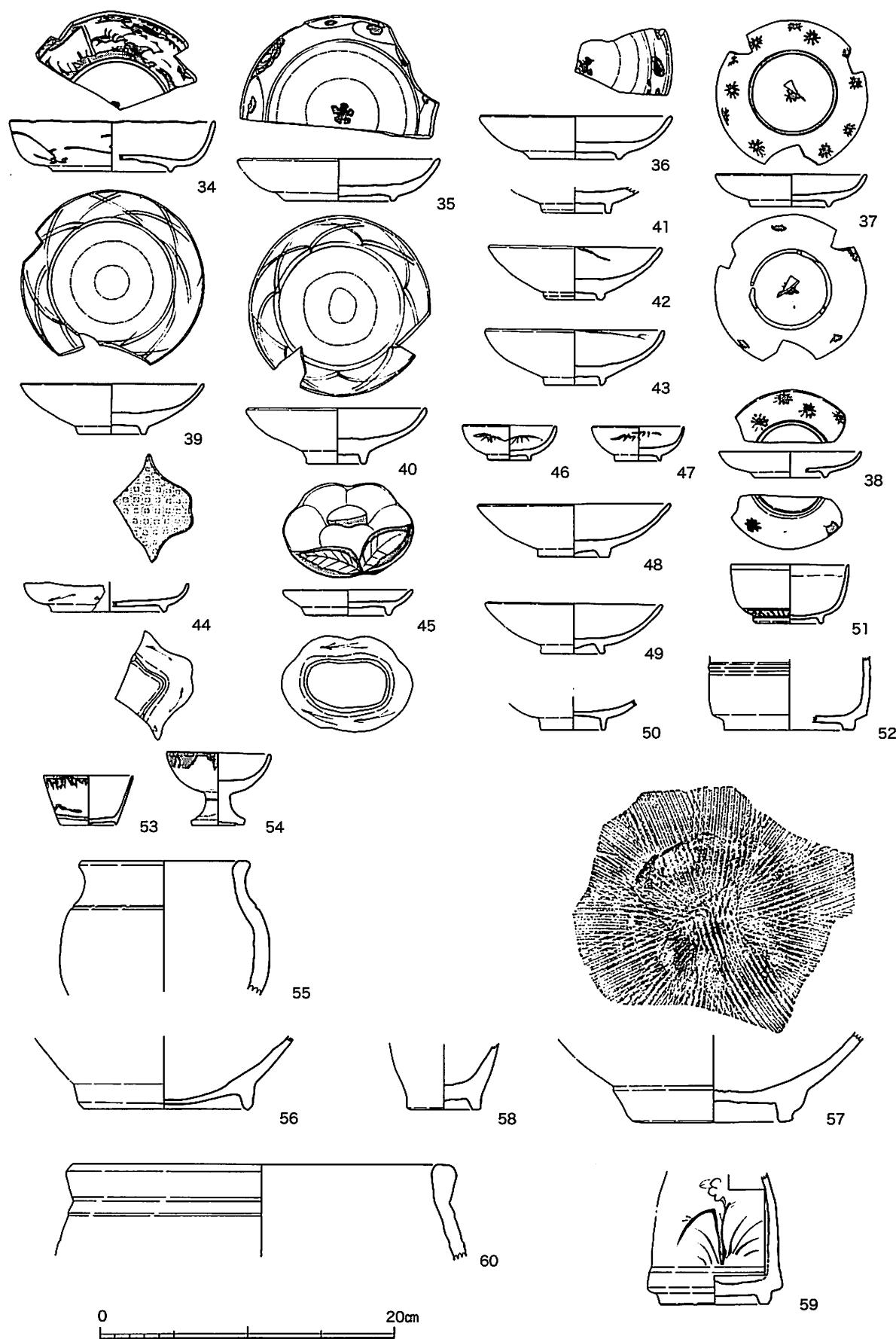
SK483



第59図 SK478・483出土遺物実測図 (1/4)

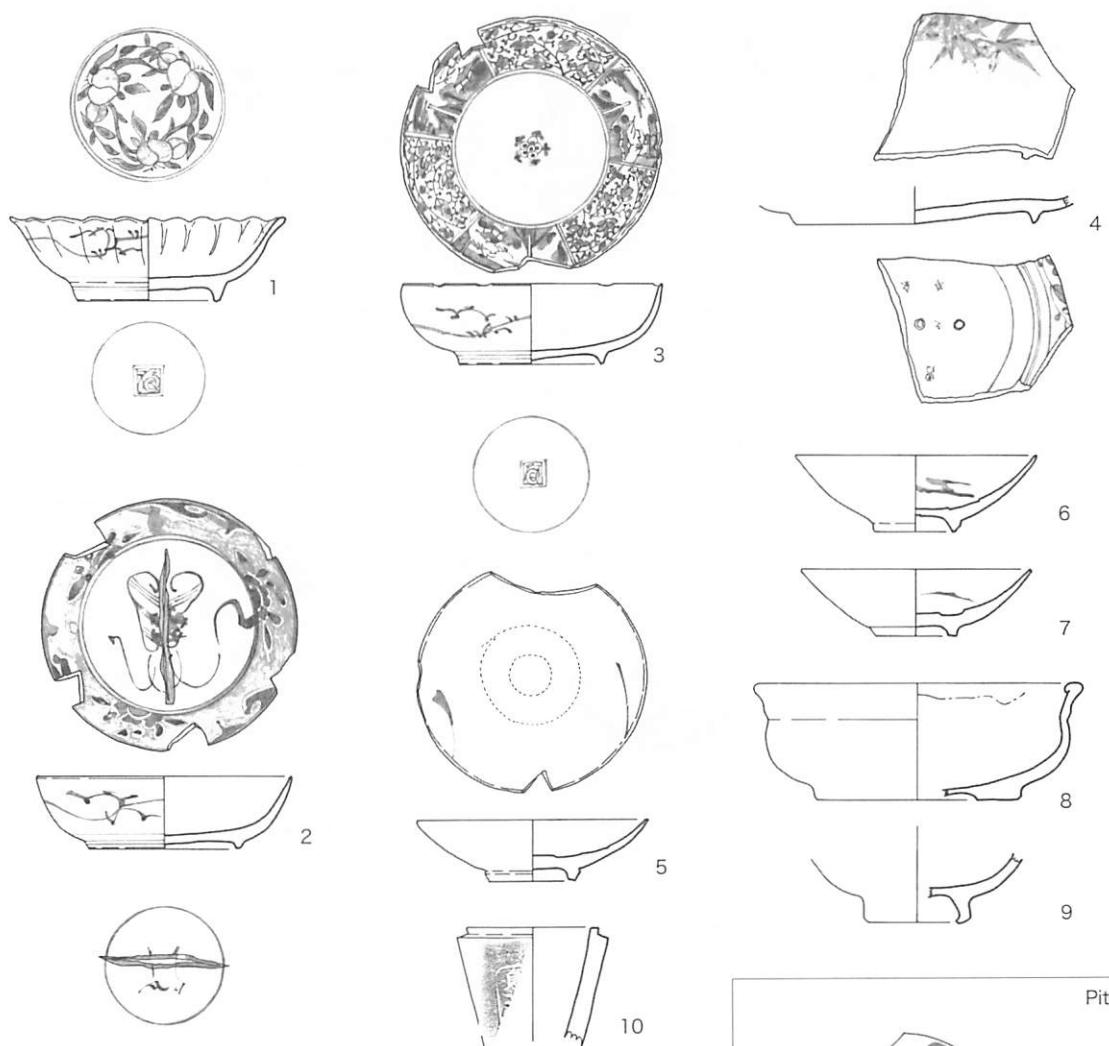


第60図 SK229出土遺物実測図① (1/4)

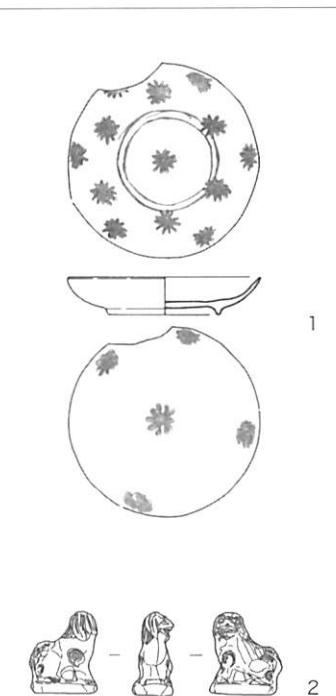
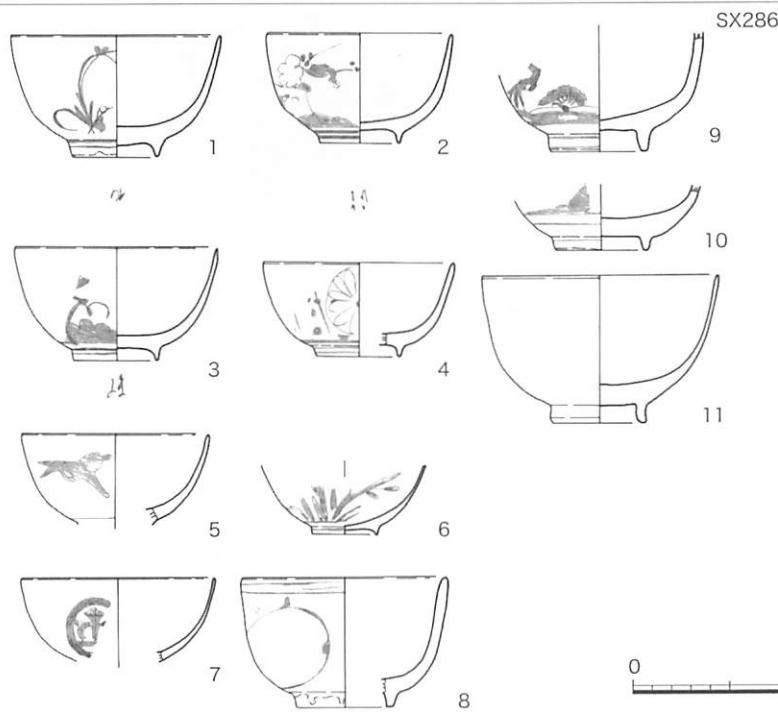


第61図 SK229出土遺物実測図② (1/4)

Pit119

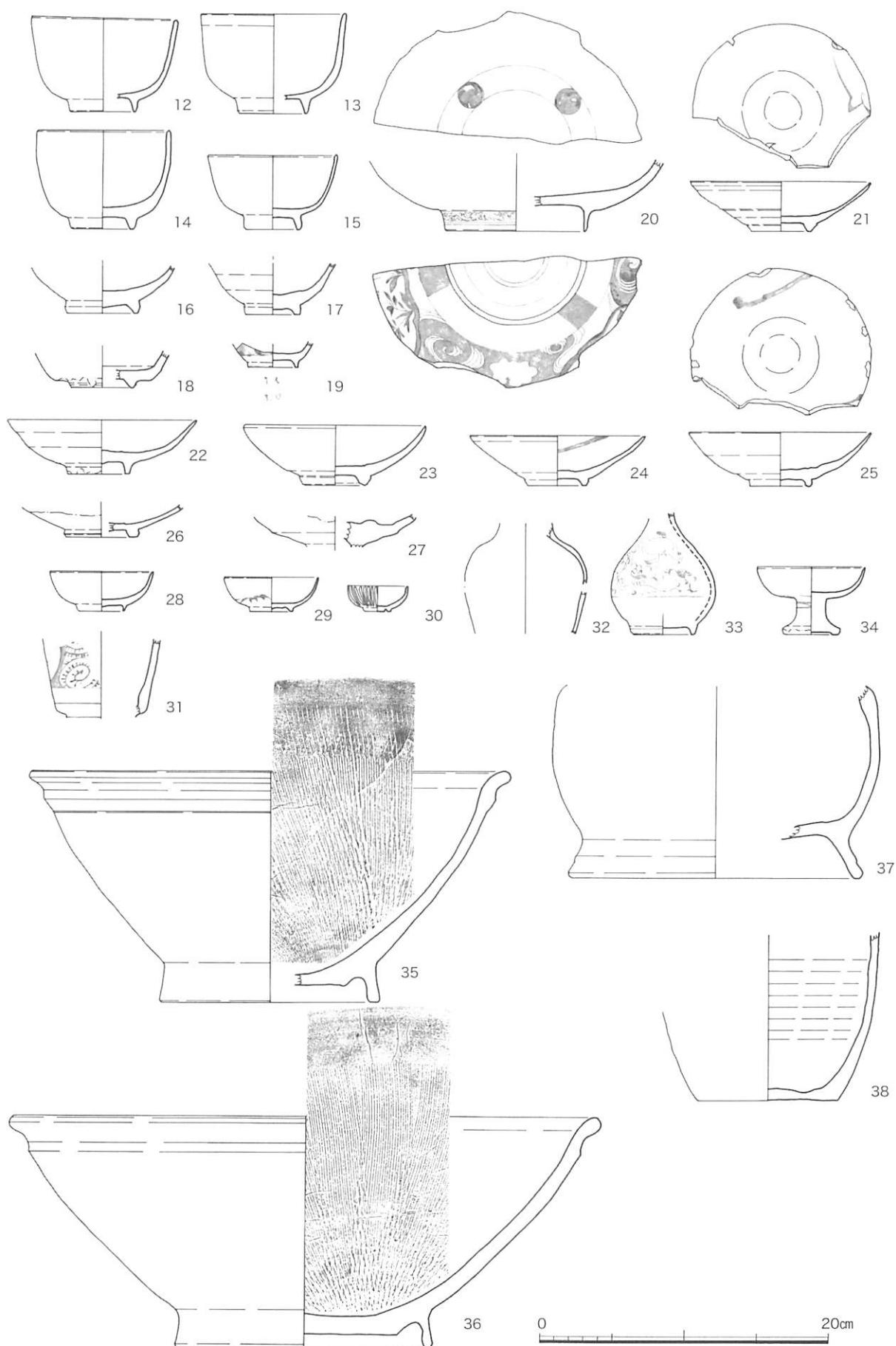


Pit428



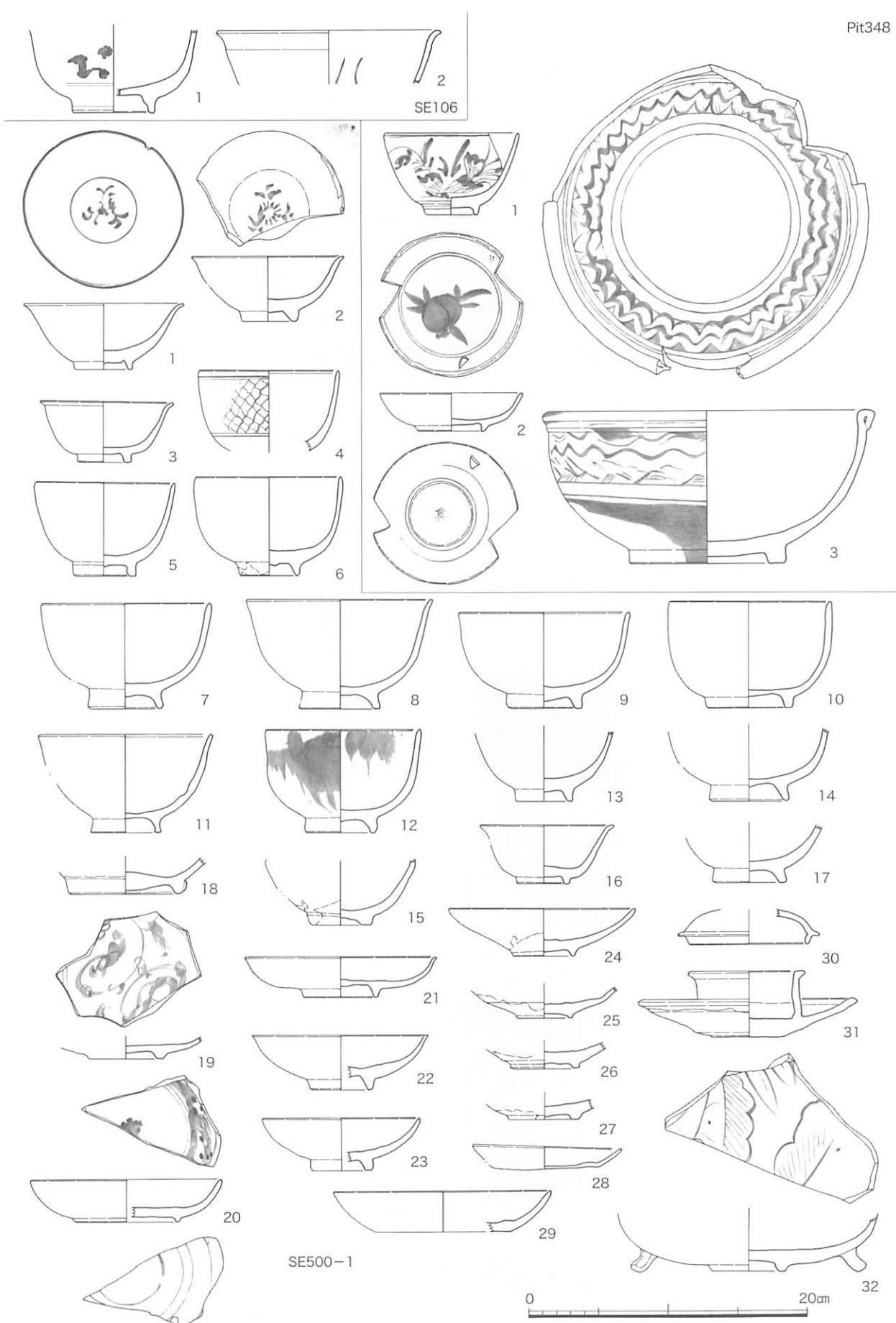
0 20cm

第62図 SX286・Pit119・428出土遺物実測図 (1/4)

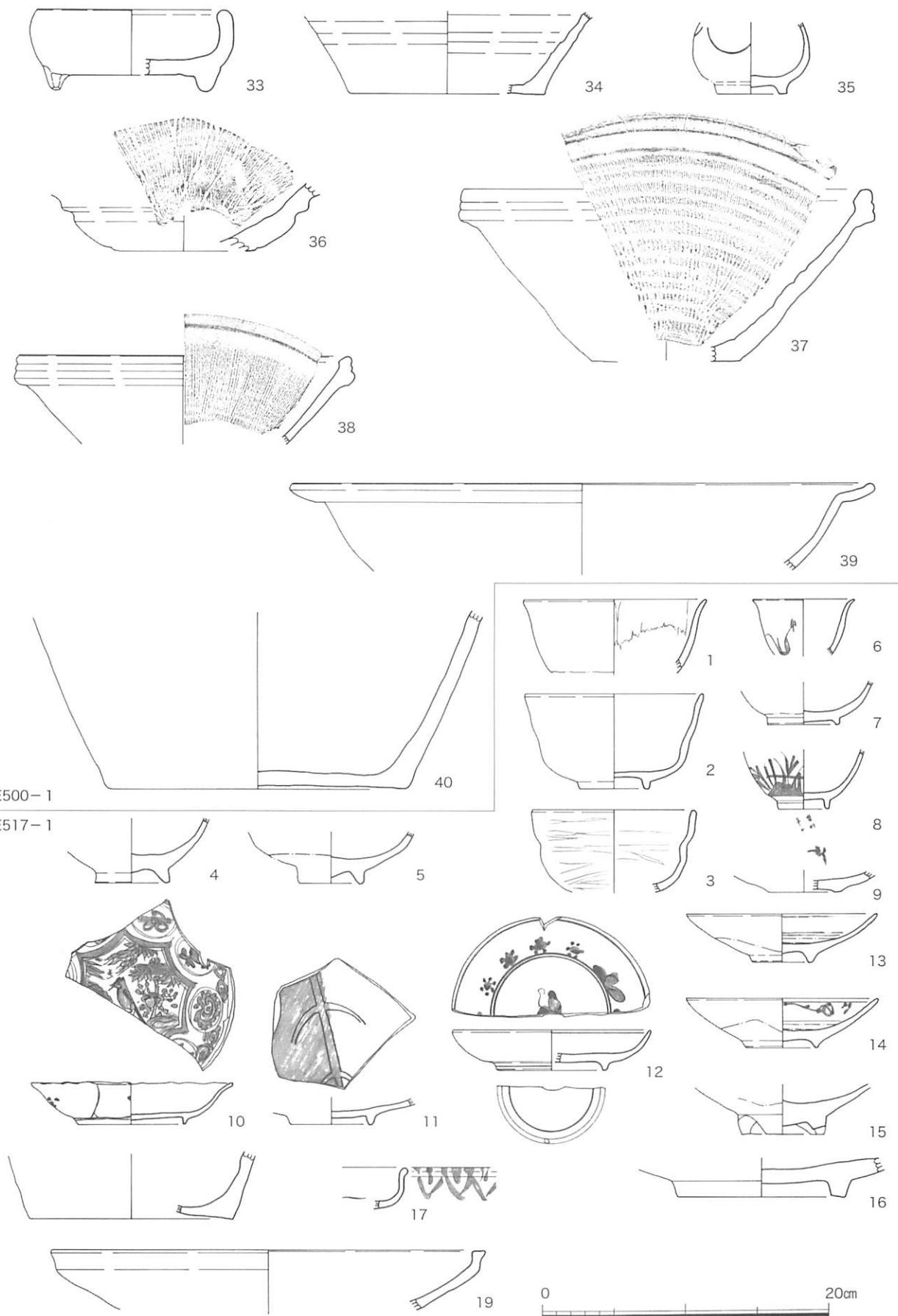


第63図 SX286出土遺物実測図② (1/4)

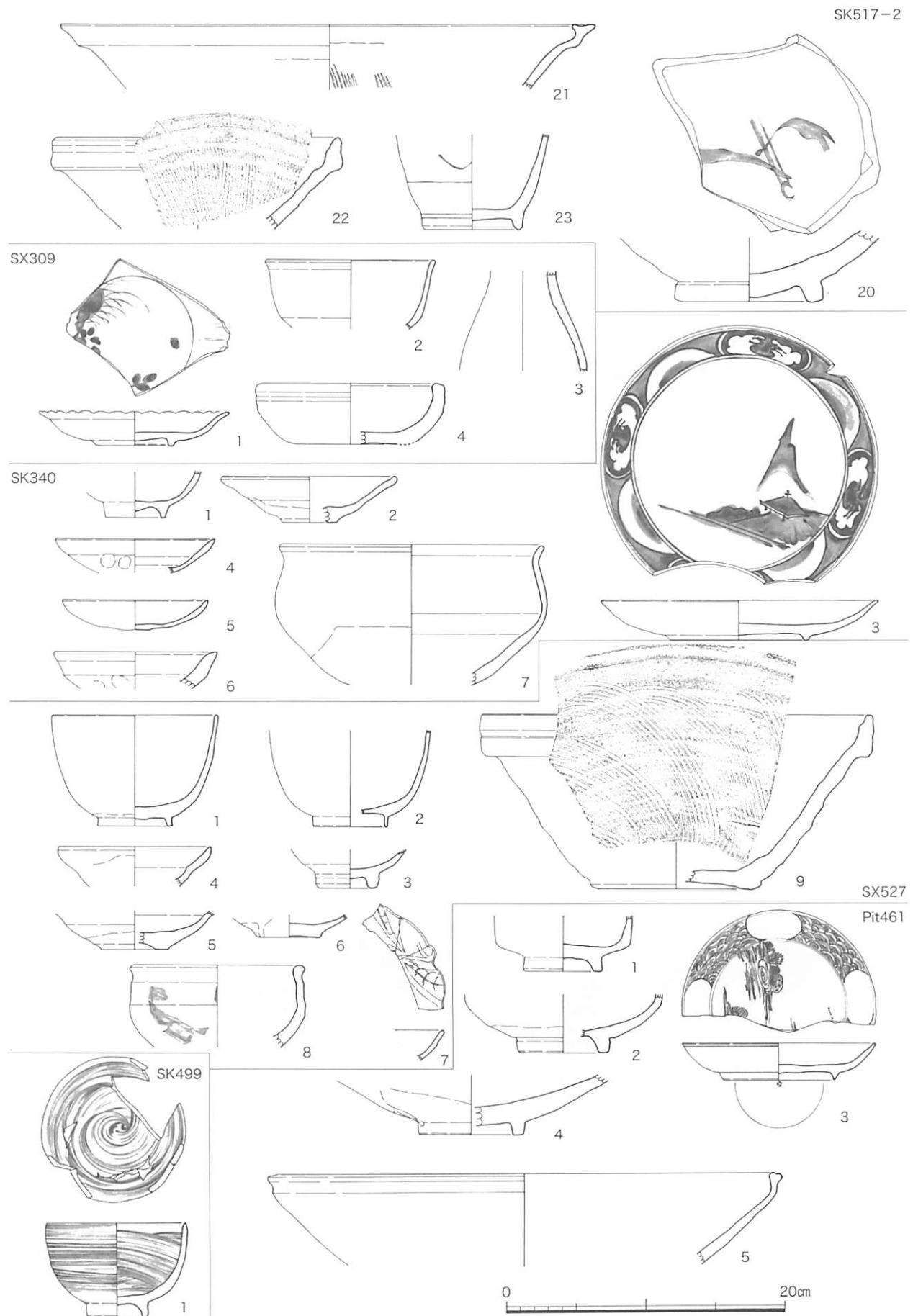
Pit348



第64図 SE106・500・Pit348出土遺物実測図 (1/4)

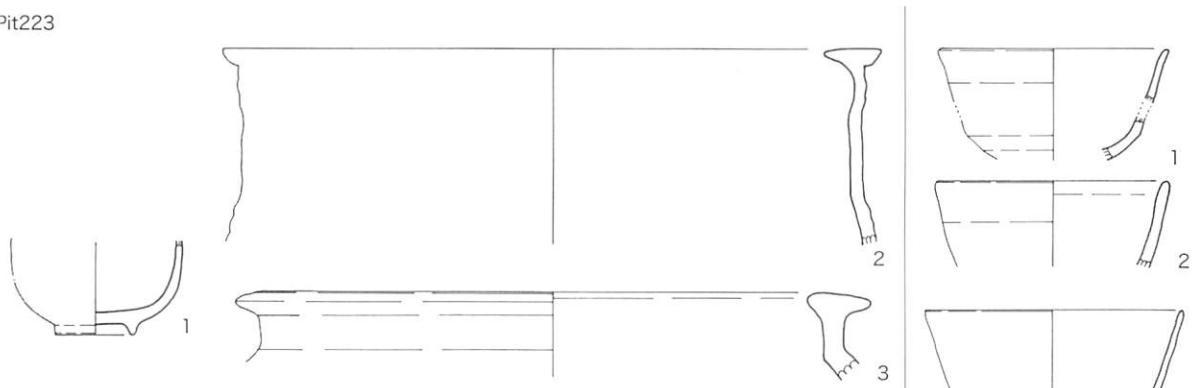


第65図 SE500・SK517出土遺物実測図 (1/4)

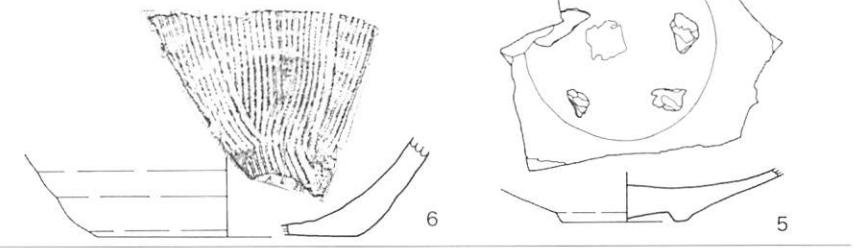
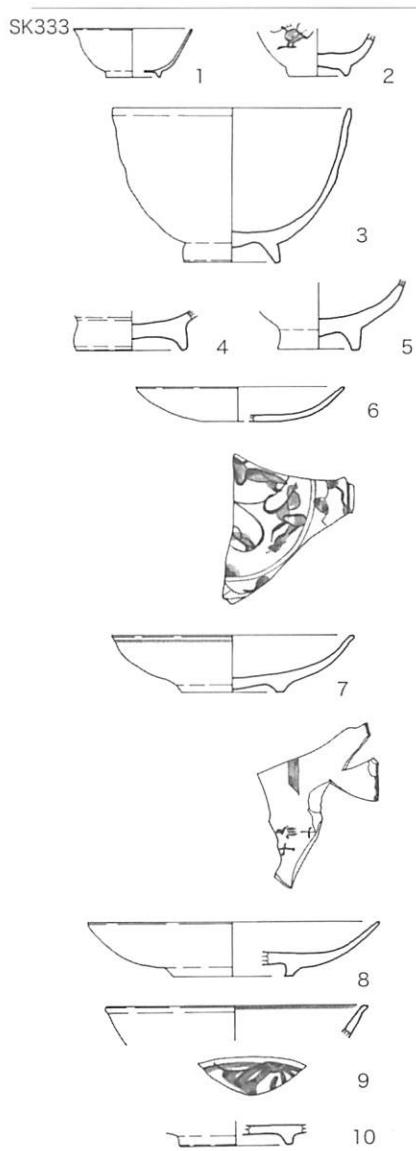
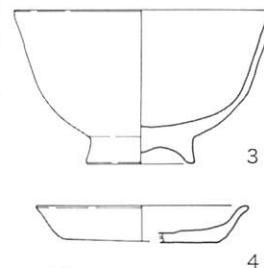


第66図 SK517・340・499・SX309・527・Pit461出土遺物実測図 (1/4)

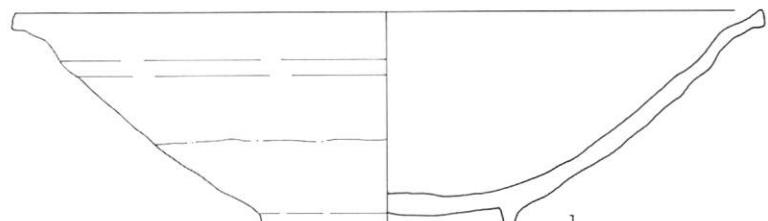
Pit223



SK327

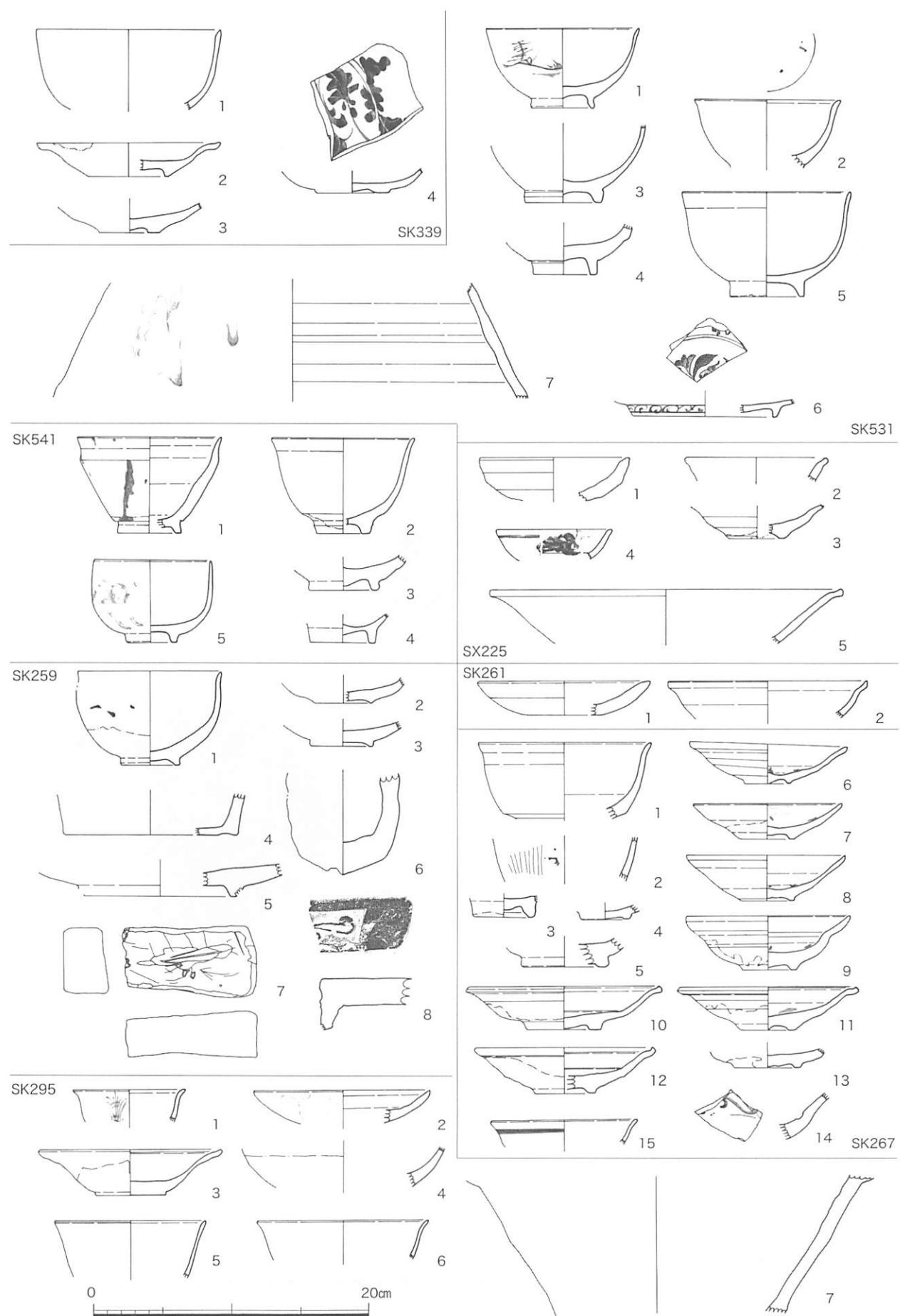


Pit336

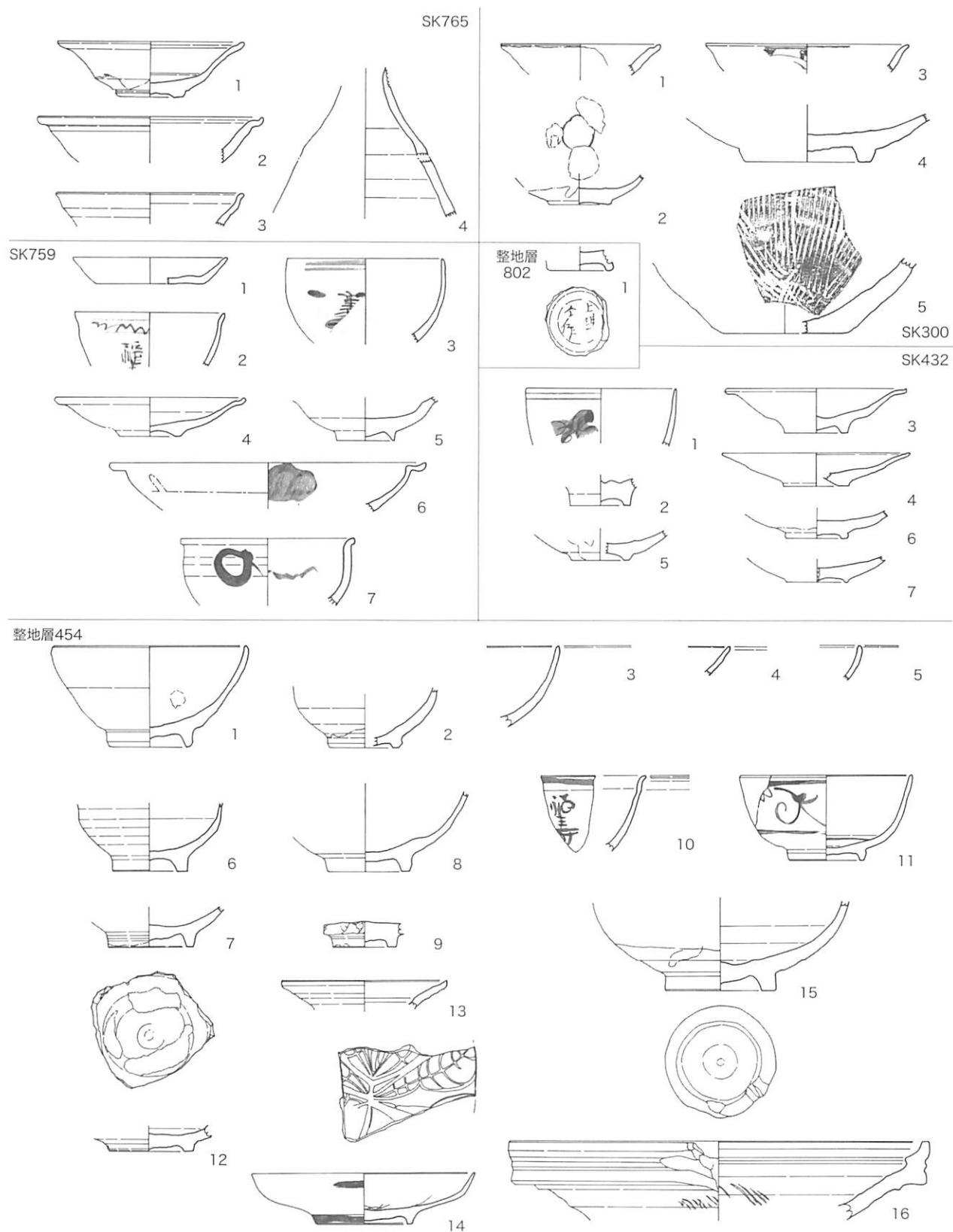


0 20cm

第67図 Pit223・336・SK327・333出土遺物実測図 (1/4)

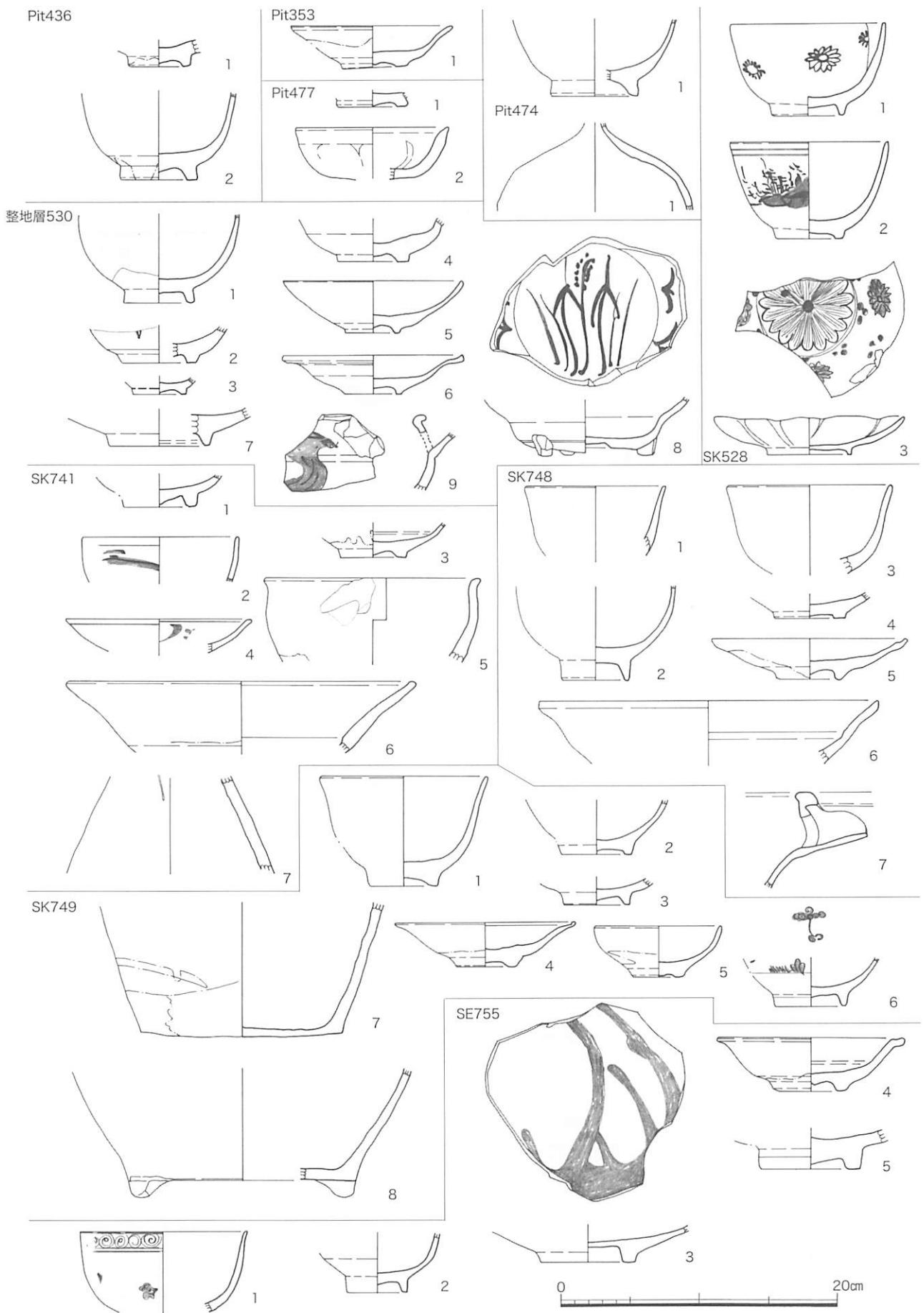


第68図 SK339・531・541・259・261・267・295・SX225出土遺物実測図 (1/4)

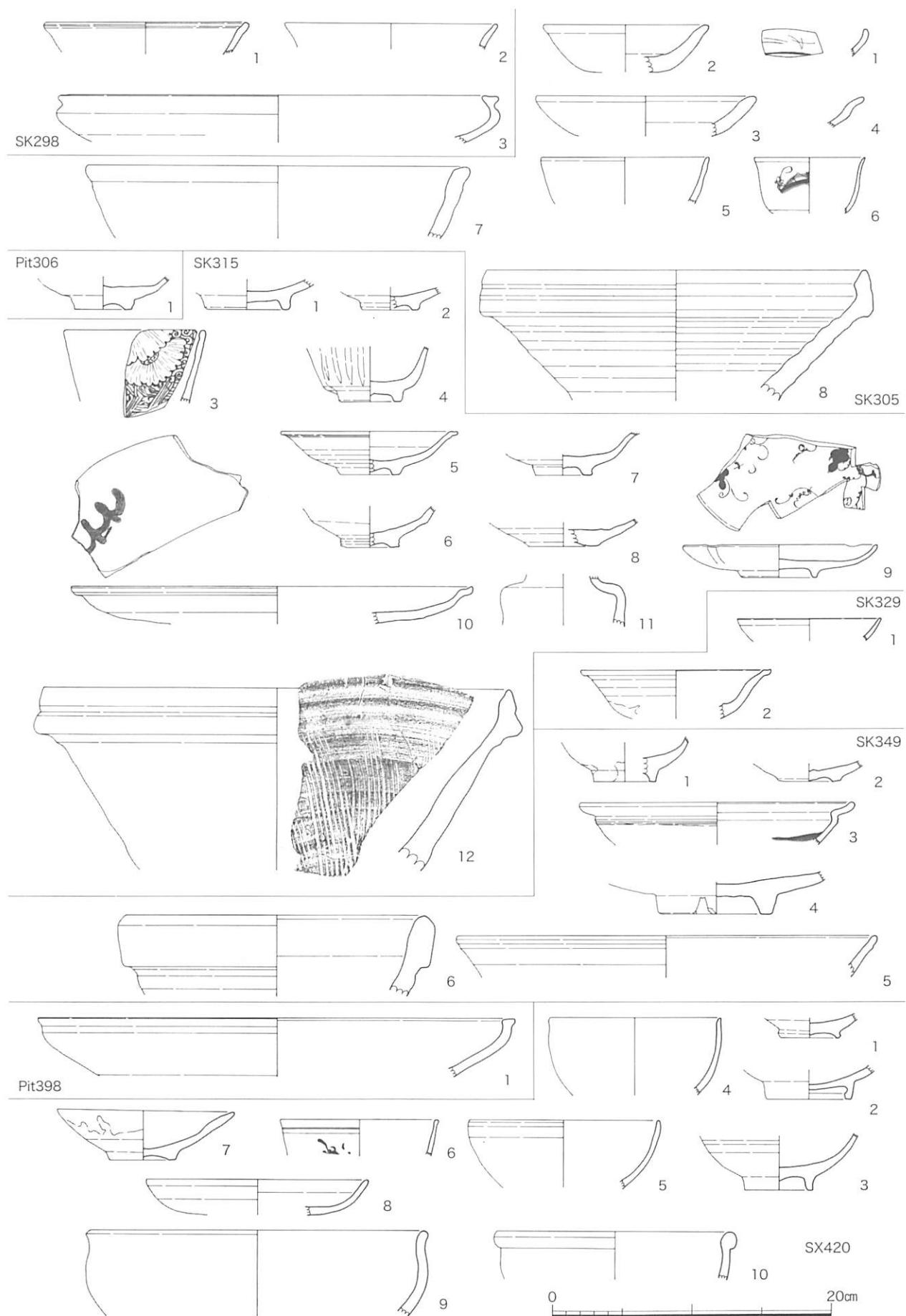


0 20cm

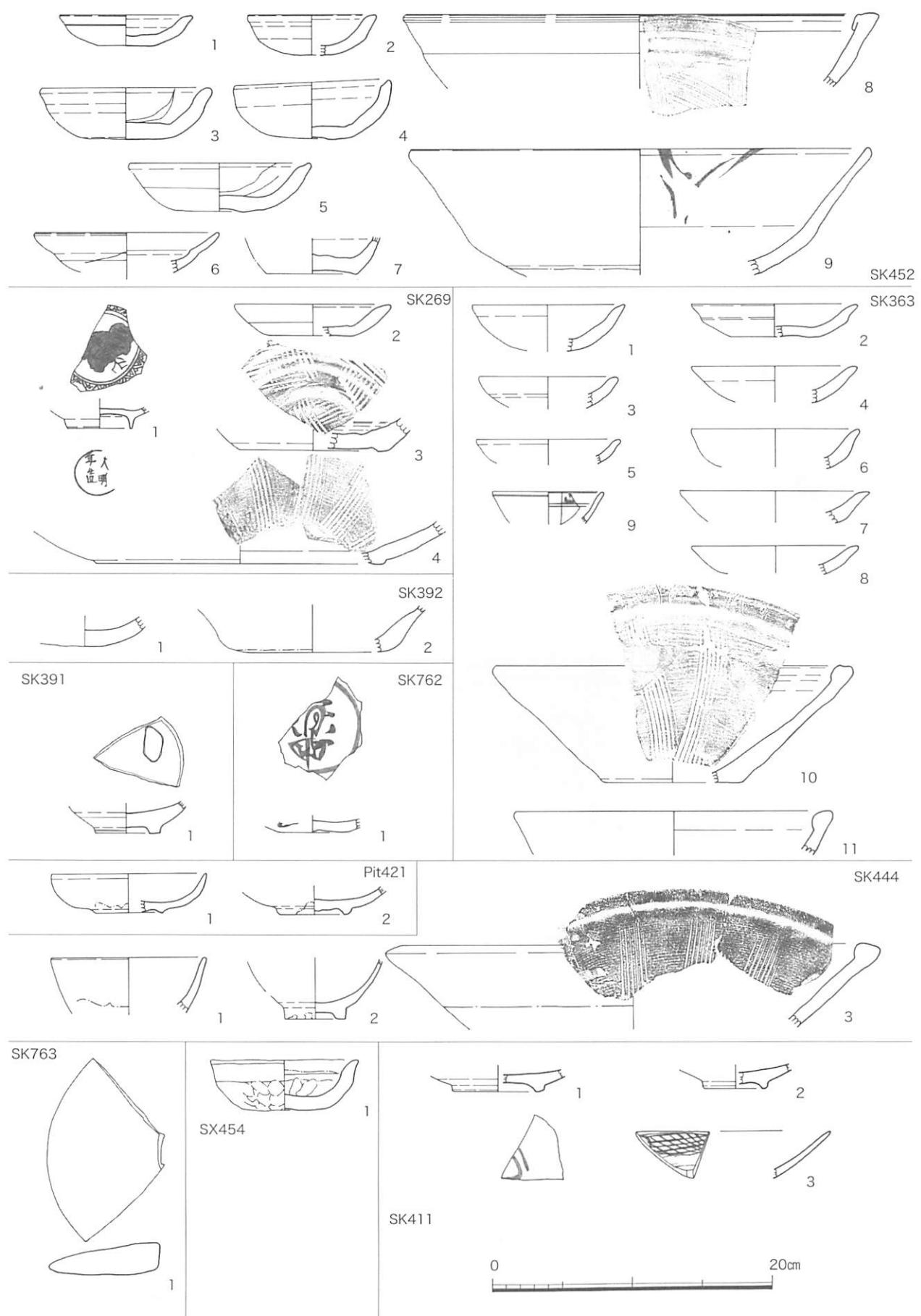
第69図 SK765・759・300・432・整地層802・454出土遺物実測図 (1/4)



第70図 Pit436・353・477・474・SK528・748・749・SE755・整地層530出土遺物実測図 (1/4)



第71図 SK298・305・315・349・SX420・Pit306・398出土遺物実測図 (1/4)



第72図 SK452・363・269・392・391・411・444・762・763・SX454・Pit421出土遺物実測図 (1/4)

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
SK369	1	染付	蓋	9.1	2.7	3.4	外：月・ススキ・雁/2とセット	近代	
/330	2	染付	碗	10.4	4.8	3.7	外：月・ススキ・雁/1とセット	近代	
	3	染付	蓋	(9.0)	2.6	3	花	近代	
	4	染付	碗	9.6	4.6	3.6	菊/漢詩/笪	近代	
	5	染付	碗	9.3	4.9	3.3	菊	近代	
	6	染付	碗	8.8	8.2	6	型紙摺り	近代	
	7	染付	碗	8.1	7.1	4.4	外：雁・草・月/内：山	近代	
	8	染付	皿	9.7	1.7	6	「浪花梅屋」	近代	
	9	染付	皿	10.2	2.1	6	壺・花/「為雲為柄楚裏王」	近代	
	10	染付	皿	9.5	2.5	4.6	龍	近代	
	11	染付	皿	10.3	1.8	6.4	牡丹と獅子	近代	
	12	色絵染付	皿	10	1.9	5.7	人物	近代	
	13	色絵染付	皿	9.9	1.9	5.6	人物	近代	
	14	色絵染付	皿	9.6	2.8	5.8	人物	近代	
	15	染付	皿	8.2	2.3	3	菊・蕉	近代	
	16	染付	碗	9.9	6.6	5.7	陶胎	近代	
	17	染付	水指	15.6	6.2	7.8		近代	
	18	色絵染付	小壺	6.4	2.8	2.4	船・網干	近代	
	19	色絵染付	小壺	6.1	3.2	2.4	軍配・菖蒲	近代	
	20	色絵染付	小壺	6.8	3	2.6	色絵素地	近代	
	21	色絵染付	小壺	6.8	3	2.6	色絵素地	近代	
	22	色絵染付	小壺	6.6	3.2	2.4	銘竹・雀	近代	
	23	色絵染付	小壺	7.2	3.2	3	若松・鶴	近代	
	24	色絵染付	小壺	6.6	2.5	2.4	「富貴長春」	近代	
	25	染付	小壺	6.6	5.1	3		近代	
	26	染付	小壺	6.5	4.7	2.4		近代	
	27	染付	小壺	7	4.6	2.8		近代	
	28	染付	小壺	6.8	4.9	2.8		近代	
	29	染付	小壺	7	4.8	2.6		近代	
	30	染付	レンゲ					近代	
	31	染付	蓋	8.8	2.7	3.7	端反碗蓋/環状松竹梅・雷文帯/花	1820~1860	肥前
	32	染付	蓋	8.8	2.5	4.1	花	18世紀後半	肥前
	33	染付	小碗	6.7	5.6	2.8	筒丸形碗	1850~1860	肥前
	34	染付	碗	10	5.5	4.1	端反碗	1850~1860	肥前
	35	染付	碗	9.8	5.6	3.6	端反碗	1850~1860	肥前
	36	染付	碗	10.3	5.6	4	端反碗	1850~1860	肥前
	37	染付	碗	10	6	3.6	端反碗	1850~1860	肥前
	38	染付	碗	10	5.6	4	端反碗/三重格子文	1850~1860	肥前
	39	染付	碗	9.8	5.5	3.2	端反碗	1850~1860	肥前
	40	染付	碗	10.4	5.9	3.8	端反碗	1850~1860	肥前
	41	染付	碗	10.8	4.9	3.8	端反碗/見込み蛇の目釉剥ぎ	1850~1860	肥前(波佐見)
	42	染付	碗	11.7	6.6	4.5	端反碗	1850~1860	肥前
	43	染付	碗	11.7	6.7	4.8	端反碗/花・鶴	1850~1860	肥前
	44	染付	碗	11.5	6.7	4.4	端反碗/笪	1850~1860	肥前
	45	色絵染付	小碗	8.8	3	4.3			肥前
	46	色絵染付	小碗	8.7	4.5	2.8			肥前
	47	陶器	小碗	8.6	4.3	2.9	端反碗/高台無釉	18世紀末~19世紀中頃	京・信楽
	48	陶器	小碗	9	5	3	端反碗/高台無釉	18世紀末~19世紀中頃	京・信楽
	49	陶器	小碗	6.6	4.7	2.6	緑釉/高台無釉		関西
	50	陶器	小碗	6.5	4.6	2.8	緑釉/高台無釉		関西
	51	白磁	皿	8.6	2.5	3.6	見込み蛇の目釉剥ぎ		肥前
	52	土師器	皿	5.6	1.1	2.6	施釉かわらけ		
	53	土師器	皿	5.4	0.9	3	施釉かわらけ		
	54	白磁	皿	9.3	2	5	寿文	19世紀中頃	瀬戸・美濃
	55	白磁	皿	12.7	3.9	7.2	蛇の目凹型高台/足付きハマ痕アリ	1780~1860	肥前
	56	陶器	皿	9.5	1.6		小判皿/緑釉/龍	1830~1844	淡路
	57	染付	皿	13.3	3.1	8.2	蛇の目凹型高台/内：山水/外：唐草	1820~1860	肥前
	58	染付	皿	13	3.1	8.1	蛇の目凹型高台/外：唐草	1820~1860	肥前
	59	染付	皿	13.5	4.2	7.9	蛇の目凹型高台/足付きハマ痕アリ/雷文帯/花	1780~1860	肥前

表12 その他主要遺構出土遺物観察表①

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
SK369	60	染付	皿	12.6	3.9	8.1	蛇の目凹型高台/内：花・蝶/外：唐草	1820~1860	肥前
/330	61	染付	皿	(15.6)	4.3	8.4	蛇の目凹型高台/楼閣山水/口紅	1820~1860	肥前
	62	染付	皿	14.8	4.5	9	蛇の目凹型高台/足付きハマ痕アリ/雷文帯/花/唐草	1780~1850	肥前
	63	染付	皿	15.2	4.7	9	蛇の目凹型高台/内：環状松竹梅・花/外：唐草	1820~1860	肥前
	64	染付	皿	13	3.3	7.2	蛇の目凹型高台/山水/唐草	1820~1860	肥前
	65	染付	皿	24.7	4.3	9.7	軟質陶器質胎土/朝顔		
	66	染付	鉢	15	7.7	7.1	内：樓閣山水/燒繼アリ/燒繼文字「□□や□□□□□□」		肥前
	67	染付	鉢	18	5.6	10.3	蛇の目凹型高台/内：人物・花/外：花	1820~1860	肥前
	68	染付	鉢	13	4.5	6.4	蛇の目凹型高台	1820~1860	肥前
	69	染付	鉢	15.5	7.3	6.9	蛇の目凹型高台/足付きハマ痕アリ	1820~1860	肥前
	70	染付	鉢	15.4	6.4	6.7	蛇の目凹型高台/足付きハマ痕アリ/雷文帯	1820~1860	肥前
	71	染付	鉢	16.2	5.8	6.2	筆/菖蒲		肥前
	72	陶器	鉢	15.6	8.3	6.4	目跡アリ		
	73	陶器	鉢	15.8	5.7	8.5	緑釉	1830~1844	淡路
	74	陶器	灯火具	8.7	1.9	3.8	油皿	19世紀中頃	京・信楽
	75	陶器	灯火具	10.8	2.3	4	油皿	19世紀中頃	京・信楽
	76	陶器	灯火具	10.4	1.7	4	受付皿	19世紀中頃	京・信楽
	77	陶器	灯火具				ひょうそく/褐釉	19世紀前半	瀬戸・美濃
	78	陶器	灯火具				ひょうそく/褐釉	19世紀前半	瀬戸・美濃
	79	陶器	灯火具				ひょうそく/褐釉	19世紀前半	瀬戸・美濃
	80	染付	蓋付鉢	(9.0)	(5.0)	(8.6)			肥前
	81	染付	蓋付鉢	(7.6)	3		蓋		肥前
	82	染付	蓋付鉢	6.9	2.6	4.4			肥前
	83	陶器	カンテラ					19世紀中頃	京・信楽
	84	色絵染付	脚付壺	6.2					肥前
	85	染付	脚付壺	(6.8)					肥前
	86	陶器	蓋	5.2	1.6	3.4	土瓶蓋	18世紀後半	九州
	87	陶器	水注	7	9.5	8		19世紀中頃	瀬戸・美濃
	88	陶器	行平	14.2	5.5	5.3	飛びガンナ	18世紀末~19世紀前半	関西
	89	陶器	行平	(18.0)	9.7	8.1	飛びガンナ	18世紀末~19世紀前半	関西
	90	陶器	土瓶	(5.1)	7.7	4.7	不明墨書きアリ		
	91	陶器	土瓶	8.6					
	92	陶器	土瓶	10	11.6	8.5			
	93	陶器	土瓶	9.2	11.5	8.6			
	94	陶器	溲瓶	7.2	15.2	12	褐釉	19世紀中頃	瀬戸・美濃
	95	染付	瓶	1.4	13.8	4	蛸唐草	19世紀前半	肥前
	96	染付	瓶			2.4		19世紀前半	肥前
	97	白磁	瓶			5.2		19世紀前半	肥前
	98	陶器	瓶	4					
	99	陶器	瓶	4					
	100	陶器	酒器	5.2	22.8	7.2			京・信楽
	101	陶器	酒器	4.5					京・信楽
	102	陶器	甕	35.5	37.1	15.6	唐津	18世紀	肥前
	103	土師質	焜炉	20.7	20.2	18.4	円形/長方形スカシ	19世紀前半~中頃	在地
	104	土師質	焜炉	(19.2)	(12.8)	(21.0)	円形/円形スカシ(3連)	19世紀前半~中頃	在地
	105	瓦質土器	焜炉	(14.0)			円形/外面木目压痕アリ	19世紀前半~中頃	在地
	106	土師質	焜炉	(12.0)	(9.4)	(14.8)	円形/円形スカシ	19世紀前半~中頃	在地
	107	瓦質土器	焜炉			(24.4)		19世紀前半~中頃	在地
	108	土師質	焜炉	(34.6)				19世紀前半~中頃	在地
	109	瓦質土器	火鉢	22.6	7.7	16		19世紀前半~中頃	在地
	110	瓦質土器	火鉢	22.4			箱火鉢	19世紀前半~中頃	在地
SK719	1	陶器	瓶掛			17	「寛政十二歳 一久 壱申月下旬」墨書きアリ SK184-18と同一器体/自体は混入品	19世紀前半~中頃	瀬戸・美濃
SK724	1	染付	碗	(12.8)	6.7	7	広東碗/楼閣山水	1780~1810	肥前
	2	染付	碗	7.5	4.7	6.2	内：雷文帯/外：梅・竹/焼継アリ・焼継文字	1820~1860	肥前
SK137	1	染付	蓋	(8.0)	(2.6)	(3.0)	端反碗蓋	1820~1860	肥前
	2	染付	蓋	10	3	4.3	内：四方櫻・花/外：花	18世紀後半	肥前
	3	染付	蓋	(10.0)	(3.4)	(4.2)	端反碗蓋/山水	1820~1860	肥前
	4	染付	蓋	(9.2)			蓋付鉢/梅	18世紀後半	肥前
	5	染付	蓋		2.5	3.4	素描/内：環状松竹梅・雷文帯/外：花	1820~1860	肥前

表13 その他主要遺構出土遺物観察表②

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
SK137	6	染付	蓋	10.4	3.1	4.1	素描/内:花・雷文帯/外:花	1820~1860	肥前
	7	染付	蓋	9.1	2.5	3.8	端反碗蓋	1820~1860	肥前
	8	染付	蓋	10.5	3.1	4.6	端反碗蓋	1820~1860	肥前
	9	染付	蓋	8.9	2.8	3.6	端反碗蓋/松・鶴・太陽/17碗とセット	1820~1860	肥前
	10	染付	蓋	8.8	2.9	3.4	端反碗蓋	1820~1860	肥前
	11	染付	碗	9.5	4.8	3.6	素描/内:環状松竹梅・雷文帯/外:花・焼緋アリ・焼緋文字「安殿」	1820~1860	肥前
	12	染付	碗	10.4	5.3	3.7	内:環状松竹梅・雷文帯/外:花	1820~1860	肥前
	13	染付	碗	(7.8)			格子地菊花	1780~1810	肥前
	14	染付	碗	(8.6)			蛸唐草		
	15	染付	小碗	6.2	5.1	3	丸文	1850~1860	肥前
	16	染付	碗	(10.9)	6.1	4	丸文	1850~1860	肥前
	17	染付	碗	9.7	5.5	3.5	端反碗/松・鶴・太陽/9・10蓋とセット	1820~1860	肥前
	18	染付	碗	(12.4)	6.4	6.1	外:牡丹唐草/内:四方襷	18世紀後半	肥前
	19	染付	碗	8.8	4.9	3.7	端反碗/焼緋アリ・焼緋文字「竹町孫十郎様」	19世紀前半	瀬戸・美濃
	20	染付	碗	9.3	4.4	4.4	花唐草文/清朝磁器/景德鎮	18世紀末~19世紀前半	中国
	21	染付	碗	9.2	4.8	4.3	花唐草文/清朝磁器/景德鎮	18世紀末~19世紀前半	中国
	22	染付	小杯	6.6	3.3	2.1	梅	19世紀前半	肥前
	23	染付	小杯	6.8	3	2.5	達磨	19世紀前半	肥前
	24	染付	小杯	8.6	4.1	3.7	蝙蝠/花	1820~1860	肥前
	25	染付	小杯	(7.6)(4.1)(3.0)				肥前	
	26	陶器	小杯	12.2	4.6	3.2		19世紀中頃	信楽
	27	陶器	小杯	5.5	4.2	2.7		19世紀前半	瀬戸・美濃
	28	陶器	仏飯器	5.4	3.1	2.8		19世紀中頃	瀬戸・美濃
	29	染付	紅皿	(3.8)	2.6	1.6		19世紀中頃	関西
	30	染付	皿	6.2	2.9	2.4		19世紀中頃	関西
	31	染付	皿	5.7	5.7	3.4	梅	18世紀末~19世紀前半	肥前
	32	陶器	皿	10	4	3.2	「大阪新町お簾紅」	18世紀末~19世紀前半	肥前
	33	染付	皿	11.3	2.6	6.2	内:椿/外:唐草・渦福	18世紀前半	肥前
	34	染付	皿	11.6	3.1	6.4	内:五弁花・矢/外:唐草・渦福	18世紀前半	肥前
	35	染付	皿	(8.6)	2.7	4.4	角皿/内:蛸唐草・方形松竹梅/外:唐草・成化年製	18世紀前半	肥前
	36	青磁染付	皿	(18.2)(2.6)(12.4)	ハリ支え/内:松			18世紀前半	肥前
	37	染付	皿	(10.2)(2.7)(6.0)	楼閣山水/口紅			1820~1860	肥前
	38	染付	皿	13.8	4.1	7.6	銘款:渦「福」/内:コンニャク五弁花・扇・筐/外:唐草	1750~1810	肥前(波佐見)
	39	染付	皿		(10.2)		蛇の目四形高台/花	1780~1860	肥前
	40	染付	皿	8.6	2.2	4.7	梅		
	41	染付	皿	8.2	2.1	4	樓閣山水	1820~1860	肥前
	42	青磁	盤	(13.2)					
	43	陶器	皿		(6.4)		唐津/II期/砂目積み	1610~1650	肥前
	44	陶器	皿	(14.6)(3.7)(5.6)	唐津/II期/砂目積み			1610~1650	肥前
	45	陶器	皿	(13.0)(4.6)(5.6)	唐津/III期			1650~1690	肥前
	46	陶器	鉢	15.7	6.5	6.6	八角鉢	18世紀後半	関西
	47	陶器	鉢	(2.4)(6.4)(5.4)	唐津/III期/内・外:刷毛目			1650~1690	肥前
	48	陶器	行平	(7.2)(4.5)(4.6)	飛びガンナ			18世紀後半	関西
	49	陶器	蓋	7.6	3.3		飛びガンナ	18世紀後半	関西
	50	陶器	蓋	4.5	1.4	3	土瓶蓋	18世紀後半	九州
	51	陶器	蓋	10.2	2	5	土瓶蓋	18世紀後半	九州
	52	陶器	蓋					18世紀後半	関西
	53	陶器	水柱	6.2					
	54	陶器	土瓶	7.6	11.9	9		18世紀後半	九州
	55	陶器	土瓶	7.4	9.6	6.6	飛びガンナ	18世紀後半	関西
	56	陶器	急須	8.9	9.1	7.6	把手裏側に刻印アリ		
	57	陶器	鉢		(10.0)				
	58	陶器	花瓶	2.6	21.4	7.4	焼緋陶器/蔓貼り付け		
	59	瓦	軒丸瓦						
	60	陶器	擂鉢		(12.0)				
	61	磁器	水滴				立体的に山水を表す		肥前
	62	陶器	人形				犬・童		
SK184	1	白磁	蓋	(9.4)(2.8)				18世紀後半	肥前
	2	陶器	蓋			3.8	内:五弁花・四方襷/外:渦福	18世紀後半	肥前

表14 その他主要遺構出土遺物観察表③

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
SK184	3	染付	蓋	(9.6)	(2.5)	(3.8)	端反碗蓋/内:雷文帶/	1820~1860	肥前
	4	染付	蓋	5.8	2	2.8	端反碗蓋/内:雷文帶	1820~1860	肥前
	5	染付	蓋	9.2	2.8	3.2	素描/内:花・雷文帶/外:花	1820~1860	肥前
	6	染付	皿	(10.0)	(2.5)	(5.6)	山水/口紅	1820~1860	肥前
	7	染付	皿	(15.4)	4.5	8.4	蛇の目凹形高台/山水/口紅	1820~1860	肥前
	8	染付	皿	11.8	4.7	4	見込み蛇の目釉剥ぎ/内:二重斜格子文	1820~1860	肥前(波佐見)
	9	染付	碗	9.2	4.5	3.2	内:五弁花/外:紅葉	18世紀後半	肥前
	10	陶器	碗	11.2	8.1	5	唐津/Ⅲ期	1650~1690	肥前
	11	陶器	碗	9.6	4.9	4.2	下部に褐釉がかかる		
	12	染付	碗			5	内外:蕉	18世紀後半	肥前
	13	陶器	蓋	5.8	1.6	4.2	土瓶蓋	18世紀後半	九州
	14	陶器	蓋	8.4				18世紀後半	関西
	15	陶器	行平	11.4	6.6	5.8	飛びガンナ	18世紀末~19世紀前半	関西
	16	陶器	片口	(16.8)	10.3	6.6	目跡アリ		
	17	陶器	壺			8.4			
	18	陶器	瓶掛	(18.4)			SK184-18と同一個体/龍・獅子	19世紀前半~中頃	瀬戸・美濃
	19	陶器	壺	(27.2)					
	20	瓦質土器	壺	(25.6)					
	21	陶器	擂鉢	(30.6)				18世紀末~19世紀前半	肥前
	22	陶器	擂鉢	(21.6)					
	23	陶器	擂鉢	(30.8)				18世紀末~19世紀前半	福岡
	24	陶器	擂鉢	(37.2)				18世紀末~19世紀前半	肥前
	25	陶器	擂鉢	(30.0)				18世紀前半	肥前
	26	陶器	擂鉢	(31.2)				18世紀末~19世紀前半	堺
	27	陶器	擂鉢	(25.4)				17世紀後半	肥前
	28	陶器	擂鉢	(26.8)					
	29	陶器	擂鉢	(31.2)					
	30	陶器	擂鉢		(11.0)				備前
	31	陶器	擂鉢		(14.0)			18世紀後半~19世紀前半	肥前
	32	陶器	擂鉢		(11.0)			18世紀末~19世紀前半	肥前
	33	陶器	擂鉢		(11.0)				
	34	石	硯						
SK222	1	染付	蓋	(9.6)			内:四方襷	18世紀後半	肥前
	2	青磁染付	蓋			3.7	コンニャク五弁花・渦福	18世紀後半	肥前
	3	染付	蓋	9.5	2.8	3.9	端反碗蓋/内:雷文帶/焼継アリ・焼継文字「□□や」	1820~1860	肥前
	4	染付	碗	10.3	5.6	4.4	端反碗/柳	1820~1860	肥前
	5	染付	碗	(10.4)			端反碗/山水	1780~1810	肥前
	6	染付	碗	(10.1)	(5.8)	(3.1)	広東碗	18世紀後半	肥前
	7	染付	碗	(9.2)				18世紀後半	肥前
	8	青磁染付	碗	(7.6)			四方襷	18世紀後半	肥前
	9	染付	碗	(7.0)			側面に沈線・側面中央に鉄錆を巡らす	18世紀後半	肥前
	10	陶器	碗	7.5	5.6	4.1	横縞	18世紀後半	関西
	11	陶器	碗	(10.4)	(5.6)	(4.1)	藁灰釉	19世紀初頭	萩
	12	陶器	碗	(9.8)				18世紀末~19世紀前半	京・信楽
	13	陶器	碗	(9.7)	(5.5)	(3.2)	笹	18世紀前半	京・信楽
	14	陶器	碗	(8.4)	(5.1)	(3.0)		18世紀後半	京・信楽
SK222	15	染付	猪口	(6.6)	(6.1)	(4.5)	草	18世紀後半	肥前
	16	染付	猪口			(6.6)	蛇の目凹形高台	1780~1720	肥前
	17	染付	猪口	(8.1)	(6.3)	(6.4)	蛇の目凹形高台/草花/四方襷	1780~1720	肥前
	18	染付	皿	(9.7)	(2.8)	(5.5)	外:唐草	18世紀後半	肥前
	19	染付	鉢	14.8	6.8	7.5	内:山水・梅/外山水/蛇の目高台/「富貴長春」		
	20	染付	蓋付鉢	(13.0)	(5.8)	(8.2)	蛸唐草	18世紀前半	肥前
	21	陶器	箱庭道具				家		
	22	白磁	小环			1.8			
	23	染付	仏飯器			3.9	格子地半菊文	1780~1860	肥前
	24	染付	紅皿	(7.1)	(3.4)	(2.6)	笹	18世紀末~19世紀前半	肥前
	25	白磁	紅皿	4.6	1.4	0.9	型打成形	1780~1810	肥前
	26	陶器	鉢	(21.8)			唐津/IV期/内外:刷毛目	1690~1780	肥前
	27	陶器	蓋	6	1.9	4.2	土瓶蓋	18世紀後半	九州

表15 その他主要遺構出土遺物観察表④

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
SK222	28	陶器	蓋	7.5			土瓶蓋		
	29	陶器	蓋	7.8	2.7				
	30	陶器	土鍋	(15.2)	(6.7)	(5.1)		18世紀後半～ 19世紀前半	
	31	陶器	土鍋			(8.2)		18世紀後半～ 19世紀前半	
	32	陶器					不明陶器/上半部に褐釉がかかる		
	33	陶器	擂鉢	32.0				18世紀末～ 19世紀前半	堺
	34	陶器	擂鉢	47.0				18世紀末～ 19世紀前半	肥前
	35	陶器	擂鉢	32.0	(14.9)	(14.0)		18世紀末～ 19世紀前半	肥前
	36	陶器	擂鉢	33.2	(16.5)	(12.2)		18世紀末～ 19世紀前半	肥前
	37	瓦質土器	焙烙	29.0			上端部に貫通しない孔	18世紀末～ 19世紀前半	
Pit221	1	染付	蓋	(12.8)			焼継アリ/内：雷文帯	1820～1860	肥前
	2	染付	蓋	(10.0)	(2.2)	(5.0)	外：蔓・花/「(大明)年(製)」	18世紀後半	肥前
	3	染付	碗	10.0			端反碗	1820～1860	肥前
	4	陶器	甕	21.0					
	5	陶器	鉢	38.0			唐津/IV期/内：刷毛目	1690～1780	肥前
SK728	1	青磁染付	蓋	(8.8)	(2.5)	(3.5)	内：コンニャク五弁花・四方擇	1770～1880	肥前
	2	染付	蓋	9.5	2.9	3.2	コンニャク印判/菱	18世紀後半	肥前
	3	染付	蓋	9.4	2.4	3.9	内：花・四方擇/外：扇	18世紀後半	肥前
	4	染付	蓋	10.1	2.3	5.1	筐/雀	18世紀後半	肥前
	5	染付	蓋	10.1	3	5.6	広東碗蓋	1780～1810	肥前
	6	染付	碗	13	7.1	7.5	広東碗/外：花/内：鷺	1780～1810	肥前
	7	青磁染付	碗	6.9	6	3.6	内：コンニャク五弁花・四方擇	1770～1880	肥前
	8	染付	碗	7.5	6	3.1	花・蝶	18世紀後半	肥前
	9	染付	碗	7.4	5.7	3.6	竹/五弁花	18世紀後半	肥前
	10	染付	碗	7.5	6.2	4.2	若松	18世紀後半	肥前
	11	陶器	碗	7.1	5.8	3.8	横縞	18世紀後半	関西
	12	青磁染付	碗	11.5	6.4	4.2	内：コンニャク五弁花・四方擇/外：渦福	1770～1880	肥前
	13	陶器	碗	8.6	6.3	3.5		18世紀後半	京・信楽
	14	陶器	碗	9	6.5	3.1		18世紀後半	京・信楽
	15	染付	皿	(14.3)	4.4	8.6	蛇の目凹形高台/馬・雲	1810～1860	肥前
	16	陶器	皿	9.2	2	3.5	足ハマ状の目跡アリ	18世紀後半	京・信楽
	17	染付	皿				内：扇・コンニャク五弁花/外：唐草	18世紀後半	肥前
	18	陶器	皿	5	2.6	2.2		18世紀後半	京・信楽
	19	白磁	紅皿	4.7	1.4	1.3	型打成形	1780～1810	肥前
	20	染付	小坏	7.4	4	2.6	コンニャク印判/紅葉	18世紀前半	肥前
	21	染付	紅皿	7.4	3.4	2.7	筐	18世紀後半	肥前
	22	染付	小坏	5.1	3.9	2.7	寿	18世紀後半	肥前
	23	土師器	皿			5.6	底部糸切り離し		在地
	24	陶器	蓋	4.6	2.6		土瓶蓋		
	25	陶器	蓋	6	3.7		土瓶蓋		
	26	陶器	鉢	17.2	7.9	6	外：緑釉/内：黄釉/口縁部付近：褐釉		
S247	1	染付	碗	(9.4)			端反碗/焼継アリ	1820～1860	肥前
S709	1	染付	皿	13.8	3.3	8.8	蛇の目凹形高台/筐	1810～1860	肥前
	2	染付	皿	14.7	3.8	9.2	蛇の目凹形高台/内：花/外：唐草	1810～1860	肥前
	3	染付	皿	10.2	2.5	6	樓閣山水	1810～1860	肥前
	4	染付	皿	13	3.1	8	樓閣山水/口紅	1820～1860	肥前
SX181	1	染付	碗			4.6	菊花	18世紀後半	肥前
	2	染付	碗			6	「大明年製」崩れ銘/コンニャク五弁花	18世紀後半	肥前(波佐見)
	3	染付	碗			5.9	広東碗/「成(化)年(成)」	1780～1810	肥前
	4	陶胎染付	碗	10.8	7.4	4.6		18世紀前半	肥前
	5	陶胎染付	碗	(10.4)	(7.0)	(7.2)		18世紀前半	肥前
	6	陶胎染付	碗	(10.4)	(7.0)	(4.4)		18世紀前半	肥前
	7	陶器	碗	(10.8)	(7.2)	(5.0)	唐津/III期/高台内施釉	1650～1690	肥前
	8	染付	皿			(7.2)		17世紀前半	中国
	9	染付	皿				蛇の目凹型高台	1740～1780	肥前
	10	青磁	皿				蛇の目凹型高台	18世紀後半	肥前
	11	染付	皿	(13.8)	(3.5)	(8.2)	「大明年製」崩れ銘/コンニャク五弁花	18世紀前半	肥前
	12	染付	皿	(13.4)	(3.5)	(8.0)	内：コンニャク五弁花・墨書き/外：唐草・渦福	1680～1740	肥前(波佐見)
	13	陶器	皿	(12.0)	(3.7)	(4.4)	唐津/III期/見込み蛇の目釉剥ぎ	1650～1690	肥前

表16 その他主要遺構出土遺物観察表⑤

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
SX181	14	染付	皿	12.2	3.5	4.4	見込み蛇の目釉剥ぎ/流水文?	1680~1740	肥前(波佐見)
	15	染付	皿			5	唐津/II期/砂目積み	1610~1650	肥前
	16	染付	皿			5.2	唐津/II期/砂目積み	1610~1650	肥前
	17	青磁	皿	14.8	(4.7)	(7.6)			肥前
	18	陶器	皿			(5.2)	唐津/II期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	19	白磁	小壺	7	4.7	3.4		18世紀前半	肥前
	20	陶器	鉢			11.8	唐津/IV期/内:刷毛目/砂目積み	1690~1780	肥前
	21	陶器	壺			12	焼締陶器/底部にヘラ記号「三」アリ	17世紀後半	備前
	22	陶器	擂鉢	30.0	(13.5)	(13.0)		18世紀前半	備前
	23	石製品	不明				凹石/2次被熱		在地
	24	石製品	不明						在地
SK185	1	染付	仏飯器	6.8	3.9	6.4	斜格子文	1780~1860	肥前
	2	染付	蓋	11.2	(4.6)	(3.4)	外:牡丹唐草/内四方櫛	18世紀後半	肥前
SK206	1	染付	蓋	9.8	3.3	3.6	内:コンニャク五弁花・四方櫛/外:松	18世紀後半	肥前
	2	染付	蓋	10.4	(2.7)	(5.2)	外:「大明(年製)」・算木文	18世紀後半	肥前
	3	染付	碗	11.9	(6.1)	(6.6)	広東碗/柳文	1780~1810	肥前
	4	染付	碗	9.2	5.2	5	外:蝙蝠・壽文/*SK245-2とセット	1780~1810	肥前
	5	染付	碗	9.4	5.1	5.6	外:松・網干し/*SK245-1蓋とセット	1780~1810	肥前
	6	染付	碗	11.3	6.7	4.3	内:四方櫛・松/外:松・樓閣	18世紀後半	肥前
	7	染付	碗	11.2	6.3	(4.1)	外:花唐草	18世紀後半	肥前
	8	染付	碗	11.4	6.1	4.4	外:花	18世紀後半	肥前
	9	青磁染付	碗	11.2	6.9	3.6	内:コンニャク五弁花・四方櫛	1770~1880	肥前
	10	青磁染付	碗	7.1	6.2	3.8		1770~1880	肥前
	11	陶器	碗	9.1	5.2	3.1		18世紀末	京・信楽
	12	染付	仏飯器	6.5			斜格子文	1780~1860	肥前
	13	染付	仏飯器	7.8	7.1	4.2	格子地半菊文	1780~1860	肥前
	14	白磁	紅皿	4.3	1.7	1.2	型打成形	1780~1810	肥前
	15	染付	紅皿	7.3	3.6	2.4	笠	18世紀末~19世紀前半	肥前
	16	染付	仏飯器			2.4	梅鉢・松	18世紀末~19世紀前半	肥前
	17	陶器	鉢	18	9.1	8	白象眼		
	18	陶器	土瓶	6.2	4.2		蓋		
	19	陶器	土瓶				身		
	20	陶器	土瓶			6.6	身		
	21	土師器	取瓶	4.4	5.1				
	22	土師器	焼塙壺	6.4	1.9	7.8	蓋/内面:布目	18世紀後半	肥前
	23	土師器	焼塙壺	(6.0)	(6.6)	(6.0)	身/内面布目	18世紀後半	肥前
SK239	1	染付	碗				広東碗/焼締文字「上緝屋町」カ(旧)と「宮その」(旧)アリ	1770~1810	肥前
SK245	1	染付	蓋	7.9	1.8	4.3	広東碗蓋/外:蝙蝠・壽文/*SK206-5とセット	1770~1810	肥前
	2	染付	蓋	8.5	2.3	4.6	広東碗蓋/外:松・網干し/*SK206-4とセット	1770~1810	肥前
	3	染付	蓋	9.6	2.2	4.8	広東碗蓋/内・外:菊花	1770~1810	肥前
	4	染付	蓋	10.2	2.8	4.5	内:四方櫛・環状松竹梅/外:	18世紀後半	肥前
	5	染付	蓋	(9.4)	2.9	3.6	内:コンニャク五弁花・四方櫛	18世紀後半	肥前
	6	染付	蓋			3.9	内:柿	18世紀後半	肥前
	7	青磁	蓋	9.8	3.3	4		18世紀後半	肥前
	8	青磁染付	碗	7.6	6.4	4	内:コンニャク五弁花・四方櫛	1770~1880	肥前
	9	青磁染付	碗	(6.8)	(6.3)	(3.4)	内:コンニャク五弁花・四方櫛	1770~1880	肥前
	10	青磁染付	碗	(7.6)	6.6	3.4	内:コンニャク五弁花・四方櫛	1770~1880	肥前
	11	青磁染付	碗	(7.4)	5.9	3.4	内:コンニャク五弁花・四方櫛	1770~1880	肥前(波佐見)
	12	青磁染付	碗	(7.1)	6.4	3.4	内:コンニャク五弁花・四方櫛	1770~1880	肥前
	13	青磁染付	碗	7.1	6.1	3.7	内:コンニャク五弁花・四方櫛	1770~1880	肥前
	14	青磁染付	碗			3.5	内:コンニャク五弁花・四方櫛	1770~1880	肥前
	15	青磁染付	碗			3.4	内:コンニャク五弁花・四方櫛	1770~1880	肥前
	16	染付	碗	7.2			外:コンニャク印判紅葉/内:四方櫛	18世紀後半	肥前
	17	染付	碗	10.4	6.2	4	内:コンニャク五弁花・四方櫛	1750~1770	中国
	18	染付	碗	9.7	5	3.7	「大明年製」崩れ銘	18世紀前半	肥前
	19	染付	碗	9.5	5.2	3.6	内:コンニャク五弁花	18世紀前半	肥前
	20	染付	碗	(9.2)			梅鉢	1780~1810	肥前
	21	陶胎染付	碗	11.6	8	4.4		18世紀前半~中頃	肥前(波佐見)
	22	染付	小碗	7.4	3.8	2.2	小広東碗/梵字文・壽文	1770~1780	肥前

表17 その他主要遺構出土遺物観察表⑥

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
SK245	23	染付	碗	10.2	5.5	3.7	小広東碗/壽文	1770~1780	肥前
	24	染付	碗	12	5.8	4.2	草花文	1770~1780	肥前
	25	染付	碗			3.8	草花文	1770~1780	肥前
	26	染付	碗	10.9	5.9	4.5	外:壽文/内:四方襷	18世紀末	肥前
	27	染付	碗	12.4	6.1	4.9	内:四方襷・瓢箪	18世紀末	肥前
	28	染付	碗	(11.4)			広東碗/花	1780~1810	肥前
	29	染付	碗	7.6	6.3	3.5	側面に沈線・側面中央に鉄錆を巡らす	18世紀後半	肥前
	30	陶器	碗	(11.8)	(6.1)	(4.8)	藁灰釉	19世紀初頭	萩
	31	陶器	碗	(9.0)	4.8	3.4		18世紀末	京・信楽
	32	陶器	碗			5.1	唐津/胎土口段階	17世紀初頭	肥前
	33	染付	皿			(11.6)	渦福	18世紀後半	肥前
	34	染付	皿	17.9	5.8	9.7	内:コンニャク五弁花・扇・花/外:唐草・馬字状渦福	1750~1810	肥前(波佐見)
	35	染付	皿	13.1	3.7	7.6	内:コンニャク五弁花・扇・花/外:唐草・馬字状渦福	1750~1810	肥前(波佐見)
	36	陶器	皿	(14.4)			唐津/胎土口~砂口段階	17世紀初頭	肥前
	37	陶器	皿	12.6	3.1	7.2			
	38	白磁	紅皿	4.4	1.4	1.4	型打成形	1780~1810	肥前
	39	染付	紅皿	7	3.6	2.5	筐	18世紀末~ 19世紀前半	肥前
	40	染付	仏飯器	6.4	5.5	3.8	斜格子文	1780~1860	肥前
	41	染付	仏飯器	6.2	5.4	3.8	斜格子文	1780~1860	肥前
	42	染付	仏飯器	7.5	7.4	4.2	格子地半菊文	1780~1860	肥前
	43	白磁	猪口	(4.1)	(2.8)	(2.9)		18世紀後半	肥前
	44	染付	水滴					肥前	
	45	陶器	鉢		(11.2)		唐津/鉄絵/砂口段階	17世紀初頭	肥前
	46	陶器	鉢		(15.0)		唐津/IV期/外・内:刷毛目・砂口積み	1690~1780	肥前
	47	陶器	土鍋	(16.8)	(6.9)	(8.4)		18世紀後半	関西
	48	陶器	土瓶	(8.8)					
	49	陶器	擂鉢	(32.0)				18世紀後半	堺
	50	陶器	擂鉢	(44.0)				18世紀後半	肥前
	51	土師器	焙烙	(26.0)					在地
	52	土師器	焜炉						在地
	53	土師器	小壺	(4.4)			型打成形		
	54	瓦	軒丸				径 14.1cm/珠文 15/巴 反時計回り		
Pit371	1	染付	碗	11.1	6.1	6	広東碗/算木文	1780~1810	肥前
	2	染付	皿	14.4	4	9.4	蛇の目凹型高台/外:唐草	1810~1860	肥前
	3	陶器	蓋	9.6	3.4	5	土瓶蓋		
	4	土師器	焜炉						在地
SK727	1	染付	蓋	(10.0)	(3.6)	(5.4)	草	18世紀後半	肥前
	2	染付	蓋	(10.0)			外:草/内:四方襷	18世紀後半	肥前
	3	染付	碗	(10.0)	5	3.4	小広東碗	1770~1780	肥前
	4	染付	碗			5.6	広東碗	1780~1810	肥前
	5	陶器	皿	(9.0)	(0.9)	(4.0)	焼締陶器		
	6	陶器	水差し	4.8	3.6	3.6			
	7	土師器	取瓶	(5.0)					
	8	陶器	蓋	14	2.8	4.1		19世紀初頭	関西
	9	陶器	蓋	6.5	1.6	3.1		18世紀後半	九州
	10	陶器	土瓶	7.4	11.4	7		18世紀後半	九州
	11	陶器	土瓶	12	9.5	13.8		18世紀後半	九州
	12	陶器	擂鉢	(32.0)				18世紀後半	肥前
	13	陶器	擂鉢			(15.0)		18世紀後半	肥前
	14	陶器	甕	(32.0)			焼締陶器/		備前?
	15	陶器	甕	(16.0)	11.4	21.6			肥前
	16	土師器	火鉢				「福」刻印		在地
SK723	1	染付	蓋	9.9	3.2	4.4	内:四方襷・源氏香文	18世紀後半	肥前
	2	染付	蓋	10	5.5	3	広東碗蓋	1780~1810	肥前
SK725	1	染付	蓋	9.8	2.9	5.2	広東碗蓋	1780~1810	肥前
	2	染付	碗	9.4	5	3	小広東碗/ねじ花文	1770~1780	肥前
	3	陶器	土瓶	8.7	9.5	15.8		18世紀後半	九州
	4	陶器	土瓶	8.9	9.7	14.2		18世紀後半	九州
	5	陶器	水注	5	10.6	5.4		18世紀後半	瀬戸・美濃

表18 その他主要遺構出土遺物観察表⑦

迎物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地	
SK725	6	染付	仏花器	1.4	6.8	2.6	梅鉢・松	18世紀末～19世紀前半	肥前	
Pit201	1	染付	碗	10	5.4	6	広東碗/雨降文	1780～1810	肥前	
	2	染付	碗	(13.0)			広東碗	1780～1810	肥前	
	3	染付	碗	10.2	2.6	6	蔓花文	1780～1810	肥前	
SK025	1	青磁染付	碗	(10.7)			内：四方櫛	1770～1880	肥前	
	2	青磁染付	碗	(7.6)			内：四方櫛	1770～1880	肥前	
	3	染付	碗				広東碗	1780～1810	肥前	
	4	陶器	皿	(14.8)						
	5	染付	仏花器	1.8			梅鉢・松	18世紀末～19世紀前半	肥前	
	6	染付	仏花器	2			梅鉢・松	18世紀末～19世紀前半	肥前	
	7	染付	水滴						肥前	
SK233	1	染付	猪口		(6.4)		蛇の目凹型高台	18世紀末～19世紀前半	肥前	
	2	染付	仏飯器	6.3	5.4	3.6	斜格子文	1780～1860	肥前	
SK117	1	染付	碗	7.4	5.3	3.8	外：格子地菊花	1780～1810	肥前	
	2	染付	碗	(8.0)(4.5)(2.5)				1780～1810	肥前	
	3	青磁染付	碗		(4.6)		五弁花/渦福	18世紀前半	肥前	
	4	青磁染付	碗	11.3	6.2	4.9	椿・四方櫛/渦福	18世紀前半	肥前	
	5	陶器	碗	13	5	6				
	6	陶胎染付	碗	(10.6)(7.2)(4.8)				18世紀前半	肥前	
	7	陶胎染付	碗	(11.4)(6.9)(4.0)				18世紀前半	肥前	
	8	染付	皿		(7.2)		コンニャク五弁花	18世紀前半	肥前	
	9	染付	皿	12.2	4.1	4.4	見込み蛇の目釉剥ぎ/内：二重斜格子文	1680～1740	肥前(波佐見)	
	10	染付	蓋付鉢	(11.2)				18世紀前半	肥前	
	11	染付	火入	10	7.8	6.8		18世紀後半	肥前	
	12	青磁	香炉	15	9.3	6			肥前	
	13	陶器	壺	(4.0)			内面格子目タキ		肥前	
	14	土師器					不明土製品		在地	
	15	白磁	壺	(10.2)				18世紀前半	肥前	
SK254	1	染付	蓋			4.5	内：環状松竹梅/外：鋸歯文	18世紀後半	在地	
	2	青磁染付	蓋	(11.0)			四方櫛	1770～1780	肥前	
	3	染付	蓋	(11.2)(2.4)(5.8)			渦福	18世紀後半	肥前	
	4	染付	皿	(9.0)(1.8)(5.6)			口紅/蛇の目凹型高台	1770～1780	肥前	
	5	染付	皿		(7.2)		五弁花/「大明成化年製」銘/ハリ支え	18世紀後半	肥前	
	6	染付	皿		(9.4)		蛇の目凹型高台	1780～1810	肥前	
	7	陶器	皿	(12.2)			笊	18世紀前半	京・信楽	
	8	染付	碗	(11.2)				1780～1810	肥前	
	9	染付	小壺	(5.2)			コンニャク印判・桐	18世紀前半	肥前	
	10	染付	瓶						肥前	
	11	染付	蓋付鉢	(15.4)			蓋/蛸唐草	18世紀前半	肥前	
	12	染付	蓋付鉢	(13.0)			身/蛸唐草	18世紀前半	肥前	
	13	白磁	盤		(5.6)				肥前	
SX325	1	染付	碗	(9.6)			松	1710～1750	肥前	
(118)	2	染付	碗	(9.2)			若松	1710～1750	肥前	
	3	染付	碗	(10.4)				1700～1740	肥前	
	4	陶胎染付	碗	10	7.4	4.2		18世紀前半	肥前	
	5	陶器	碗	(10.4)(6.5)(3.6)			唐津/IV期/外・内：刷毛目	1690～1780	肥前	
	6	染付	碗	(13.2)(6.2)(6.2)			内：四方櫛/外：笊	18世紀前半	肥前	
	7	染付	小碗			4		18世紀前半	肥前	
	8	染付	小碗			3.8	外面褐釉/見込み五弁花	18世紀前半	肥前	
	9	染付	皿	(13.0)(3.5)(3.6)			見込み蛇の目釉剥ぎ/内：二重斜格子文	1680～1740	肥前(波佐見)	
	10	染付	皿	(13.4)(3.9)(4.5)			見込み蛇の目釉剥ぎ/内：二重斜格子文	1680～1740	肥前(波佐見)	
	11	白磁	皿	(8.5)(1.9)(4.8)			型打成形	18世紀前半	肥前	
	12	陶器	皿	(11.6) 4	4.3		唐津/III期/見込み蛇の目釉剥ぎ	1650～1690	肥前	
	13	陶器	火入	9.8	7	4.2	唐津/II期/砂目積み段階	1610～1650	肥前	
	14	陶器				5.2	不明			
	15	陶器	片口	(15.4) 7	4.4		唐津/IV期/外・内：刷毛目	1690～1780	肥前	
	16	染付	瓶			(6.4)			肥前	
	17	陶器	土瓶			8			18世紀後半	九州
整地層405	1	青磁染付	蓋	10.3	3.2	4.8	内：四方櫛/外：渦福	18世紀後半	肥前	

表19 その他主要遺構出土遺物観察表⑧

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
整地層405	2	染付	皿	(13.6)	4.4	7.4	内：桃/外：渦福	18世紀前半	肥前
	3	染付	鉢	(19.8)	6.9	8	内：ウサギ/高台に砂が付着	17世紀前半	肥前
	4	染付	瓶	4.2	22.1	6.7	鳥かご	18世紀後半	肥前
SK180	1	染付	碗	(11.2)	(5.7)	(4.4)	外：花/内：四方襷	18世紀後半	肥前
	2	染付	碗	(10.0)	(5.0)	(4.2)	外：草花・「大明年製」崩れ銘	18世紀前半	肥前
	3	染付	碗	(12.6)	(6.6)	(4.6)	外：草花・「大明年製」崩れ銘	18世紀前半	肥前
	4	陶器	碗	9.9	6.4	4.6	唐津/IV期/外：刷毛口/内：打刷毛口	1690~1780	肥前
	5	染付	皿		2		型打成形/内：コンニャク印判・若松/外：折松葉	18世紀前半	肥前
	6	染付	紅皿	(6.4)	(2.9)	(3.6)	筐	18世紀後半	肥前
	7	染付	瓶			5.2		18世紀後半	肥前
	8	陶器	擂鉢	(32.6)					肥前
Pit203	1	青磁染付	蓋	(6.4)	(2.9)	(3.6)	内：五弁花・四方襷/外：渦福	18世紀後半	肥前
	2	青磁染付	蓋	(10.4)			内：四方襷/口紅	18世紀後半	肥前
	3	青磁染付	碗	(11.6)	(6.9)	(4.3)	内：五弁花・四方襷	18世紀後半	肥前
	4	染付	碗	(10.7)	(4.6)	(3.9)	見込み蛇の目袖刺ぎ	18世紀後半	肥前(波佐見)
	5	陶胎染付	碗	(10.6)	(5.2)	(3.9)	見込み蛇の目袖刺ぎ	18世紀後半	肥前(波佐見)
	6	陶胎染付	碗			(4.6)		18世紀前半	肥前
	7	陶器	碗			(4.1)	唐津/IV期/外：刷毛口/内：打刷毛口	1690~1780	肥前
	8	陶器	碗			4.2	唐津/京焼風陶器/山水	1650~1690	肥前
	9	染付	皿			(11.0)	五弁花/「(大明)年製」/ハリ支え	18世紀前半	肥前
	10	染付	皿	(14.6)	(4.3)	(8.1)	蛇の目凹形高台	1780~1810	肥前
	11	染付	皿	12.4	3.8	4.4	見込み蛇の目袖刺ぎ/流水文?	1680~1740	肥前(波佐見)
	12	染付	皿			4.3	見込み蛇の目袖刺ぎ/内：二重斜格子文	1680~1740	肥前(波佐見)
	13	陶器	皿	12.4	3.4	4.3	唐津/III期/見込み蛇の目袖刺ぎ	1650~1690	肥前
	14	陶器	皿	12.6	3.6	4.1	唐津/III期/見込み蛇の目袖刺ぎ	1650~1690	肥前
	15	染付	蓋付鉢			(8.1)	唐草	18世紀前半	肥前
	16	陶器	瓶	3.5					
SK156	1	染付	碗	(8.0)	(6.5)	(4.2)	外：格子地菊花・内：四方襷・五弁花	18世紀後半	肥前
	2	瓦	軒丸				径 13.5cm/珠文 16 /巴 反時計回り		
Pit237	1	染付	蓋	(10.3)			内：環状松竹梅・四方襷/外：松	18世紀後半	肥前
	2	染付	皿			(13.8)	内：梅・蛸唐草/外：渦福/ハリ支え	18世紀前半	肥前
	3	染付	皿			(6.6)		17世紀前半	中国
	4	白磁	皿			8.7			肥前
	5	染付	小壺			3			
	6	陶器	擂鉢			(12.0)	焼締陶器	17世紀前半	備前
Pit238	1	陶器	碗	(12.6)	9.5	5.8	唐津/IV期/外：刷毛口/見込み蛇の目袖刺ぎ	1690~1780	肥前
	2	染付	鉢			(4.8)	高台外面○×連続文/内;山水・唐草/外:唐草・渦福	18世紀後半	肥前
SK257	1	染付	皿			(7.8)	コンニャク五弁花・渦福	18世紀後半	肥前(波佐見)
	2	染付	壺			(7.1)		18世紀後半	肥前
	3	青磁	香炉	(7.6)	(5.4)	(4.3)		18世紀後半	肥前
SK211	4	陶器	土瓶			(9.8)			
	5	白磁	擂鉢	(27.8)				17世紀	備前
	1	染付	蓋	(7.3)	2.6		蓋付鉢/外：格子地菊花	18世紀後半	肥前
	2	染付	皿			(8.0)	コンニャク五弁花・渦福	18世紀後半	肥前(波佐見)
	3	染付	皿	(12.4)	3.2	4.4	見込み蛇の目袖刺ぎ/内：二重斜格子文	1680~1740	肥前(波佐見)
	4	陶器	皿	(12.6)	(2.5)	(7.2)	菊皿	18世紀後半	京・信楽
SK265	5	白磁	皿	(12.0)	(3.6)	(6.8)	口紅	18世紀前半	肥前
	1	染付	鉢	17.3	8.6	7.1	内：四方襷	18世紀後半	肥前
Pit362	1	染付	碗			(6.0)	「(富)貴(長春)」銘	1690~1780	肥前
	2	染付	碗	(7.2)					
	3	陶器	皿			4	唐津/III期/見込み蛇の目袖刺ぎ	1650~1690	肥前
SK704	4	土師器	燒塩壺	(9.6)	(2.2)		蓋/内面布目痕アリ/穿孔アリ	18世紀後半	堺
	1	青磁染付	蓋	8.6	2.9	3.4	内：コンニャク五弁花・四方襷	1770~1880	肥前
SK257	2	青磁染付	碗	(7.2)	5.8	3.6	内：コンニャク五弁花・四方襷	1770~1880	肥前
	3	青磁染付	碗	(10.8)	(6.9)	(4.4)	内：コンニャク五弁花・四方襷	1770~1880	肥前
	4	染付	碗	(10.2)	5.2	3.6	草花	18世紀前半	肥前
	5	染付	碗	(11.6)			外：椿/内：四方襷	18世紀後半	肥前
	6	陶器	碗	(10.4)	(5.7)	(4.0)	藁灰釉	18世紀後半	萩
	7	染付	皿	(13.4)	3	7	見込み蛇の目袖刺ぎ/内:唐草文・コンニャク五弁花	1680~1740	肥前(波佐見)

表20 その他主要遺構出土遺物観察表⑨

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
SK704	8	陶器	皿	(13.6)	4.6	4.8	唐津/IV期	1690～1780	肥前
	9	染付	鉢			(7.8)	笛		肥前
	10	青磁	香炉			7.4	蛇の目四形高台		肥前
	11	陶器	水差	(5.2)					肥前
	12	染付	瓶			(4.4)			肥前
	13	陶器	瓶			5.4			
	14	白磁	燭台	1.6	5.8	2.6			
	15	陶器	蓋	6.4	4.9				九州
	16	陶器	水指	16.6	12.4	17			九州
	17	瓦	軒丸				径 13.5cm/珠文 16 巴 反時計回り		
	18	瓦	軒丸				径 14.6cm/珠文 15 カ/巴 反時計回り		
SK178	1	染付	皿	12.5	3.9	7.5	内：コンニャク五弁花/外：渦福・唐草	18世紀後半	肥前(波佐見)
SK313	1	染付	碗	(12.0)	6.2	4.3	外：花/内：花・四方櫛	18世紀後半	肥前
	2	青磁染付	碗	(8.2)	(6.1)	(4.0)	内：コンニャク五弁花・四方櫛	1770～1880	肥前
	3	陶器	碗			(4.0)	唐津/II期/砂目積み段階	1610～1650	肥前
	4	染付	皿	(13.2)	(2.8)	(6.0)	蔓草/高台に砂付着	17世紀後半	肥前
	5	染付	紅皿	6	2.1	2.2	笛	18世紀後半	肥前
	6	陶器	瓶			5	笛	18世紀後半	肥前
	7	瓦	軒丸						在地
	8	陶器	擂鉢					18世紀後半	堺
SK274	1	青磁染付	小碗	8.3	4.3	3.8	五弁花	1700～1740	肥前
	2	染付	小碗	(8.0)	(4.9)	(3.6)	外：唐草・渦福	1700～1740	肥前
	3	染付	小碗	(7.5)	4.5	2.8	外：コンニャク印判紅葉	1700～1750	肥前
	4	染付	小碗	7.3	4.6	3	外：草花文	1700～1740	肥前
	5	染付	小碗			3.2	外：草花文	1710～1750	肥前
	6	染付	小碗			3.1	外：コンニャク印判/黄釉	1700～1750	肥前
	7	染付	碗	(9.6)	(4.9)	(3.8)		1700～1750	肥前
	8	色絵染付	碗	(9.7)	4.7	4.4		1710～1740	肥前
	9	染付	碗	(9.4)	5.3	4.2	外：若松/「簡江」銘	1710～1750	肥前
	10	染付	碗	(10.0)	(5.2)	(4.0)	内網目文/外：二重網目文/渦福	1710～1750	肥前
	11	染付	碗	(10.0)	(5.3)	(4.0)	外：草花文/「大明年製」崩れ銘	1710～1750	肥前
	12	染付	碗			3.6	外：草花文/「大明年製」崩れ銘	1710～1750	肥前
	13	染付	碗			3.8	外：草花文/「大明年製」崩れ銘	1710～1750	肥前
	14	染付	碗			3.8	渦福	1710～1750	肥前
	15	染付	碗	(10.0)	(5.6)	(4.6)	外：コンニャク印判・团鶴・若松	1700～1750	肥前
	16	陶胎染付	碗			4.6		18世紀前半	肥前
	17	陶器	碗			3.8	唐津/IV期/外：刷毛目/内：打刷毛目	1690～1780	肥前
	18	染付	碗			4.6			肥前
	19	陶胎染付	碗	(10.4)				18世紀前半	肥前
	20	染付	碗	(11.0)	6.4	4.2	見込み蛇の目釉刺ぎ	18世紀前半	肥前
	21	色絵染付	小碗			3.4		1710～1740	肥前
	22	青磁染付	碗	(12.0)	(6.3)	(3.2)	外：渦福/内：椿文/四方櫛	18世紀前半	肥前
	23	陶器	碗			3.8		18世紀前半	関西？
	24	染付	小碗	7.6	4.3	2.8	外：雨降文	1700～1740	肥前
	25	陶器	碗	(9.4)	7.5	3.6	唐津II又はIII期？	17世紀代？	肥前
	26	陶器	碗	10	6.5	4	唐津/IV期/外：刷毛目/内：打刷毛目	1690～1780	肥前
	27	陶器	碗	(10.8)	(7.2)	(3.4)	唐津/III期	1690～1780	肥前
	28	陶胎染付	碗	(12.5)					
	29	陶器	碗			3.6	唐津/III期	1690～1780	肥前
	30	陶器	碗	(10.0)	(6.5)	(4.0)	唐津/IV期/外：刷毛目/内：打刷毛目	1690～1780	肥前
	31	染付	猪口	(7.2)			若松	17世紀頃～後半	肥前
	32	染付	皿	(13.0)	3.8	4.4	見込み蛇の目釉刺ぎ/内：二重斜格子文	1680～1740	肥前(波佐見)
	33	染付	皿	(13.0)	3	8.2	内：五弁花/外：唐草	18世紀前半	肥前
	34	染付	皿			7.4	内：花文	18世紀前半	肥前
	35	染付	皿	(14.6)	(2.9)	(7.6)	見込み蛇の目釉刺ぎ/内：唐草文・コンニャク五弁花	1680～1740	肥前(波佐見)
	36	染付	皿	(12.0)	(3.5)	(6.0)	内：コンニャク五弁花・墨弾き/外：唐草・渦福	1680～1740	肥前(波佐見)
	37	陶器	皿	(11.8)	4	4.2	唐津/III期/見込み蛇の目釉刺ぎ	1650～1690	肥前
	38	陶器	皿			4	唐津/III期/見込み蛇の目釉刺ぎ	1650～1690	肥前
	39	染付	皿			(17.6)		18世紀前半	肥前

表21 その他主要遺構出土遺物観察表⑩

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
SK274	40	染付	皿				型打成形/内：コンニャク印判桐/外：折松葉文	18世紀前半	肥前
	41	染付	皿			3.6	見込み蛇の目釉刺ぎ	1680～1740	肥前(波佐見)
	42	染付	皿	(13.2)	(2.9)	(3.4)		18世紀前半	肥前
	43	陶器	皿			4.2	唐津/Ⅲ期/内：山水	1650～1690	肥前
	44	染付	紅皿	6	2.3	2.6	筐	18世紀前半	肥前
	45	白磁	小壺			(3.0)			肥前
	46	染付	小壺	(6.0)	(3.2)	(4.0)	外：雨降文	1700～1740	肥前
	47	染付	皿	(21.6)			内：蔓草・花	1630～1650	肥前
	48	染付	鉢	(14.6)	(5.5)	(8.4)		18世紀前半	肥前
	49	陶器	鉢	(22.2)	(7.2)	(7.6)	唐津/IV期/内外共に刷毛目/見込み蛇の目釉刺ぎ	1690～1780	肥前
	50	白磁	瓶	(6.6)					肥前
	51	白磁	瓶			4.2		1690～1780	肥前
	52	染付	仏飯器			2.5		1690～1780	肥前
	53	陶胎染付	火入	(13.6)				18世紀前半	肥前
	54	陶器	壺			5.6			
	55	陶器	鉢				唐津/IV期/内外共に刷毛目	1690～1780	肥前
	56	土師器	焼塩壺	7.8	1.8		蓋/内面布目痕	18世紀中頃	堺
	57	土師器	焼塩壺	6.4	2.1		蓋/内面布目痕	18世紀中頃	堺
	58	土師器	焼塩壺	6.2	8.6	5.6	身/内面布目痕	18世紀中頃	堺
	59	陶器	壺			8.8			
	60	陶器	壺	(11.4)			唐津？/内面平行タタキ		
	61	陶器	擂鉢	(30.0)	(12.7)	(15.2)		18世紀中頃～後半	堺
	62	陶器	擂鉢					18世紀前半	肥前
	63	土師質	壺	(11.4)			火消し壺		在地
	64	土師質	壺			(11.4)	火消し壺		在地
Pit372	1	陶器	皿		(8.0)		唐津/IV期/内：刷毛目	1690～1780	肥前
	2	陶器	皿		(9.2)		唐津/IV期/内：刷毛目	1690～1780	肥前
	3	染付	蓋	(10.0)			内：椿文/四方櫛	18世紀前半	肥前
	4	染付	碗	(9.6)	(5.0)	(4.4)	「筒江」銘	1710～1750	肥前
	5	染付	碗	(9.4)	(5.7)	(3.9)		1710～1750	肥前
	6	陶胎染付	小碗	(8.0)				1710～1750	肥前
	7	陶胎染付	碗	(11.4)	7.5	5		18世紀前半	肥前
	8	染付	碗	11	7.9	5		18世紀前半	肥前
	9	陶器	壺				唐津/IV期/外：刷毛目/内：打刷毛目	1690～1780	肥前
SK478	1	染付	小碗	(8.8)	3.9	3.2	外：若松	1710～1750	肥前
	2	染付	碗	(9.8)	4.4	4.2	外：若松	1710～1750	肥前
	3	染付	碗	(9.6)	4.9	3.7	外：格子目・菊花・半菊	1710～1750	肥前
	4	染付	碗	(10.2)	4.5	3.6	外：水裂・菊花	1710～1750	肥前
	5	染付	碗	10.7	4.4	5	見込み蛇の目釉刺ぎ/外：梅樹文	1710～1740	肥前(波佐見)
	6	染付	碗	10.8	4.3	5.1	見込み蛇の目釉刺ぎ/外：梅樹文	1680～1740	肥前(波佐見)
	7	染付	碗	10.1	3.8	5.2	草花文/「大明年製」崩れ銘	1700～1750	肥前
	8	染付	碗	(9.8)	5	4	草花文/「大明年製」崩れ銘	1700～1750	肥前
	9	白磁	小碗	7.5	3.9	3.2		18世紀前半	肥前
	10	陶胎染付	碗	11.4	7.9	5.1		18世紀前半	肥前
	11	陶胎染付	碗	8.8	6.4	4	コンニャク印判・团鶴・花	18世紀前半	肥前
	12	陶胎染付	碗	9.6	6.5	4.3	コンニャク印判・团鶴・花	18世紀前半	肥前
	13	陶胎染付	碗	10.1	7	4.3	コンニャク印判・团鶴・花	18世紀前半	肥前
	14	陶器	碗	8.7	4.8	6.8	樓閣山水	18世紀前半	肥前
	15	陶器	碗	8.2	7.1	4.5	山水	18世紀前半	京・信楽
	16	染付	皿	(12.0)	(3.0)	(7.3)	内：花・五弁花/外：唐草・「大明年製」崩れ銘	18世紀前半	京・信楽
	17	染付	皿	9.3	2.1	5	内・外：花文	18世紀前半	肥前
	18	染付	皿	12.4	4.5	3.5	見込み蛇の目釉刺ぎ/内：二重斜格子文	1680～1740	肥前
	19	染付	皿	(13.0)	3.7	4.2	見込み蛇の目釉刺ぎ/内：二重斜格子文	1680～1740	肥前(波佐見)
	20	染付	皿			4.4	見込み蛇の目釉刺ぎ/内：二重斜格子文	1680～1740	肥前(波佐見)
	21	染付	猪口	(8.2)	(3.9)	(3.2)	外：若松・渦福	18世紀前半	肥前(波佐見)
	22	染付	猪口	7.2	5.4	6.1	花	18世紀前半	肥前
	23	陶器	皿	6.6	3.7	3.2	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610～1650	肥前
	24	陶器	皿	10.6	3	3.6	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610～1650	肥前
	25	陶器	皿	9.5	5.1	3.6		18世紀前半	京・信楽

表22 その他主要遺構出土遺物観察表⑪

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
SK478	26	陶器	皿				唐津/Ⅱ期/鉄絵	1610~1650	肥前
	27	陶器	皿	(20.0)	(6.1)	(8.6)	唐津/IV期/内：刷毛目・蛇の目釉剥ぎ	1610~1650	肥前
	28	陶器	蓋	10.6	3.4	3.6	蓋付鉢の蓋	18世紀前半	肥前
	29	陶器	鉢			12	内：刷毛目・砂目積み	18世紀前半	肥前
	30	陶器	擂鉢	(35.0)	14.8	16		18世紀前半	肥前
SK483	1	染付	碗			4.3	菊花	18世紀前半	肥前
	2	染付	碗	(11.4)	6.2	4.3	「大明年製」崩れ銘	1700~1750	肥前
	3	染付	碗			(3.8)	「大明年製」崩れ銘	1700~1750	肥前
	4	陶胎染付	碗	11.1	8	5.4		18世紀前半	肥前
	5	陶器	皿	(13.0)	(3.7)	(4.2)	「大明年製」銘	18世紀前半	肥前
	6	染付	仏飯器			3.8		18世紀前半	肥前
	7	染付	猪口			(4.9)	「大明年製」銘	18世紀前半	肥前
	8	土師器	焼塩壺	7.4	2.3			18世紀中頃	堺
	9	陶器	擂鉢			(15.2)		18世紀前半	肥前
SK229	1	青磁染付	蓋	4			外：渦福/内：椿文/四方襷	18世紀前半	肥前
	2	染付	小碗	7.8	4.5	2.8	外：雨降文	1700~1740	肥前
	3	染付	小碗	(8.2)	(4.0)	(3.7)	外：唐草・渦福	1700~1740	肥前
	4	染付	碗	9.4	5.1	3.8	内網目文/外：二重網目文/渦福	1700~1750	肥前
	5	染付	碗			3.6	外：菊花文・渦福	1700~1750	肥前
	6	染付	碗			4.1	「大明年製」崩れ銘	1700~1750	肥前
	7	染付	碗			4.2	内・外：網目文/渦福	1700~1750	肥前
	8	染付	碗	10	5.6	4.5	コンニャク印判菊文/渦福	1700~1750	肥前
	9	染付	碗	9.8	5.5	4.1	草花文/「大明年製」崩れ銘	1700~1750	肥前
	10	染付	碗	(9.4)	(5.3)	(4.2)	コンニャク印判	1700~1750	肥前
	11	白磁	碗	9.3	5	4.1	色絵素地？	18世紀前半	肥前
	12	染付	碗	(12.0)			草花文	1710~1750	肥前
	13	染付	碗	(9.8)	(4.6)	(4.1)	松竹文	1710~1750	肥前
	14	染付	碗			(4.1)	若松	1710~1750	肥前
	15	陶胎染付	碗	(11.0)	7	4.7	コンニャク印判船文	18世紀前半	肥前
	16	陶胎染付	碗	(12.1)			山水文	18世紀前半	肥前
	17	陶胎染付	碗	(11.0)	(5.7)	(4.1)	見込み蛇の目釉剥ぎ	18世紀前半	肥前
	18	陶胎染付	碗			4.7		18世紀前半	肥前
	19	陶胎染付	碗			4.9		18世紀前半	肥前
	20	陶器	碗	(10.2)	(7.5)	(4.2)	唐津/IV期/外・内：刷毛目	1690~1780	肥前
	21	陶器	碗	(10.2)	(7.4)	(4.2)	唐津/IV期/外・内：刷毛目	1690~1780	肥前
	22	陶器	碗	(10.4)	(7.3)	(4.2)	唐津/IV期/外・内：刷毛目	1690~1780	肥前
	23	陶器	碗			4.5	唐津/IV期/外・内：刷毛目	1690~1780	肥前
	24	陶器	碗	(10.5)	(6.1)	(3.6)	唐津/IV期/外：刷毛目/内：打刷毛目	1690~1780	肥前
	25	陶器	碗	(9.9)			唐津/IV期/外：刷毛目/内：打刷毛目	1690~1780	肥前
	26	陶器	碗	(11.5)	(7.4)	(4.6)	唐津/III期/高台内施釉	1650~1690	肥前
	27	陶器	碗	(10.9)			唐津/III期	1650~1690	肥前
	28	陶器	碗			4.6	唐津/III期/高台内施釉	1650~1690	肥前
	29	陶器	碗	(11.3)	(5.1)	(4.7)	京焼き	18世紀前半	肥前
	30	陶器	碗			4.4	唐津/II期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	31	染付	皿	(18.2)	(2.8)	(11.3)	ハリ支え/内：蔓花文/外：唐草文・渦福	18世紀前半	肥前
	32	染付	皿	13	3.6	7.9	内：コンニャク五弁花・墨弾き/外：唐草・渦福	1680~1740	肥前(波佐見)
	33	染付	皿	14.1	3.5	8	内：蛸唐草/外唐草	1710~1740	肥前
	34	染付	皿	(14.0)	(3.5)	(8.1)	蛇の目四形高台/内：松竹文・五弁花/外：唐草	1730~1750	肥前
	35	染付	皿	(13.6)	2.9	4.4	見込み蛇の目釉剥ぎ/内：半菊・唐草文・コンニャク五弁花	1680~1740	肥前(波佐見)
	36	染付	皿	(13.3)	(3.0)	(6.3)	見込み蛇の目釉剥ぎ/内：唐草文・コンニャク五弁花	1680~1740	肥前(波佐見)
	37	染付	皿	10.2	2.3	5.5	内・外：花文	18世紀前半	肥前
	38	染付	皿	(9.6)	(1.8)	(4.9)	内・外：花文	18世紀前半	肥前
	39	染付	皿	12.6	3.5	4.6	見込み蛇の目釉剥ぎ/内：二重斜格子文	1680~1740	肥前(波佐見)
	40	染付	皿	12.2	3.9	3.9	見込み蛇の目釉剥ぎ/内：二重斜格子文	1680~1740	肥前(波佐見)
	41	染付	皿			4.6	見込み蛇の目釉剥ぎ/内：二重斜格子文？	1680~1740	肥前(波佐見)
	42	染付	皿	11.8	3.7	3.8	見込み蛇の目釉剥ぎ/流水文？	1680~1740	肥前(波佐見)
	43	染付	皿	11.6	3.7	4.1	見込み蛇の目釉剥ぎ/折松葉文	1680~1740	肥前(波佐見)
	44	染付	皿			1.9	型打成形/口紅/型紙摺り	18世紀前半	肥前(波佐見)
	45	染付	皿	8.8	1.8	5.4	型打成形/内：椿/外：折松葉文	18世紀前半	肥前

表23 その他主要遺構出土遺物観察表⑫

迎物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
SK229	46	染付	紅皿	5.4	2.4	2.8	筐	18世紀前半	肥前
	47	染付	紅皿	6.2	2.4	3.2	筐	18世紀前半	肥前
	48	陶器	皿	13.2	3.8	4.8	唐津/Ⅲ期/見込み蛇の目釉刺ぎ/銅緑釉	1650~1690	肥前
	49	陶器	皿	(12.0)	3.6	4.3	唐津/Ⅲ期/見込み蛇の目釉刺ぎ/銅緑釉	1650~1690	肥前
	50	陶器	皿			4.3	唐津/Ⅲ期/見込み蛇の目釉刺ぎ/銅緑釉	1650~1690	肥前
	51	染付	蓋付鉢	8.1	4.1	4.5		18世紀前半	肥前
	52	陶器	香炉			8.9	褐釉		
	53	染付	小壺	6.1	3.5	3.8	雨降文	18世紀前半	肥前
	54	染付	仏飯器	7	5.1	3.6	雨降文	1690~1780	肥前
	55	陶器	壺	(11.4)					
	56	白磁	壺			11.2		18世紀前半	肥前
	57	染付	壺			4.8		18世紀前半	肥前
	58	陶器	擂鉢			9	唐津Ⅲ~IV期	18世紀中頃	肥前
	59	青磁	瓶			6.2			
	60	瓦質土器	甕	(24.4)					在地
Pit119	1	染付	皿	14.2	4.4	7.4	輪花/内:桃/外:唐草・渦福	18世紀前半	肥前
	2	染付	皿	13.2	3.6	7.8	内:五弁花・墨弾きによる椿文/外:唐草・「大明年製」崩れ銘/朱書き軍配	1680~1740	肥前(波佐見)
	3	染付	皿	13.8	4.3	7.6	内:五弁花・唐草・山水/外:唐草・渦福	18世紀後半	肥前
	4	染付	皿			(12.2)	ハリ文え/内:筐/外:唐草・「□□(奇玉)鼎之珍」銘	1690~1740	肥前
	5	染付	皿	12.1	3.2	4.6	見込み蛇の目釉刺ぎ/流水文?	1680~1740	肥前(波佐見)
	6	染付	皿	12.6	4	3.8	見込み蛇の目釉刺ぎ/折松葉文	1680~1740	肥前(波佐見)
	7	染付	皿	12	3.5	3.4	見込み蛇の目釉刺ぎ/流水文?	1680~1740	肥前(波佐見)
	8	陶器	火入	(15.2)	(6.1)	(6.2)	唐津/Ⅲ期	1650~1690	肥前
	9	陶器	碗			(4.8)	唐津/Ⅲ期	1650~1690	肥前
	10	土師器	焼塩壺	(7.0)			布目アリ/「サカイ泉州磨生御塩所」	1720~1740	堺
Pit428	1	染付	皿	10	2	5.8	内・外:花文	18世紀前半	肥前
	2	陶器	人形				狛犬/緑釉/白色系の軟質胎土		
SX286	1	染付	碗	(10.8)	(6.4)	4	外:コンニャク印判若松+草花文・「大明年製」崩れ銘	1700~1740	肥前
	2	染付	碗	(9.6)	(4.8)	(4.0)	外:草花文・「大明年製」崩れ銘	1700~1740	肥前
	3	染付	碗	(10.0)	5.9	4.4	外:草花文・「大明年製」崩れ銘	1700~1740	肥前
	4	染付	碗	(9.8)	(4.9)	(4.0)	外:菊花文・渦福	1700~1750	肥前
	5	染付	碗	(9.6)			外:コンニャク印判鶴	18世紀前半	肥前
	6	染付	碗			3.2	外:草花文	1700~1740	肥前
	7	染付	碗	(10.0)				1700~1740	肥前
	8	陶胎染付	碗	(10.6)	(6.9)	(4.4)		18世紀前半~中頃	肥前
	9	陶胎染付	碗			5		18世紀前半~中頃	肥前
	10	陶胎染付	碗			4.4		18世紀前半~中頃	肥前
	11	陶器	碗	12.5	7.7	4.9	唐津/IV期	1690~1780	肥前
	12	陶器	碗	10.2	6.6	4.4	唐津/IV期/外・内:刷毛目	1690~1780	肥前
	13	陶器	碗	(10.0)	(7.0)	(4.6)	唐津/IV期/外・内:刷毛目	1690~1780	肥前
	14	陶器	碗	9.2	6.9	3.8	唐津/IV期/外・刷毛目/内:打ち刷毛目	1690~1780	肥前
	15	白磁	碗	(9.0)	(5.2)	3.4	色絵素地?	17世紀後半	肥前
	16	陶器	碗			5	唐津/IV期	1690~1780	肥前
	17	陶器	碗			3.9	唐津/1-2期/胎土目積み段階	1594~1610	肥前
	18	陶器	碗			(4.0)	唐津/1-2期/胎土目積み段階/鉄絵アリ	1594~1610	肥前
	19	染付	小壺			3.5	「大明年製」崩れ銘	18世紀前半	肥前
	20	染付	鉢			9.6			肥前
	21	染付	皿	12.4	3.7	4.2	見込み蛇の目釉刺ぎ/折松葉文	1680~1740	肥前(波佐見)
	22	染付	皿	13.4	3.8	4.4	見込み蛇の目釉刺ぎ	1680~1740	肥前(波佐見)
	23	染付	皿	(12.6)	4.2	4.2	見込み蛇の目釉刺ぎ/折松葉文	1680~1740	肥前(波佐見)
	24	染付	皿	(12.0)	(3.5)	(4.2)	見込み蛇の目釉刺ぎ/流水文?	1680~1740	肥前(波佐見)
	25	染付	皿	12.6	3.8	4.3	見込み蛇の目釉刺ぎ/流水文?	1680~1740	肥前(波佐見)
	26	陶器	皿			3.8	唐津/Ⅲ期/見込み蛇の目釉刺ぎ/銅緑釉	1650~1690	肥前
	27	陶器	皿				唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	28	白磁	紅皿	7.2	2.8	2		18世紀前半	肥前
	29	染付	紅皿	6.6	2.4	3	筐	18世紀前半	肥前
	30	白磁	紅皿	4.2	1.8	1.8		1700~1730	肥前
	31	染付	鉢				蛸唐草	18世紀前半	肥前
	32	染付	瓶						肥前

表24 その他主要遺構出土遺物観察表⑬

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
SX286	33	染付	瓶						肥前
	34	染付	仏飯器			4	花唐津	18世紀前半	肥前
	35	陶器	擂鉢	(33.0)	(16.2)	(14.0)	唐津/IV期	18世紀前半	肥前
	36	陶器	擂鉢	41	16.5	15	唐津/IV期	18世紀前半	肥前
	37	瓦質土器	火鉢			(19.5)			在地
	38	陶器	壺			(9.8)			
SE106	1	陶胎染付	碗			(5.8)		18世紀前半~中頃	肥前
	2	陶器	碗	(16.0)			唐津/II期/砂目積み段階/鉄絵	1610~1650	肥前
Pit348	1	染付	碗	9.9	5.9	3.9	草花文	1700~1740	肥前
	2	染付	皿	10.4	2.7	4.7	桃	1680~1700	肥前
	3	陶器	鉢	22.8	11.1	11.2	唐津/II~IV期/内外面共に刷毛目装飾/玉縁状口縁部	18世紀前半~中頃	肥前
SE500	1	染付	碗	11.5	4.8	4.2	中国染付?/見込みに花文/高台内無釉	17世紀前半	中国
	2	染付	碗	(10.7)	4.8	3.3	中国染付?/見込みに花文/高台内無釉	17世紀前半	中国
	3	白磁	碗	(9.5)	4.4	3.7	青みがかった白磁/肥前?/高台に砂が付着する	17世紀前半?	肥前?
	4	染付	碗	(10.0)			網目文	1650~1660	肥前
	5	白磁	碗	9.9	6.8	4.3	青みがかった白磁/高台に砂が付着する	1630~1650	肥前
	6	白磁	碗	(10.4)	(7.2)	(3.8)	青みがかった白磁/高台内無釉	1630~1650	肥前
	7	陶器	碗	(12.2)	7.7	5.1	唐津/III期/京焼風陶器/呉器手碗	1650~1690	肥前
	8	陶器	碗	13.4	8	5.7	唐津/III期/京焼風陶器/呉器手碗	1650~1690	肥前
	9	陶器	碗	12.3	7	5.2	唐津/III期/高台内施釉	1650~1690	肥前
	10	陶器	碗	11.5	7.8	5.9	唐津/III期/高台内施釉	1650~1690	肥前
	11	陶器	碗	(12.4)	7.1	4.8	唐津/III期/高台内施釉	1650~1690	肥前
	12	陶器	碗	11.2	7.4	4.8	唐津/III期/高台内施釉/銅緑釉を口縁部~体部内外面に掛ける	1650~1690	肥前
	13	白磁	碗			(3.4)	青みがかった白磁/高台内無釉/砂が付着	1630~1650	肥前
	14	白磁	碗			5.3	磁胎/青みがかった白磁/唐津III期陶器と共に通る形態/全面施釉	1630~1650	肥前
	15	陶器	碗			4.4	唐津/II期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	16	白磁	碗	(9.6)	4.3	3.7	青みがかった白磁/肥前?/高台に砂が付着する	17世紀前半?	肥前
	17	陶器	碗			5	唐津/III期/高台内施釉	1650~1690	肥前
	18	陶器	壺or瓶			8	唐津/高台内施釉/砂が付着	17世紀後半	肥前
	19	染付	皿			4.5	初期伊万里/蔓草文	17世紀前半	肥前
	20	染付	皿	(13.6)	(3.1)	(7.2)	コンニャク五弁花	18世紀前半	肥前(波佐見)
	21	陶器	皿	(13.8)	2.9	5	唐津/III期/見込み部蛇の目釉刺ぎ	1650~1690	肥前
	22	陶器	皿	(12.5)	(4.0)	(4.0)	唐津/III期/見込み部蛇の目釉刺ぎ	1650~1690	肥前
	23	陶器	皿	(11.4)	(3.9)	(3.4)	唐津/III期/見込み部蛇の目釉刺ぎ/銅緑釉(内野山)	1650~1690	肥前
	24	陶器	皿	(13.3)	3.4	4.3	唐津/III期/見込み部蛇の目釉刺ぎ	1650~1690	肥前
	25	陶器	皿			3.5	唐津/II期/砂目積み	1610~1650	肥前
	26	陶器	皿			(4.8)	唐津/III期/見込み部蛇の目釉刺ぎ	1650~1690	肥前
	27	陶器	皿			4.9	唐津/II期/砂目積み	1610~1650	肥前
	28	土師器	皿	(10.5)	(1.6)	(7.4)	底部糸切り離し/白色系の胎土	17世紀後半	在地
	29	土師器	皿	(15.7)	(3.0)	(8.4)	底部糸切り離し/赤褐色系の胎土	17世紀後半	在地
	30	白磁	蓋	(8.4)			白磁壺蓋/	17世紀後半~ 18世紀前半	肥前
	31	陶器	灯火具	8.1	4.8	5.3	焼締陶器+鉄釉/受皿部径15.2cm/底部糸切り離し	17世紀後半	肥前?
	32	青磁	盤			4.4	脚付盤/		肥前?
	33	瓦質土器	火鉢	(12.6)	(5.8)	(10.6)	脚付/底部糸切り離し	17世紀後半	在地
	34	陶器	壺			(13.8)	焼締陶器		
	35	染付	瓶			4.8		17世紀後半	肥前
	36	陶器	擂鉢				備前/焼締陶器	17世紀後半	備前
	37	陶器	擂鉢	(28.0)	(12.2)	(9.0)			
	38	陶器	擂鉢	(23.2)					
	39	陶器	鉢	(46.0)			唐津/III~IV期/二彩手	17世紀後半~ 18世紀前半	肥前
SK517	1	陶器	碗	(12.8)					
	2	陶器	碗	(12.4)	(6.7)	(4.2)	唐津/III期	1650~1690	肥前
	3	陶器	碗	(11.2)			唐津/III期/刷毛目	1650~1690	肥前
	4	陶器	碗			(4.6)	唐津/III期	1650~1690	肥前
	5	陶器	碗			(4.4)	唐津/III期/焼成不良釉発色無し	1650~1690	肥前
	6	染付	小壺	(7.1)				1650~1680	肥前
	7	陶器	小碗				唐津/III期/京焼風陶器/高台内に押印アリ	1650~1690	肥前
	8	染付	小碗			3.3	草花文/「宣明年製」銘	1670~1690	肥前
	9	染付	皿			(4.4)	初期伊万里/高台内に砂が付着する	1610~1630	肥前

表25 その他主要遺構出土遺物観察表⑭

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
SK517	10	染付	皿	(14.4)	(3.0)	(7.6)	中国染付/景德鎮		中国
	11	染付	皿			5.2	型打陽刻成形/瑠璃釉を掛け分ける	1640~1650	肥前
	12	染付	皿	14	2.9	7.5	初期伊万里	17世紀前半	肥前
	13	染付	皿	13.4	3.4	3.9	見込み蛇の目釉剥ぎ	1650~1680	肥前(波佐見)
	14	染付	皿	13.4	3.5	4.7	崩れた折松葉文/見込み蛇の目釉剥ぎ	1650~1680	肥前(波佐見)
	15	陶器	鉢			4.4	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階/切り高台(3カ所)	1610~1650	肥前
	16	陶器	鉢			9.8	唐津/Ⅲ期/刷毛目/砂目積	1650~1690	肥前
	17	陶器	鉢				唐津/鐵絵		肥前
	18	陶器	壺			(14.4)	焼締陶器/平行タタキ		九州
	19	陶器	盤	(19.2)				17世紀前半	九州
	20	陶器	鉢			9	唐津/鐵絵		肥前
	21	陶器	擂鉢	(29.2)			唐津/焼締陶器/鐵釉	17世紀前半	肥前
	22	染付	擂鉢	(20.4)			備前/焼締陶器	17世紀前半	備前
	23	染付	瓶			(6.8)			肥前
SX309	1	染付	皿	(13.6)	2.4	5.4		1640~1650	肥前
	2	陶器	碗	(12.2)			唐津/Ⅲ期	1650~1690	肥前
	3	陶器	徳利				備前/焼締陶器	16世紀末	備前
	4	瓦質土器	火鉢	(11.2)			三脚付	17世紀後半	在地
SK340	1	陶器	碗			3.8	唐津/Ⅲ期	1650~1690	肥前
	2	陶器	皿	(12.4)	(3.3)	(2.8)	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	3	染付	皿	20	2.9	10	樓閣山水文	17世紀中頃~後半	肥前
	4	土師器	皿	(11.4)			京都系土師器/白色系胎上/極薄	17世紀後半	在地
	5	土師器	皿	(10.4)	(2.2)		京都系土師器/白色系胎上/極薄	17世紀後半	在地
	6	土師器	皿	(11.8)			京都系土師器/厚い器壁	17世紀前半	在地
	7	陶器	片口	(19.0)			唐津/Ⅰ・Ⅱ期/胎土目積み段階	1594~1610	肥前
SX527	1	陶器	碗	(11.7)	(8.1)	(4.8)	唐津/Ⅲ期/体部下半無釉	1650~1690	肥前
	2	陶器	碗			(5.3)	唐津/Ⅲ期/高台内施釉	1650~1690	肥前
	3	陶器	碗			3	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	4	陶器	皿	(10.8)			唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	5	陶器	皿			3	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	6	陶器	皿			4.4	唐津/Ⅱ期/砂目積み/底部糸切り離し	1610~1650	肥前
	7	染付	皿				型打陽刻成形	1640~1650	肥前
	8	陶器	片口	(11.9)			唐津/Ⅰ・Ⅱ期/胎土目積み段階/鐵絵	1594~1610	肥前
	9	陶器	擂鉢	(27.4)	(12.6)	(10.0)	備前/焼締陶器	17世紀前半	備前
S499	1	陶器	碗	10	6.9	4	唐津/Ⅲ期/刷毛目	1650~1690	肥前
S461	1	陶器	碗			4.5	唐津/Ⅲ期	1650~1690	肥前
	2	陶器				(5.4)	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	3	染付	皿	14	2.7	8	ハリ支え/青海波	17世紀中頃~後半	肥前
	4	陶器	鉢			(6.2)	唐津/Ⅰ・Ⅱ期/胎土目積み	1594~1610	肥前
	5	陶器	鉢	(36.0)			唐津/Ⅲ期/刷毛目	1650~1690	肥前
Pit223	1	陶器	碗			3.6	唐津/Ⅳ期/外:刷毛目/内:打刷毛目	1690~1780	肥前
	2	陶器	甕	(30.0)			唐津/Ⅳ期/刷毛目・二彩手	1690~1780	肥前
	3	陶器	甕	(28.0)			唐津	17世紀後半	肥前
SK327	1	陶器	碗	(11.7)			唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	2	陶器	碗	(11.8)			唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	3	陶器	碗	(13.2)	8	5	唐津/Ⅲ期	1650~1690	肥前
	4	土師器	皿	(11.0)	(1.8)	(4.0)	底部糸切り離し/黒褐色系の胎土	17世紀後半	在地
	5	陶器	皿				唐津/Ⅰ・Ⅱ期/胎土目積み	1594~1610	肥前
	6	陶器	擂鉢				備前/焼締	17世紀前半	備前
Pit336	1	陶器	鉢	(38.9)	(11.3)	(12.8)	唐津/Ⅳ期/刷毛目/砂目積	1690~1780	肥前
SK333	1	白磁	小壺	(6.2)	(2.4)	(4.8)	色絵素地?		肥前
	2	染付	小壺			(3.0)	梅花文		肥前
	3	陶器	碗	(12.4)	8.1	5.4	唐津/Ⅲ期	1650~1690	肥前
	4	陶器	碗			5.7	唐津/Ⅲ期	1650~1690	肥前
	5	陶器	碗			4.2	唐津/Ⅲ期	1650~1690	肥前
	6	土師器	皿	(10.8)	(1.8)	(4.0)	京都系土師器/白色系胎土/極薄	17世紀後半	在地
	7	染付	皿	(12.6)	(3.0)	(5.4)	肥前/Ⅲ期/蔓草	17世紀中頃~後半	肥前
	8	染付	皿	(15.2)	(3.4)	(6.2)	肥前/Ⅲ期/口紅	17世紀中頃~後半	肥前
	9	染付	皿	(13.4)				17世紀中頃~後半	肥前

表26 その他主要遺構出土遺物観察表⑯

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
SK333	10	陶器	皿			5.8			不明
SK339	1	陶器	碗	(13.4)			唐津/Ⅱ期	1610~1650	肥前
	2	陶器	皿	(13.4)	(2.5)	(5.8)	唐津/砂目積み	1610~1650	肥前
	3	陶器	皿			(4.4)	唐津/砂目積み	1610~1650	肥前
	4	染付	皿			(5.2)	蛇の目高台	17世紀前半	中国
SK531	1	染付	碗	11.2	5.8	4.2	初期伊万里/高台に砂付着/	1610~1630	肥前
	2	染付	碗	(10.6)			中国染付	17世紀前半	中国
	3	陶器	碗	12.4	7.6	5	唐津/Ⅱ期	1610~1650	肥前
	4	陶器	碗			4.8	唐津/Ⅲ期/刷毛目	1650~1690	肥前
	5	陶器	碗			4	唐津/天目碗の名残を残す	1650~1690	肥前
	6	染付	碗			(10.0)	中国染付	17世紀前半	中国
	7	陶器	皿				不明陶器		
SK541	1	陶器	碗				天目碗		
	2	陶器	碗	10.6	6.9	3.8	唐津/Ⅱ期	1610~1650	肥前
	3	陶器	碗			4.4	唐津/Ⅱ期	1610~1650	肥前
	4	陶器	碗			4	唐津/Ⅲ期	1650~1690	肥前
	5	陶器	碗	8.8	6	3.2	唐津/Ⅲ期/刷毛目	1650~1690	肥前
SX225	1	土師器	皿	(5.5)	(2.2)	(2.8)		17世紀前半	在地
	2	陶器	皿	(5.0)			唐津/Ⅱ期	1610~1650	肥前
	3	陶器	皿			(3.4)	唐津/砂目積み/Ⅱ期	1610~1650	肥前
	4	染付	皿				中国染付	16世紀末~ 17世紀前半	中国
	5	陶器	皿	(13.0)			唐津/Ⅱ期	1610~1650	肥前
SK261	1	陶器	皿	(14.6)			唐津/Ⅱ期	1610~1650	肥前
	2	土師器	皿	(12.6)	(2.5)		京都系土師器	17世紀前半	在地
SK259	1	陶器	碗	(10.4)	6.9	4.2	唐津/Ⅱ期/鉄絵	1610~1650	肥前
	2	陶器	皿			4.5	唐津/Ⅰ-2期/胎土目積み	1594~1610	肥前
	3	陶器	皿			(4.2)	唐津/Ⅰ-2期/胎土目積み	1594~1610	肥前
	4	陶器	瓶			(12.6)	唐津/二枚貝の貝目積み(合わせ目部分が付着する)/同心円叩き	17世紀前半	肥前
	5	陶器	皿			(11.0)	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	6	土師器	坩堝						在地
	7	石	砥石				天草石		
	8	瓦	軒丸瓦						在地
SK267	1	陶器	碗	(12.8)			唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	2	染付	碗				初期伊万里/胴部に「福寿」銘アリ	1610~1620	肥前
	3	陶器	碗			3.8	唐津/Ⅱ期	1610~1650	肥前
	4	陶器	皿			2.8	唐津/Ⅱ期/全面施釉	1610~1650	肥前
	5	青磁	碗			(5.0)	龍泉窯系青磁碗 I 類	13世紀代	中国
	6	陶器	皿	11.6	2.9	3	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	7	陶器	皿	11	2.6	3.4	唐津/Ⅰ-2期/胎土目積み	1594~1610	肥前
	8	陶器	皿	11.4	3	3.2	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	9	陶器	皿	(11.9)	4	3.4	唐津/Ⅰ-2期/胎土目積み	1594~1610	肥前
	10	陶器	皿	(14.0)	3.2	3.8	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	11	陶器	皿	(12.8)	(3.2)	(3.0)	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	12	陶器	皿	(13.0)	(3.3)	(3.0)	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	13	陶器	皿			(4.0)	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	14	陶器	皿				唐津/Ⅱ期/砂目積み段階/鉄絵	1610~1650	肥前
	15	染付	皿				初期伊万里/	1610~1630	肥前
SK295	1	染付	小壺				初期伊万里/	1630~1640	肥前
	2	陶器	皿	(13.0)			唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	3	陶器	皿	13.2	3.4	3.4	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	4	陶器	皿	(11.0)			唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	5	陶器	碗	(12.6)			唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	6	陶器	碗				唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	7	陶器	擂鉢						
Pit436	1	陶器	碗			3.6	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	2	陶器	碗			4.2	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
Pit353	1	陶器	皿	(11.8)	3	3.6	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
Pit477	1	陶器	碗			4	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	2	土師器	皿	(11.0)			京都系土師器	17世紀前半	在地

表27 その他主要遺構出土遺物観察表⑯

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
Pit474	1	陶器	碗			(6.0)	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	2	陶器	徳利				備前	16世紀末	備前
SK528	1	染付	碗	(11.1)	6.7	4.5	初期伊万里/菊花文/高台に砂付着	1610~1630	肥前
	2	染付	碗	(11.3)	7	4.8	初期伊万里/山水/高台に砂付着	1610~1630	肥前
	3	染付	皿	(13.9)	2.7	6	初期伊万里/菊花文/高台に砂付着	1610~1630	肥前
整地層530	1	陶器	碗			5.8	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	2	染付	碗			(5.3)	初期伊万里	1610~1630	肥前
	3	陶器	皿			3.8	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	4	陶器	皿			3.4	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	5	陶器	皿	13	4	3.8	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階/見込み部蛇の目釉剥ぎ状	1610~1650	肥前
	6	染付	皿	(13.2)	4.2	2.8	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	7	陶器	皿			(7.4)	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	8	陶器	皿			7	唐津/1-2期/胎土目積み段階	1594~1610	肥前
	9	陶器	片口				唐津/1-2期/胎土目積み段階	1594~1610	肥前
SK741	1	陶器	碗			3.4	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	2	染付	碗	(11.2)			初期伊万里	1610~1630	肥前
	3	陶器	皿			3.4	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	4	染付	皿	(13.4)			初期伊万里	1610~1650	肥前
	5	陶器	片口				唐津/1-2期/胎土目積み段階	1594~1610	肥前
	6	陶器	皿	(30.0)			唐津/1-2期/胎土目積み段階	1594~1610	肥前
	7	陶器	徳利				備前/ヘラ記号アリ	16世紀末	備前
SK748	1	陶器	碗	(10.0)			唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	2	陶器	碗			4.7	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	3	陶器	碗	(11.8)			唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	4	陶器	皿			3.4	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	5	陶器	皿	(14.0)	3	4	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	6	陶器	皿	(24.6)			唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	7	陶器	片口				焼締陶器/SK748-7(片口)に共通する胎土	17世紀前半	九州?
SK749	1	陶器	碗	(12.2)	7.9	4.2	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	2	陶器	碗			4.4	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	3	染付	碗	(13.4)	3	4	初期伊万里	1610~1650	肥前
	4	陶器	皿	(13.4)	3	4	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	5	陶器	皿	(9.0)	3	2.4	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	6	染付	碗			4.6	初期伊万里	1610~1650	肥前
	7	陶器	壺			14.6	焼締陶器/SK748-7(片口)に共通する胎土	17世紀前半	九州?
	8	瓦質土器	火鉢			(16.6)		17世紀前半	在地
SE755	1	染付	碗	(12.0)			初期伊万里	1610~1650	肥前
	2	陶器	碗			3.8	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	3	陶器	皿			5.2	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階/鉄絵	1610~1650	肥前
	4	陶器	皿	13.4	3.9	4.4	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	5	陶器	皿			5.2	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
SK765	1	陶器	皿	12.8	3.2	3.8	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	2	陶器	皿	(15.4)			唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	3	陶器	皿	(13.0)			唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	4	陶器	徳利				備前/焼締陶器	16世紀末	備前
SK300	1	陶器	皿	(11.0)			唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	2	陶器	皿			4	唐津/Ⅱ期/砂目積み/鉄絵	1610~1650	肥前
	3	陶器	皿	(14.0)			中国染付皿 B2群	16世紀後半	中国
	4	染付	皿			4	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	5	陶器	擂鉢			(9.0)	備前/焼締陶器	17世紀前半	備前
整地層802	1	陶器	碗			3.6	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階/「上絹■(屋カ)■(金カ)作」墨書きアリ	1610~1650	肥前
SK432	1	染付	碗	(10.4)			初期伊万里	1610~1650	肥前
	2	陶器	碗			4.2	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	3	陶器	皿	(12.4)	(3.1)	(4.4)	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	4	陶器	皿	(12.8)	(2.3)	(4.6)	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	5	陶器	皿			(4.0)	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	6	陶器	皿			4.2	唐津/Ⅱ期/砂目積み/焼成不良で、釉が発色していない	1610~1650	肥前
	7	陶器	皿			(4.2)	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
SK759	1	土師器	皿	(10.6)	(1.8)	(7.4)	底部糸切り離し/白色系の胎土	17世紀前半	在地

表28 その他主要遺構出土遺物観察表⑯

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
SK759	2	染付	碗	(10.4)			初期伊万里/波文/「福寿」銘	1610~1630	肥前
	3	染付	碗	(10.8)			初期伊万里	1610~1650	肥前
	4	陶器	皿	13	2.7	4.2	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	5	陶器	皿			4	唐津/Ⅰ-2期/胎土目積み	1594~1610	肥前
	6	陶器	皿	(21.6)			唐津/Ⅱ期/砂目積み段階/鉄絵	1610~1650	肥前
	7	陶器	片口	(11.8)			唐津/Ⅰ-2期/胎土目積み段階/鉄絵	1594~1610	肥前
	整地層454	1	陶器	碗	(13.2)	7	5	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650
	2	陶器	碗			(4.8)	唐津/Ⅰ-2期/胎土目積み段階	1594~1610	肥前
	3	陶器	碗				唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	4	陶器	碗				唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	5	陶器	碗				唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	6	陶器	碗			(3.8)	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	7	陶器	碗			(5.2)	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	8	陶器	碗			(5.0)	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	9	青白磁	碗			3.2	中国?/見込部無釉	16世紀後半	中国?
	10	染付	碗				初期伊万里/「福寿」銘	1610~1630	肥前
	11	染付	碗	(11.8)	5.9	4.6	初期伊万里/蔓草文/高台に砂付着	1610~1630	肥前
	12	陶器	皿			4.8	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	13	陶器	皿	(11.4)			唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	14	染付	皿	(15.4)	(3.6)	(6.6)	型打陽刻成形	1640~1650	肥前
	15	陶器	鉢			5.8	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階/切り高台	1610~1650	備前
	16	陶器	擂鉢	(28.8)			備前/焼締陶器/放射状スリ目+斜め方向のスリ目	16世紀末	備前
SK298	1	陶器	皿	(7.8)			唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	2	陶器	皿	(7.5)			唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	3	陶器	盤	(16.0)				17世紀前半	九州?
SK305	1	青磁	碗				龍泉窯系青磁/上田分類C-3類	16世紀後半	中国
	2	土師器	皿	(12.0)			京都系土師器	17世紀前半	在地
	3	土師器	皿	(16.0)			京都系土師器	17世紀前半	在地
	4	土師器	皿				京都系土師器	16世紀後半	在地
	5	陶器	碗	(12.0)			唐津/Ⅰ-1期/胎土目積み段階	1580~1594	肥前
	6	染付	小壺	(8.0)				17世紀前半	肥前
	7	陶器	擂鉢	(27.6)			備前擂鉢/放射状スリ目+斜め方向のスリ目	16世紀末	備前
	8	土師器	鉢	(27.6)				17世紀前半	在地
Pit306	1	陶器	皿			4.2	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
SK315	1	陶器	碗			6	外面に緑釉を施す	17世紀前半	九州?
	2	陶器	皿			(3.2)	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	3	陶器	碗	(10.0)			初期伊万里	1610~1630	肥前
	4	陶器	碗			(3.6)	初期伊万里/高台に砂付着	1610~1630	肥前
	5	陶器	皿	(12.8)	(3.1)	(3.4)	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	6	陶器	皿			(3.0)	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	7	陶器	皿			(3.0)	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	8	陶器	皿			(4.0)	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	9	染付	皿	(12.4)	2.4	5.6	初期伊万里/蔓草文	1610~1630	肥前
	10	陶器	皿	(28.6)			唐津/Ⅱ期/鉄絵	1610~1650	肥前
	11	陶器	小壺					16世紀末	備前
	12	陶器	擂鉢	(34.0)			備前擂鉢/放射状スリ目+斜め方向のスリ目	16世紀末	備前
SK329	1	陶器	皿	(13.6)			唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610~1650	肥前
	2	染付	皿	(10.4)			中国染付皿E群/景德鎮	16世紀後半	中国
SK349	1	陶器	碗			(3.6)	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	2	陶器	皿			(3.4)	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	備前
	3	陶器	皿	(19.6)			唐津/Ⅱ期/砂目積み段階/鉄絵	1610~1650	肥前
	4	陶器	皿			6.4	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階/切高台	1610~1650	肥前
	5	陶器	鉢	(30.4)			唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	6	陶器	甕				備前	16世紀後半	備前
Pit398	1	陶器	盤	(35.0)				17世紀前半	九州?
SX420	1	陶器	碗			4.2	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	2	陶器	碗			6	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	3	陶器	碗			5	唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前
	4	陶器	碗	(12.4)			唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610~1650	肥前

表29 その他主要遺構出土遺物観察表⑩

遺物番号	実測番号	種別	器種	口径	器高	底径	備考	制作年代	生産地
SX420	5	陶器	碗	(13.8)			唐津/Ⅱ期/砂目積み段階	1610～1650	肥前
	6	染付	碗	(11.4)			初期伊万里/	1610～1630	肥前
	7	陶器	皿	12.9	3.6	4.8	唐津/Ⅱ期/砂目積み	1610～1650	肥前
	8	土師器	皿	(16.0)			体部下半ヘラ削り	古代	在地
	9	陶器	片口	(24.0)				17世紀前半	肥前
	10	陶器	片口	(17.0)				17世紀前半	肥前
	SK452	1	土師器	皿	(9.4)	(2.2)	京都系土師器	17世紀初頭	在地
	2	土師器	皿	(9.2)	(2.9)		京都系土師器	17世紀初頭	在地
	3	土師器	皿	11.6	3.7		京都系土師器	17世紀初頭	在地
	4	土師器	皿	11	4		京都系土師器	17世紀初頭	在地
SK269	5	土師器	皿	(12.8)	3.5		京都系土師器	17世紀初頭	在地
	6	陶器	皿	(13.0)			唐津/胎土目段階	16世紀末～ 17世紀初頭	肥前
	7	陶器	瓶or壺			6.5	不明焼締陶器/底部及び体部下部ヘラ削り	16世紀末～ 17世紀初頭	不明
	8	瓦質土器	擂鉢	(34.0)			防長系擂鉢？/放射状スリ目+斜め方向のスリ目	17世紀初頭	防長地域？
	9	陶器	皿	(32.8)			唐津/鉄絵/胎土目段階	17世紀初頭	肥前
	1	染付	碗			(4.6)	中国染付碗 E群/「大明年造」銘/景德鎮	16世紀後半	中国
	2	土師器	皿	(11.4)	(2.3)		京都系土師器	16世紀末～ 17世紀初頭	在地
	3	陶器	擂鉢			(10.6)	備前擂鉢/放射状スリ目+斜め方向のスリ目	16世紀末	備前
	4	瓦質土器	擂鉢			(20.8)	防長系？	16世紀末	防長地域？
	SK363	1	土師器	皿	(5.5)		京都系土師器	16世紀末～ 17世紀初頭	在地
	2	土師器	皿	(6.0)	(2.3)		京都系土師器	16世紀末～ 17世紀初頭	在地
	3	土師器	皿	(5.0)			京都系土師器	16世紀末～ 17世紀初頭	在地
	4	土師器	皿	(6.0)			京都系土師器	16世紀末～ 17世紀初頭	在地
	5	土師器	皿	(5.2)			京都系土師器	16世紀末～ 17世紀初頭	在地
	6	土師器	皿	(6.0)			京都系土師器	16世紀末～ 17世紀初頭	在地
	7	土師器	皿	(6.9)			京都系土師器	16世紀末～ 17世紀初頭	在地
	8	土師器	皿	(6.0)			京都系土師器	16世紀末～ 17世紀初頭	在地
	9	染付	碗				中国染付碗 E群/景德陳	16世紀後半	中国
	10	瓦質土器	擂鉢	(13.1)	(8.4)	(5.0)	防長系？	16世紀末	防長地域？
	11	瓦質土器	擂鉢	(12.5)			防長系？	16世紀末	防長地域？
SK392	1	土師器	皿				京都系土師器	17世紀初頭	在地
	2	陶器	不明				唐津/胎土目段階/鉄絵	17世紀初頭	肥前
SK391	1	陶器	皿			(2.4)	唐津/胎土目積み	16世紀末～ 17世紀初頭	肥前
SK762	1	陶器	皿			4	中国染付/漳州窯系/C群模倣	16世紀末	中国
Pit421	1	陶器	皿	(11.0)	2.8	(4.8)	唐津/胎土目段階	17世紀初頭	肥前
	2	陶器	皿			(5.0)	唐津/胎土目段階	17世紀初頭	肥前
SK444	1	陶器	碗	(11.0)			唐津/胎土目段階	17世紀初頭	肥前
	2	陶器	碗			3.2	唐津/胎土目段階	17世紀初頭	肥前
	3	瓦質土器	擂鉢	(33.2)			防長系？	16世紀末	防長地域？
SK763	1	陶器	葉研				備前/中央に方形の一次穿孔アリ	16世紀末～ 17世紀初頭	備前
SK411	1	陶器	皿			(4.4)	唐津/砂目積み	17世紀初頭	肥前
	2	陶器	皿			(6.4)	唐津/胎土目積み/墨書アリ	16世紀末～ 17世紀初頭	肥前
	3	色絵染付	皿				漳州窯/呉須赤絵皿	16世紀末～ 17世紀初頭	中国
SX454	1	土師器	皿	(10.6)	(3.6)		京都系土師器	17世紀初頭	在地

表30 その他主要遺構出土遺物観察表⑯

IV まとめ

1. 火災処理土坑について

今回の府内城・城下町跡第14次の調査成果の中でも特筆されるものとして、火災処理土坑の一群の存在が挙げられる。前述したとおり、これらの火災処理土坑に関しては、複数時期にわたって形成されていることに加え、大分市史にまとめられた「府内藩日記」にみえる大火（100軒以上焼失のもの）との整合作業も可能である。従って本章では、出土遺物の詳細検討により本調査区で確認された火災処理土坑の時期比定及び、「府内藩日記」に見える火災との整合作業を行い、火災処理土坑群の変遷を明らかにする。

「府内藩日記」にみえる大火（100軒以上焼失のもの）の内、今回の調査区である「竹町」及び「笠和町」一帯が被災したと考えられるものは、下柳町を火元とする寛保3年（1743）、明和8年（1771）、安永8年（1779）、文化7年（1810）のもの、上柳町を火元とする寛政3年（1791）の5件が挙げられる。今回確認された火災処理土坑は、前述したとおりその出土遺物から概ね18世紀中頃、18世紀後半、18世紀末～19世紀初頭、19世紀前半～中頃の4つの時期にそれぞれ分類することができた。以下、火災記録の無い19世紀前半～中頃のものをのぞいた火災処理土坑について、各時期別にその詳細検討を加える。

18世紀中頃に位置づけられる火災処理土坑には、SK360・018・151・210の4基がある。

まず、SK360及びSK151に関しては、両遺構から出土した色絵鶴形香合が、接合関係は無いもののほぼ同一個体といってよいものであることから、この二つの火災処理土坑が同一火災によって形成されたことが確認される。その他の火災処理土坑についても、18世紀前半代の遺物群を主体に、17世紀後半代、18世紀中頃の遺物が入る遺物組成から、ほぼ同時期の火災処理土坑である可能性が非常に高いと考えられる。

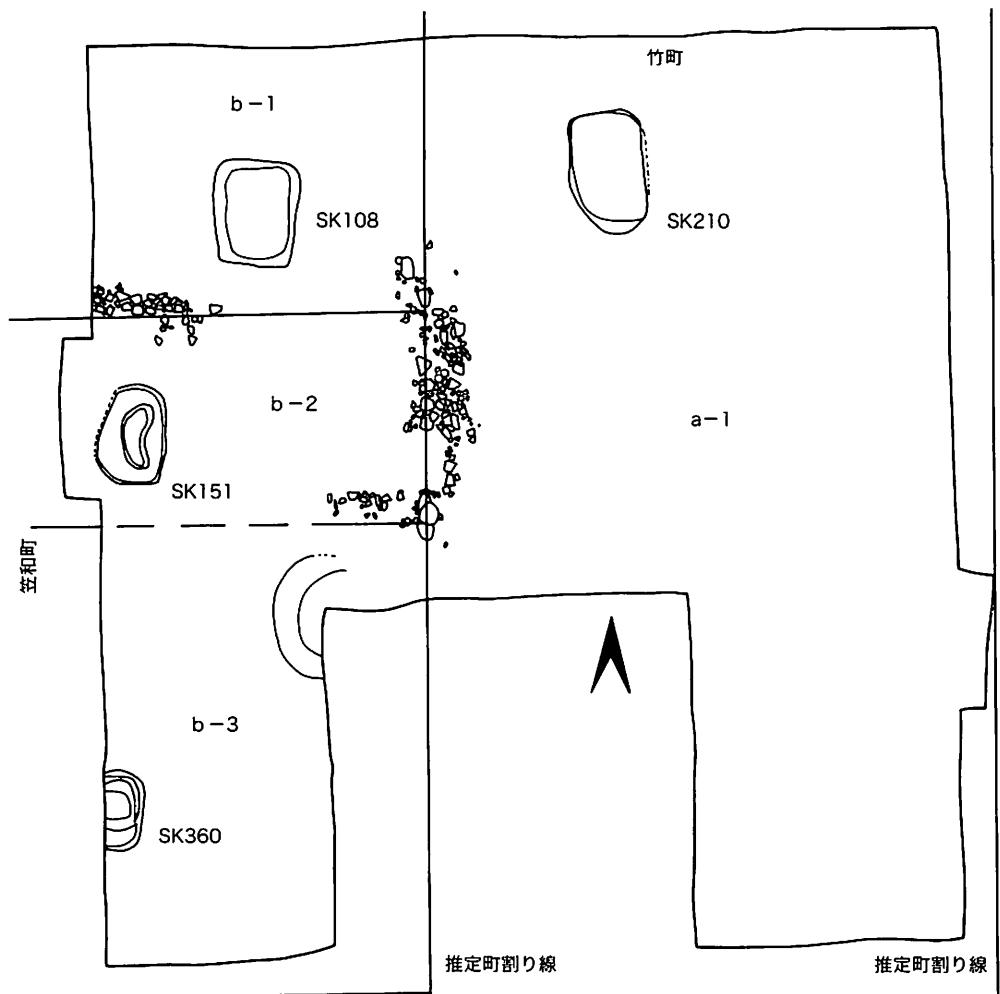
次に、これらの火災土坑群の詳細時期及び、「府内藩日記」に見える火災との整合についてであるが、SK210出土の焼塩壺（SK210から1720～1740に比定される「サカイ 泉州磨生 御塩所」の刻印をもつものと、「泉湊伊織」の刻印をもつものが共伴する状況）、出土した色絵磁器の年代観（SK360-9-1710～1740・鶴形香合-18世紀前半）、SK360から出土した蛇の目凹形高台皿の年代観（1740～1780）から、18世紀前半でも中頃に近い年代が考えられ、下柳町を火元とする寛保3年（1743）がもっとも近い位置づけとなる。

18世紀後半に位置づけられる火災処理土坑には、SK023・028・194・205・215の5基がある。

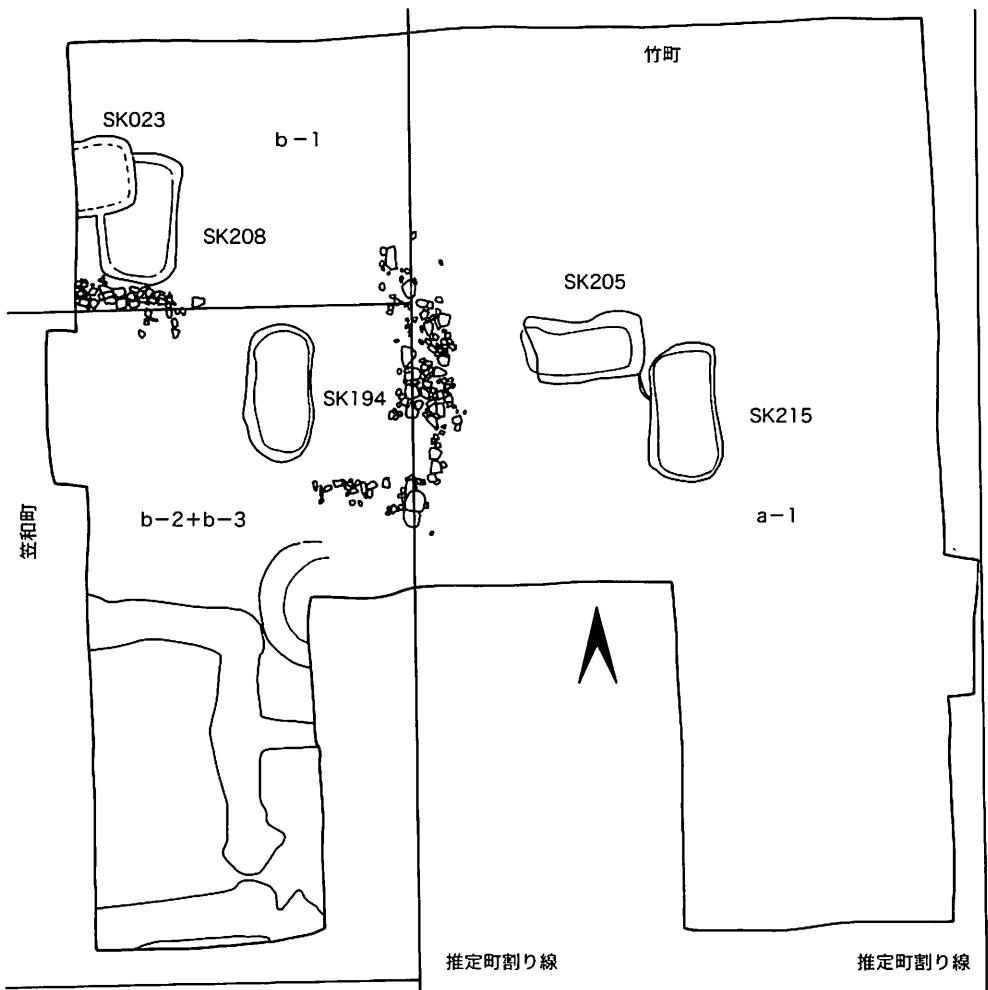
まず、これらの火災土坑群には、共通して口縁部付近の内面に四方櫛文を巡らすものが含まれていることから、概ね18世紀後半に位置づけられるものと考えられるが、これらの中には切合いを有するものもあり、（その切合い的に新しく位置づけられるSK023・205、古く位置づけられるSK028・215、切合いを持たないSK194がある。）少なくとも2時期の細分が可能な状況が考えられる。

次に、これらの火災土坑群の詳細時期及び、「府内藩日記」に見える火災との整合についてであるが、切合い的に新しい一群の中でSK205に1780年代以降に出現する紅皿が含まれ、切合い的に古い一群の中でSK215に小広東碗（1770～1780）が含まれることから（切合いを有さないSK194については、1780年代以降に出現するお神酒徳利が含まれることから、新しい一群と同時期であると考えたい）、前者については、上柳町を火元とする寛政3年（1791）の火災に相当し、後者については、下柳町を火元とする明和8年（1771）又は、安永8年（1779）の火災のいずれかが相当する。（安永8年の火災は、その規模が100軒余と比較的小規模であることから、竹町までの位置関係を考慮すると、明和8年（1771）の火災が妥当であろう）

18世紀末～19世紀初頭に位置づけられる火災処理土坑には、SK010・171・209の3基がある。



第73図 火災処理土坑変遷図－寛保3年(1743)－



第74図 火災処理土坑変遷図－明和8年(1771)・寛政3年(1791)－

まず、これらの火災処理土坑群は、SK171と209との間で遺構間接合する遺物の存在及び、SK010と209との間でセット関係となる碗と蓋が遺構間出土する状況から同一時期であることが確認されている。併せて、すべての遺構から広東碗が出土することから、これらの遺構群が概ね、1780～1810の年代が考えられる。

次に、これらの火災土坑群の詳細時期及び、「府内藩日記」に見える火災との整合についてであるが、SK010・SK171より出土した染付皿の中に、東大編年では、Ⅷa期（1800～1810）に限定される皿の銘款とされている馬字状「渦福」を有するものがあることに加え、SK171より出土した蘭人がモチーフとなった図柄を有する台付小壺（ワイングラス）については、同じ図柄の小壺が、柴田コレクションの中に存在し、その年代がやはり19世紀初頭に位置づけられており、下柳町を火元とする文化7年（1810）の火災に比定できる。

以上の火災処理土坑の変遷を、建物跡及び井戸跡等の主要遺構の変遷と合わせて提示したものが、第73図～76図である。

まず始めに、特に18世紀後半以前の火災処理土坑群及び、井戸跡、建物跡が、O-3グリッド、O-4グリッド、A-4グリッド、A-5グリッドにわずかに残されている石列を一つの基準として分布し、変遷している状況が確認される。即ちこの石列が、一つの区画として機能していたことがわかる。この区画を推定復元すると、間口に対する奥行きが長い短冊状の地割りが想定されることに加えて調査区北側の東西道路に間口が想定される区画（a-1）と、調査区西側の南北道路に間口が想定される区画（b-1・b-2・b-3）の2種類の区画が想定される。即ち、前者が「竹町」、後者が「笠和町」の区画ということになり、「笠和町」と「竹町」の町境が、その区画（短冊状地割り）の方向性によって現れていることとなっている。

次に、上記の地割り（区割り）を前提として火災処理土坑の変遷をまとめると。

寛保3年（1743）の火災が想定される18世紀中頃の火災処理土坑については、竹町の1区画に対して1基の火災処理土坑が区画のほぼ中央部に位置し、笠和町の3区画に対して3基の火災処理土坑が区画の最奥部にそれぞれ位置する状況がわかる。即ち、それぞれの区画の裏庭もしくは中庭が想定される空閑地に、火災処理土坑が造られていることが想定される。

寛政3年（1791）及び明和8年（1771）の火災が想定される18世紀後半になると、竹町の1区画に対して1基の火災処理土坑の配置は変わらないが、笠和町のb-2とb-3が1区画になり、2区画に対して2基の火災処理土坑が区画の最奥部にそれぞれ位置する状況に変遷する。

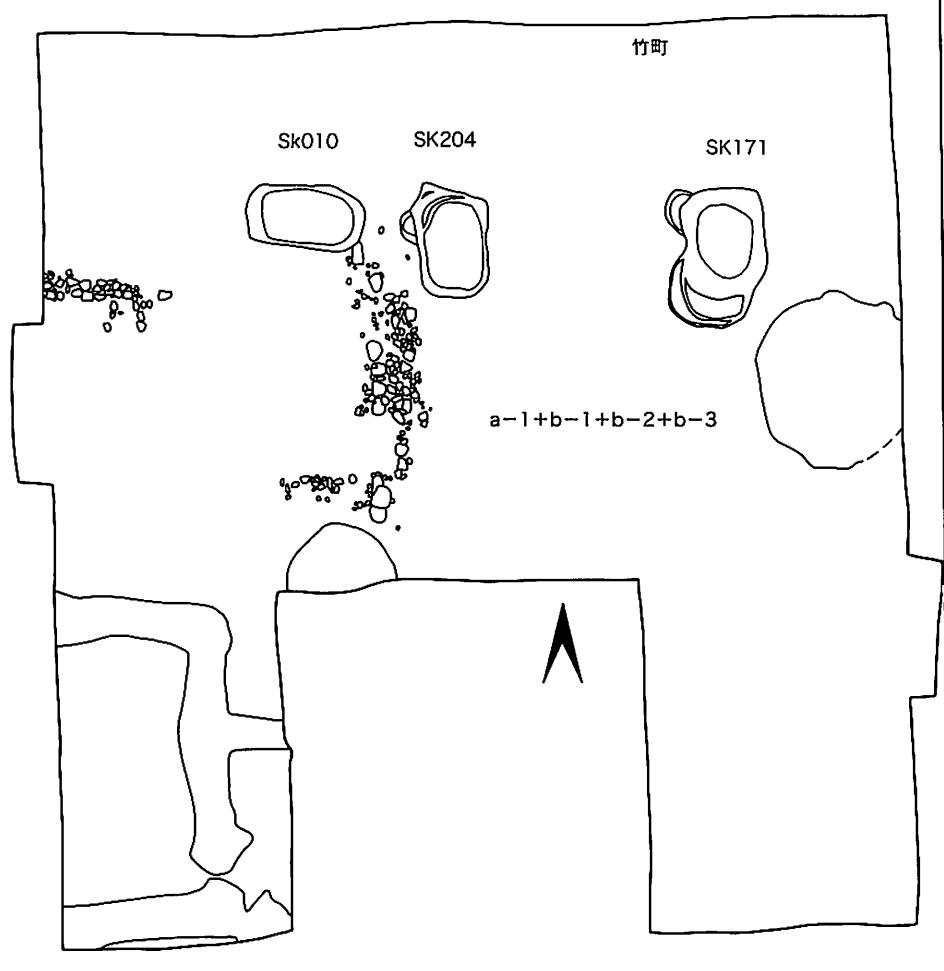
文化7年（1810）の火災が想定される19世紀初頭段階では、これまでの区画を切る形で3つの火災処理土坑が並ぶ状況に変遷している。

これら火災処理土坑の変遷について、文化7年（1810）の3つの火災処理土坑間で、遺構間接合する遺物の存在及び、セット関係となる碗と蓋が遺構間出土する状況が観られることや、19世紀中頃以降の遺構配置を併せて考えると、この段階以降、旧来の笠和町、竹町の町割りが崩れ、調査区北側の東西道路（現在の竹町通り）に間口をもつ町割に変遷したことが窺える。

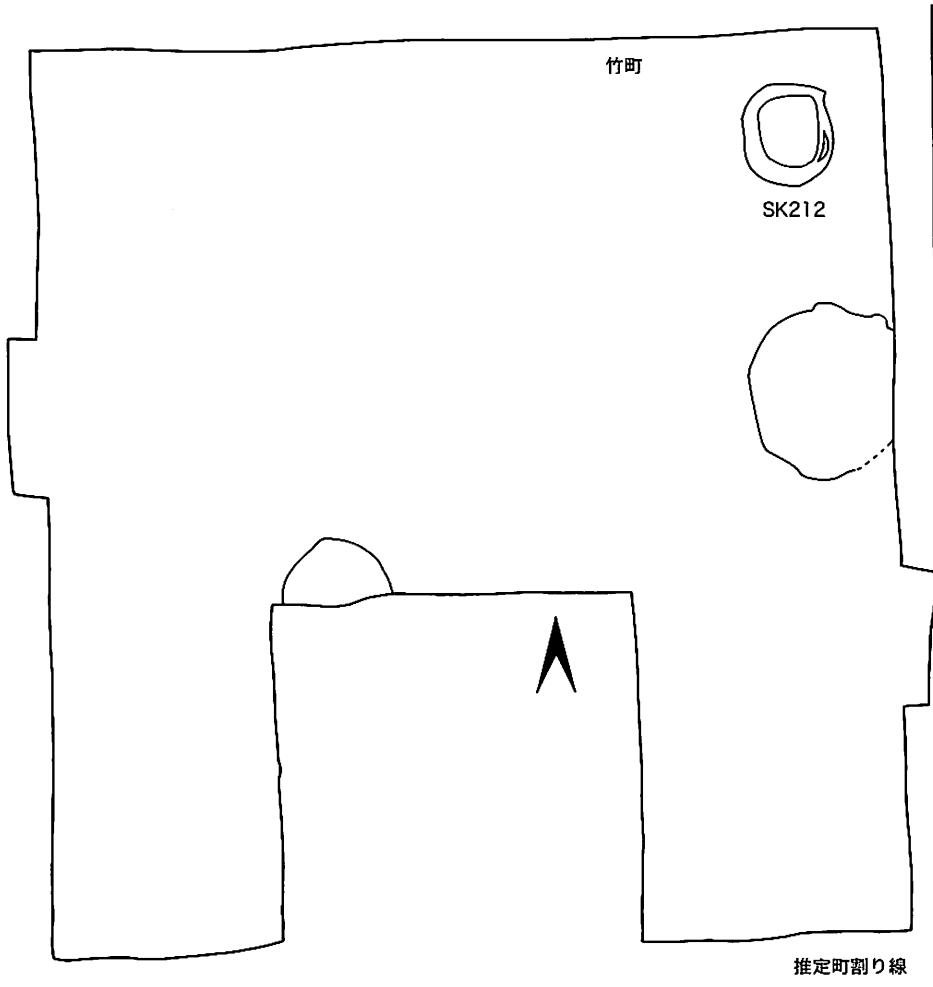
このことについては、「大分市史 中巻」第二章の3において述べられている、「当初、北側では上紺屋町・中柳町・桜町・大工町、南側では笠和町・上柳町・室町・革屋町という東西に間口を向けた町の中で、唯一南北に間口を持つ町筋として位置づけられた竹町が、府内城下町のメインストリートとしての位置づけから、他の町においても南北に間口をもつ町筋に変化し、明治八年（1785）段階の地積図に観られる現在の竹町通りに沿った町割りが成立した」としているその変遷課程を如実に示す調査例となった。

[参考文献]

大分市『大分市史 中巻』



第75図 火災処理土坑変遷図－文化7年(1810)－



第76図 火災処理土坑変遷図－19中頃－

元禄 7	(1694)	11.1	西町より出火、焼失町数10町、家数232
正徳元	(1711)	3.21	生石村長吉裏出火、焼失188、残家46
享保19	(1734)	1.14	堀川町松本与七郎土蔵出火、町数24、家603、倉13、死人9（男6・女3）、城内酒井七兵衛屋敷類焼。
元文元	(1736)	1.14	火元中上市町岩田屋善三郎納屋、7町、家数111（本家89、裏家2、こぼち家2、空き家1、納屋8、馬屋9）。
寛保 3	(1743)	4.7	火元下柳町市兵衛宅、焼失、本丸・天守はじめ城内大半、町42、家数1079、他土蔵37、死人3、馬1。
宝暦 6	(1756)	閏11.27	火元後小路町、4町109軒。
宝暦 9	(1759)	9.2	火元萩原村孫兵衛納屋、4町142軒（内こぼち家4、裏家14）他に納屋8、厩23。
明和 8	(1771)	2.2	火元下柳町清六、27町、家606、土蔵25、納屋67、馬屋14。
安永 8	(1779)	1.29	火元下柳町利兵衛、100軒余。
天明 4	(1784)	12.1	西新町下駄屋平兵衛、家中77（内寺2）、家601、土蔵14、納屋60、馬屋6、堂2、室1。
寛政 3	(1791)	1.2	古河町与六、3町、家35、納屋1、室1、土蔵13。
寛政 3	(1791)	12.19	竹町要助納屋（上柳町段六宅）16町、家301、土蔵4、納屋43、室2、空屋3、馬屋8、死人1。
享和元	(1801)	12.15,16	勢家町彦松納屋、勢家、沖浜、船頭家114、馬屋・納屋58、土蔵19、寺社3。
文化 7	(1810)	12.15	下柳町季代治、三の丸へ飛び火、187軒。
文化 9	(1812)	12.19	火元沖ノ浜町、町屋133、徒士足軽4。
文化10	(1813)	11.11	萩原出火、241軒。
天保 9	(1838)	12.23	生石出火、勢家、駄原、農家647、寺2、庵1、土蔵199。

表31 「府内藩日記」にみえる大火（100軒以上のもの。『大分市史 中巻』より）

2. 遺構の変遷について

以上、火災処理土坑の変遷を追う課程で、竹町・笠和町の町割に関する問題が提起されたところであるが、以下、火災処理土坑を含めたその他の遺構変遷を、第77図～82図に提示しその変遷について、竹町・笠和町の境界問題を中心に記す。

第77図（19世紀中頃以降）については、特にSB800とした礎石建物が調査区北辺部全体を占めている状況に代表されるようその区画は、現在の竹町の通りに面したものが想定される。

第78図（18世紀末～19世紀初頭）については、調査区内に竹町と笠和町の町境がある段階から、この境界が崩壊する段階になる。

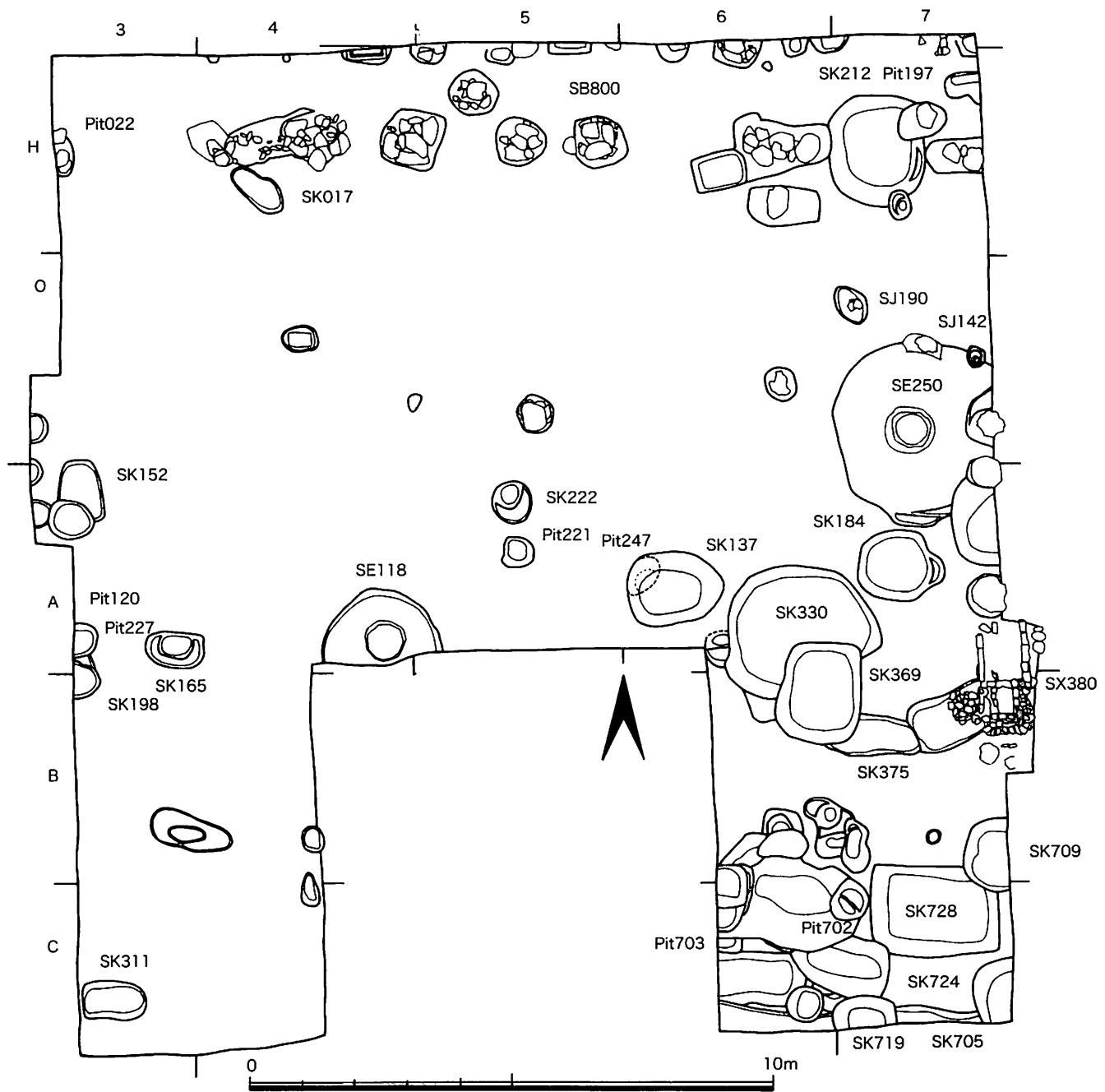
第79図（18世紀後半）については、竹町と笠和町の境界が明確な段階であり、竹町においては、その中庭が想定される空閑地に、笠和町においては、その裏庭が想定される空閑地に火災処理土坑及び廃棄土坑が分布している。

第80図（18世紀前半～中頃）については、竹町と笠和町の境界が明確な段階であることに加え、笠和町が3つに区画されている段階である。遺構分布の特徴としては、特に笠和町の区画の中で、その裏庭部分が想定される空閑地に火災処理土坑及び廃棄土坑が分布している。

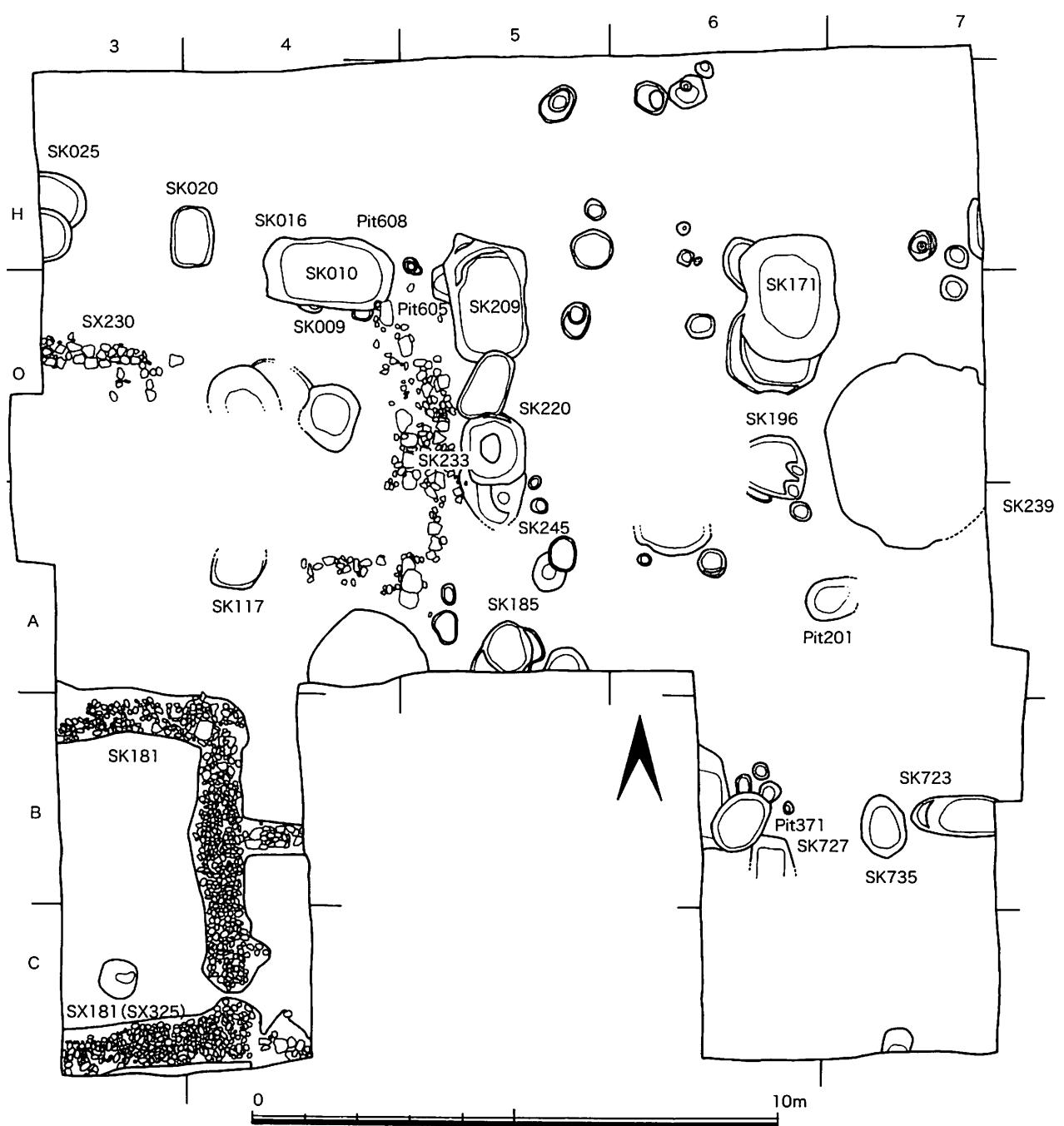
第81図（17世紀後半）については、遺構分布が散見的で、区画施設については不明である。

第82図（16世紀末～17世紀前半）については、いわゆる近世府内城下の形成期となる遺構群である。いくつか南北方向の石列が観られるが、これらを町割の区画とするには弱いようで、17世紀後半同様、区画施設は不明である。

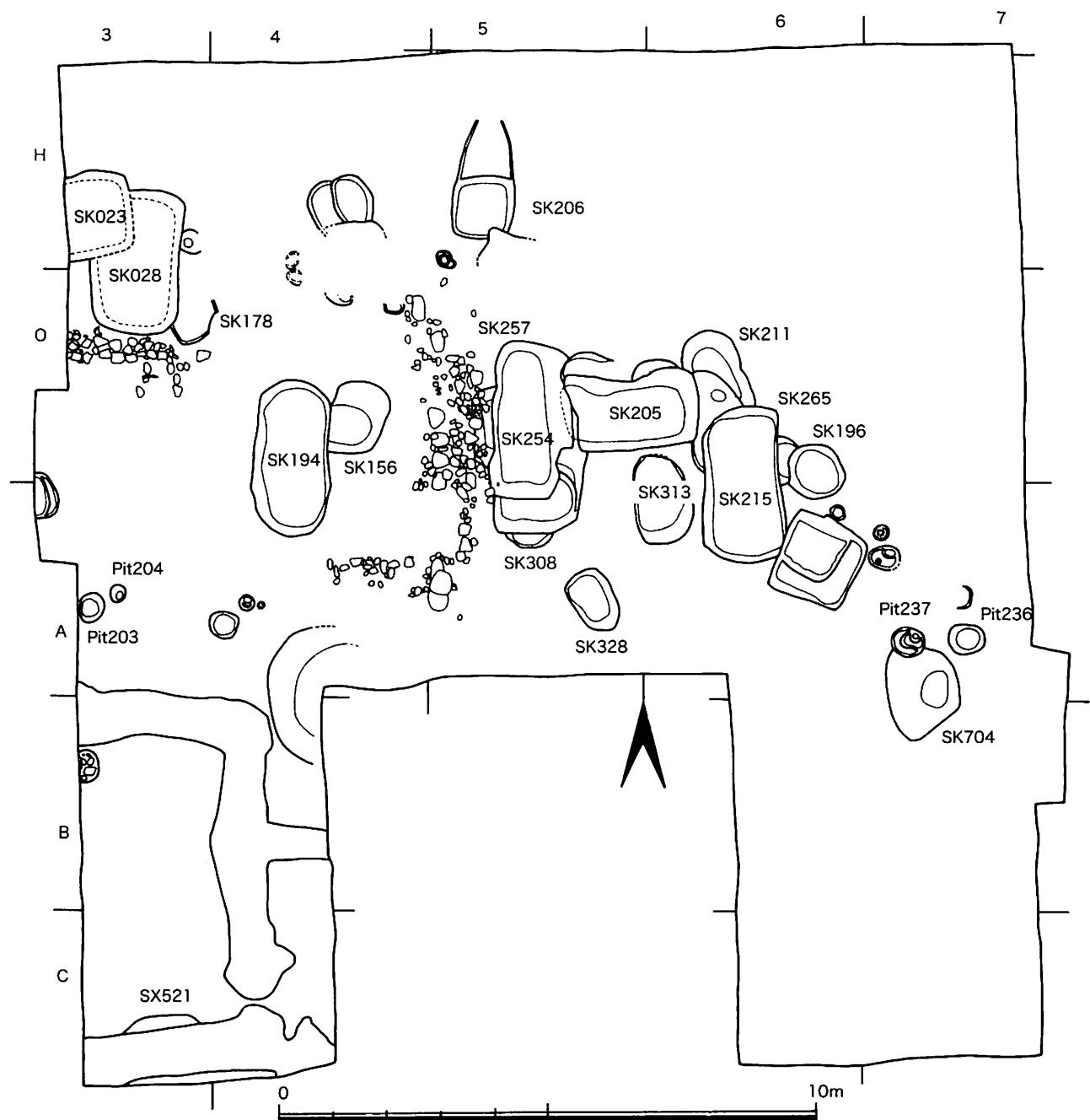
以上、調査区全体の遺構変遷を観てきたが、特に17世紀代の遺構配置に不明な点が多く、今後の課題となった。



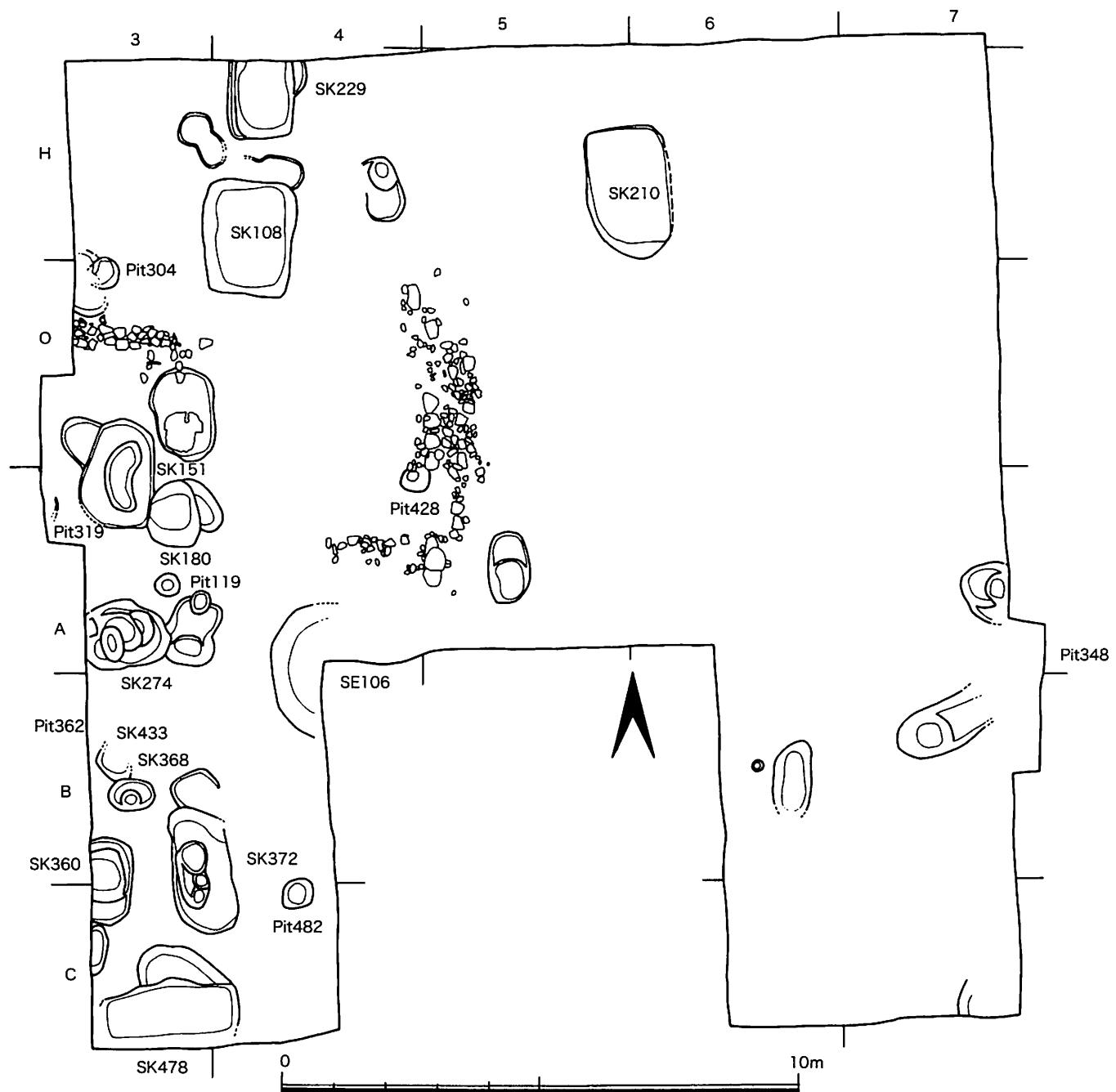
第77図 19世紀中頃以降 遷構配置図 (1/120)



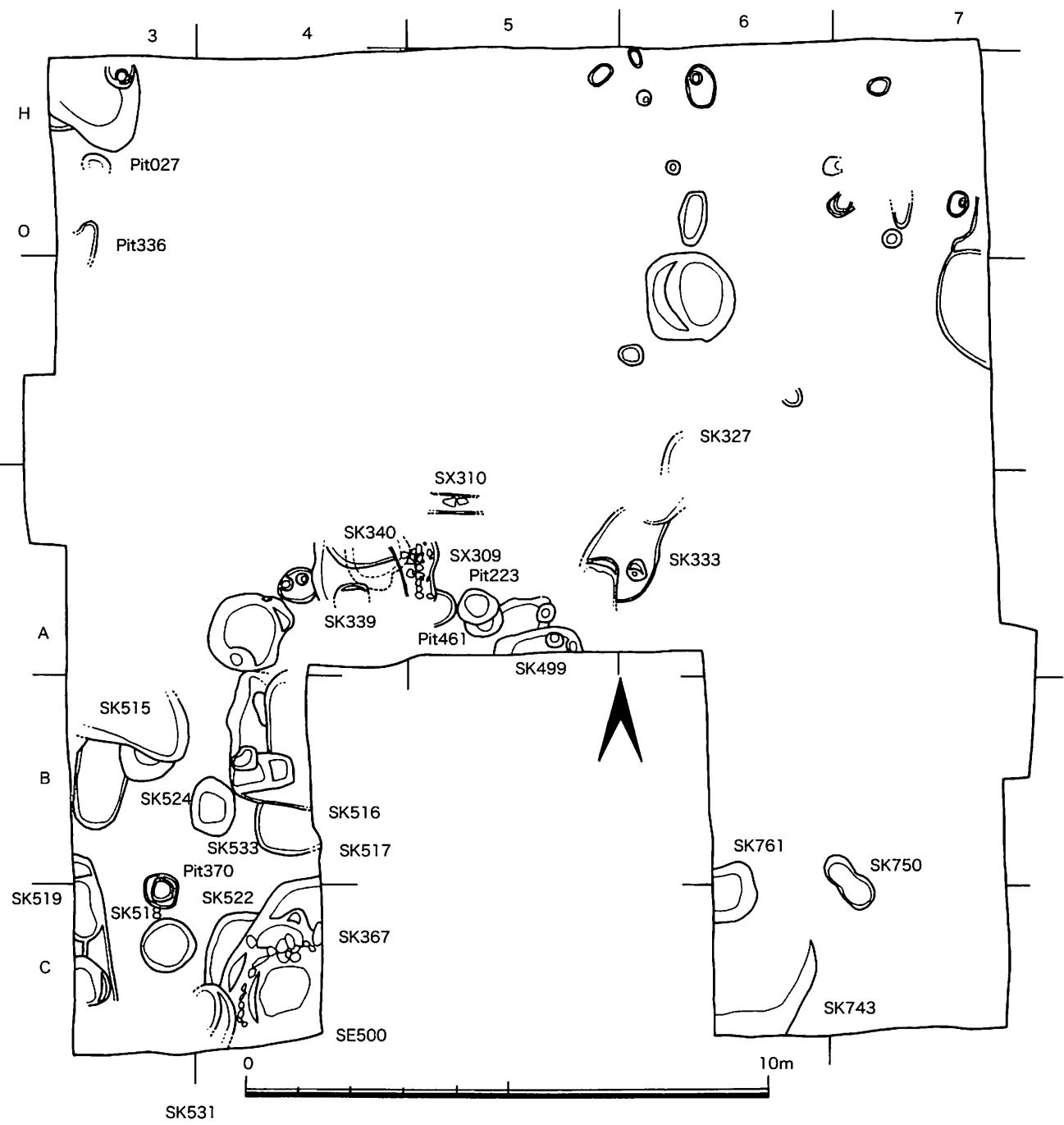
第78図 18世紀末～19世紀初頭 遺構配置図 (1/120)



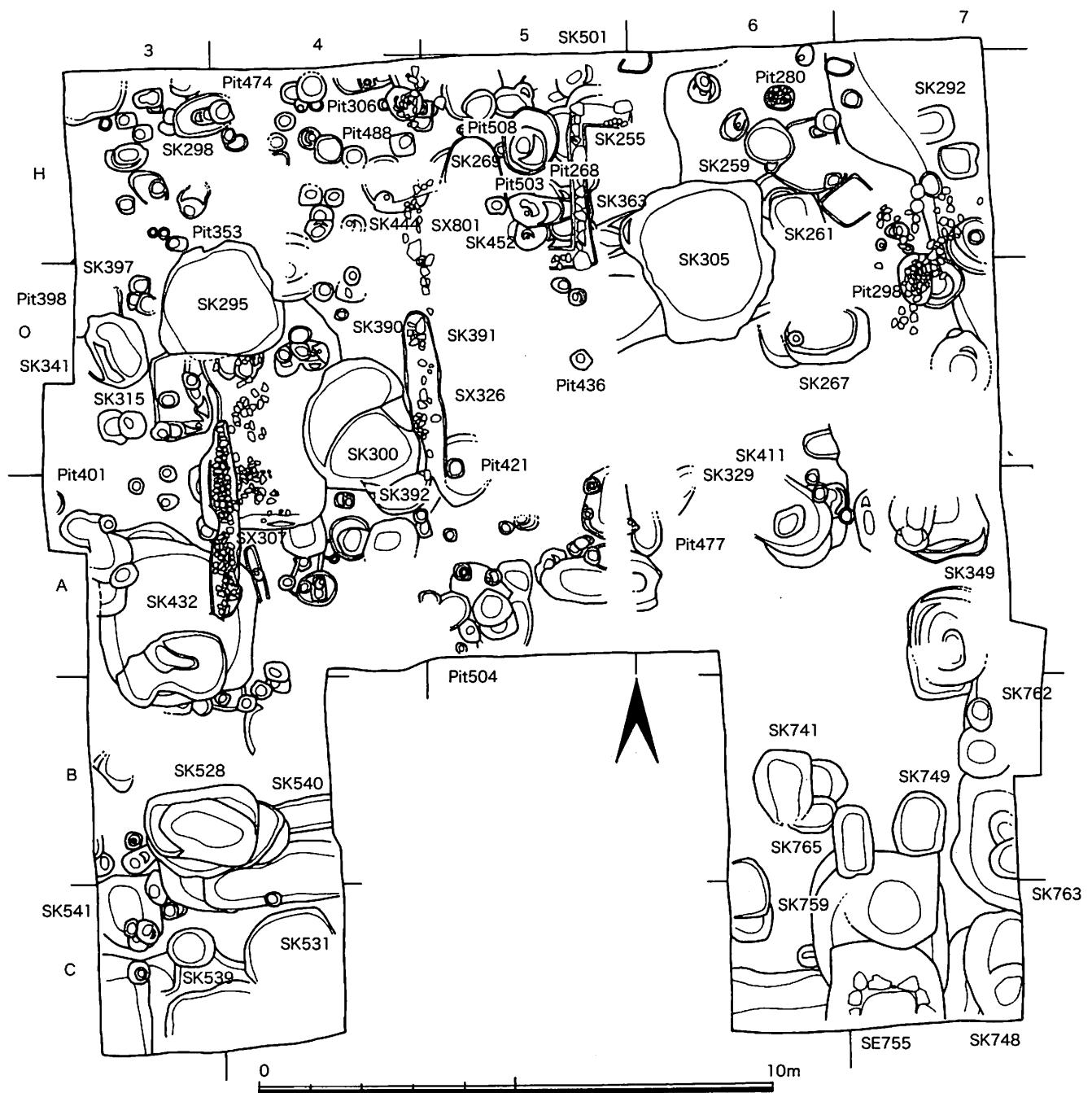
第79図 18世紀後半 遺構配置図 (1/120)



第80図 18世紀前半～中頃 遺構配置図 (1/120)



第81図 17世紀後半 遊構配置図 (1/120)



第82図 16世紀末～17世紀前半 遺構配置図 (1/120)

3. 17世紀代の京都系土師器について

豊後における京都系土師器については、城館等の出土に限らず広く町屋にまで分布・在地化し、近世段階まで存続する可能性が指摘されている^{註1}。豊後における近世段階における京都系土師器の存在は、前述した京都系土師器の在地化とは無関係ではないものと考えられることから、本章は、本遺跡より出土した京都系土師器について、特に中世段階からの連続性について検討を行い、その位置づけを考察する。

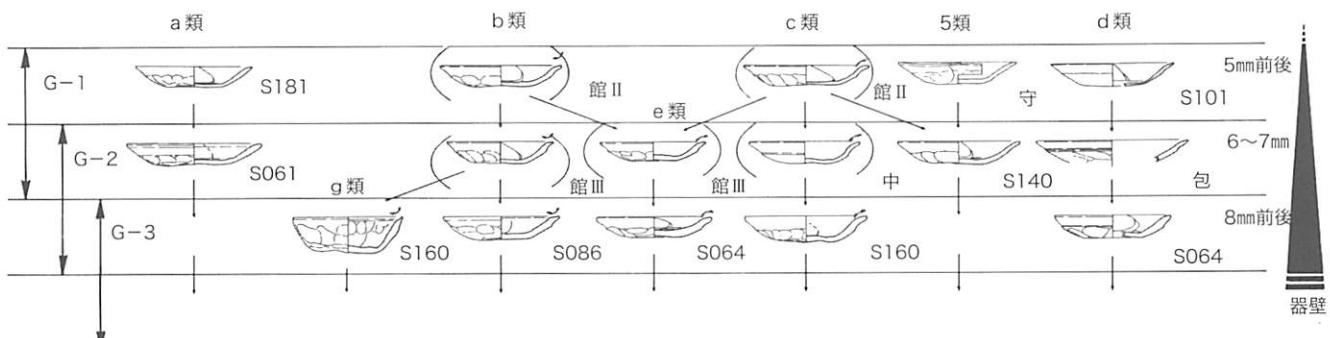
まず、中世段階の京都系土師器について筆者は、大友府内町跡第4次の調査成果をまとめた「大友府内4」^{註2}にて、近接法量の京都系土師器を口縁部形態等から7つの細分を行い、それぞれの時期変遷を提示しているが、今回近世段階の京都系土師器を考える上で基本資料としたい。特にこの中で、器壁の肥厚化による変遷モデル、及び16世紀後半～末にかけて出現する器高の高い椀形態の存在の提示については、これまでの研究^{註3}においても指摘されてきた器壁の肥厚化及び器高の伸張化に共通するものであり、17世紀代の京都系土師器について考える上で重要な位置づけと考えられる。

次に、今回の調査で出土した京都系土師器のなかで、比較的良好な出土状況を示したSK452中の3・4・5を観察してみると、3は、大きく外反する口縁部に、やや高めの器高を有するもので、口径12.0cm、器高3.7cm、器壁10mm前後を測る。4は、つまみ上げ状の口縁部で、深い椀形態を示すもので、口径11.0cm、器高4.0cm、器壁10mm前後を測る。5は、つまみ上げ状の口縁部にやや高めの器高を有するもので、口径12.8cm、器高3.5cm、器壁10mm前後を測る。

これらの京都系土師器は、その口縁部形態等から、前述した分類の中にはめると、4はg類に、5はb類に、3はc類に相当するものと考えられるが、それぞれ器壁が8mm前後から10mm前後へと更なる肥厚化が観られ、加えてg類が想定される4以外の器高に関しては、3cm後半代と伸張化が観られた。器壁の肥厚化に加え、器高の伸張化については、16世紀後半～末に出現するg類の出現の影響を色濃く示したものと考えられ、共に前述した京都系土師器の変遷におけるG-3とした一群に後出する位置づけであることを示している。

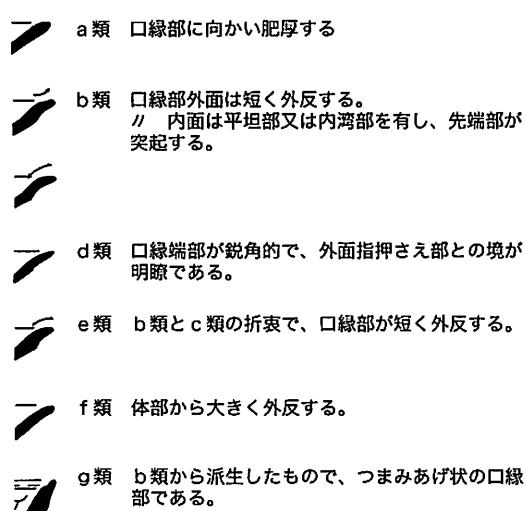
このことは、今回のSK452出土の京都系土師器の一群が、中世段階の物との明確な連続性のもとに成立したものであることを裏付けるものであり、その年代についても、共伴する唐津の17世紀前半とする年代観と矛盾しない。即ちこれら的一群が17世紀代の京都系土師器の良好な資料であることを示している。

さて、本遺跡におけるその後の京都系土師器の動向については、SK340-4・5に代表される薄手の器壁に白色系の胎土を有する別系列の京都系土師器の一群（17世紀後半～）が観られるのみであった。なお、この他の新しい遺構から出土する京都系土師器については、破片資料であることに加え、今回の資料から更に器高が高くなる一群の存在や、器壁が厚くなる一群が皆無であることから、都市遺跡特有の混入物であるとするのが妥当であろう。即ち、現時点では中世からの連続性を有する京都系土師器については、17世紀前半で終焉する可能性が高いことを示している。

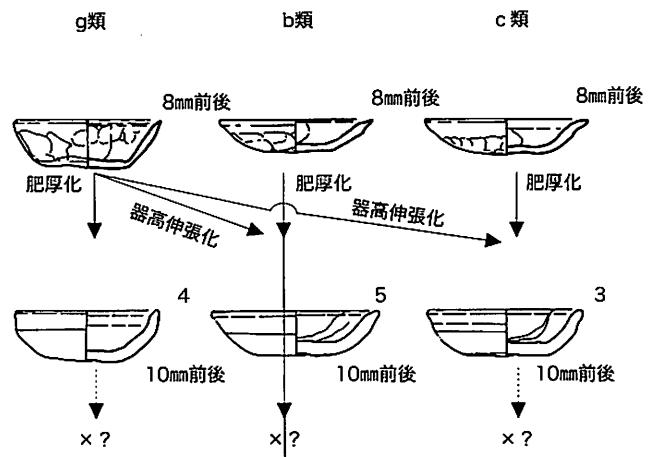


第83図 京都系土師器変遷モデル ※「大友府内4」2002.大分市教育委員会より

最後に、今回行った京都系土師器については、口径12cm前後を測る中型のものについての分類であり、16世紀末以降その数を増すとされる小型のものについては、未だに詳細検討を行っていない状況である。中世段階を含めた小型の京都系土師器の詳細分類及びその変遷を今後の課題として、本章を終えたい。



第84図 京都系土師器口縁部形態分類



第85図 17世紀代京都系土師器変遷モデル

[註]

1) 坪根伸也 1997「豊後における戦国期京都系土師器に関する覚書」『大分・大友土器研究 第16号』

大分・大友土器研究会

2) 河野史郎 2002「V まとめ 1. 出土土師器壊・皿類及び瓦質土器雑器の分類と編年」『大友府内 4』

大分市教育委員会

3) 塩地潤一 1998「大友領国内における京都系土師器の分布とその背景」『博多研究会誌 第6号』

博多研究会

写 真 図 版

写真図版 1



1. 府内城・城下町跡周辺地形全景

写真図版2



2. SK010全景



3. SK171土層断面



4. SK209全景

写真図版3



5. SK212全景



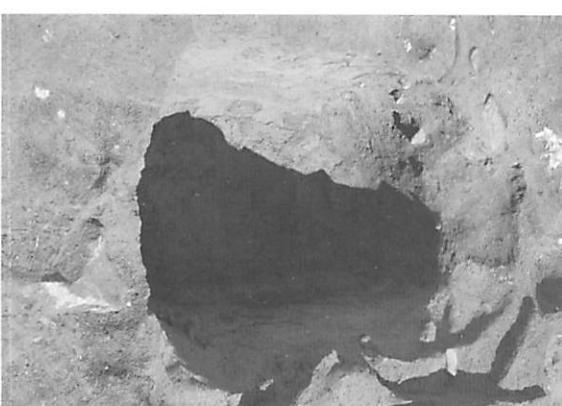
6. SK212土層断面



7. SK010土層断面



8. SK010全景



9. SK171全景



10. SK209土層断面



11. SK023・028全景



12. SK023土層断面

写真図版4



1. SK205全景



2. SK205土層断面



3. SK194全景



4. SK194土層断面



5. SK215土層断面



6. SK215全景



7. SK018全景



8. SK018検出状況

写真図版 5



1. SE755全景



2. SK206検出時



3. SX181南半部全景



4. SX181北半部及び周辺集石検出状況



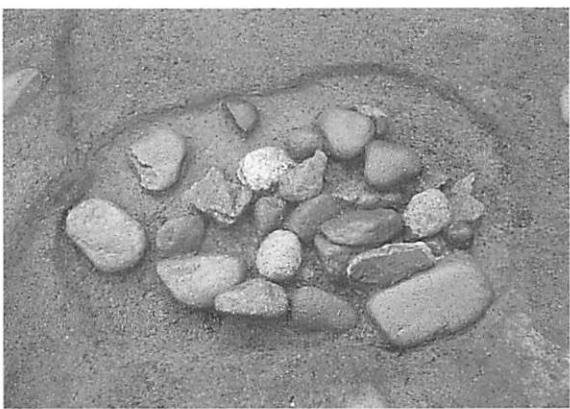
5. SB800及び周辺集石検出状況



6. SX137全景



7. SE118全景



8. SE250土層断面

写真図版 6



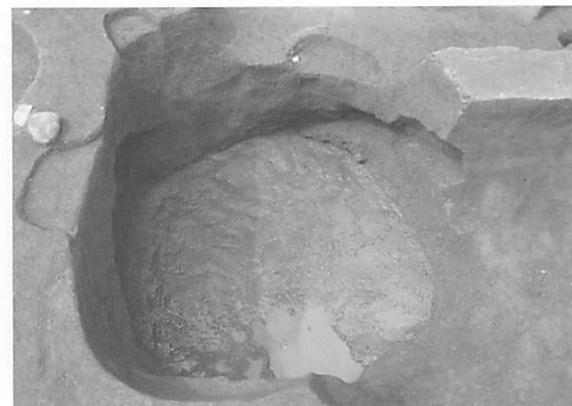
1. SK280全景



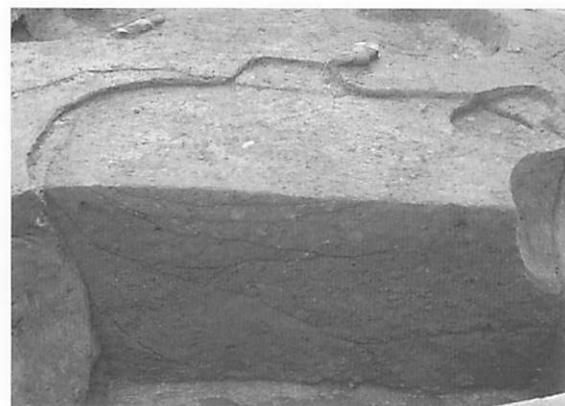
2. SK432全景



3. SK267全景



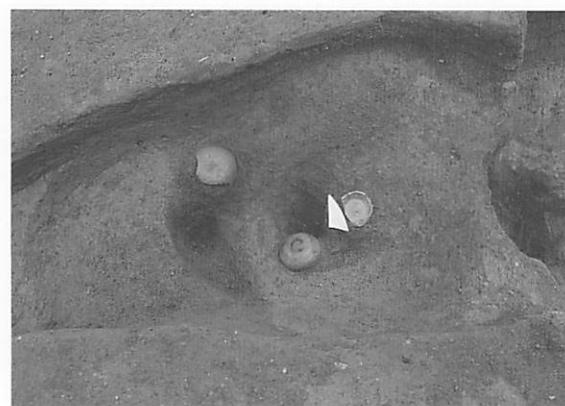
4. SK295全景



5. SK295土層断面



6. SK305全景



7. SK452遺物出土状況

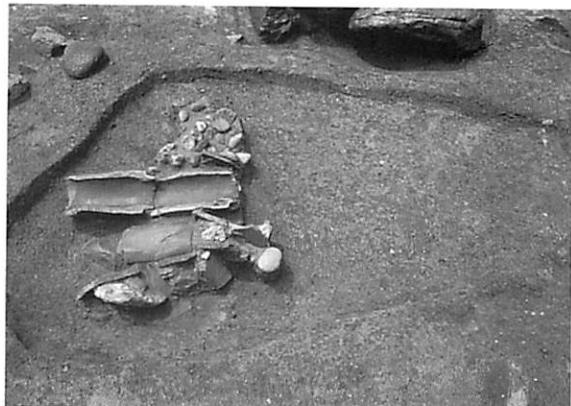


8. SE500全景

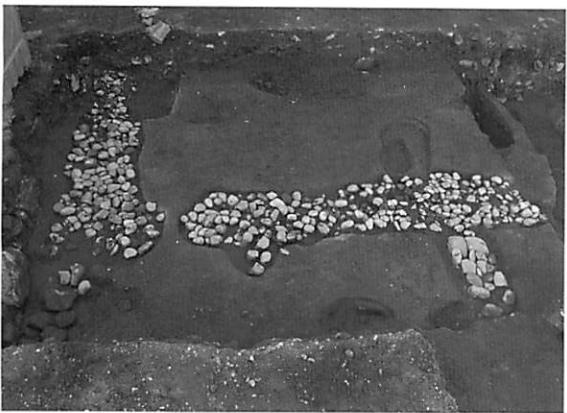
写真図版 7



1. SE755全景



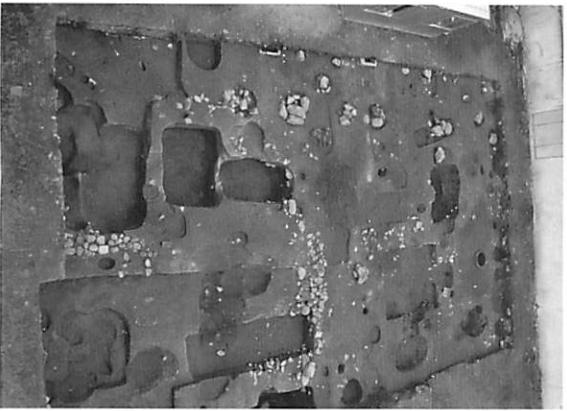
2. SK206検出状況



3. SX181南部全景



4. SX181北半部及び周辺集石検出状況



5. SB800及び周辺集石検出状況



6. SK137全景



7. SE118全景



8. SE250土層断面

写真図版8



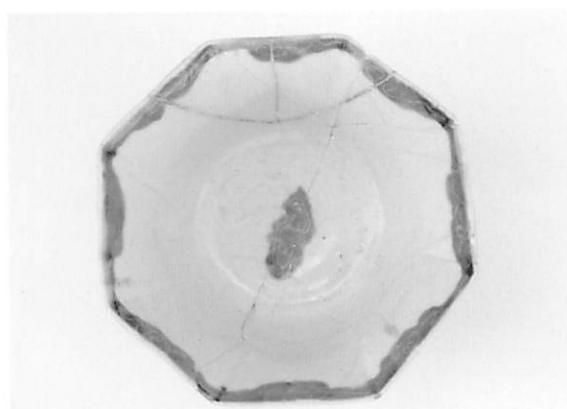
1. SK212-1



2. SK212-21



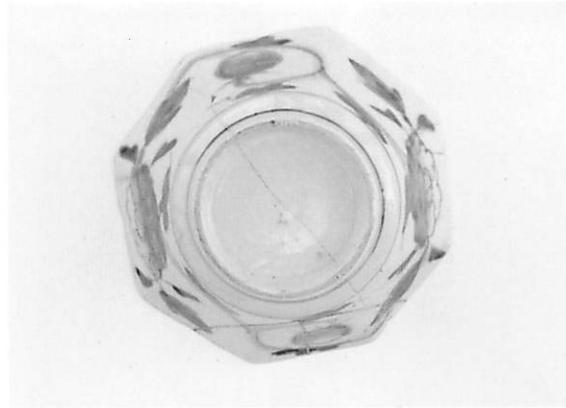
3. SK212-22



4. SK212-34



5. SK212-22



6. SK212-34

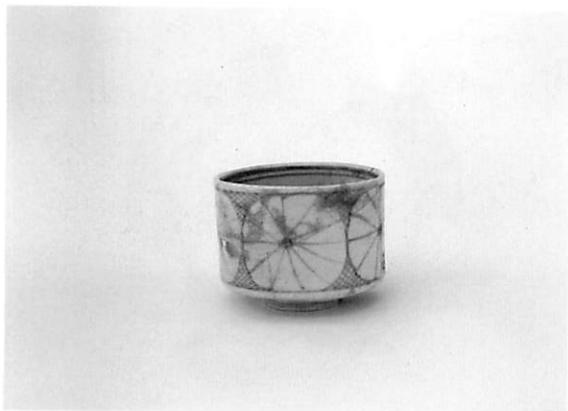


7. SK212-29

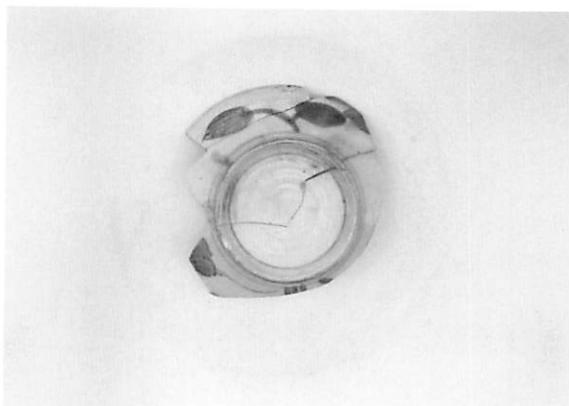


8. SK212-31

写真図版 9



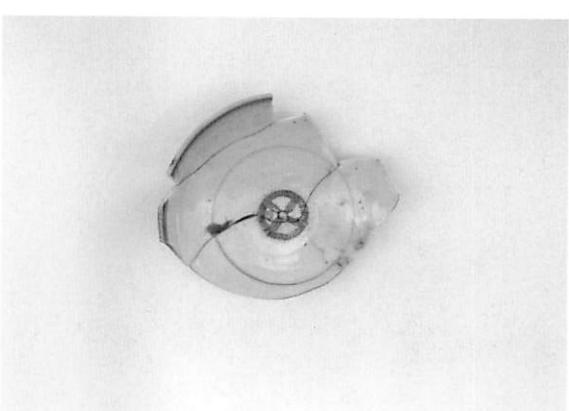
1. SK010-1



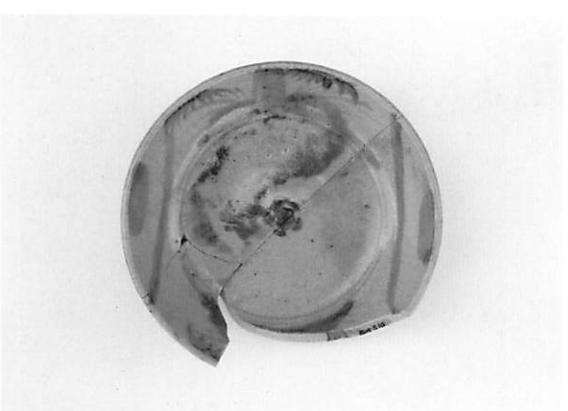
2. SK010-5



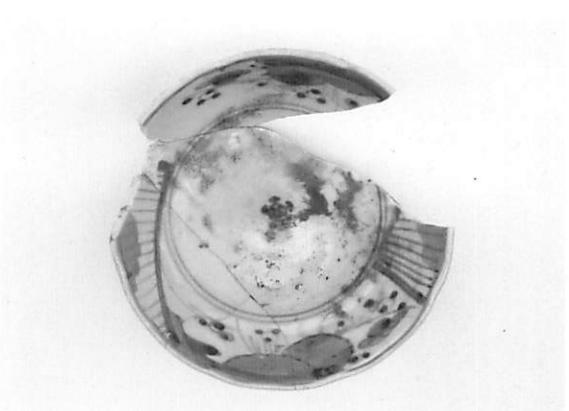
3. SK010-3



4. SK010-5



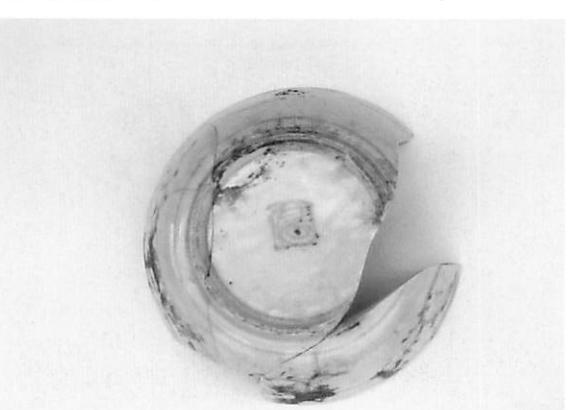
5. SK010-12



6. SK010-10

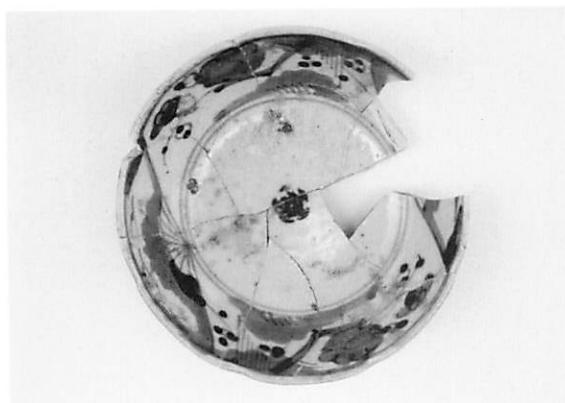


7. SK010-12

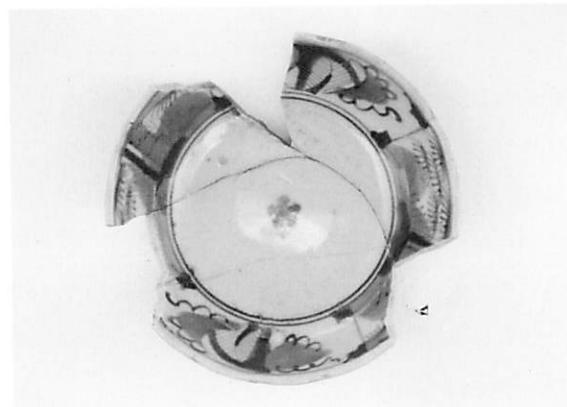


8. SK010-10

写真図版10



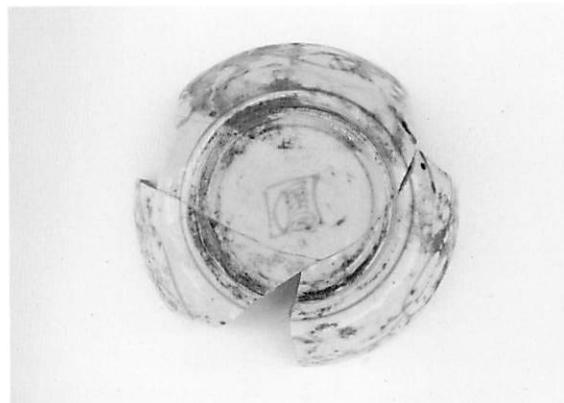
1. SK171-22



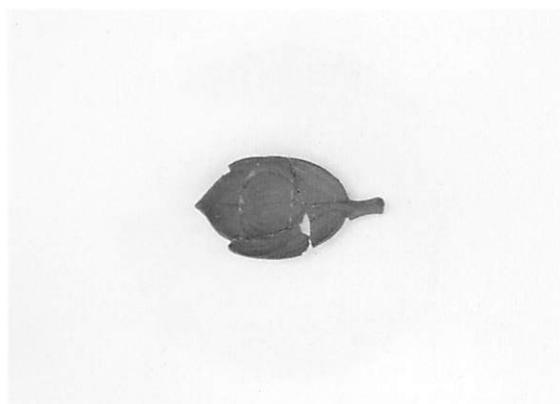
2. SK171-20



3. SK171-22



4. SK171-20



5. SK171-31



6. SK171-32

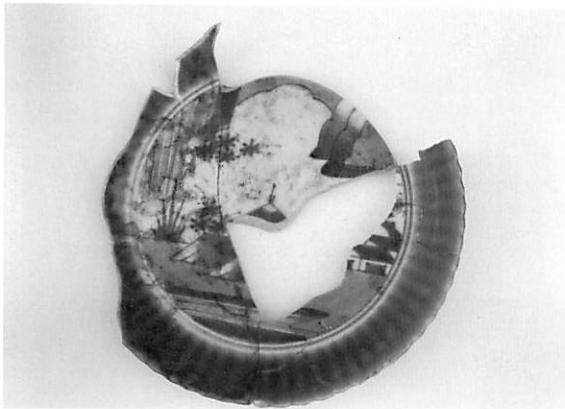


7. SK171-33



8. SK171-38

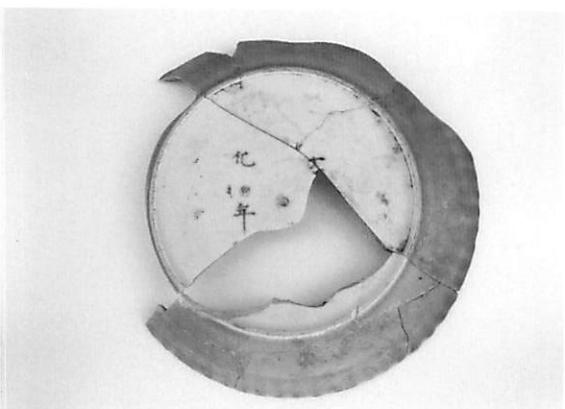
写真図版11



1. SK171・209接合資料



2. SK209-4



3. SK171・209接合資料



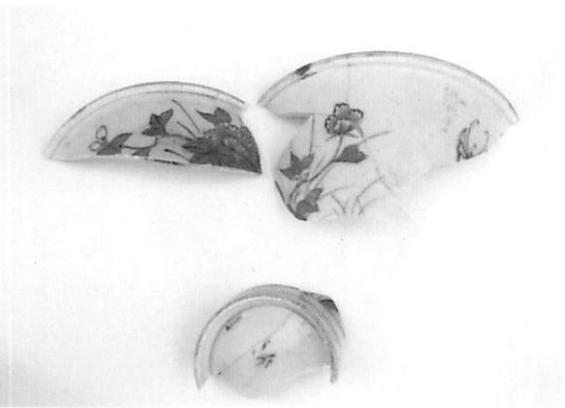
4. SK209-8



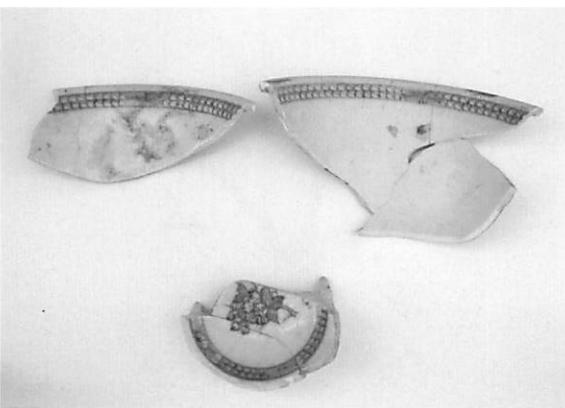
5. SK209-24



6. SK209-25

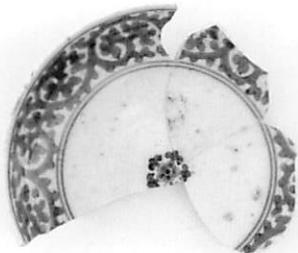


7. SK209-29



8. SK209-29

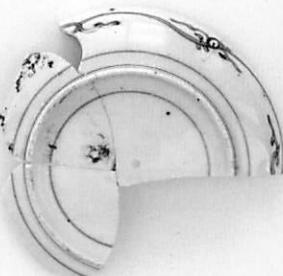
写真図版12



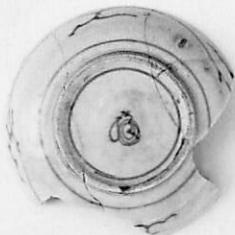
1. SK205-31



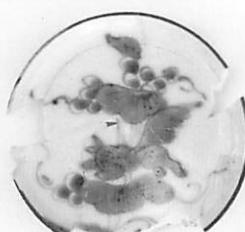
2. SK205-35



3. SK205-31



4. SK205-35



5. SK205-26



6. SK205-40



7. SK205-46



8. SK205-61

写真図版13



1. SK194-11



2. SK194-5



3. SK194-11



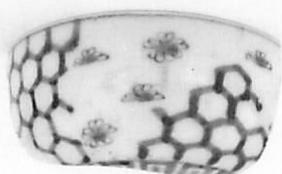
4. SK023-1



5. SK023-3



6. SK215-2

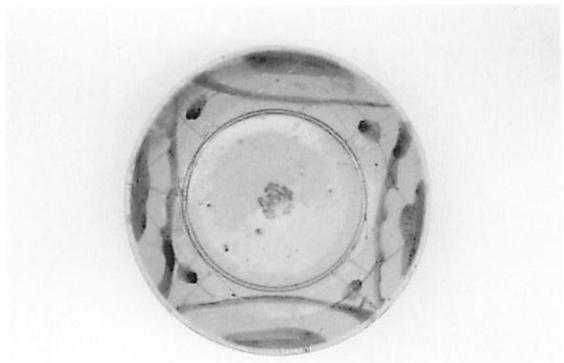


7. SK215-3



8. SK215-6

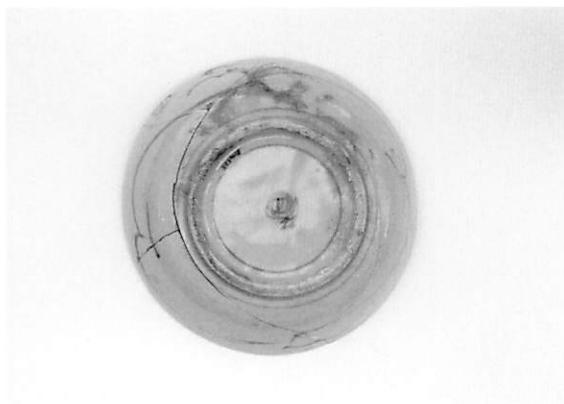
写真図版14



1. SK215-9



2. SK215-11



3. SK215-9



4. SK215-11



5. SK018-8



6. SK018-9



7. SK018-11

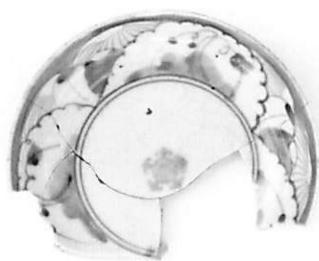


8. SK018-12

写真図版15



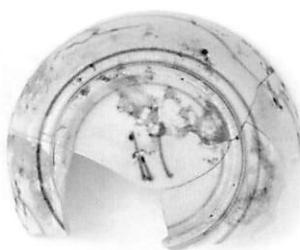
1. SK018-10



2. SK018-15



3. SK018-4



4. SK018-15



5. SK360-9



6. SK360-11

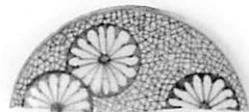


7. SK360-23



8. SK360-11

写真図版16



1. SK210- 6



2. SK210- 5



3. SK210- 7



4. SK210- 2



5. SK210- 3



6. SK151- 1



7. SK151- 3



8. SK151- 6

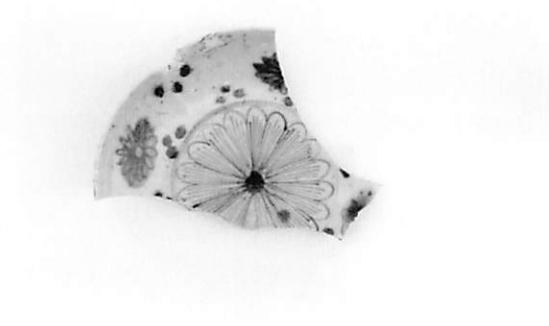
写真図版17



1. SK528-1



2. SK528-2



3. SK528-3



4. 整地層530-4



5. SD405-2



6. SK245-26



7. SK245-27



8. SK245-23

写真図版18



1. SK184-18



2. SK369・330-56



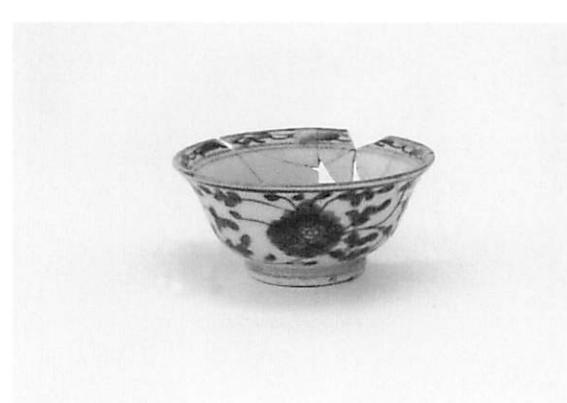
3. SK185-1



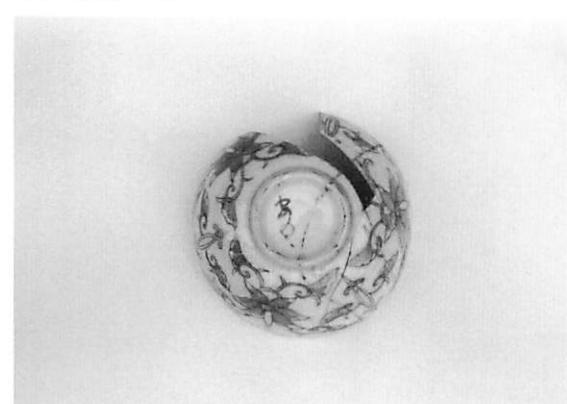
4. SK137-18



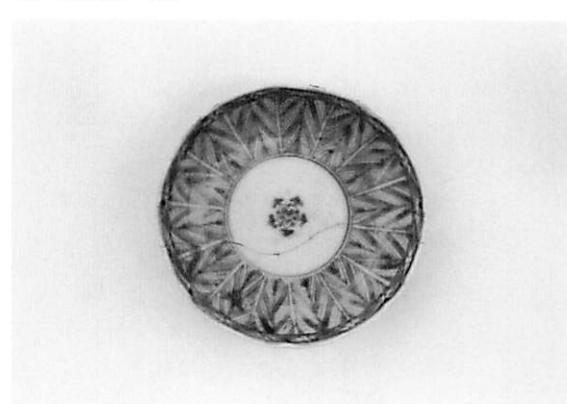
5. SK137-11



6. SK137-20



7. SK137-11



8. SK137-34

報 告 書 抄 錄

ふりがな	ふないじょう・じょうかまちあと							
書 名	府内城・城下町跡							
副 書 名	第14次発掘調査報告書							
編著者名	河野 史郎							
編集機関名	大分市教育委員会							
所 在 地	〒870-0046 大分市荷揚町2番31号 TEL(097)534-6111							
発行年月日	2003年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
府内城・ 城下町跡	大分県 大分市 中央町 3丁目 94番	322	041	33度 14分 04秒	131度 36分 26秒	000807 001009	330m ²	マンション 建設
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
府内城・ 城下町跡	都市	近世		火災処理土坑 井戸		肥前陶磁器 中国産磁器 在地雜器 京都系土師器	竹町と笠和町 の町境の調査 である。 現在の竹町に 観られる東西 道路に面した 短冊状地割り への変遷課程 を確認する。	

府内城・城下町跡

～第14次発掘調査報告書～

2003年3月

発行 大分市教育委員会
印刷 有限会社 中央印刷